



Title	中国語話者を対象とする日本漢字音教育のための基礎的研究：日本語能力試験2級漢語を中心として
Author(s)	汪, 南雁
Citation	大阪大学, 2016, 博士論文
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/55709">https://doi.org/10.18910/55709</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

2015 年度博士学位申請論文

中国語話者を対象とする日本漢字音教育  
のための基礎的研究

——日本語能力試験 2 級漢語を中心として——

大阪大学大学院言語文化研究科

言語文化専攻

汪南雁

## 目次

<b>第1章 序論</b> .....	<b>1</b>
1. 1 本研究の背景.....	1
1. 2 本研究の目的.....	2
1. 3 本論文の構成.....	3
<b>第2章 日本漢字音と中国語音</b> .....	<b>6</b>
2. 1 日本漢字音について.....	6
2. 1. 1 日本漢字音とその特徴.....	6
2. 1. 2 日本漢字音の「層的伝承」 .....	8
2. 1. 2. 1 呉音と漢音と唐音.....	8
2. 1. 2. 2 「層的伝承」の背景.....	11
2. 1. 3 慣用音 .....	13
2. 2 中古音と現代中国語音の対応関係 .....	15
2. 2. 1 中国語の音節構造 .....	16
2. 2. 2 中国語の表記法 .....	18
2. 2. 3 字母と声母 .....	18
2. 2. 3. 1 字母と声母について .....	18
2. 2. 3. 2 中古音の字母と現代中国語音の声母の対応関係 .....	20
2. 2. 4 韻と韻母 .....	23
2. 2. 4. 1 韵と韻母について .....	23
2. 2. 4. 2 中古音の韵と現代中国語音の韵母の対応関係 .....	27
2. 2. 5 声調 .....	29
2. 3 中古音と日本漢字音の対応関係 .....	30
2. 3. 1 中古音の字母と日本漢字音の頭子音 .....	31
2. 3. 2 中古音の韵と日本漢字音の頭子音以外の部分 .....	33
2. 3. 3 古代中国語の声調と日本漢字音のアクセント .....	36
2. 4 本章のまとめ .....	37

<b>第3章 現代中国語音と日本漢字音の対応関係</b>	
<b>—2級漢語の使用漢字について—</b>	<b>38</b>
3.1 現代中国語音と日本漢字音の対応関係	38
3.1.1 現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音	38
3.1.2 現代中国語音の韻母と日本漢字音の主母音・特殊拍・入声韻尾	41
3.2 2級漢字における現代中国語音と日本漢字音の対応関係の調査	45
3.2.1 調査対象	45
3.2.2 研究方法	45
3.2.2.1 現代中国語音と日本漢字音の調査	45
3.2.2.2 現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音	46
3.2.2.3 現代中国語音の韻母と日本漢字音の主母音・特殊拍・入声韻尾	47
3.2.3 分析と考察	49
3.2.3.1 現代中国語音と吳音・漢音の対応関係	49
3.2.3.1.1 現代中国語音の声母と吳音・漢音の頭子音	49
3.2.3.1.2 現代中国語音の韻母と吳音・漢音の主母音・特殊拍・入声韻尾	57
3.2.3.2 現代中国語音と唐音の関係	69
3.2.3.3 現代中国語音と慣用音の関係	70
3.3 本章のまとめ	76

<b>第4章 現代中国語音と日本漢字音の基本対応規則</b>	
<b>—2級新出漢語の使用漢字について—</b>	<b>78</b>
4.1 先行研究と本章の目的	78
4.1.1 先行研究の概観	78
4.1.2 先行研究の問題点のまとめ	89
4.1.3 本章の目的と分析方法	91
4.2 分析対象について	92
4.3 吳音・漢音・唐音・慣用音を区別しない場合	93
4.3.1 現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音	93
4.3.2 現代中国語音の韻母と日本漢字音の主母音及び頭子音以外の部分	96
4.4 吳音・漢音・唐音・慣用音を区別する場合	103

4.4.1	分類方法と基本対応規則の抽出方法	103
4.4.2	現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音	104
4.4.3	現代中国語音の韻母と日本漢字音の主母音及び頭子音以外の部分	107
4.4.3.1	現代中国語音の韻母と日本漢字音の主母音	107
4.4.3.2	現代中国語音の韻母と日本漢字音の頭子音以外の部分	111
4.5	区別しない場合と区別する場合の比較	114
4.5.1	基本対応規則の比較	115
4.5.2	補助対応規則の比較	119
4.6	本章のまとめ	122

## 第5章 中国語話者の日本漢字音習得の実態と課題 ..... 123

5.1	先行研究の問題点と本章の目的	123
5.1.1	先行研究の概略	123
5.1.2	先行研究の問題点	125
5.1.3	本章の目的	126
5.2	調査の概要	127
5.3	分析と考察	129
5.3.1	確信度と正答率の関係	129
5.3.2	確信度別の漢語群の特徴	132
5.3.3	確信度別の誤答分析	137
5.3.3.1	誤答パターン	138
5.3.3.2	確信度と誤答パターンの分析	139
5.3.3.3	まとめ	143
5.4	本章のまとめ	145

## 第6章 システムデザインに向けて

### —2級新出漢語の使用漢字について— ..... 147

6.1	学習課題の提示	147
6.1.1	漢字レベル	147
6.1.1.1	共通の問題点	147

6.1.1.1.1 清濁について	148
6.1.1.1.2 音訓について	149
6.1.1.2 個別の問題点	151
6.1.1.2.1 長短について	151
6.1.1.2.2 多音について	153
6.1.1.2.3 母音の交代について	155
6.1.1.2.4 子音の交代について	157
6.1.1.2.5 入声韻尾について	158
6.1.1.2.6 摺音について	160
6.1.2 漢語レベル	161
6.1.2.1 促音化について	161
6.1.2.2 連濁について	162
6.1.2.3 促音化・連濁について	164
6.2 学習課題の構造化	165
6.2.1 漢語レベルと漢字レベルについて	165
6.2.2 漢字レベルについて	165
6.2.3 まとめ	167
6.3 本章のまとめ	168
<b>第7章 WEB教材—試作品</b>	<b>169</b>
7.1 WEB教材の作成	169
7.1.1 教材の設計	170
7.1.2 各課の学習手順	172
7.2 実施	178
7.2.1 調査内容	178
7.2.2 調査協力者	181
7.3 WEB教材の学習記録	182
7.3.1 各課の学習時間	183
7.3.2 理解度	184
7.3.3 練習問題の初回得点	185

7.4 効果測定	186
7.4.1 確信度について	187
7.4.2 正答率とその考察	188
7.5 学習者のフィードバックの分析	190
7.5.1 選択項目について	190
7.5.2 自由記述について	191
7.6 教材の改良に向けて	195
7.6.1 提示された課題・改善点のまとめ	195
7.6.2 教材の改良に向けた検討	196
7.7 本章のまとめ	198
<b>第8章 結論</b>	<b>199</b>
8.1 本研究のまとめ	199
8.2 本研究の意義	203
8.3 今後の展望	203
<b>参考文献</b>	<b>204</b>
<b>付録資料</b>	<b>208</b>

## 第1章 序論

### 1.1 本研究の背景

日本語教育では長い間、中国語話者であれば漢字が分かるという安易な考えによって、中国語を母語とする日本語学習者（以下、中国語話者）も日本語教師も漢字の学習と教育をなおざりにしてきた。このことについて、阿久津（1991、p. 130）<sup>1</sup>は、次のように述べている。

漢字圏の学生は、読み書きには強いが、話すことや聞くことには弱いとよくいわれる。これは、漢字の知識を持っていることによる弊害であろう（日本人が中国語を学ぶ場合も同様である）。日本語の表記には漢字が多く使われるが、漢字圏の学生は、それらを見てだいたい意味がわかるため、音と結びつけることをおろそかにしやすい。  
(中略) 日本語として漢字を学習するのだという態度を、学生たちに身につけさせることが非常に重要であろう。（強調は筆者、以下同様）

また、同じように、加納（1994、p. 4）<sup>2</sup>では、次のように述べられている。

漢字圏の学習者は、非漢字圏に比べると「漢字がわかる」という印象が強いことから、学習者の側も教師の側も漢字の学習、指導の手を抜きがちになる。その結果、かなり上級になっても字音語の読みに問題が残る場合が多い。

このように、日本語教育では、漢字圏の学生に対する漢字教育の必要性は、90年代から指摘されてきた。その中で、中国語話者を対象とした日本語漢字教育上の課題の一つとして、如何にして字音語の読み（つまり日本語の漢字の音読み）能力を向上させるかということが挙げられる。

---

<sup>1</sup> 阿久津智「漢字圏の学生に対する漢字教育について」『筑波大学留学生教育センター日本語教育論集』6、1991、pp. 129–144。

<sup>2</sup> 加納千恵子「漢字圏学習者への中級漢字指導の問題(2)一音読みが2つ以上ある漢字の指導一」『日本語教育方法研究会誌』1-3、1994、pp. 4-5。

その課題を解決する一つの鍵は現代中国語音<sup>3</sup>と日本語の音読み（以下、日本漢字音）の関係を正確に把握することであると考えられる。なぜならば、日本漢字音は、中国語音を基にしたものであるため、現代中国語音との間に対応関係が存在しているはずだからである。

筆者の関心は、現代中国語音を活用して日本漢字音の学習を改善する妥当で有効なシステムの開発である。しかし、現代中国語音と日本漢字音の関係については、不明な点が多く、中国語話者を対象とした日本漢字音教育のための基礎的な研究は未だ不十分であると言える。

## 1.2 本研究の目的

以上のような背景の中で、本研究は、現代中国語音と日本漢字音の関係を明らかにし、日本漢字音教育のための基礎的研究を行う。そして、その基礎的研究に基づき、初級段階を終えた旧日本語能力試験<sup>4</sup>3級<sup>5</sup>レベルの学習者が2級の新出漢語<sup>6</sup>（以下、2級新出漢語）及びそこで使われている漢字（以下、2級新出漢字）を効率よく学習するためにシステムデザインを行うことを目的としている。

なぜ初級段階を終えた3級レベルの学習者に限定したかというと、それには以下の理由が考えられるからである。現代中国語音と日本漢字音の対応関係を活用するには、ある程度の日本語の知識（基本的な漢字・語彙の知識や音読み・訓読みの知識など）が必要だからである。図1-1の「日本語能力試験の認定目安」から分かるように、このレベルは3級に相当する。

---

<sup>3</sup> 現代中国語音とは、共通語である「普通话」の音を指す。

<sup>4</sup> 2009年までの日本語能力試験のことである。以下、「旧試験」と略す。「旧試験」に対し、現在の日本語能力試験を「新試験」と呼ぶ。

<sup>5</sup> 本研究でいう「3級」と「2級」は、それぞれ旧試験3級と2級のことである。旧試験に対し、新試験の3級と2級のことをそれぞれ「N3」と「N2」という。なぜ旧試験を利用したかというと、それは、旧試験の場合、国際交流基金と日本国際教育支援協会編の『日本語能力試験出題基準』が公開されていたが、新試験になるとその『日本語能力試験出題基準』は非公開となった。本研究では、『日本語能力試験出題基準』を利用して日本漢字音学習の改善を検討するため、旧試験を利用したわけである。

<sup>6</sup> 本研究でいう「漢語」は、『日本語能力試験出題基準』の「語彙表」の中で、日本漢字音で読む語のことである。それに対し、「漢字」とは「漢語」の構成要素のことである。

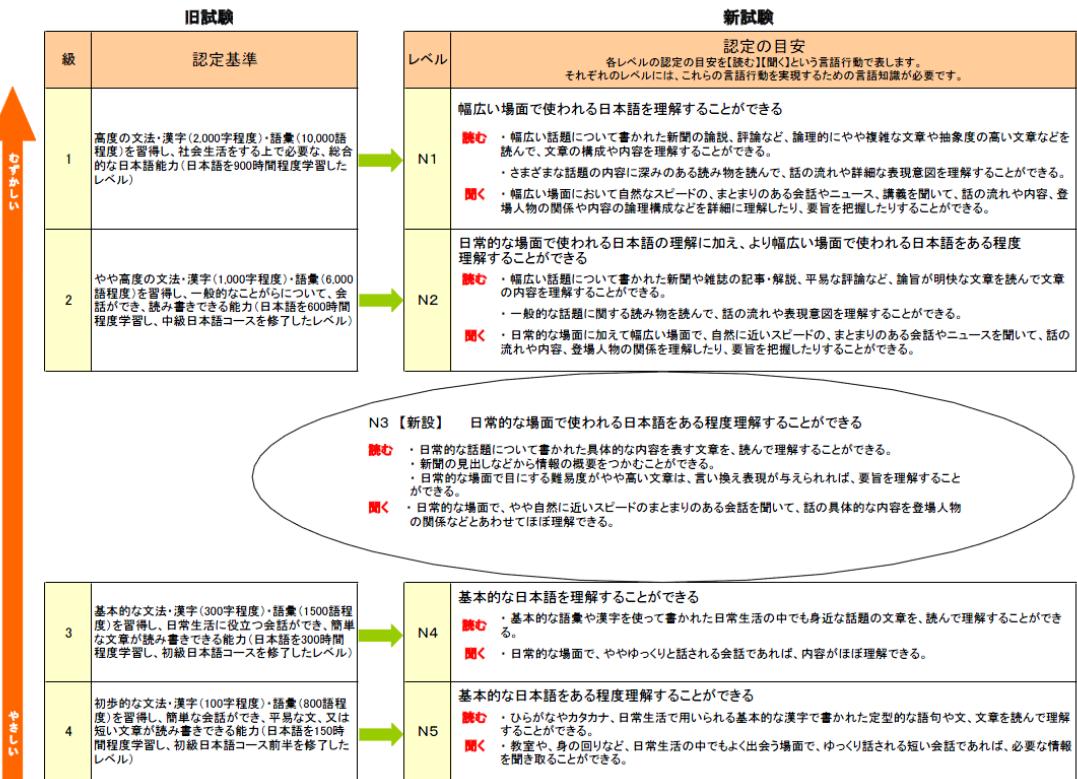


図 1-1 日本語能力試験の認定目安ー新旧対照（日本語能力試験公式ウェブサイトより）

### 1.3 本論文の構成

本論文は序論、本論、結論で構成されている。序論（第1章）では、本研究の背景、本研究の目的、本論文の構成について述べる。

本論（第2章～第7章）は、図1-2のように3段階構成となっている。第一段階では、日本漢字音教育現場において利用可能な現代中国語音と日本漢字音の対応規則を明らかにする。第二段階では、中国語話者の日本漢字音習得上の問題点を明らかにする。第三段階では、第一段階と第二段階で明らかになったことを組み合わせ、システムデザインと試作品としてのWEB教材の作成を行う。

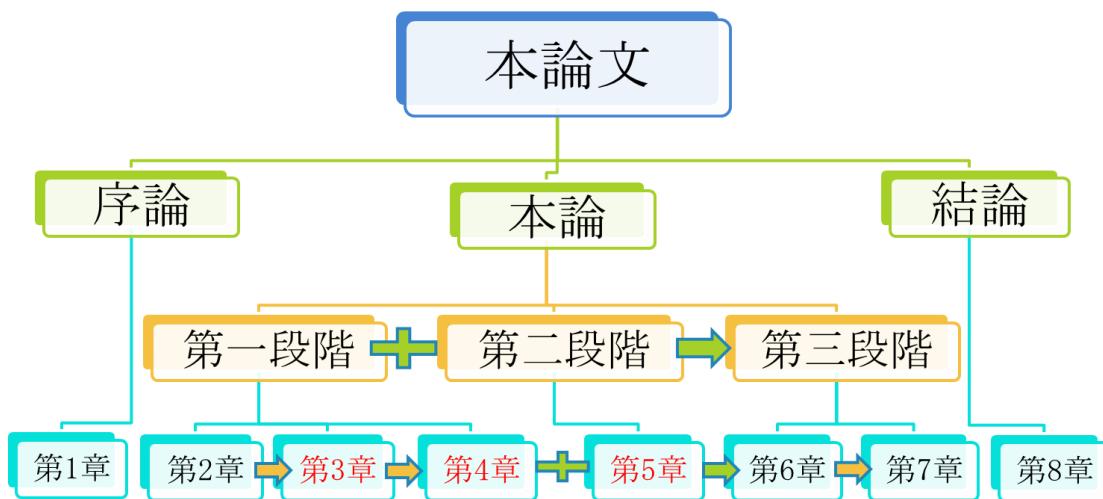


図 1-2 本論文の構成

そして、章でいうと、第2章から第4章は第一段階、第5章は第二段階、第6章と第7章は第三段階である。それぞれの章の概要は次のとおりである。

第2章では、先行研究に基づき、日本漢字音と中国語音（中古音<sup>7</sup>と現代中国語音）を概観し、中古音と現代中国語音の対応関係と、中古音と日本漢字音の対応関係を整理して提示する。

第3章では、中古音を介して現代中国語音と日本漢字音の対応関係を導き出した後、旧試験2級漢語（以下、2級漢語）で使われている漢字（以下、2級漢字）に限定した場合の対応関係を調査し、中古音を介して導き出した漢字全体に適用可能な対応関係と比較分析を行う。

第4章では、多音字を除いた2級新出漢字の現代中国語音と日本漢字音の基本対応規則及び補助対応規則を見出す。

第5章では、実際、中国語話者の日本漢字音習得上ではどのような問題点があるのかを調査する。

第6章では、第5章で明らかにした日本漢字音習得上の問題点を、第2章から第4章の分析結果（対応関係及び基本対応規則）を利用し、未解決な問題については第6章で新たに

<sup>7</sup> 平山久雄は『中国文化叢書1言語』の「中古漢語の音韻」の部分で「<中古音>（または<中古漢語>）とは、Karlgren 氏のいう Ancient Chinese の訳語であり、『切韻』（601 年 成書）の基礎となった方言の音を指すものである。（p. 112）」と述べている。

に分析考察を加えてその解決策を提示する。そして、学習者が効率的に学習できるように、システムデザインに向けて学習課題の構造化を行う。

第7章では、第6章で示した学習課題の論理構造に基づき、試作品としてのWEB教材の作成及び教材改良に向けた検討を行う。

本論の中で、第2章は先行研究のまとめで、第3章から第5章は本研究の主要部で、第6章と第7章は実践に向けた研究の第1ステップである。

結論（第8章）では、本論文をまとめ、本研究の意義と今後の展望について述べる。

## 第2章 日本漢字音と中国語音

本章では、日本漢字音と中国語音の先行研究に基づき、日本漢字音と中国語音（特に中古音<sup>1</sup>と現代中国語音）について概観する。具体的には、まず、日本漢字音とはどういうものか、日本漢字音の特徴は何かをみていく。次に、日本漢字音の基となった中国語音の歴史的変遷を踏まえた上で、日本漢字音に最も影響を与えた中古音と今日使われている現代中国語音の関係をまとめる。最後に、日本漢字音と中古音との対応関係について整理する。

### 2.1 日本漢字音について

#### 2.1.1 日本漢字音とその特徴

本研究で言及する「日本漢字音」は、「日本の漢字音」という意味で、日本語では、通常「漢字音」あるいは「字音」と呼ばれるものである。沼本（1986、pp. 3-4）<sup>2</sup>は、「日本漢字音」とは何かについて、次のように述べている。

東アジアで最も早くから発達した中国文化(漢文化)は、その近隣諸国に対して大きな影響を与えてきた。その影響の一つとして、中国語（漢語）を表記するために使用されていた「漢字」の移植が上げられる。我が國<sup>3</sup>と中国文化・漢字との接触が何時頃から、どの様にして始まったものか、これを正確に実証的に示す術は無いけれども、「漢字」と接触する以前に、我が国に独自の表記手段としての文字が存在していなかったことは疑う余地が無い。文献時代に入って以後、今日までの日本語の表記が、漢字とそれを母胎とした平仮名・片仮名であることがそのことをよく物語っている。日本語は、その表記の手段として、中国文化を担った「漢字」を移植し定着させて來たのである。そして、その様に、中国近隣諸国で、表記の道具として「漢字」を移植・定着させたのは、我が国のみではなく朝鮮やベトナム(越南)などの例が指摘出来る。さて、その「漢字」の移植と定着の過程において、各々の「漢字」が移植の時点において保持していた中国語音が、捨て去られることなく定着したものが「漢字音」(別に

<sup>1</sup> 第1章で述べたように、「中古音」とは『切韻』(601年成書)系韻書が反映する音体系である。

<sup>2</sup> 沼本克明『日本漢字音の歴史』東京堂出版、1986。

<sup>3</sup> 日本を指す。(筆者注)

「字音」或いは単に「音」とも）であるが、その定着の有り方は、当然のことながら近隣諸国の中文化・漢字との接触の仕方や各國語の構造の違いに応じて、大きな差違が有ったのであって、「日本漢字音」「朝鮮漢字音」「越南漢字音」など呼称されるべき独自の「漢字音」が形成されて来ているのである。「日本漢字音」はそういうものの一つである。（強調は筆者、以下同様）

このように、日本漢字音は、朝鮮漢字音や越南漢字音と同様に、移植時点の中国語音を保持するという特徴を持っている。そして、基本「一漢字一字音形」<sup>4</sup>である朝鮮漢字音や越南漢字音に対し、日本漢字音は「基になった中国語音の異なりに応じて体系を異にする何層かに分れて伝えられている」<sup>5</sup>、つまり「層的伝承」という特徴を持っている。この「層的伝承」について、沼本（1986、p. 4）は、以下のように述べている。

日本漢字音の特徴として、よくその層別伝承ということが言われる。即ち、平安時代以降の具体的な文献資料に見える漢字音を類聚・整理してみると、一つの漢字に、吳音（ゴオン）、漢音（カンオン）、唐音（トウイン<sup>6</sup>）というような名称で示され得る各々異なった音形が伝承されており、それが単に一字一字の個別的な問題としてではなく、それぞれの名称で代表される体系的な背景を持って伝承されて来た事実を言うものである。

そして、その具体例として、「行」「経」「瓶」「木」「脚」「頭」「宮」「遅」「和」「暖」の10字を取りあげている。表2-1は、沼本（1986、p. 4）で示されているものである。

<sup>4</sup> 沼本（1986、p. 6）は、「一漢字一字音形」について、「朝鮮漢字音の一漢字一字音形の各々は、ある場合には日本漢字音の『吳音』にあたるものであったり、ある場合には『唐音』にあたるものであったりする。つまり、朝鮮漢字音では、移植のされ方としては日本漢字音と同じように間歇的であったけれども、その伝承の過程の中で旧来の字音も新來の字音も区別されることがなくなり、その中の一字音が一漢字の音形として定着したことになる。従って、朝鮮漢字音の場合には、日本漢字音の『吳音』『漢音』『唐音』のような細分化した名称は存在しないし、それを必要とするに到らなかつたのである。この朝鮮漢字音とほぼ似た情況は越南漢字音についても指摘できるようである。」と述べている。

<sup>5</sup> 沼本（1986、p. 6）

<sup>6</sup> 沼本（1986、p. 4）では、「唐音」を「トウイン」と讀んでいるが、『漢字百科大事典』（1996、p. 51）では、「唐音」の読みが「トゥオン」または「トウイン」と記載されている。（筆者による注釈）

表 2-1 呉音・漢音・唐音について（沼本、1986）

日本漢字音 漢字	行	経	瓶	木	脚	頭	宮	遅	和	暖
吳音	ギャウ	キヤウ	ヒヤウ	モク	キャク	ヅ	ク	ヂ	ワ	ナン
漢音	カウ	ケイ	ハイ	ボク	カク	トウ	キウ	チ	クワ	ダン
唐音	アン	キン	ピン	モ	キヤ	チウ	キュン	シ	ヲ	ノン

表 2-1 に示しているように、同じ漢字であっても、吳音か漢音か唐音かによって読み方が異なる。例えば、「経」という漢字の場合、吳音では「キヨウ（キヤウ）」（例：読経ドッキヨウ）、漢音では「ケイ」（例：経済ケイザイ）、唐音では「キン」（例：看経カンキン）となっている。このように、「経」などの 10 字には 3 つの形が伝承されてきている。そして、周知の通り、この現象は、以上取りあげた 10 字のみではなく、他の多くの漢字についても存在している。

### 2.1.2 日本漢字音の「層的伝承」

#### 2.1.2.1 呉音と漢音と唐音

2.1.1 では、日本漢字音の細分化として、「吳音」と「漢音」と「唐音」といったものがあり、それぞれの名称は代表する音体系があると述べた。ここでは、『漢字百科大事典』(1996)<sup>7</sup>に基づき、この吳音と漢音と唐音について述べる。

まず、吳音について、『漢字百科大事典』の「吳音」の項 (p. 50、高松政雄) では、以下のように述べられている。

「対馬音」、「和音」とも。特に八世紀後半あたりより、中国語における音の新旧、つまり新音としての長安音・秦音と、旧音としての吳楚音・吳音との対比、しかも、この前者を尊び、後者を卑しめるという風潮を知り、それをそのままにわが方で模倣して、その前者に相当するものを漢音、後者を吳音と呼称するようになる。そして、次第にその漢音に拮抗するところの日本漢字音の一体系としてこれは整備されて来たものである。そのことは殊に声点において明白に認められる。それは、韻書に全く一致する漢音の四声に対して、この方は正に綺麗に逆対応をするものとされているからである（例：漢音 <sup>上平</sup> <sub>去</sub> ⇔ 吳音 <sup>平上</sup> <sub>去</sub>）。この音形は、切韻音に対して、声母が大概合うけ

<sup>7</sup> 佐藤喜代治・遠藤好英・加藤正信・佐藤武義・飛田良文・前田富祺・村上雅孝編集『漢字百科大事典』明治書院、1996。

れども、韻母の方は、かなりずれる。それだけこれはその面での古形を保っている訳である。(中略)なかんずくにその古格を遵守し続けるのは、僧侶による内典関係の読誦音である。その代表的なものには、法華経や大般若経等があり、その音義書等と共に、これらは呉音研究のための貴重な資料となっている。なお付帯的に言えば、厳密な意味で、徹頭徹尾、呉音で一貫している資料はない。多少ともその中には漢音形の混入が認められるのが常である。それは逆に呉音があらゆる漢字を覆うものではないということを証するものである。つまり、全漢字に対応し得る生産的な音は漢音の方なのであって、古く呉音で読まれなかった漢字は、新たにまた呉音では読み得ぬからである。

このように、呉音は漢音が伝来する以前に日本で行われていた漢字の発音をまとめたものである。呉音には今の南京を中心とする地域の中国語の影響が強いという説があるが、沼本（1986）によると、呉音の中国語音が何時頃のどの地方のものであり、まだどのような経路を取って移植されたものか、未だ不明の点が多い。さらに、呉音の全体の姿=体系がどの様なものとして把握できるのかも明確になっていないのが現状であると指摘している。

次に、日本語に最も影響を与えた漢音について、『漢字百科大事典』の「漢音」の項(p. 50、高松政雄著)では、以下のように述べられている。

「正音」とも。中国の唐代、特に盛唐の玄宗皇帝（在位八世紀前半）の治世下において、その都長安<sup>8</sup>音が、中国正音、すなわち、標準音に昇華するや、それまでの南方音は、旧音、呉音として疎んぜられるようになった。そういう中国の、新・旧音対比の事実を眼前に見て、それをそっくりそのままに日本に転移して、その当时代中国正音たる秦音に相当するものを漢音、逆に、従前の旧音をば呉音と称して区別する事をわが国人も覚えた。(中略)この漢音は、元来、時の政府によって奨励されたものであるが故に、律令制下の官僚は全てこれで統制されることになった。したがって、いわゆる外典関係は、おおよそこの音でもって覆われる所以である。その主たる拠り所は、中國の韻書—切韻系韻書—である。しかし、それと比較<sup>9</sup>するに、わが漢音は、声母の面

<sup>8</sup> 中国、陝西（せんせい）省にある旧都。現在の西安市付近。

<sup>9</sup> 『漢字百科大事典』の「漢音」事項(p. 50、高松政雄)では、「比較」と記載されている。

で、齟齬するところ大で、逆に、韻母の面では合致することが多いという音体系となっている。ということは、中国原音で韻母の変遷の方が、声母のそれよりも一方時代的には先行したことの証しとなろう。それはともかく、その声母で不一致の最たるものは、全濁音の無声化と、次濁音の中の鼻音声母のその鼻音弱化現象である。つまり、前者は、わが仮名書き音形で、かつての（呉音）濁音が清音で、後者は、以前の鼻音（ナ・マ行音）が濁音（ダまたはザ行音・バ行音）形で顕現することでそれが明示される。これは正に中国西北方音たる秦音の特徴に他ならぬものである。後、さらに唐末にはこの方音は、我が求法僧によって伝えられ、それはまた新漢音とも称せられることがある。特に天台宗、真言宗のある種のものは、これでもって徹底されるのである。通時的には、今一方の呉音の勢力範囲内にもこれが次第に侵入することとなり、特に近代以降はその傾向が強い。その所以は、これが、きわめて生産的なる音であるからである。そのため、一般の字音表示にあっては、この漢音形を先に、そして、呉音形はその後で出すまでに至っている。なおこの声調体系は、全く韻書と一致するものである。

ここでいう「生産的なる音」というのは、漢音は、中国語音韻学の一定の基準、つまり切韻系韻書の方則に則ることによって、容易に導き出されるとということである。この特徴を持つことで、「何万という漢字の、そのどのような字であろうとも、その音はまず漢音でもって読み得る」<sup>10</sup>ということになる。漢音は、日本漢字音の「中核となる最重要の音」<sup>11</sup>であると言われることがある。それは、以上で述べた生産性が高いという特徴を持ってい上に、かつて政府によって奨励されていたこともあるからだと考えられる。

先述のように、日本漢字音には、呉音・漢音のほかに、唐音というものもある。この唐音について、『漢字百科大事典』の「唐音」の項（p. 51、湯沢質幸）では、以下のように述べられている。

（「唐」は中国の意）平安中期から江戸末期、すなわち宋代から清代中期にかけ日本に渡來した中国語音に基づく日本漢字音。また、時にはその中国原音そのものを言う。「唐宋音」あるいは「宋音」という呼称もあるが、宋代に原音が渡來したというニュ

<sup>10</sup> 『漢字百科大事典』（1996）の「漢字音」の項（p. 49、高松政雄）

<sup>11</sup> 『漢字百科大事典』（1996）の「漢字音」の項（p. 49、高松政雄）

アンスが強いため、今日ではあまり用いられない。主として南方呉地方の音によっているが、原音渡来時期の違いや中国方言音の違い、また中国語自体の音韻変化、あるいは受け入れ側の日本語の音韻変化等により、呉音・漢音と音形がかなり異なるのみならず、それ 자체内部においてもいろいろな層、いろいろな形の音を含んでいる。(中略) 唐音は呉音・漢音定着後の成立もあってか、長期間にわたって多量に渡來し、使用されたにもかかわらず、総じて日常一般語における使用範囲はきわめて狭く、今日の日常語においては一部の文物名にのみ用いられているだけである。

このように、唐音は、呉音・漢音が日本漢字音として一応の定着を完了した後に移植されたものであり、かつ、その使用の場が極めて限られたものであったために、一般の国語にはあまり影響を与えたなかった。

#### 2.1.2.2 「層的伝承」の背景

では、なぜ日本漢字音は「層的伝承」という特徴を持っているのか。その形成要因について、沼本（1986、p. 6）は、「一つは日本語音韻体系の単純性、もう一つは中国語音の移植の経緯に対応した伝承方法の違い」と述べている。そして、一般的によく知られている「呉音」と「漢音」を例に、以上の2つの要因を考察している。まず、沼本（1986、pp. 7-8）は日本語音韻体系の単純性について、以下のように述べている。

日本語の音韻体系と中国語の音韻体系の間には、歴史を超えて、大幅な相違が存在する。そして、中国語の音韻体系の方が遙かに複雑である。伝来の古い「呉音」の日本化の程度が高かったということは、日本語音韻体系からはみ出る中国語音の部分を殆ど捨象してしまったということに他ならない（尤も、逆に中国語音をどうしても受け入れざるを得ない場合にはそれを受け入れたのであるが、それはなるべく日本語音韻体系の破壊の少ない形であったと言える）。一方、新來の「漢音」は、平安時代もかなり後々まで、相当忠実に中国語音が学習伝承されていたのであって、既に漢音が移植された時点において、両者の融合を許容せざる大幅な内実の相違が存在していたと考えられる。そして、このような両者間の差を引き起こした原因是、正に日本語音韻体系の単純さそのものに在ったと考えることが出来る。つまり、先行移植された呉音が、早く単純な日本語音韻体系に組み込まれていたものであったのに対し、新しく移

植された漢音が中国語音に忠実に学習されたために、その相方のギャップが埋め得ないままに伝承されて来たということであろう。「吳音」「漢音」が、別に古くは「和音」「正音」と呼称された形跡が有るものも、そのような事情を物語っていよう。但し、やがて中世に到ると、この「漢音」も日本語音韻体系に溶け込んでしまうのであって、その結果、遂に吳音と漢音とは仮名形音形の形態の違いのみになって、今日の状態に到っている。このように考えてみれば、日本漢字音の層的伝承の一つの要因が、日本語音韻体系の単純性そのことに在ったと見ることが可能である。

日本語音韻体系の単純性については、以下のようにまとめることができる。日本化の程度が高い「吳音」は、日本語音韻体系からはみ出る中国語音の部分をほとんど捨象していくと考えられる。それに対し、「漢音」は、平安時代もかなり後々まで、相当忠実に中国語音が学習伝承されていた。両者間の差を引き起こした原因は、日本語音韻体系の単純性そのものにあったと考えられる。

そして、沼本（1986、pp. 8-9）は伝承方法の違いについて、以下のように述べている。

次に、もう一つの要因として考えられるのは、吳音と漢音の伝承及び学習方法の相違である。現存する漢字音記載の資料によれば、吳音読された文献と漢音読された文献とはかなり明確な区別が見られる。即ち、まず仏典は吳音で読まれ、漢籍は漢音で読まれるという基本的な差が認められる。仏典の中でも、特定のものについては漢音で読まれているものも見出されるが、それ等は中国から伝来の新しいものか、或いは新佛教としての密教（天台・真言関係）に関係したものであって、それぞれ然るべき理由が考えられる。ともかく、このように平安時代以降の吳音読と漢音読とが仏典と漢籍という資料の性格の違いに対応しているということは、正に日本漢字音の伝承と学習の方法が古く奈良時代からそれぞれ異なっていたことを示すのであり、従って、その両者が容易に融合して行く機会が少なかったことを考えさせる。先に、中世になってこの両音が混淆・融合されて行ったことを言ったが、この場の問題においても、丁度この頃、真俗（仏家と俗家）の交流が愈々盛んになり、場そのものが融合して行ったのである。なお、ちなみに、吳音・漢音の後に移植された「新漢音」「宋音」「唐音」についても、それ等が別層として伝承されて行った要因は、ほぼ同様にそれぞれの使用の場を異にしていたためと考えることが出来るであろう。

伝承方法の違いについては、以下のようにまとめることができる。現存する漢字音記載の資料によれば、仏典は呉音で読まれているのに対し、漢籍は漢音で読まれるという基本的な差がある。このことは、正に日本漢字音の伝承と学習法が古く奈良時代からそれぞれ異なっていたことを示している。

以上のことから、日本語と中国語の音韻の相違と、伝承及び学習方法の違いによって、日本漢字音は「層的伝承」という特徴を持つことになったことが分かる。

### 2.1.3 慣用音

漢和辞典の日本漢字音の分類には、呉音・漢音・唐音のほかに慣用音というものもある。この慣用音について、『漢字百科大事典』の「慣用音」の項（p. 52、沼本克明）では、以下のように述べられている。

明治時代に入ってからの主として漢和辞典で、韻書・音義の反切及び韻図に基づいて演繹的に決定せられた呉音・漢音形と異なる場合の、わが国の具体的文献に見出される字音形に与えられた通称。辞書によっては「通音」「俗音」などとも呼称している。（中略）「慣用音」とされて来たものの内実には相当雑多なものが入り込んでいるのが実情であるが、大きく分けると、（一）「慣用音」とされて来たものが、実は呉音・漢音そのものであるもの、（二）正に「慣用音」そのものであるもの、に分類できる。（一）は、例えば、「明メイ」「寧ネイ」、「宝ホウ」「帽ボウ」、「戊ボ」「牡ボ」のようなものである。「明」「寧」などは中国中古音（反切や韻図で示される音）では唇音・舌音の清濁声母に属し、江戸時代以来の演繹処置では一律に呉音マ行・ナ行、漢音バ行・ダ行という規則が適用されて、呉音ミヤウ・ニヤウ、漢音「ベイ」、「デイ」が正しいものとされ、古文献に出現する「メイ」、「ネイ」は「慣用音」とされてしまったものである。「宝」「帽」などは、豪韻という韻に属し、同韻の「好カウ」「草サウ」などにならって演繹的に「ハウ」・「バウ」という開音形が呉音・漢音とされ、古文献に出現する「ホウ」・「ボウ」という合音形が「慣用音」とされてしまったものである。「戊」「牡」などは、侯韻に属し、同韻の「候コウ」「厚コウ」などにならって漢音形を「ボウ」としてしまったために、古文献に出現する「ボ」という音形が「慣用音」とされてしまったものである。これらは、それぞれ古文献に出現する形の方が呉音であり漢音であって、呉音・漢音とされたものが架空の字音形であったことが明らかになって来てい

る。この（一）の場合は、反切や韻図の反映する中国語の音韻体系と日本漢字音としての吳音・漢音の母胎になった中国語音とに大きな違いがあったために生じた矛盾である。今日では、こういう例については、順次漢和辞典でも修正される動きが出て来ている。（二）は、例えば、「覇眞ヒイキ」「披露ヒロウ」「接セツ」「摂セツ」のような場合である。これは反切や韻図から導き出されたものと古文献に見られるものとが一致する音形（覇ヒ、露ロ、接セフ、摂セフ）が別に存在し、特に語彙音形として日本側の理由で生じた特異なものであって、正に「慣用音」とするにふさわしいものである。

このように、慣用音は、反切や韻図に基づいて演繹的に導き出された音形と異なるものであり、内実は非常に複雑である。そして、なぜ演繹的に導き出された音形とくい違うもの（＝慣用音）が出現したのかというと、それは以下の2点が考えられる。第一に、中国側の事情によるものが考えられる。つまり、反切や韻図が反映する中国語の音韻体系と吳音・漢音の母胎になった中国語の音韻体系との間に違いがあるからである。第二に、中国語音の問題ではなく純粹に日本側の事情によるものが考えられる。

また、『角川新字源改訂版』（1994）<sup>12</sup>の付録（p. 1189）において、慣用音は以下のように述べられている。

**或る字の日本音が正規の漢吳音に合わないのを慣用音という**（この名は大正以後できたらしい）。広韻などの反切が代表する中国中古音は、一定の原則により漢音または吳音にカナで表記できるが、その原則に合わない不規則なよみがある。たとえば停は（特丁切だから）中国の声母は定母 d' で、漢音はティ、正規の吳音は濁音となってジョウ（チャウ）のはずだのに、停止をチョウ（チャウ）ジとよむ場合があったのは原則にはずれるから、慣用音とみなし、この辞書では団と注記する。**そのほか慣用音の大部分は誤読から生じたもので、ことに形声字の音符から類推された誤りが最も多い。**それらの誤読が定着してしまったもののほかに、特殊な由来を有するよみがあるが、すべて一律に慣用音として処理し、団とする。

このように、慣用音は吳音や漢音のように一定の規則がないことや、その多くは誤読に

---

<sup>12</sup> 小川環樹・西田太一郎・赤塚忠『角川新字源改訂版』角川書店、1994。

よるものであることが分かる。

以上のことから、慣用音は、吳音・漢音・唐音と性質がかなり異なるため、本研究では、以降吳音・漢音・唐音と別に考察する。

## 2.2 中古音と現代中国語音の対応関係

藤堂・相原（2005、pp. 191–192）<sup>13</sup>によると、中国語音韻体系の変化は、「上古漢語（周・秦・漢）」、「中古漢語（隋・唐）」、「中世漢語（宋・元・明）」、「近世漢語（明末・清）」の4期に分けることができる。「上古漢語」は、東周の初めに編集された『詩経』から、先秦の諸子百家の書、屈原の『楚辞』、漢代の辞賦までを主な資料としている。「中古漢語」は、『切韻』（601年）および『切韻』系の韻書（その代表、1008年の『廣韻』）に代表される言語である。そして、この切韻系韻書が反映する音体系は中古音である。「中世漢語」は、『中原音韻』<sup>14</sup>（1324年）や『古今韻会挙要』（1308年）などに代表される言語である。「近世漢語」は、『重訂司馬溫公等韻図經』（1602年）や『団音正考』（1743年、『圓音正考』とも）などに代表される言語である。

このうち、日本漢字音に最も影響を与えたのは中古音である。なぜならば、日本で漢字の知識が広まったのはおそらく奈良朝（710～784）だろうと言われている。この時期は中国の唐（618～907）に当たるからである。また、古く伝來した漢字音の和音（吳音とも）に対して奈良時代末期から唐代の長安音と直接交渉によってもたらされたものを正音（漢音とも）と呼ぶ。さらに、先述したように日本漢字音の中核である漢音の主たる拠り所は切韻系韻書である。これらのことから、中古音が日本漢字音に与える影響が極めて大きいことがうかがえる。そこで、本節では、この中古音と現代中国語音<sup>15</sup>を中心に、中国語音の歴史的変遷についてみていく。

<sup>13</sup> 藤堂明保・相原茂『新訂中国語概論』大修館書店、2005。

<sup>14</sup> ここでいう「中原」とは、中国の黄河中流・下流の地域を指している。

<sup>15</sup> 序論で述べたように、本研究でいう現代中国語音は、「普通話」の音を指している。牛島・香坂・藤堂（1967、p. 167）では、「普通話」について「現在すでに確立した規範があるわけではない。ふつう『北方語を基礎方言とし、北京語音を標準音とする』と説明される一応の基準があるだけである。従って、普通話とは、志向される方向にあるべき共通語と理解してさしつかえない。」と述べている。従って、現代中国語の音韻といえば、普通、共通語の基準とされる現代北京方言の音韻を指すことになる。

### 2.2.1 中国語の音節構造

日本語の音声の単位について、『日本語教育能力検定試験完全攻略ガイド第2版』(2011、p. 36)<sup>16</sup>では以下のように書かれている。

音声の単位としては、日本語は「拍」であるが、朝鮮語・英語・中国語は「拍」ではなく「音節」的である。撥音（ん）、促音（っ）、長音（ー）は、拍では他の音声と独立した1拍分であるが、音節では独立した1つ分の音声として扱われない。

そして、日本語のこの拍について、松崎・河野（2007、pp. 24-25）<sup>17</sup>は「拍はリズム上の最小単位であるが、音としては、特殊拍以外はさらに細かく、子音・母音に分かれる。音のカタマリの中心となるのは母音であり、日本語の場合には、その前に半母音や子音がくっつく構造となる」と述べている。

それに対し、中国語の音節構造について、『漢字百科大事典』の「韻母」の項（p. 59、岡島昭浩）では、以下のように述べている。

中国語の音節構造は普通[IMVE/T]（または[IMVF/T]）で表される。すなわち、Initial = 声母、Medial = 介母（韻頭）、Vowel = 韵腹、Ending (Final) = 韵尾、Tone = 声調である。（中略）IMVE/Tで表した場合の MVE の部分を韻母と呼ぶ。T（声調）をふくめて韻母と呼ぶ場合もある。

「餓」「愛」「完」「弟」「鉄」「兄」の6字を例に、日本語の音節<sup>18</sup>構造と現代中国語の音節構造を比較する。表2-2は日本語の音節構造、表2-3は現代中国語の音節構造の図解例である。

<sup>16</sup> ヒューマンアカデミー『日本語教育能力検定試験完全攻略ガイド第2版』翔泳社、2011。この書は、日本語教育能力検定試験の合格を目指す人たちのための教科書である。日本語教育能力検定試験とは、日本語教師に必要とされる知識や能力を測ることを目的とした試験のことである。

<sup>17</sup> 松崎寛・河野俊之『よくわかる音声（日本語教師・分野別マスターシリーズ）』アルク、2007。

<sup>18</sup> 日本語では、「音節」より「拍」の方がよく使われているが、ここでは、現代中国語の音節と対照させるために、日本語の「音節」という用語を使用している。

表2-2 日本漢字音の音節構造の図解例



漢字	平仮名表記	ローマ字表記				
		1音節目		2音節目		
頭子音	半母音	主母音	特殊拍			
餓	ガ		a			
愛	アイ		a	i (母音)		
完	カン	k	a	n(撥音)		
弟	ダイ	d	a	i (母音)		
鉄	テツ	t	e	tu (入声韻尾)		
兄	キョウ	k	y	o	u(長音)	

表2-3 現代中国語音の音節構造の図解例



漢字 (繁体字)	ピンイン 表記	1音節				
		声母	韻母			声調
韻頭	韻腹	韻尾				
ゼロ			e			ˊ
ゼロ			a	i		ˋ
ゼロ	w	a	n			ˊ
d		i				ˊ
t	i	e				ˇ
x	i	o	ng			-

このように、日本漢字音（表2-2）の場合は必ずしも1漢字1音節ではない。そして1漢字1拍というわけでもない。音節でみた場合、2音節目には母音か「ク/ツ/チ/キ」（中古音の入声韻尾を示しているものであるため、以下、便宜上「入声韻尾」と呼ぶ）が入るのが特徴である。一方、拍でみた場合、2拍目には母音と入声韻尾以外に、撥音と引く音（つまり、長母音の後半部分である。以下、便宜上「長音」という）<sup>19</sup>のいずれかが入ることが特徴である。

日本語の音節・拍構造に対し、現代中国語音（表2-3）は1字1音節であることが分かる。そして、声母がないもの（中国語音韻学では「ゼロ声母」と呼ぶ）、韻頭を欠くもの、韻尾がないものなど、さまざまなタイプの音節がある。しかし、韻腹だけは必ず備わっている。この点は、日本漢字音の1拍目の主母音が必ずあることと同じである。

<sup>19</sup> 「引く音（長母音の後半部分）」という言い方は、ヒューマンアカデミー著『日本語教育能力検定試験完全攻略ガイド第2版』（2011、p.397）に従っている。

## 2.2.2 中国語の表記法

表2-3で示したように、現代中国語音は、1958年2月に採択された「漢語拼音方案」（以下「拼音法」という）によって、ローマ字で表記されている。一方、中古音は「反切法」によって漢字の発音を表記している。漢字「東」を例に、中古音の反切法と現代中国語音の拼音法を説明する。中古音の反切法では、「東=徳紅反（または徳紅切）という形をとり、徳 tək によって声母の t を表し、紅 hūŋ によって韻母の uŋ を表し、両者をつないで東=tuŋ トウングという字音を表す」<sup>20</sup>ことになる。一方、「東」を拼音法によって標音すると、「東=dōng」という形になる。「d」は声母で、「ong」は韻母で、「o」の上にある「-」は声調（第1声）であることを表している。このように、反切法は2つの文字を使うが、拼音法はローマ字を使って中国語の漢字の発音を表している。

中古音では、声母を示すものとして36字母があり、韻母を表すものとして206韻がある。206韻には、平声、上声、去声、入声の四声が含まれている。それに対し、現代中国語音では、「ゼロ声母」<sup>21</sup>を含めて声母が22あり、韻母が36ある。そして、声調には、第1声、第2声、第3声、第4声の4つがある。以下、声母、韻母、声調に分けて中古音と現代中国語音についてみていく。

## 2.2.3 字母と声母

### 2.2.3.1 字母と声母について

中古音の字母について、王（1963、p. 80）<sup>22</sup>は以下のように述べている。和訳の下は原文である。

隋以降の声母の系統の発展は以下の4つに分けることができる。1) 切韻時代の36声母、2) 和尚守温の36字母、3) 「早梅詩<sup>23</sup>」の20声母、4) 「太平歌<sup>24</sup>」の22声母。  
(筆者訳)

<sup>20</sup> 藤堂・相原（2005、p. 199）

<sup>21</sup> ゼロ声母とは、声母がなく母音で始まる場合を指す。例えば、「餓 (e4)」、「愛 (ai4)」、「五(wu3)」、「一(yi1)」などが挙げられる。

<sup>22</sup> 王力『漢語音韻』中華書局、1963。

<sup>23</sup> 明初期の蘭茂によって書かれたもの。原文は、「東風破早梅，向暖一枝開。冰雪無人見，春從天上来。」である。これらの20字で明初期（15世紀頃）中国北方方言の声母系統を表している。

<sup>24</sup> 現代の言語学者王力によって作られたもの。原文は、「子夜久難明，喜報東方亮。此日笙歌頌太平，衆口齊歡唱。」である。これらの22の漢字を使って現代中国語音の声母を表している。

隋代以後の声母系統の発展は大体4段階に分かれます：（一）切韵時代の三十六声母；（二）守温の三十六字母；（三）早梅詩の二十声母；（四）太平歌の二十二声母。（原文）

また、唐末の和尚である守温の36字母について、王（1980、p.8）<sup>25</sup>は以下のように述べています。和訳の下は原文である。

字母はつまり声母である。唐末の僧侶である守温が36字母を作ったと伝えられています。（中略）36字母は、発音部位からみれば七音<sup>26</sup>に分かれ、発音の方法からみれば清濁に分かれます。（筆者訳）

字母就是声母。相传唐末和尚守温创造三十六字母。（中略）三十六字母，从发音部位说，分为七音；从发音方法说，分为清浊。（原文）

王（1980、p.14）によると、清音はさらに全清<sup>27</sup>と次清<sup>28</sup>に分けられ、濁音はさらに全濁<sup>29</sup>と次濁<sup>30</sup>に分けられる。現在、一般的に中古音の字母というものは「守温の36字母」を指す場合が多い。この36字母について、藤堂・相原（2005、p.210）は以下のように示しています。

表2-4 中古音の字母（藤堂・相原、2005）

36字母全表	清濁区分		全清	次清	全濁	次濁	清	濁
	1.唇音	重唇音	幫 p	滂 p'	並 b	明 m		
		輕唇音	非 f	敷 f'	奉 v	微 w		
	2.牙音		見 k	溪 k'	群 g	疑 n		
	3.喉音		影 ·	曉 h'	匣 f	喻 y		
	4.舌音	舌頭音	端 t	透 t'	定 d	泥 n		
		舌上音	知 t̚	徹 t̚'	澄 d̚	來 l		
	5.齒音	齒頭音	精 ts	清 ts'	從 dz	日 r̚	心 s	邪 z
		正齒音	照 tʃ	穿 tʃ'	神 dʒ		審 ſ	禪 ʒ
	<備考>		齒上音	莊 ts	初 ts'	牀 dz		疏 s
	不足する五字母		喉音			于 ſi (ŋ)		

<sup>25</sup> 王力『音韻学初步』商務印書館、1980。

<sup>26</sup> 七音とは、唇音、舌音、齒音、牙音、喉音、半舌音、半齒音のことである。

<sup>27</sup> 全清音（10）：幫母、非母、見母、影母、端母、知母、精母、照母、心母、審母。

<sup>28</sup> 次清音（8）：滂母、敷母、溪母、曉母、透母、徹母、清母、穿母。

<sup>29</sup> 全濁音（10）：並母、奉母、群母、匣母、定母、澄母、從母、神母、邪母、禪母。

<sup>30</sup> 次濁音（8）：明母、微母、疑母、喻母、泥母、來母、娘母、日母。

一方、現代中国語音は、「ゼロ声母」を含めて22の声母がある。藤堂・相原（2005）によると、この22の声母は調音点によって7種類に分類できる。つまり、唇音、舌音、歯音、そり舌音、舌面音、舌根音、喉音である。そして、調音の仕方から、無気音、有気音、摩擦音と流音、鼻音、半母音の5種類に分類することができる。この22声母について、藤堂・相原（2005、p. 12）では以下のように示されている。表2-5の中の半母音「w」と「y」、無気音の「・」の3つは「ゼロ声母」である。つまり、「ゼロ声母」には、「介音がwであるゼロ声母」と「介音がyであるゼロ声母」と「介音がないゼロ声母」の3種類がある。

表2-5 現代中国語音の声母（藤堂・相原、2005）

調音点	調音の仕方				
	無気音	有気音	摩擦音と流音	鼻音	半母音
唇 音	b	p	f	m	w
舌 音	d	t	l	n	
歯 音	z	c	s		
そり舌音	zh	ch	sh		r
舌 面 音	j	q	x		y
舌 根 音	g	k		(-ng)	
喉 音	・		h		

守温の36字母は唐末標準語の声母であり、現代中国語音の声母と異なる部分がある。その中で、特に異なるのは、「現代中国語音には全濁音がない。<sup>31</sup>（筆者訳）」ことであると、王（1980、p. 16）で述べられている。では、中古音では全濁音である漢字はどうなったのだろうか。これらの漢字は、現代中国語において全て清音になっている。

### 2.2.3.2 中古音の字母と現代中国語音の声母の対応関係

中古音の字母と現代中国語音の声母の対応関係を示したものとして龍（2005）<sup>32</sup>、中村（2007）<sup>33</sup>が挙げられる。そして、龍（2005）と中村（2007）のいずれも、声母の種類（発音部位による分類）によって対応関係を示している。ここでは、唇音を例に、2つの先行研究を紹介する。まず、龍（2005、p. 33）は、唇音について、図2-1のように示している。

<sup>31</sup> 原文は、「现代普通话里没有全浊音。」である。

<sup>32</sup> 龍庄偉編『漢語音韻学』語文出版社、2005。

<sup>33</sup> 中村雅之『中古音のはなし—概説と論考』古代文字資料館、2007。

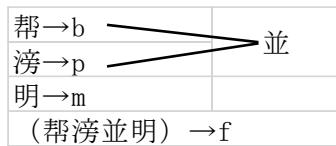


図2-1 中古音と現代中国語音の声母の対応関係—唇音（龍、2005）

次に、中村（2007、pp. 29–41）では、唇音については、図2-2のように示している。

中古音			北京音	
清	幫母	[p]	[p]	(ピンインb)
次清	滂母	[p']	[p']	(p)
濁	並母	[b]	平声 [p'] (p)	仄声 [p] (b)
清濁	明母	[m]	[m]	(m)
清	非母	[p]	[f]	(f)
次清	敷母	[p']	[f]	(f)
濁	奉母	[b]	[f]	(f)
清濁	微母	[m]	[ゼロ]	(w)

図2-2 中古音の字母と現代中国語音の声母の対応関係—唇音（中村、2007）

2つの先行研究が提示した対応関係を比較すると、ほぼ同じである。つまり、中古音の重唇音である①「幫母」は「b 声母」、②「滂母」は「p 声母」、③「並母」は「b 声母」と「p 声母」、④「明母」は「m 声母」に対応する。一方、軽唇音である⑤「非・敷・奉母」は「f 声母」、⑥「微母」は「ゼロ (w 介音) 声母」に対応する。しかし、龍（2005）より中村（2007）の方が、より詳しく対応関係を示している。そこで、中村（2007）に基づき、中古音と現代中国語音の声母の対応関係を整理した。その結果を表2-6に示す。

表 2-6 中古音の字母と現代中国語音の声母の対応関係

中古音の字母		現代中国語音の声母	中古音の字母		現代中国語音の声母
幫	全清	b	清	次清	q
滂	次清	p	從	全濁	c
並	全濁	p	從	全濁	q
並	全濁	b	從	全濁	z
明	次濁	m	從	全濁	j
非	全清	f	心	全清	s
敷	次清	f	心	全清	x
奉	全濁	f	邪	全濁	s
微	次濁	w	邪	全濁	x
端	全清	d	照	全清	zh
透	次清	t	穿	次清	ch
定	全濁	t	牀	全濁	ch
定	全濁	d	牀	全濁	zh
泥	次濁	n	審	全清	sh
知	全清	zh	禪	全濁	sh
徹	次清	ch	影	全清	ゼロ
澄	全濁	ch	影	全清	y
澄	全濁	zh	影	全清	w
娘	次濁	n	曉	次清	h
見	全清	g	曉	次清	x
見	全清	j	匣	全濁	h
溪	次清	k	匣	全濁	x
溪	次清	q	喻3	次濁	ゼロ
群	全濁	q	喻3	次濁	y
群	全濁	j	喻3	次濁	w
疑	次濁	ゼロ	喻4	次濁	ゼロ
疑	次濁	y	喻4	次濁	y
疑	次濁	w	喻4	次濁	w
精	全清	z	來	次濁	l
精	全清	j	日	次濁	r
清	次清	c			

表 2-6 から分かるように、1つまたはいくつかの中古音の字母が、1つまたはいくつかの現代中国語音の声母と対応している。例えば、1つの中古音の字母が 1 つの現代中国語音の声母と対応している例として、中古音の「次濁の明母」と現代中国語音の「m 声母」(太枠部分) が挙げられる。そして、1つの中古音の字母が複数の現代中国語音の声母と対応している例として、中古音の「全濁の並母」と現代中国語音の「b 声母」・「p 声母」(網掛け部分) が挙げられる。最後に、複数の中古音の声母が 1 つの現代中国語音の声母との対応例として、中古音の「全清の非母」・「次清の敷母」・「全濁の奉母」と現代中国語音の「f 声母」(太字部分) が挙げられる。

## 2.2.4 韵と韻母

### 2.2.4.1 韵と韻母について

2.2.1で述べたように、現代中国語の音節構造を IMVE/T で表した場合の MVE の部分を韻母と呼ぶ。一方、中古音の韻には、声調 (T) も含まれている。王 (1980, p. 18) は、韻について以下のように述べている。和訳の下は原文である。

詩作する際には、押韻しなければならない。韻母が同じである文字のことを「同韻」という。韻頭は異なるが、主母音と韻尾が同じ文字のことも「同韻」と見なすことができる。(中略) 古代には韻書があり、同韻である字をまとめて並べている。それが「韻部」である。古代には四声があり、声調が異なる文字は「同韻」とは見なせない。(筆者訳)

作诗要押韵。韵母相同的字叫做同韵；韵头不同，主要元音和韵尾相同，也算同韵。  
(中略) 古代有韵书，把同韵的字排在一起，就是韵部。古代有四声，不同声调的字不算同韵。(原文)

ここで論じられているように、中古音の韻を知るには、韻書を見る必要がある。韻書の中で、ここで特に取りあげたいのは『切韻』と『廣韻』である。

『切韻』と『廣韻』(『切韻』系の韻書の代表) は中古音の音系を反映している。『廣韻』の前身は『唐韻』、『唐韻』の前身は『切韻』である。『切韻』(601 年、隋の陸法言著) は中国最初の韻書と言われている。これは権威のある著作で、唐時代では「官書」(政府で刊行や編集をした書物) となっていた。『切韻』は 193 韵で、『廣韻』は 206 韵であるが、韻目の立て方に精粗の違いがあるだけで、全体の体系はほぼ同じであると言われている。しかし、『切韻』は早くに佚し、現在完全な形で残っている最も古い韻書は『廣韻』である。

『廣韻』は、平声を 2 つに分けた上平声・下平声の 2 卷と上声・去声・入声各 1 卷の計 5 卷からなる。そして、上平声には 28 韵、下平声には 29 韵、上声には 55 韵、去声には 60 韵、入声には 34 韵あり、合計 206 韵である。この 206 韵は、藤堂・相原 (2005, pp. 200–202)において以下のように示されている。

表2-7 『広韻』の韻目と四声配合表（藤堂・相原、2005）

		平	上	去	入
1	東	uŋ iuŋ iuŋ	董	送	1 屋 iuk iuk
2	冬	oŋ	腫	宋	2 沃 ok
3	鍾	ioŋ ioŋ	腫	用	3 燭 iok iok
4	江	ɔŋ	講	絳	4 覚 ɔk
5	支	[開 iě iě I 合 iue iue]	紙	寘	
6	脂	[開 ii ii 合 iui iui]	旨	至	
7	之	iəi iəi	止	志	
8	微	[開 iəi 合 iuei]	尾	未	
9	魚	io io	語	御	
10	虞	iu iu	虞	遇	
11	模	o	姥	暮	
12	齊	[開 ei(唐末 iei) 合 uei(唐末 iuei)]	齋	霽	
13	×	[開 iεi(唐末 iei) 合 iuei(唐末 iuei)]	×	祭	
14	×	[開 ai 合 uai]	×	泰	
15	佳	[開 ā i 合 uā i]	蟹	封	
16	皆	[開 ʌi 合 uai]	駭	怪	
17	×	[開 εi 合 uei]	×	夬	
18	灰	(合) uεi	賄	隊	
19	咍	(開) əi	海	代	
20	×	[開 iʌi 合 iuʌi]	×	廢	
21	真	(開) iɛn iɛn	軫	震	5 質 (開) iět iět
22	諱	(合) iuɛn iuɛn	準	稟	6 術 (合) iuět iuět
23	臻	ɛn	軫	震	7 節 ɛt
24	文	(合) iuən	吻	問	8 物 (合) iuət
25	欣[殷]	(開) iən	隱	焮	9 迹 (開) iət
26	元	[開) iʌn (合) iuʌn	阮	願	10 月 [開 iʌt 合 iuʌt]
27	魂	(合) uən	混	懶	11 没 (合) uət
28	痕	(開) ən	很	恨	(開) ət
29	寒	(開) an	旱	翰	12 竅 (開) at
30	桓	(合) uan	緩	換	13 末 (合) uat

		平	上	去		入
[ 31 ]	刪	[ (開) ā n (合) uā n ]	濱	諫	14 鐚	[ (開) ā t 合 uā t ]
[ 32 ]	山	[ (開) ān (合) uān ]	產	禡	15 點	[ 開 āt 合 uāt ]
[ 1(33) ]	先	[ (開) en (唐末 ien) (合) uen (唐末 iuen) ]	銑	霰	16 厥	[ 開 et (唐末 iet) 合 uet (唐末 iuet) ]
[ 2(34) ]	仙	[ (開) iən iən (合) iuen iuen ]	彌	線	17 薜	[ 開 iət iət 合 iuet iuet ]
[ 3(35) ]	蕭	eu (唐末 ieu)	筱	嘯		
[ 4(36) ]	宵	iəu iəu	小	笑		
[ 5(37) ]	肴	ā u	巧	效		
[ 6(38) ]	豪	au	皓	号		
[ 7(39) ]	歌	(開) a	哿	箇		
[ 8(40) ]	戈	(合) ua	果	過		
[ 9(41) ]	麻	[ 開 ā iā iā 合 uā iuā ]	馬	禡		
[ 10(42) ]	陽	[ 開 iəp iəp 合 iuap ]	養	漾	18 藥	[ 開 iak iak 合 iuak ]
[ 11(43) ]	唐	[ 開 aŋ 合 uaŋ ]	蕩	宕	19 鐸	[ 開 ak 合 uak ]
[ 12(44) ]	庚	[ 開 aŋ iŋ 合 uaŋ iuŋ ]	梗	映 [敬]	20 陌	[ 開 aŋ iŋ 合 uaŋ iuŋ ]
[ 13(45) ]	耕	[ 開 εŋ 合 ueŋ ]	耿	諍	21 麦	[ 開 εk 合 uek ]
[ 14(46) ]	清	[ 開 iɛŋ iɛŋ 合 iuɛŋ iuɛŋ ]	靜	勁	22 昔	[ 開 iɛk iɛk 合 iuɛk iuɛk ]
[ 15(47) ]	青	[ 開 eŋ (唐末 ieg) 合 ueŋ (唐末 iueŋ) ]	迥	徑	23 錫	[ 開 ek (唐末 iek) 合 uek (唐末 iuek) ]
[ 16(48) ]	蒸	開 iən iən	拯	證	24 職	[ 開 iək iək 合 iuək ]
[ 17(49) ]	登	[ 開 eŋ 合 ueŋ ]	等	嶝	25 德	[ 開 eŋ 合 ueŋ ]
[ 18(50) ]	尤	iəu iəu	宥			
[ 19(51) ]	侯	əu	厚	候		
[ 20(52) ]	幽	iəu	黝	幼		
[ 21(53) ]	侵	iəm iəm	寢	沁	26 緝	iəp iəp
[ 22(54) ]	覃	əm	感	勘	27 合	əp
[ 23(55) ]	談	aŋ	敢	闕	28 盖	ap
[ 24(56) ]	塙	iəm iəm	琰	豔	29 葉	iəp iəp
[ 25(57) ]	添	em (唐末 iem)	忝	掭	30 帖	ep (唐末 iep)
[ 26(58) ]	咸	ʌm	謙	陷	31 洄	ʌp
[ 27(59) ]	銜	ā m	檻	鑑	32 犹	ā p
[ 28(60) ]	嚴	iʌm	儼	醜	33 業	iʌp
[ 29(61) ]	凡	i(u)ʌm (唇音)	范	梵	34 乏	i(u)ʌp (唇音)

また、中古音の研究では、『切韻』や『廣韻』と並びに、『韻鏡』もよく取りあげられている。『韻鏡』は10世紀頃にできた中国の音韻図である。『韻鏡』について、牛島・香坂・

藤堂（1967、p. 130）<sup>34</sup>は以下のように説明している。

音節表である点では、わが国の＜五十音図＞と同じ性質のものであるが、中古音の音節総数は日本語に比べ遥かに多いため、1枚の図表では足りず、計43枚の転図が費されているのである。1枚の転図には1乃至数韻の小韻代表字が排列されているが、それではどの転図にどの韻が配当されるかということに関しては、まず＜摂＞の概念が基礎となっている。

では、この『韻鏡』を理解するために基礎となっている「摂」とは何か。この「摂」について、同じ牛島・香坂（1967、p. 130）は以下のように述べている。

＜摂＞とは、音が近い韻をいくつかずつまとめたもので、大体の原理としては、韻尾が共通である韻を主母音の相対的な広・狭によって2摂ずつにまとめている。＜摂＞の名称は宋代になってから用いられたものだが、それに当たる概念がすでにあったとして見ると、『韻鏡』の組織がよく理解される。摂の総数は、16摂・14摂・13摂などいろいろの考え方があるが、『韻鏡』を理解するには16摂の考え方を当てはめるが都合よい。16摂とは、通・江・止・遇・蟹・臻・山・效・果・仮・宕・梗・曾・流・深・咸と名付けられた諸摂で、このうち江を宕に、仮を果に併せたのは14摂、さらに曾を梗に併せたのは13摂である。

このように、「摂」という概念を導入することによって、「広韻」206韻は、16摂にまとめることができる。

以上の中古音の韻に対し、現代中国語音の韻母は36ある。この36韻母を藤堂・相原（2005、p. 18）は表2-8のように示している。韻母の後ろにある（ ）の中には、その韻母がピンインとして表記される場合の形と漢字例が示されている。

---

<sup>34</sup> 牛島徳次・香坂順一・藤堂明保『中国文化叢書1 言語』大修館書店、1967。

表 2-8 現代中国語音の韻母（藤堂・相原、2005）

開口	齊齒	合口	撮口
(知・思などのi)	i(yi 衣)	u(wu 屋)	ü(yu 迂)
a(啊)	ia(ya 呀)	ua(wa 蛙)	
o(喔)		uo(wo 窝)	
e(鵠)	ie(ye 椰)		üe(yue 约)
ai(哀)		uai(wai 歪)	
ei(欸)		uei(wei 危)→ui	
ao(熬)	iao(yao 腰)		
ou(欧)	iou(you 优)→iu		
an(安)	ian(yan 烟)	uan(wan 湾)	üan(yuan 冊)
ang(昂)	iang(yang 央)	uang(wang 汪)	
en(恩)	in(yin 因)	uen(wen 温)→un	ün(yun 晕)
eng(亨の韻母)	ing(ying 英)	ueng(weng 翁)	
ong(工の韻母)	iong(yong 雍)		

#### 2.2.4.2 中古音の韻と現代中国語音の韻母の対応関係

中古音の韻と現代中国語音の韻母の対応関係については、先行研究が少ないが、李（1982、p. 70）<sup>35</sup>では、撮ごとに對応関係を示している。「果摶」の場合、以下のように記述されている。

- (1) 歌(開一)韵端系今多數讀uo 韵，少數讀a 韵。例如：“多” duō，“挪” nuó，“左” zuō；“他” tā，“大” dà，“哪” nǎ，“那” nà。見系今讀e 韵，個別字讀uo 韵。例如：“河” hé，“餓” è，“我” wǒ。
- (2) 戈開三韵今讀ie 韵。例如：“茄” qié。
- (3) 戈合一韵幫組今讀o 韵。例如：“婆” pō，“破” pò。端系今讀uo 韵。例如：“剝” duō，“裸” luō，“鎖” suō。見系今讀e 韵或uo 韵。例如：“課” kè，“禾” hé，“果” guō，“貨” huò。
- (4) 戈合三韵今讀üe 韵。例如：“瘸” qué，“靴” xuē。

実際、「果摶」の中には、「歌韻」「哿韻」「箇韻」の3韻と、「戈韻」「果韻」「過韻」の3韻、合計6韻が含まれているが、ここでは、平声の韻（「歌韻」と「戈韻」）で、それぞれの上声と去声を代表させている。そして、韻の右下に用いられている小文字の「開」と「合」

<sup>35</sup> 李榮『音韻存稿』商務印書館、1982。

は、それぞれ「開口」と「合口」を意味する。また、小文字の「一」「二」「三」「四」はそれぞれ「等位」<sup>36</sup>の「一等」「二等」「三等」「四等」を表している。もし、ある韻は、開口または合口しかない場合は、「開」または「合」に括弧が付けられている。同様、ある韻は、一つの等しかない場合は、その等の数字に括弧が付けられている。例えば、歌韻は開口一等しかないと、「歌(開一)韵」という表記になっているわけである。

「戈韻」(以上の対応関係では(2)～(4)にあたる)を例として、現代中国語音との対応関係を説明する。「戈韻」には、開口も合口もある。開口には三等のみであるが、合口には、一等と三等がある。そして、具体的な対応関係は以下の通りである。①「戈開三韻」は、現代中国語音では「ie 韵母」と読む。②「戈合一韻」は、幫組<sup>37</sup>の声母と組み合わさる際、現代中国語音では「o 韵母」と読むが、端系<sup>38</sup>の声母と組み合わさる際、現代中国語音では「uo 韵母」と読む。そして、見系<sup>39</sup>の声母と組み合わさる際、現代中国語音では「e 韵母」または「uo 韵母」と読む。③「戈合三韻」は、現代中国語音では「üe 韵母」と読む。このように、中古音の206韻は16摂に分けられる場合、大体1つの摂には、複数の韻がある。さらに、その多くの韻は、開口か合口か、あるいは何等かによって対応する現代中国語音の韻母が違う。そのため、李(1982)では、13ページにもわたって中古音の韻と現代中国語音の韻母の対応関係を示している。ここでは、以上の李(1982)で提示している対応関係中の「多数」とされるものをまとめた。その結果を表2-9に示した。表2-9の「中古音(摂)」欄と「現代中国語音(韻母)」欄の順は李(1982, pp. 70-82)に従っている。「現代中国語音(備考)」欄には、声母との組み合わせで「現代中国語音(韻母)」を区別する要領を提示している。

<sup>36</sup> 「等位」について、牛島・香坂(1967, p. 127)は、「<等位>とは、発音する際の口の開き方の広・狭によって韻母を分類したもので、<1等><2等><3等><4等>に分けられ、その順で口の開き方が広→狭へと移ってゆく。」と述べている。

<sup>37</sup> 「幫組」について、李(1982, p. 42)は、「幫組今讀b, p, m。」と述べている。つまり、現代中国語音では、幫組声母がb声母、p声母、m声母のいずれかになる。

<sup>38</sup> 「端系」について、李(1982, p. 42)は、「端系聲母今讀d, t, n, l, z, c, s, j, q, x。」と述べている。つまり、現代中国語音では、端系声母がd声母、t声母、n声母、l声母、z声母、c声母、s声母、j声母、q声母、x声母のいずれかになる。

<sup>39</sup> 見系声母とは、見母・溪母・羣母・疑母・曉母・匣母・影母・云母・以母の9つ声母のことである。「見系」について、李(1982, p. 44)は、「見系聲母今讀g, k, h, j, q, x和零聲母, 少數字讀r。」と述べている。つまり、現代中国語音では、見系声母がg声母、k声母、h声母、j声母、q声母、x声母、ゼロ声母のいずれかになる。そして、ごくわずかであるがr声母になる場合もある。

表 2-9 中古音の韻と現代中国語音の韻母の対応関係

	中古音				現代中国語音	
	撰	韻目	開・合	等	韻母	備考
1 果	歌	開	一	uo、e	端系→uo; 見系→e	
2 果	戈	開	三	ie		
3 果	戈	合	一	o、uo、e/uo	幫組→o; 端系→uo; 見系→e/uo	
4 果	戈	合	三	üe		
5 仮	麻	開	二	ia、a	見系→ia	
6 仮	麻	開	三	e、ie	章組と日母→e	
7 仮	麻	合	二	ua		
8 遇	模	合	一	ua		
9 遇	虞	合	三	u、ü	非組知系→u, 泥組精組見系→ü	
10 遇	魚	合	三	u、ü	知系→u, 泥組精組見系→ü	
135 通	東	合	一	eng、ueng、ong	幫組→eng、影母→ueng	
136 通	屋	合	一	u		
137 通	冬	合	一	ong		
138 通	沃	合	一	uo、u	影母→uo	
139 通	東	合	三	eng、ong、ong/iong	非敷奉明母→eng、泥精組知系→ong、見系→ong/iong	
140 通	屋	合	三	u、u/ü/iou、u/ou、uo、ü	非敷奉明母→u、泥精組→u/ü/iou、知章日組→u/ou、見系→ü	
141 通	鐘	合	三	eng、ong、ong/iong	非敷奉母→eng、泥精組知系→ong、見系→ong/iong	
142 通	燭	合	三	u/ü、u、ü	泥組→u/ü、精組知系→u、見系→ü	

「通撰」を例に表 2-9 を説明する。「通撰」に属する韻は全て合口である。そして、等からみれば、「一等」と「三等」の韻になる。次に、「通撰」の「東韻」を例に対応関係について述べる。「東韻」には「一等」と「三等」がある。「東合一韻」の場合は、現代中国語音の「eng、ueng、ong 韵母」になるが、「東合三韻」の場合は現代中国語音の「eng、ong、ong/ing 韵母」に対応する。では、どういう場合に「eng 韵母」、どういう場合に「ong 韵母」、そしてどういう場合に「ong/ing 韵母」になるのか。このことについて、「備考」欄ではそのヒントを示している。つまり、「非・敷・奉・明母」と組み合わさる場合は現代中国語音の「eng 韵母」、「泥組・精組・知系」と組み合わさる場合は「ong 韵母」、「見系」と組み合わさる場合は「ong 韵母」または「iong 韵母」になるということである。

## 2.2.5 声調

王 (1980) によれば、古代中国語には平声・上声・去声・入声 4 つの声調があった。しかし、現代中国語音の声調はそれと若干異なり、第 1 声（陰平声）、第 2 声（陽平声）、第 3 声（上声）、第 4 声（去声）である。つまり、現代中国語音には入声がない。では、古代中国語の入声は、どう変化したのだろうか。この点について、王 (1980, p. 53) は以下のように述べている。和訳の下は原文である。

元代の周德清が著わした『中原音韻』では、入声字はもうすでに平・上・去声の中

に転入している。その転入の規則とは、以下のようである。(1) 清音入声は上声に転入する。(2) 全濁入声は陽平声に転入する。(3) 次濁入声は去声に転入する。(筆者訳)

在元代周德清所著的《中原音韻》里，入声字已经转入了平上去三声。其转化的规律是：(1) 清音入声转为上声。(2) 全浊入声转阳平。(3) 次浊入声转为去声。(原文)

のことから、清音入声は現代中国語音の第3声に、全濁入声が第2声に、次濁入声が第4声になっていることが分かる。

そして、中古音と現代中国語音の声調の対応関係を示したものとして、中村（2007）が挙げられる。中村（2007、p. 30）では、中古音の唇音（幫滂並明・非敷奉微）と舌音（端透定泥・知徹澄娘）についてのみ、現代中国語音の声調との関係を示している。唇音については、表2-10のように提示している。

表2-10 中古音と現代中国語音の声調の対応—唇音（中村、2007）

	清	次清	濁	清濁
平声	1	1	2	2
上声	3	3	4	3
去声	4	4	4	4
入声	?	?	2	4

このように、唇音の場合、中古音の清音平声と次清平声が現代中国語音の第1声、濁音平声・清濁平声・濁音入声が第2声、清音上声・次清上声・清濁上声が第3声、濁音上声・去声・清濁入声が第4声になる。清音入声と次清入声は現代中国語音の声調と明確な対応がないということである。中村（2007）以外、管見の限り、中古音と現代中国語音の声調の対応について言及するものが非常に少ない。このことから、声調については、まだ不明な点が多いことが分かる。

## 2.3 中古音と日本漢字音の対応関係

中古音と日本漢字音の対応関係に関連する先行研究をみると、日本漢字音については呉

音と漢音に2系統に分けて言及するものがほとんどである。そこで、本節においても、中古音と日本漢字音のうちの呉音・漢音の対応関係を紹介する。

### 2.3.1 中古音の字母と日本漢字音の頭子音

中古音の声母と日本漢字音の頭子音の対応関係を示したものとして、『角川新字源改訂版』(1994)の付録、中村(2007)、小出(2007)<sup>40</sup>などがある。ここでは、唇音を例に、それぞれ紹介する。表2-11は『角川新字源改訂版』(1994、p.1185)、表2-12は中村(2007、pp.31-41)、表2-13は小出(2007、pp.134-135)に挙げられている対応関係を整理したものである。表2-13の「例字」欄の「k」は漢音を表し、「g」は呉音を表している。

表2-11 中古音と日本漢字音の対応関係—唇音 (『角川新字源改訂版』、1994)

中古音		日本漢字音	
重唇音	軽唇音	呉音	漢音
帮母	非母	ハ行	ハ行
滂母	敷母		
並母	奉母	バ行	
明母	微母	マ行	バ行

表2-12 中古音と日本漢字音の対応関係—唇音 (中村、2007)

中古音		日本漢字音	
重唇音・軽唇音	音声	呉音	漢音
帮母・非母	[p]	ハ行	ハ行
滂母・敷母	[p']		
並母・奉母	[b]	バ行	
明母・微母	[m]	マ行	バ行 (一部マ行)

表2-13 中古音と日本漢字音の対応関係—唇音 (小出、2007)

中古音			日本漢字音		例字 (g=呉音、k=漢音)
		声母	呉音	漢音	
唇音 (重唇音)	全清	帮母	ハ行	ハ行	半 gkハン
	次清	滂母			片 gkヘン
	全濁	並母	バ行		平 gビヤウ/kヘイ
	次濁	明母	マ行	バ行、マ行	木 gモク/kボク 明gミヤウ/kメイ
唇音 (軽唇音)	全清	非母	ハ行	ハ行	放 gkハウ
	次清	敷母			芳 gkハウ
	全濁	奉母	バ行		奉 gブ/kホウ
	次濁	微母	マ行	バ行	万 gマン/kバン

<sup>40</sup> 小出敦「日本漢字音・中国中古音対照表」『京都産業大学論集』人文科学系列37、2007、pp.133-156。

このように、唇音については、3つの先行研究はほぼ同じ対応関係を提示している。つまり、中古音では「帮母・滂母・非母・敷母」である漢字の場合、吳音も漢音も「ハ行」となる。そして、中古音では「並母・奉母」である漢字の場合、吳音では「バ行」、漢音では「ハ行」となる。また、中古音では「明母・微母」である漢字の場合、吳音では「マ行」、漢音では「バ行」<sup>41</sup>となる。以上のことから、声母について言うと、日本漢字音と中古音の間に明確な対応関係があることが分かる。中古音の声母と日本漢字音の頭子音の対応関係について、以上の3つの先行研究をまとめた。その結果を表2-14に示す。

表2-14 中古音の字母と日本漢字音の頭子音の対応関係

	中古音		日本漢字音	
	清・濁	字母	吳音の頭子音	漢音の頭子音
1	全清	幫	ハ行	
2	次清	滂		ハ行
3	全濁	並	バ行	
4	次濁	明	マ行	バ行(一部マ行)
5	全清	非	ハ行	
6	次清	敷		ハ行
7	全濁	奉	バ行	
8	次濁	微	マ行	バ行(一部マ行)
9	全清	端	タ行	
10	次清	透		タ行
11	全濁	定	ダ行	
12	次濁	泥	ナ行	ダ行(一部ナ行)
13	全清	知	タ行	
14	次清	徹		タ行
15	全濁	澄	ダ行	
16	次濁	娘	ナ行	ダ行(一部ナ行)
17	全清	見	カ行	
18	次清	溪		カ行
19	全濁	群	ガ行	
20	次濁	疑	ガ行	ガ行
21	全清	精	サ行	
22	次清	清		サ行
23	全濁	従	ザ行	
24	全清	心	サ行	サ行
25	全濁	邪	ザ行	サ行
26	全清	照	サ行	
27	次清	穿		サ行
28	全濁	牀	ザ行	
29	全清	審	サ行	
30	全濁	禪	ザ行	
31	全清	影	ア行	ア行
32	全清	曉	カ行	
33	全濁	匣	ガ行(一部ワ行)	カ行
34	次濁	喻3	ワ行(ヤ行)	ヤ行(ワ行)
35	次濁	喻4	ヤ行	ヤ行
36	次濁	來	ラ行	ラ行
37	次濁	日	ナ行	ザ行

<sup>41</sup> 中村(2007)では「一部マ行」と書かれている。

### 2.3.2 中古音の韻と日本漢字音の頭子音以外の部分

中古音の摂と日本漢字音（吳音・漢音）の対応関係を示したものとして、大矢（1978）<sup>42</sup>、藤堂・相原（2005）、小出（2007）が挙げられる。「果摂」を例に3つの先行研究を紹介する。

まず、大矢（1978、p. 245）は、図 2-3 のように中古音の韻と日本漢字音の頭子音以外の部分の対応関係を示している。

図 2-3 中古音の果撮と日本漢字音の頭子音以外の部分の対応関係（大矢、1978）

図2-3から分かるように、中古音の「果摶」の場合、開口であれば日本漢字音では「ア」と対応しているが、合口であれば日本漢字音では「ア」または「ウア」(つまり、「ワ」)と対応している。

次に、藤堂・相原（2005、p. 219）に提示されている対応関係を整理したものを表2-15に示す。

<sup>42</sup> 大矢透「隋唐音図」大矢透著・小松英雄解説『韻鏡考・隋唐音図 下』勉誠社文庫、1978年所収。

表 2-15 中古音の果摂と日本漢字音の頭子音以外の部分の対応関係(藤堂・相原、2005)

果摂 (ア、ワ)			
[等]	[韻目]	[開口]例字	[合口]例字
1	歌	歌・多	-
1	戈	-	和・波
3	戈	-	靴

表 2-15 中の例字(5字)の吳音と漢音について、『角川新字源改訂版』(1994)で調べた。

その結果、「歌<sup>カタ</sup>」、「多<sup>タタ</sup>」、「和<sup>ワタ</sup>」、「波<sup>ハタ</sup>」、「靴<sup>タタ</sup>」となっている。このように、「果摂(歌韻と戈韻)」は日本漢字音では「ア段」または「ア段合拗音」になる。

最後に、小出(2007、p.141)に提示している対応関係を表 2-16 に示す。ここでは、まず、中古音の「果摂」が「一等(歌・戈韻)」と「三等(戈韻)」に大きく分かれている。次に、「一等(歌・戈韻)」と「三等(戈韻)」のそれぞれについて、開口と合口に分かれ、声母(例: 牙喉音や歯音など)との組み合わせごとに對応する漢音と吳音が全てローマ字で示されている。「吳音」欄の( )内のローマ字は少数例である。「例字」欄の「k」は漢音を表し、「g」は吳音を表している。

表 2-16 中古音の果摂と日本漢字音の頭子音以外の部分の対応関係(小出、2007)

果摂	漢音	吳音	例字 (k=漢音, g=吳音)
一等(歌・戈韻)			
唇音	-a	-a	波破頗播kgハ 婆kハ/gバ 摩魔kバ/gマ
開口牙喉音	-a	-a	可歌荷kgカ 何賀kカ/gガ 阿kgア
開口歯音	-a	-a, (-ya)	左佐kgサ 姿磋kサ/gサ・シヤ
開口舌音	-a	-a	多他kgタ 駄kタ/gダ 羅kgラ
合口牙喉音	-wa	-wa, (-we)	過果科火kgクワ 和kクワ/gワ 貨kクワ/gクエ
合口歯音	-a	-a	鎖瑣kgサ 座kサ/gザ
合口舌音	-a	-a	墮惰kタ/gダ 裸kgラ
三等C1類(戈韻)			
開口牙喉音	-ya	-ya, -a	迦kgキヤ 伽kキヤ/gガ
合口牙喉音	-wa	—	靴kクワ

では、小出(2007)で提示された「対照表」を李(1982)の中古音の枠組みに当てはめて表 2-16 の「果摂」に属する各韻と漢音・吳音の対応関係について説明する。  
①「歌(開一)韻」は、漢音も吳音も「-a」(ア段)である。  
②「戈合-韻」は、漢音も吳音も「-a」

あるいは「-wa」（ア段あるいはア段合拗音）である。「-wa」になるのは、「戈合一韻」が牙喉音声母と組み合わさる場合のみである。それ以外の場合は、「-a」になる。  
 ③「戈（開三）韻」は、漢音では「-ya」（ア段開拗音）になるが、呉音では「-ya」あるいは「-a」になる。  
 ④「戈（合三）韻」は、漢音では「-wa」になるが、呉音では「-」（つまり、対応関係が存在しない）である。

「果摂」については、3つの先行研究を比較してみると、日本漢字音の「ア段」または「ア段合拗音」に対応することは共通しているが、「ア段開拗音」に対応するのは小出(2007)のみである。また、声母との組み合わせも考慮するという面から、小出(2007)で提示している対応関係が最も詳しいと考えられる。そこで、中古音の枠組みは、表2-9 中古音と現代中国語音の対応関係（韻母）を整理する際に基づいた李(1982)の枠組みを使用し、小出(2007)で提示した表をその枠組みに当てはまると、表2-17のような中古音の韻と日本漢字音の頭子音以外の部分の対応関係が得られた。

表2-17 中古音の韻と日本漢字音の頭子音以外の部分の対応関係

撮	中古音				日本漢字音			
					漢音		呉音	
	撮	韻	開・合	等	頭子音以外の部分	備考	頭子音以外の部分	備考
1	果	歌	開	一	-a		-a	
2	果	戈	開	三	-va		-va/-a	
3	果	戈	合	一	-a、-wa	牙喉音→-wa	-a、-wa	牙喉音→-wa
4	果	戈	合	三	-wa		-	
135	通	東	合	一	-ou、wou	牙喉音（影母）→wou	-u、-u/-uu、-ou、-ou/-uu	唇音→-u、牙喉音→-u/-uu、齒音→-ou、舌音→-ou/-uu
136	通	屋	合	一	-oku、woku	牙喉音（影母）→woku	-oku、woku	牙喉音（影母）→woku
137	通	冬	合	一	-ou、wou	牙喉音（影母）→wou	-u、-u/-uu、-ou、-ou/-uu	唇音→-u、牙喉音→-u/-uu、齒音→-ou、舌音→-ou/-uu
138	通	沃	合	一	-oku、woku	牙喉音（影母）→woku	-oku、woku	牙喉音（影母）→woku
139	通	東	合	三	-iu、-uu/-ou、-ou、iu、-iu/-uu	唇音・齒音（二等）→-uu/-ou、唇音（明母）→-ou、牙喉音（以母）→iu、齒音（四等）→-iu/-uu	-u/-uu、-u、yu、-yu/-ou、-yu、-iu	唇音（明母）→-u、牙喉音（以母）→yu、齒音（二等）→-yu/-ou、齒音（三等）→-yu、舌音→-iu
140	通	屋	合	三	-iku、-oku、-uku	唇音（明母）→-oku、明母以外の唇音→-uku	-iku、-oku、-uku	唇音（明母）・舌音（来母）→-oku、明母以外の唇音→-uku
141	通	鐘	合	三	-you、-ou、-wiyou、you	唇音→-ou、牙喉音→-wiyou、牙喉音（以母）→you	-u/-uu、yu/yuu/you、-yu、-yu/-yuu、-iu	牙喉音（以母）→yu/yuu/you、齒音（三等）→-yu、齒音（四等）→-yu、-yuu、舌音→-iu
142	通	燭	合	三	-yoku、-oku、yoku	唇音（明母）→-oku、牙喉音（以母）→yoku	-oku、yoku、-iku	牙喉音（以母）→yoku、齒音（日母）→-iku

表2-17の「中古音（撮）」欄は、表2-9と同じ順にしている。対応する「日本漢字音（漢

音・吳音)」が複数ある場合、対応する確率が高い順に並べている。このことについて、表2-16を用いて説明する。「戈合一韻」(表2-16の太枠部分)は、漢音も吳音も「-a」あるいは「-wa」、つまり2つの対応関係がある。しかし、この中で、「戈合一韻」が歯音との組み合わせも、舌音との組み合わせも「-a」であるのに対し、牙喉音との組み合わせのみ「-wa」になる。このことから、「戈合一韻」と漢音・吳音の「-a」との対応の確率が高いと判断し、表2-17の中では、「-a、-wa」という順にしている。

また、「漢音(備考)」欄と「吳音(備考)」欄には、それぞれ「頭子音以外の部分」を区別するヒントとして、声母との組み合わせを示している。

「通摂」を例に表2-17を説明する。先述したように「通摂」に属する韻は全て合口である。そして、等については、「一等」と「三等」の韻になる。次に、「通摂」の「東合一韻」を例に対応関係について述べる。「東合一韻」の場合は、漢音では「-ou」(才段長音)と「wou」(才段合拗音の長音)になるが、吳音では「-u」(ウ段短音)、「-u/-uu」(ウ段短音あるいはウ段長音)、「-ou」(才段長音)、「-ou/-uu」(才段長音あるいはウ段長音)になる。このうち、漢音については、「wou」は牙喉音(影母)と組み合わさる場合のみ見られる対応であり、その他の声母と組み合わさる場合は全て「-ou」となる。一方、吳音については、「-u」は唇音と組み合わさる場合、「-u/-uu」は牙喉音と組み合わさる場合、「-ou」は歯音と組み合わさる場合、「-ou/-uu」は舌音と組み合わさる場合に見られる対応である。この4つの対応の確率は同じであるため、「吳音」の「備考」欄では、組み合わせを全て示している。

### 2.3.3 古代中国語の声調と日本漢字音のアクセント

中古音の声調と日本漢字音のアクセントの関係について言及する研究は、管見の限りないが、古代中国語の声調と日本漢字音のアクセントの関係に注目する研究が少ないながらもいくつかある。ただし、加藤(2011)<sup>43</sup>で、「その(中国の漢字の声調と日本漢字音のアクセントを指す、筆者注)具体相を明らかにするための課題は未だ多い」と述べられているように、中古音の声調と日本漢字音のアクセントの関係について、不明な点が多く、現時点ではその対応関係を整理することができない。

---

<sup>43</sup> 加藤大鶴(2011)「中国の漢字の声調と日本漢字音のアクセント」『日本語学』30-3、明治書院、2011、pp. 48-58。

## 2.4 本章のまとめ

本章では、日本漢字音と中国語音の先行研究に基づき、日本漢字音と中国語音（特に中古音と現代中国語音）について概観した。その結果、以下のことが分かった。

まず、日本漢字音は、朝鮮漢字音・越南漢字音と同じく、「漢字音」の一つであり、移植時点の中国語音を保持するという特徴を持っている。しかし、朝鮮漢字音・越南漢字音と異なり、日本漢字音は「層的伝承」という特徴を持っている。つまり、基になった中国語音の異なりに応じて、体系を異にする何層か（呉音、漢音、唐音）に分かれて伝えられてきた。

次に、中古音（日本漢字音に最も影響を与えた）と現代中国語音について、中国語音側の歴史的変遷をみてきた。その結果、声母についても、韻母についても、中古音と現代中国語音の間に対応関係があることが分かった。そして、声母より、韻母の方の対応関係が多少複雑ではあったが、先行研究に基づきその対応関係を整理することができた。

最後に、日本漢字音の先行研究を基に、中古音と日本漢字音の対応関係も同様に整理し体系的に示した。

## 第3章 現代中国語音と日本漢字音の対応関係 —2級漢語の使用漢字について—

第2章では、先行研究に基づき、日本漢字音と中国語音について概観した上で、中古音と現代中国語音、中古音と日本漢字音の間にある対応関係の全体像を整理した。では、現代中国語音と日本漢字音の間にはどのような対応関係があるのだろうか。その対応関係にはどのような特徴がみられるのだろうか。そして、漢字の範囲を限定した場合の対応関係は全体の対応関係と、どの程度一致するのだろうか。本章では、これらのことについて論じる。具体的には、まず3.1では、中古音を介して現代中国語音と日本漢字音の対応関係を導き出す。その後、導き出された対応関係には、どのような特徴があるのかを考察する。また、序章で論じたように、本研究は旧試験3級レベルの学習者を対象学習者にしているため、3.2では、2級漢字<sup>1</sup>に限定し、現代中国語音と日本漢字音の対応関係を調査する。その調査結果を3.1で導き出した漢字全体に適用可能な対応関係と比較し、どの程度一致しているのか、そしてその特徴はみられたのかについてさらに調べて分析する。

### 3.1 現代中国語音と日本漢字音の対応関係

本節では、現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音、現代中国語音の韻母と日本漢字音の頭子音以外の部分の2つに分けて対応関係を調査する。具体的には、まず、第2章で整理した中古音と現代中国語音の対応関係、中古音と日本漢字音の対応関係を基に、3者の関係（中古音・現代中国語音・日本漢字音）を明らかにする。次に、仲介役になる中古音を外して現代中国語音と日本漢字音の対応関係を整理し明らかにする。

#### 3.1.1 現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音

第2章の「2.2.3 字母と声母」でまとめた「中古音の字母と現代中国語音の声母の対応関係」（表2-6）と、「2.3.1 中古音の字母と日本漢字音の頭子音」でまとめた「中古音の字母と日本漢字音の頭子音の対応関係」（表2-14）を基に、中古音の字母・現代中国語音の

<sup>1</sup> 第1章で述べたように、本研究でいう「2級漢字」は、旧試験2級語彙表の漢語で使われている漢字のことである。2級漢字に限定するというのは、2級漢字の日本漢字音を全て調査することであり、2級語彙表の漢語における発音に限定することではない。

声母と日本漢字音の頭子音の対応関係を整理した。表3-1は、仲介になる中古音の字母からみた場合、中古音の字母・現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音の対応関係の結果の一部である。

表3-1 中古音の字母・現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音の対応関係

中国語音		日本漢字音		
中古音		現代中国語音	呉音	漢音
清濁	字母	声母	頭子音	頭子音
全清	幫	b	ハ行	ハ行
次清	滂	p	ハ行	ハ行
全濁	並	p	バ行	ハ行
全濁	並	b	バ行	ハ行
次濁	明	m	マ行	バ行 (一部マ行)
全清	非	f	ハ行	ハ行
次清	敷	f	ハ行	ハ行
全濁	奉	f	バ行	ハ行
次濁	微	ゼロ (u介音)	マ行	バ行 (一部マ行)
<hr/>				
次清	曉	h	カ行	カ行
次清	曉	x	カ行	カ行
全濁	匣	h	ガ行 (一部ワ行)	カ行
全濁	匣	x	ガ行 (一部ワ行)	カ行
次濁	喻3	ゼロ (介音なし)	ワ行 (ヤ行)	ヤ行 (ワ行)
次濁	喻3	ゼロ (i介音)	ワ行 (ヤ行)	ヤ行 (ワ行)
次濁	喻3	ゼロ (u介音)	ワ行 (ヤ行)	ヤ行 (ワ行)
次濁	喻4	ゼロ (介音なし)	ヤ行	ヤ行
次濁	喻4	ゼロ (i介音)	ヤ行	ヤ行
次濁	喻4	ゼロ (u介音)	ヤ行	ヤ行
次濁	來	l	ラ行	ラ行
次濁	日	r	ナ行	ザ行

太線で囲んだ3箇所を例に、表3-1を説明する。まず、中古音では「幫母」、現代中国語音では「b 声母」で読む漢字は、日本漢字音としての呉音も漢音も「ハ行」となる。次に、中古音では「並母」、現代中国語音では「b 声母」で読む漢字は、呉音では「バ行」となるが、漢音では「ハ行」となる。最後に、中古音では「明母」、現代中国語音では「m 声母」で読む漢字は、呉音では「マ行」となるが、漢音では主に「バ行」、一部「マ行」となっている。

では、仲介役である中古音を外した場合、現代中国語音と日本漢字音の対応関係はどうなるのか。以下、このことについて論じる。表3-2は、表3-1の中古音部分を外し、現代中国語音と日本漢字音の対応関係のみ示したものである。ここでは、現代中国語音の声母を中国語話者及び中国語学習者が中国語を習う際によく見る声母順(つまり、「唇音・舌音・

舌根音・舌面音・そり舌音・歯音」という順)に並べている。

表3-2 現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音の対応関係

現代 中国語音	日本漢字音		現代 中国語音	日本漢字音		
	吳音	漢音		頭子音	頭子音	
声母	頭子音	頭子音	声母	頭子音	頭子音	
b	ハ行	ハ行	x	サ行	サ行	
	バ行			ザ行		
p	ハ行	ハ行	x	カ行	カ行	
	バ行			ガ行(一部ワ行)		
m	マ行	バ行(一部マ行)	zh	タ行	タ行	
f	ハ行	ハ行		ダ行		
	バ行			サ行	サ行	
d	タ行	タ行		ザ行		
	ダ行			タ行	タ行	
t	タ行	タ行	ch	ダ行		
	ダ行			サ行	サ行	
n	ナ行	ダ行(一部ナ行)		ザ行		
l	ラ行	ラ行	sh	サ行	サ行	
g	カ行	カ行		ザ行		
k	カ行	カ行	r	ナ行	ザ行	
h	カ行	カ行	z	サ行	サ行	
	ガ行(一部ワ行)			ザ行		
j	カ行	カ行	c	サ行	サ行	
	ガ行			ザ行		
	サ行	サ行	s	サ行	サ行	
	ザ行			ザ行		
q	カ行	カ行	ゼロ	ガ行	ガ行	
	ガ行			ア行	ア行	
	サ行	サ行		ワ行(ヤ行)	ヤ行(ワ行)	
	ザ行			ヤ行	ヤ行	
				マ行	バ行(一部マ行)	

表3-1の中で複数回出現した現代中国語音の声母については、表3-2では一つにまとめている。例えば、表3-1では、現代中国語音の「b声母」は2回（中古音の全清「幫母」から由来する場合と、全濁の「並母」から由来する場合）出現しているが、表3-2ではまとめている。従って、「b声母」の場合、対応する吳音では「ハ行」（中古音の全清「幫母」から由来する漢字の場合）となるものと、「バ行」（全濁の「並母」から由来する漢字の場合）となるものがある。それに対し、漢音では「ハ行」となるもののみである。それは、全清「幫母」と全濁「並母」のどちらから由来しても「ハ行」となるからである。

このように、「1声母」「g声母」「k声母」の3声母（表3-2の網掛け部分）が対応する吳音と漢音が同じである以外、吳音と漢音は異なっている。その違いについては、多くの先行研究で指摘しているように、大きく2つに分けることができる。第一に、吳音では清音と濁音両方あるが、漢音では清音のみである。第二に、吳音では鼻音であるが、漢音では濁音である。前者については、本研究において「b」「p」「f」「d」「t」「h」「j」「q」「x」

「zh」「ch」「sh」「z」「c」「s」の15声母で読む漢字にみられた。後者については、本研究において「m」「n」「r」の3声母及び「ゼロ声母」で読む漢字の一部においてみられた。

このように、現代中国語音の声母が同じであっても、呉音か漢音かによって頭子音が異なる。そして、異なるパターンとして以上の2点が挙げられるのである。

### 3.1.2 現代中国語音の韻母と日本漢字音の主母音・特殊拍・入声韻尾

第2章の「2.2.4 韵と韻母」でまとめた「中古音の韻と現代中国語音の韻母の対応関係」(表2-9)と、第2章の「2.3.2 中古音の韻と日本漢字音の頭子音以外の部分」でまとめた「中古音の韻と日本漢字音の頭子音以外の部分の対応関係」(表2-17)を基に、中古音の韻・現代中国語音の韻母と日本漢字音の頭子音以外の部分の対応関係を整理した。表3-3は、仲介になる中古音の韻からみた場合、中古音の韻・現代中国語音の韻母と日本漢字音の頭子音以外の部分の対応関係の一部である。

表3-3 中古音の韻・現代中国語音の韻母と日本漢字音の頭子音以外の部分の対応関係

摂	中国語音				日本漢字音		
	中古音		現代中国語音		呉音	漢音	
	韻	開合	等	韻母	頭子音以外の部分	頭子音以外の部分	
1 果	歌	開	一	uo、e	-a	-a	
2 果	戈	開	三	ie	-a、-ya	-ya	
3 果	戈	合	一	o、uo、e	-a、-wa	-a、-wa	
4 果	戈	合	三	üe	—	-wa	
5 仮	麻	開	二	ia、a	-a、-e、-ya	-a	
6 仮	麻	開	三	e、ie	ya、-ya	ya、-ya	
7 仮	麻	合	二	ua	-wa、-we	-wa	
8 遇	模	合	一	ua	-u、-o、u、wo	-o、wo	
9 遇	虞	合	三	u、ü	-u、-yu、-iu、yu	-u、-yu、yu、-uu、-iu	
10 遇	魚	合	三	u、ü	-yo、-o -o、yo	-yo、yo、-o	
135	通	東	合	一	eng、ueng、ong	-u、-uu、-ou	-ou、wou
136	通	屋	合	一	u	-oku、woku	-oku、woku
137	通	冬	合	一	ong	-u、-uu、-ou	-ou、wou
138	通	沃	合	一	uo、u	-oku、woku	-oku、woku
139	通	東	合	三	eng、ong、 ong、iong	-u、-uu、yu、 -yu、-ou -iu	-iu、-uu、-ou、iu
140	通	屋	合	三	u、ü、iou、 ou、uo	-iku、-oku、-uku	-iku、-oku、-uku
141	通	鐘	合	三	eng、ong、iong	-u、-uu、yu、yuu、 you、 -yu、-yyuu、 -iu	-you、-ou、-wiyou、 you
142	通	燭	合	三	u、ü	-oku、yoku、-iku	-yoku、-oku、yoku

太線で囲んだ部分を例に、表3-3を説明する。まず、中古音では「果摂」の「戈韻」、現

代中国語音では「ie 韵母」で読む漢字は、日本漢字音としての吳音では「-a」（ア段）あるいは「-ya」（ア段開拗音）、漢音では「-ya」（ア段開拗音）となる。次に、中古音では同じ「果摶」の「戈韻」で、現代中国語音では「o 韵母」「uo 韵母」「e 韵母」のいずれかで読む漢字は、吳音も漢音も「-a」（ア段）あるいは「-wa」（ア段合拗音）となる。最後に、中古音では同じく「果摶」の「戈韻」、現代中国語音では「üe 韵母」で読む漢字は、吳音では「一」（つまり対応する吳音はない）、漢音では「-wa」（ア段合拗音）となる。

仲介役である中古音を外した場合の現代中国語音の韻母と日本漢字音の頭子音以外の部分の対応関係について調べた。その結果の一部を表3-4に示す。ここでは、現代中国語音の韻母を韻腹順（つまり、[a] [ə] [o] [e] [i] [u] [y]<sup>2</sup>、そして特別韻母「er」の順）に並べている。

表3-4 現代中国語音の韻母と日本漢字音の頭子音以外の部分の対応関係

現代中国語音	韻母	日本漢字音	
		吳音 頭子音以外の部分	漢音 頭子音以外の部分
1	a	-a、-e、-ya、-ap、-op、-ep、-atu、-ati、-etu、-eti、-woti、-watu、-wati	-a、-ap、-ep、-atu、-wetu
2	ia	-a、-e、-ya、-ap、-ep、-atu、-ati、-etu、-eti	-a、-ap、-atu
3	ua	-wa、-we、-u、-o、u、wo、-watu、-woti、-wati、-wiyaku、-waku	-wa、-o、wo、-wai、-watu、-atu、-wetu、-waku
4	ai	-ai、-e、-iki、-oku、yoku、-yaku、-aku	-ai、-yoku、-oku、yoku、-aku
5	uai	-ai、-e、-ui、-wi、-i、yui、-itu、-iti、-yutu、-otu、-wiyaku、-waku	-ai、-wai、-wa、-ui、-wi、-i、wi、-itu、-yutu、-otu、-waku
6	ao	-aku、-yaku、-au、-ou、-eu、-u、-yu、-iu、yu、yaku、	-aku、-au、-ou、-eu、-iu、-u、-uu、-yaku、yaku
7	iao	-eu、-au、-iu、-yaku、yaku、-aku	-au、-eu、-iu、-yaku、yaku、-aku
8	an	-am、-em、-an、-en、-wan、-won、-wen	-am、-em、-an、-en、-wan、-wen
9	ian	-am、-em、-om、-en、-an、-on、-wen	-am、-em、-an、-en、-wen
10	uan	-an、-wan、-en、wen、-wen、-won	-an、-wan、-en、-wen
11	üan	-en、-wen、-won、-wan、	-en、-wen
12	ang	-au、-yau、yau、-wiyau、-wau、wau、-ou	-au、-yau、yau、-wiyau、wau
13	iang	-yau、-au、yau、-ou	-yau、-au、yau
14	uang	-yau、-au、yau、-wau、-wiyau、wau	-yau、-au、yau、-wau、-wiyau、wau
33	ü	-u、-yu、-iu、yu、-yo、-o、yo、-itu、-iti、-yutu、-otu、-utu、-wiki、-iku、-oku、-uku、yoku	-u、-yu、yu、-uu、-iu、-yo、yo、-o、-itu、-yutu、-otu、-utu、-yoku、-weki、-iku、-oku、-uku、yoku
34	ün	-yun、-win、-in、-un	-yun、-win、-in、-un
35	iong	-yau、-wiyau、-u、-uu、yu、-yu、-ou、-iu、yuu、you、-yuu	-wei、-iu、-uu、-ou、iu、-you、-wiyau、you
36	er	-i	-i

太線で囲んだ「a 韵母」を例に、表3-4を説明する。現代中国語音では「a 韵母」で読む漢字は、吳音では以下の13パターンのいずれかになっている。この13パターンとは、①「-a」（ア段）、②「-e」（エ段）、③「-ya」（ア段開拗音）、④「-ap」（アフ）、⑤「-op」（オ

<sup>2</sup> 王力著『音韻学初步』(pp. 3-4)に基づいています。

フ)、⑥「-ep」(エフ)、⑦「-atu」(アツ)、⑧「-ati」(アチ)、⑨「-etu」(エツ)、⑩「-eti」(エチ)、⑪「-woti」(ヲチ)、⑫「-watu」(ワツ)、⑬「-wati」(ワチ)である。そして、漢音では以下の5パターンのいずれかになっている。この5パターンとは、①「-a」(ア段)、②「-ap」(アフ)、③「-ep」(エフ)、④「-atu」(アツ)、⑤「-etu」(エツ)である。

このように、「a 韵母」が対応する呉音と漢音の「頭子音以外の部分」のパターンが非常に多い。そして、この現象は、「a 韵母」のみならず、「ia 韵母」や「ua 韵母」などの多くの韵母においてみられた。このように、現代中国語音の韵母と日本漢字音の頭子音以外の部分の対応関係は非常に複雑なため、特徴を見出すことが困難である。一方、藤堂・相原(2005)や『漢字百科大事典』(1996)などの先行研究から、主母音や特殊拍に着目することで、ある程度の対応関係を導き出せる可能性があると予想される。そこで、本研究では、「頭子音以外の部分」をさらに「主母音」と「特殊拍」(撥音と長音)と入声韻尾<sup>3</sup>に分けて表3-4をさらに整理した。ただし、歴史的仮名遣いでみた場合と現代仮名遣いでみた場合とでは、主母音と入声韻尾が異なる場合がある。例えば、主母音の例として、歴史的仮名遣いで「アウ」が挙げられる。この「アウ」は現代仮名遣いで表すと「オウ」になる。つまり歴史的仮名遣いでみた場合は「ア段」音であるが、現代仮名遣いでみた場合は「オ段」音である。そして、入声韻尾の例として、歴史的仮名遣いで「エフ」が挙げられる。この「エフ」は現代仮名遣いで表すと「ヨウ」になる。つまり歴史的仮名遣いでみた場合は入声韻尾「フ」であるが、現代仮名遣いでみた場合は入声韻尾ではない母音音尾「ウ」となる。このように、歴史的仮名遣いでみた場合と現代仮名遣いでみた場合とでは、主母音と入声韻尾が異なる場合がある。本研究は、日本漢字音教育のための基礎的研究であるため、以下、現代仮名遣いによる表記に準じて分析を行う。

表3-5は、表3-4の「頭子音以外の部分」欄を基に、現代仮名遣いに準じて主母音・特殊拍・入声韻尾について分析した結果である。

<sup>3</sup> 第2章で述べたように、本研究でいう「入声韻尾」は「ク・ツ・チ・キ」のことである。

表3-5 現代中国語音の韻母と日本漢字音の主母音・特殊拍・入声韻尾の対応関係

韻腹	韻母	現代中国語音	日本漢字音							
			呉音			漢音				
			主母音	特殊拍		入声韻尾の有無	主母音	特殊拍		入声韻尾の有無
				撥音の有無	長音の有無			撥音の有無	長音の有無	
1	[a]	a	ア段、エ段、オ段	×	○	○	ア段、エ段、オ段	×	○	○
2		ia	ア段、エ段、オ段	×	○	○	ア段、オ段	×	○	○
3		ua	ア段、エ段、ウ段、オ段	×	×	○	ア段、エ段、オ段	×	×	○
4		ai	ア段、イ段、エ段、オ段	×	×	○	ア段、オ段	×	×	○
5		uai	ア段、イ段、ウ段、エ段、オ段	×	×	○	ア段、イ段、ウ段、オ段	×	×	○
6		ao	ア段、イ段、ウ段、エ段、オ段	×	○	○	ア段、イ段、ウ段、オ段	×	○	○
7		iao	ア段、ウ段、オ段	×	○	○	ア段、ウ段、オ段	×	○	○
8		an	ア段、エ段、オ段	○	×	×	ア段、エ段	○	×	×
9		ian	ア段、エ段、オ段	○	×	×	ア段、エ段	○	×	×
10		uan	ア段、エ段、オ段	○	×	×	ア段、エ段	○	×	×
11		üan	ア段、エ段、オ段	○	×	×	エ段	○	×	×
12		ang	オ段	×	○	×	オ段	×	○	×
13		iang	オ段	×	○	×	オ段	×	○	×
14		uang	オ段	×	○	×	オ段	×	○	×
33	[y]	ü	イ段、ウ段、オ段	×	○	○	イ段、ウ段、エ段、オ段	×	○	○
34		ün	イ段、ウ段	○	×	×	イ段、ウ段	○	×	×
35		iong	ウ段、オ段	×	○	×	ウ段、エ段、オ段	×	○	×
36	特別	er	イ段	×	×	×	イ段	×	×	×

太線で囲んだ部分は、主母音で呉音と漢音で若干異なっている。例えば、現代中国語音では「ia 韵母」で読む漢字は、呉音で読むと「ア段」・「エ段」・「オ段」の3種類のいずれかになるが、漢音で読むと「ア段」と「オ段」の2種類のどちらかになる。表3-5から分かるように、呉音か漢音かによって対応関係が異なるものは数多くある。これは、第2章で述べたように呉音と漢音が異なる音体系を持っていることによる。言い換えれば、表3-5にみられた呉音と漢音の違いは、それぞれの音体系の特徴が表れたためと言える。

一方、「撥音の有無」の結果から、日本漢字音（呉音も漢音も）で撥音「ン」で終わる漢字は、現代中国語音で読むと「an」「ian」「uan」「üan」「ün」などの「-n」で終わる8韻母のいずれかになることが分かった。また、「長音の有無」の結果から、日本漢字音（呉音も漢音も）で長音になる漢字は、現代中国語音で読むと、「a」「ia」「ao」「iao」「ang」「iang」「uang」「e」「uei」「ou」「iou」「eng」「ueng」「ie」「i」「ing」「u」「ong」「ü」「iong」の20韻母のいずれかになることが分かった。

最後に、「入声韻尾の有無」の結果から、日本漢字音（呉音も漢音も）で入声韻尾で終わる漢字は、現代中国語音で読むと「a」「ia」「ua」「ai」「uai」「ao」「iao」「e」「ei」「ou」「iou」「o」「uo」「ie」「üe」「i」「u」「ü」の18韻母のいずれかになることが分かった。

以上の現代中国語音の韻母と日本漢字音の対応について、先行研究と比較した場合、本研究で新たに分かったことは以下通りである。まず、これまで現代中国語音の韻母と日本漢字音の主母音の対応について、部分的に検討する研究はあったものの、全体像を研究するものは管見の限りなかった。本研究では、その全体像を明らかにした。そして、以上で

述べたように呉音と漢音とでは、主母音が異なる場合が多くあることが分かった。次に、これまで現代中国語音の「-ng 韵母」と日本漢字音の「長音」との対応関係が多く取りあげられているが、「-ng 韵母」以外で「ao 韵母」や「iao 韵母」などの12 韵母で読む漢字は、日本漢字音では「長音」になる可能性もあることが本研究で分かった。最後に、先行研究でほとんど指摘していないものとして、現代中国語音の韵母と日本漢字音の入声韵尾の対応について本研究で明らかにした。

### 3.2 2級漢字における現代中国語音と日本漢字音の対応関係の調査

#### 3.2.1 調査対象

ここで調査の対象としたのは2級漢字である。2級漢字は以下の手順で抽出する。まず、『日本語能力試験出題基準（改訂版）』（2007）中の「1、2級語彙」（8009語）から2級漢語を抽出する。その結果、2210語あることが分かった。次に、2210語で使用されている異なり漢字を抽出する。その結果、1182字あることが分かった。この1182字（つまり、2級漢字）を本章の調査対象とする。

#### 3.2.2 研究方法

##### 3.2.2.1 現代中国語音と日本漢字音の調査

2級漢字（1182字）の現代中国語音と日本漢字音を調査する方法は以下の通りである。現代中国語音は『現代漢語詞典第5版』（2005）、日本語漢字音（呉音、漢音、唐音、慣用音）は『角川新字源改訂版』（1994）に拠る。この2種の辞典を用いたのは信用と権威の両方を顧慮したからである。まず、1978年商務印書館により刊行された『現代漢語詞典』は、極めて広範な読者層に愛用され、2005年までに4回も版を改め、のべ5000万冊が発行された当代中国における最も権威のある中型中国語辞書である。そして、『角川新字源改訂版』は、親字約1万字を収録、漢籍からの原義に重点を置いて編集された漢和辞典である。他の追随を許さない信用と権威を誇る漢和辞典の決定版だと言われている。このように、この2種の辞典は信用と権威の両方を持っているため、本研究で使用した。

この2種の辞典に拠って2級漢字（1182字）の現代中国語音と日本漢字音を調査した。その結果の一部を表3-6に示す。

表3-6 現代中国語音と日本漢字音の一覧表（あいうえお順）

漢字	現代中国語音			日本漢字音			
	声母	韻母	ピンイン	呉音	漢音	唐音	慣用音
愛	ゼロ	ai	ai4		アイ		
挨	ゼロ	ai	ai1/ai2		アイ		
青	q	ing	qing1	ショウ(シャウ)	セイ	チン	
紅	h	ong	hong2/gong1	グ	コウ		ク
証	zh	eng	zheng4	ショウ・ショウ(シャウ)	ショウ・セイ		
確	q	üe	que4	カク	カク		
顛	x	ian	xian3	ケン	ケン		ゲン
照	zh	ao	zhao4	ショウ(セウ)	ショウ(セウ)		
章	zh	ang	zhang1	ショウ(シャウ)	ショウ(シャウ)		
悪	ゼロ	e	e4/e3/wu1/wu4	アク/オ(ヲ)	アク/オ(ヲ)		
握	ゼロ	uo	wo4		アク		
焦	j	iao	jiao1	ショウ(セウ)	ショウ(セウ)		
価	j	ia	jia4/jie0	ケ	カ		
圧	ゼロ	ia	ya1/ya4		オウ(アフ)		アツ
後	h	ou	hou4	グ	コウ		ゴ
兄	x	iong	xiong1	キョウ(キウ)	ケイ		
姉	z	i	zi3	シ	シ		
雨	ゼロ	ü	yu3	ウ	ウ		
危	ゼロ	uei	wei1				キ
謝	x	ie	xie4		シャ		
1182 湾	ゼロ	uan	wan1	ワン	ワン		

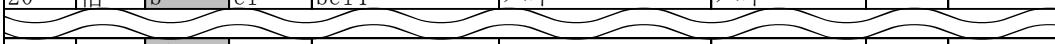
「ピンイン」欄にある「/」は、発音が2種類以上あることを意味する。例えば、現代中国語音でみた場合、「挨」（太枠部分）という漢字には、声調のみ異なる「ai1」と「ai2」の2種の発音がある。一方、「紅」（太枠部分）という漢字には、声母も声調も異なる「hong2」と「gong1」の2種の発音がある。「呉音」「漢音」欄の（ ）内の表記は、歴史的仮名遣いである。

### 3.2.2.2 現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音

現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音の対応関係を調査する方法は以下の通りである。まず、表3-6の「現代中国語音」の「声母」欄を昇順に並べ替え、声母ごとにまとめる。この際、現代中国語音が複数ある場合（表3-6中の「紅」と同じように、声母が異なる）は、その中で最も使用頻度の高い音の声母に従って並べる。例えば、表3-7の7番である「般」の場合、現代中国語音では、「ban1」、「bo1」、「pan2」の3つの発音を持っている。この3つの発音の中で、「ban1」が日常生活での使用頻度が最も高い。従って、並べ替える際には、「般」を「ban1」の声母「b」で並べている。このように整理した結果が表3-7である。表3-7の「漢音」「慣用音」欄にある「×」は、その現代中国語音に対応する日本漢字音が存在しないことを意味する。例えば、表3-7の13番である「暴」の場合、現代中国語音では「bao4」と「pu4」の2種類の発音がある。それに対し、呉音では、「bao4」に

対応する「ボウ（ハウ）」と「pu4」に対応する「ボク」の2種類の発音があるが、漢音では「bao4」に対応する発音がない。同じように、慣用音においても同じで、「bao4」に対応する発音がない。

表3-7 現代中国語音と日本漢字音の一覧表（声母順）

漢字	現代中国語音			日本漢字音			
	声母	韻母	ピンイン	吳音	漢音	唐音	慣用音
1 八	b	a	ba1	ハチ	ハツ		
2 敗	b	ai	bai4	バイ	ハイ		
3 百	b	ai	bai3	ヒヤク	ハク		
4 拝	b	ai	bai4		ハイ		
5 版	b	an	ban3		ハン		
6 板	b	an	ban3	ハン	ハン		バン
7 般	b	an	ban1/bol/pan2	ハン	ハン		
8 半	b	an	ban4	ハン	ハン		
9 棒	b	ang	bang4	ボウ(ハウ)	ホウ(ハウ)		
10 宝	b	ao	bao3	ホウ	ホウ(ハウ)		
11 保	b	ao	bao3		ホウ(ハウ)	ホ	
12 爆	b	ao	bao4		ホウ(ハウ)		バク
13 暴	b	ao	bao4/pu4	ボウ(ハウ)/ボク	×/ホク		×/バク
14 報	b	ao	bao4	ホウ(ハウ)	ホウ(ハウ)		
15 包	b	ao	bao1		ホウ(ハウ)		
16 悲	b	ei	bei1	ヒ	ヒ		
17 卑	b	ei	bei1	ヒ	ヒ		
18 北	b	ei	bei3	ホク	ホク		
19 被	b	ei	bei4		ヒ		
20 倍	b	ei	bei4	バイ	ハイ		
							
1182 文	ゼロ	uen	wen2		ゲツ		ガツ

次に、表3-7を基に、2級漢字に限定した場合の現代中国語音の各声母と日本漢字音の頭子音の関係を調査する。さらに、その結果を3.1.1で中古音を介して導き出した現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音の対応関係（表3-2）と比較し、どの程度一致しているのかを調べる。最後に、3.1.1で導き出した現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音の対応関係の特徴が2級漢字の対応関係において、どのような形で表れているのか分析し考察する。

### 3.2.2.3 現代中国語音の韻母と日本漢字音の主母音・特殊拍・入声韻尾

現代中国語音の韻母と日本漢字音の主母音・特殊拍・入声韻尾の対応関係を調査する方法は以下の通りである。まず、表3-6の「現代中国語音」の「韻母」欄を昇順に並べ替え、韻母ごとにまとめる。声母の場合と同様に、現代中国語音が複数ある場合（韻母が異なる）

は、その中で最も使用頻度の高い音の韻母で並べる。例えば、表3-8の5番である「差」の場合、現代中国語音では「cha1」「cha4」「chai1」「chai4」「ci1」の5種の発音がある。この5種の発音の中で、「cha1」と「cha4」が日常での使用頻度が高い。従って、並べ替える際には、「差」を「cha1」と「cha4」の韻母「a」で並べている。各韻母並べ替えた結果の一部を表3-8に示す。表3-8の「呉音」「漢音」「慣用音」欄にある「×」は、表3-7と同じく、その現代中国語音に対応する日本漢字音が存在しないことを意味する。

表3-8 現代中国語音と日本漢字音の一覧表（韻母順）

	漢字	現代中国語音			日本漢字音			
		声母	韻母	ピンイン	呉音	漢音	唐音	慣用音
1	八	b	a	ba1	ハチ	ハツ		
2	擦	c	a	ca1		サツ		
3	查	ch	a	cha2/zha1		サ		
4	察	ch	a	cha2	セチ	サツ		
5	差	ch	a	cha1/cha4/ chai1/chai4/ci1	×/× /×/×/シ	サ/サ/ サイ/サイ/シ		×/×/ サ/×/×
6	達	d	a	da2	ダチ	タツ		
7	答	d	a	da2/da1	トウ(タフ)	トウ(タフ)		
8	發	f	a	fa1	ホチ	ハツ		ホツ
9	法	f	a	fa3	ホウ(ホフ)	ホウ(ハフ)		ホッ/ハッ
10	罰	f	a	fa2	バチ	ハツ		バツ
11	蠅	l	a	la4/zha4	ロウ(ラフ)	ロウ(ラフ)		
12	馬	m	a	ma3	マ	バ		
13	納	n	a	na4	ノウ(ナフ)	ドウ(ダフ)		トウ(タ フ)・ナ・ナ ン・ナッ
14	砂	sh	a	sha1	シャ	サ		
15	殺	sh	a	sha1	セツ	サツ		
16	沙	sh	a	sha1/sha4	シャ/なし	サ/なし		
17	他	t	a	ta1	タ	タ		
18	塔	t	a	ta3/da0	トウ(タフ)/×	トウ(タフ)/×		
19	摺	z	a	za1/zan3		サツ		
20	札	zh	a	zha2		サツ		
<hr/>								
1182	作	z	uo	zuo4/zuo1	サク・サ	サク・サ		

次に、表3-8を基に、2級漢字に限定した場合の現代中国語音の韻母と日本漢字音の主母音・特殊拍・入声韻尾の関係を調査する。さらに、その結果を3.1.2で導き出した現代中国語音の韻母と日本漢字音の主母音・特殊拍・入声韻尾の対応関係（表3-5）と比較し、どの程度一致しているのかを調べる。最後に、3.1.2で導き出した現代中国語音の韻母と日本漢字音の主母音・特殊拍・入声韻尾の対応関係にみられた特徴が、2級漢字において、どのような形で表れているのかについて分析し考察する。

### 3.2.3 分析と考察

唐音と慣用音については、吳音・漢音と分けて分析を行う。それは、唐音で読む漢字は、今回の調査において数が極めて少なかったからである。そして、慣用音の場合は、独特な性質を持っているためである。以下に、吳音・漢音、唐音、慣用音の順に、検討していく。

#### 3.2.3.1 現代中国語音と吳音・漢音の対応関係

##### 3.2.3.1.1 現代中国語音の声母と吳音・漢音の頭子音

表3-7を基に、2級漢字に限定した場合の現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音の対応関係を調査した。そして、その調査結果を3.1.1で導き出した漢字全体に適用可能な現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音の対応関係と比較した。比較した結果を表3-9に示す。

表3-9では、3.1.1で導き出した対応関係にあるが、2級漢字の結果にない対応関係は取り消し線で示している。例えば、「m 声母」と漢音の「マ行」との対応が挙げられる。一方、3.1.1で導き出した対応関係にみられなかつたが、2級漢字の結果にみられた関係、つまり例外は太字で示している。( )の中にある数字は、字数を表している。例えば、「d 声母」と吳音の「ザ行」との関係が挙げられる。現代中国語では「d 声母」で読んでおり、吳音では「ザ行」となる漢字は、2級漢字(1182字)の中に4字ある。

表3-9 2級漢字の対応関係と3.1.1で導き出した全体の対応関係の比較

現代中国語音の声母		日本漢字音		現代中国語音の声母		日本漢字音			
		呉音の頭子音	漢音の頭子音			呉音の頭子音	漢音の頭子音		
1	b	ハ行	ハ行	13	q	ア行(1)	ア行(1)		
		バ行				サ行	サ行		
2	p	ハ行	ハ行	14	x	ザ行			
		バ行				カ行	カ行		
3	m	マ行	バ行 (一部マ行)			ガ行 (一部ワ行)			
		ハ行(1)	ハ行(1)			タ行	タ行		
		ハ行	ハ行			ダ行			
4	f	ハ行	ハ行	15	zh	サ行	サ行		
		バ行				ザ行			
5	d	タ行	タ行			タ行	タ行		
		ダ行				ダ行			
		ザ行(4)				サ行	サ行		
6	t	タ行	タ行	16	ch	ザ行			
		ダ行				カ行(1)	カ行(1)		
		ザ行(6)							
7	n	ナ行	ダ行 (一部ナ行)	17	sh	サ行	サ行		
		ガ行(2)	ガ行(2)			ザ行			
			ザ行(3)	18	r	ナ行	ザ行		
8	l	ラ行	ラ行	19	z	ヤ行(2)	ヤ行(3)		
9	g	カ行	カ行			サ行	サ行		
10	k	カ行	カ行	20	c	ザ行			
11	h	カ行	カ行			サ行	サ行		
		ガ行 (一部ワ行)				ザ行			
		ア行(6)				サ行	サ行		
12	j	カ行	カ行	21	s	ザ行	サ行		
		ガ行				ガ行	ガ行		
		サ行	サ行			ア行	ア行		
		ザ行				ワ行 (ヤ行)	ヤ行(ワ行)		
			ガ行(1)			ヤ行	ヤ行		
13	q	カ行	カ行	22	ゼロ	マ行	バ行 (一部マ行)		
		ガ行				ザ行(2)	ザ行(2)		
		サ行	サ行				カ行(3)		
		ザ行							

表3-9から分かるように、2級漢字に限定した場合の対応関係は、3.1.1で中古音を介して導き出した漢字全体に適用可能な対応関係と、一部においてはズレがあるが、全体的にみればほぼ一致していることが分かった。

以下に、3.1.1で導き出した現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音の対応関係の特徴は、2級漢字においてもみられるのか、そして、具体的にどのようにになっているのかを分析し考察する。

### (1) 清音と濁音について

3.1.1 の最後の部分で述べたように、「b」「p」「f」「d」「t」「h」「j」「q」「x」「zh」「ch」「sh」「z」「c」「s」の15声母で読む漢字は、吳音では清音または濁音、漢音では全て清音となる。この特徴が、2級漢字（1182字）において、具体的にどのような形で表れるのかを検討する。

表3-10は、現代中国語音では「b」「p」などの15種類の声母で読む漢字を調査した結果を示している。濁音となる漢字の数のみ、○で囲んでいる。

表3-10 現代中国語音の声母と日本漢字音の吳音・漢音の頭子音（清濁について）

現代中国語音		日本漢字音											記載合計
声母	字数		ハ行	バ行	タ行	ダ行	サ行	ザ行	カ行	ガ行	ア行	ワ行	
b	51	吳音	23	13									36
		漢音	47										47
p	23	吳音	8	4									12
		漢音	22										22
f	42	吳音	24	10									34
		漢音	41										41
d	61	吳音		25	16			4					45
		漢音		59									59
t	45	吳音		14	9			6					29
		漢音		42									42
h	45	吳音							11	11	6	2	30
		漢音											43
j	111	吳音				16	6	50	9				81
		漢音				22		84	1				107
q	47	吳音				9	6	7	8		1		31
		漢音				19		27			1		47
x	80	吳音				23	9	17	12				61
		漢音				31		41					72
zh	88	吳音		13		38	8						59
		漢音		34		50							84
ch	39	吳音		2	1	9	9						21
		漢音		12		25			1				38
sh	80	吳音				42	21						63
		漢音				71							71
z	37	吳音				19	8						27
		漢音				34							34
c	29	吳音				10	10						20
		漢音				27							27
s	27	吳音				21	2						23
		漢音				27							27
合計	805		165	27	201	26	493	89	281	41	8	2	1333

「b声母」を例に表3-10を説明する。2級漢字（1182字）のうち、現代中国語音で読んだ場合、「b声母」となる漢字は51ある。この51字の吳音と漢音を調査すると、吳音について記載のあるのは36字で、漢音について記載のあるのは47字である。吳音字36のうち、「ハ行」となるのは23字、「バ行」となるのは13字である。一方、漢音字47は全て「ハ行」である。

このように、現代中国語音では「b 声母」で読む漢字は、漢音では全て「ハ行」、吳音では全体の 64%が「ハ行」で、36%が「バ行」である。つまり、「b 声母」で読む漢字は、漢音においては全て清音、吳音においても半数以上が清音である。これは、「b 声母」字だけではなく、表 3-10 に取りあげた 15 声母のほとんどに言えることである。では、少数派である濁音となる漢字には、特徴があるのだろうか。このことについて、現代中国語音では「b 声母」、吳音では「バ行」で読む漢字（13 字）について調査した。表 3-11 は、その調査結果を示したものである。「中古音」は『漢語大字典』（1990）<sup>4</sup>に記載している『廣韻』または『集韻』に基づいている<sup>5</sup>。

表 3-11 呉音では「バ行」と読む「b 声母」字

漢字	現代中国語音			中古音	日本漢字音	
	声母	韻母	ピンイン		字母	漢音
1 別	b	ie	2	並/-	ベチ	
2 捕	b	u	3	並	ブ	ホ
3 比	b	i	3	並	ビ	ヒ
4 敗	b	ai	4	並	バイ	ハイ
5 棒	b	ang	4	並	ボウ (バウ)	ホウ (ハウ)
6 暴	b	ao	4	並/並	ボウ (バウ) / ボク	
7 倍	b	ei	4	並	バイ	ハイ
8 備	b	ei	4	並	ビ	
9 弁	b	ian	4	並	ベン	
10 便	b	ian	4	並/滂	ベン	ヘン
11 部	b	u	4	並	ブ	ホ
12 病	b	ing	4	並	ビョウ (ビヤウ)	ヘイ
13 歩	b	u	4	並	ブ	ホ

このように、中古音からみた場合、この 13 字は全て「並母」である。そして、現代中国語音からみた場合、第 2 声が 1 字、第 3 声が 2 字、第 4 声が 10 字である。つまり、第 4 声が全体 13 字の 8 割弱を占めている。これは現代中国語音からみた特徴と言えるのだろうか。つまり、現代中国語音で「b 声母」かつ第 4 声で読む漢字は、吳音では全て「バ行」となるのだろうか。そこで、現代中国語音では「b 声母」かつ第 4 声で読む漢字について、吳音では「バ行」以外のものあるかどうかについて調べた。その結果、14 字あることが分かった。その 14 字の現代中国語音と日本漢字音を調べ、その結果を表 3-12 に示す。

<sup>4</sup> 漢語大字典編輯委員会『漢語大字典』四川辞書出版社・湖北人民出版社、1990。

<sup>5</sup> 基本は『廣韻』に基づいているが、『廣韻』にない場合は『集韻』に拠っている。

表 3-12 呉音が「バ行」にならない「b 声母」字

漢字	現代中国語音		日本漢字音	
	声母	ピンイン	吳音	漢音
1 半	b	4	ハン	ハン
2 報	b	4	ホウ（ハウ）	ホウ（ハウ）
3 変	b	4	ヘン	ヘン
4 遍	b	4	ヘン	ヘン
5 布	b	4	フ	ホ
6 惡	b	4	フ	ホ
7 挙	b	4		ハイ
8 輩	b	4		ハイ
9 閉	b	4		ハイ
10 必	b	4		ヒツ
11 不	b	4		フツ
12 爆	b	4		ホウ（ハウ）
13 被	b	4		ヒ
14 幣	b	4		ハイ

このように、現代中国語音では「b 声母」かつ第4声で読む漢字は、吳音では「バ行」になる以外に「ハ行」になるものが6字ある。例えば、「半」や「報」などが挙げられる。そして、そもそも記載のないものが8字ある。例えば、「挙」や「輩」などが挙げられる。これらのことから、吳音があるという前提のもと、現代中国語音で「b 声母」かつ第4声で読む漢字は、吳音では半数以上「バ行」になる傾向があることが分かった。

以上では、第4声のみ検討してきたが、「b 声母」の第1声～第3声についてはどのようにになっているのだろうか。以下、第1声～第3声も含め、「バ行」になる漢字に特徴があるのかを調べた。表 3-13 は「b 声母」で読む漢字の声調と清濁の関係を示したものである。

表 3-13 「b 声母」と「バ行」の関係

b声母 (字)	吳音の 記載なし	吳音の記載あり (字)		
		計	内訳	割合
1声	12	2	10	「ハ行」 10 100.0%
				「バ行」 0 0.0%
2声	3	2	1	「ハ行」 0 0.0%
				「バ行」 1 100.0%
3声	12	3	9	「ハ行」 7 77.8%
				「バ行」 2 22.2%
4声	24	8	16	「ハ行」 6 37.5%
				「バ行」 10 62.5%
合計	51	15	36	36（「ハ行」23、「バ行」13）

2級漢字のうち、現代中国語音で読む場合、51字が「b 声母」となる。表 3-13 から分かるように、この51字のうち、第1声が12字、第2声が3字、第3声が12字、第4声が

24字ある。ここでは、第2声と第4声（太枠部分）を例に、表3-13を説明する。第2声の3字のうち、呉音の記載がないものは2字、記載のあるものは1字である。この1字は「バ行」である。そして、第4声の24字のうち、呉音の記載がないものは8字で、記載があるものは16字である。この16字のうち、6字は「ハ行」で、10字は「バ行」である。このように、呉音の記載のある漢字からみた場合、第1声は全て「ハ行」、第2声は「バ行」、第3声の約8割は「ハ行」、第4声の約6割「バ行」となる。

以上のことまとめると、2級漢字に限定した場合、以下の2点が言える。1点目は、現代中国語音では「b声母」かつ第2声で読む漢字の場合、呉音では「バ行」となる。2点目は、現代中国語音では「b声母」かつ第4声で読む漢字の場合、呉音では約6割が「バ行」となる。

同じ分析方法で、表3-10のb声母以外の14声母について調査した。その結果、2級漢字に限定した場合、「j声母」以外の13声母に以下の特徴がみられた。①現代中国語音で読むと「p/f/t/q/x/c/s声母かつ第2声」となる漢字の呉音は、全て濁音である。②現代中国語音で読むと「zh/z声母かつ第2声」となる漢字の呉音は、半分濁音である。③現代中国語音で読むと「d声母かつ第2声」となる漢字の呉音は6割以上が濁音である。そして、「d声母かつ第4声」となる漢字の場合は、8割弱が濁音である。④現代中国語音で読むと「h声母かつ第2声/4声」となる漢字の呉音は、半分が濁音である。⑤現代中国語音で読むと「ch声母かつ第2声」となる漢字の呉音は、8割濁音である。⑥現代中国語音で読むと「sh声母かつ第2声」となる漢字の呉音は、8割濁音である。そして、「sh声母かつ第4声」となる漢字の呉音は半分が濁音である。

このように、呉音では濁音となる漢字は、現代中国語音でみた場合声母と声調の組み合わせに特徴があることが分かった。つまり、現代中国語音では、上記「j声母」以外の14声母のいずれかで読む漢字の中で、①声調が第2声の場合、呉音では半数以上濁音となる。②声調が第4声の場合、呉音では約半分濁音となる。③声調が第1声または第3声の場合、呉音ではほとんど清音となる。

以上、「b」「p」「f」などの15声母と日本漢字音の頭子音の対応関係について、詳しくみてきた。以下では、「m」「n」「r」「ゼロ」の4声母と日本漢字音の頭子音の対応関係について検討していく。

## (2) 鼻音と濁音について

3.1.1 の表 3-2 から分かるように、「m」「n」「r」の 3 声母で読む漢字のほぼ全てと「ゼロ声母」で読む漢字の一部は、呉音では鼻音、漢音では基本濁音である。以下、この特徴は、2 級漢字（1182 字）においてもみられるのか、そして具体的にどのような形で表れているのかについて検討する。

現代中国語音では「m 声母」字、「n 声母」字、「r 声母」字、「ゼロ声母」字を調査した結果を表 3-14 に示している。矢印 (↔) で示している部分では、呉音では鼻音、漢音では濁音になっている。○で囲んでいる部分は、3.1.1 で導き出した漢字全体の対応関係から外れたもので、つまり例外である。□で囲んでいる部分は、呉音も漢音も濁音である。

表 3-14 現代中国語音の声母と呉音・漢音の頭子音（鼻音濁音について）

現代中国語音		日本漢字音												計
声母	字数		マ行	バ行	ハ行	ナ行	ダ行	ザ行	ガ行	ヤ行	ア行	ワ行	ラ行	
m	50	呉音	38		1									39
		漢音		43	1									44
n	18	呉音			11			2						13
		漢音				11	3	2						15
r	17	呉音			10		12		2					12
		漢音						3		1				16
ゼロ (w介音)	44	呉音	14					6		1	13	3	37	
		漢音		15				7		1		17	3	43
ゼロ (y介音)	105	呉音						18		32	36			86
		漢音						23	3	37	40			103
ゼロ (介音なし)	13	呉音			2		2	3		1	3			9
		漢音						3			8			13
合計	85		52	58	2	23	11	17	64	9	72	117	6	430

まず、現代中国語音では「m 声母」で読む漢字は、呉音ではほとんど「マ行」、漢音ではほとんど「バ行」となる。例外は、「秘」の 1 字のみである。「秘」は呉音も漢音も「ヒ」であるため、例外となる。

次に、現代中国語音では「n 声母」で読む漢字は、呉音ではほとんど「ナ行」、漢音では 6 割以上「ダ行」となる。例外は以下の 2 種類である。まず、「娘ニジョウ (ヂヤウ)」「濃ニジョウ (ヂョウ)」「女ニジョ (ヂヨ)」の 3 字のように「ザ行」で読むものがある。ただし、この 3 字は現代仮名遣いからみれば例外になるが、歴史仮名遣いでみた場合は例外ではない。つまり、この 3 字が例外になったのは、仮名遣い表記による問題である。そして、「ザ行」以外に、「ガ行」で読むものもある。これは「牛ニゴニギュウ (ギウ)」と「逆ニギヤクニゲキ」の 2 字である。

また、現代中国語音では「r 声母」で読む漢字は、呉音ではほとんど「ナ行」、漢音では 7 割以上「ザ行」となる。例外は、「容ニユウニヨウ」「溶ニヨウ」「融ニユウ」「榮ニヨウ

(エウ) 〔エイ〕の4字である。そして、この4字の現代中国語音は全て「rong2」であることが特徴である。「r 声母」字のうち、「rong」と読む漢字は、以上の4字と「冗」の計5字である。しかし、「冗 (rong3)」は以上の4字と異なり、第3声である。そして、「冗」の漢音は「ジョウ」であるため、例外ではない。このことから、2級漢字に限定した場合、現代中国語音が「rong2」となる漢字の中で、「栄」以外、全て呉音も漢音も「ヤ行」となる。

最後に、現代中国語音では「ゼロ声母」で読む漢字は、呉音では鼻音「マ行」(w 介音の場合)・「ナ行」(介音なしの場合)、漢音では濁音「バ行」(w 介音の場合)・「ザ行」(介音なしの場合)となるものは一部のみである。そして、呉音も漢音も濁音「ガ行」(w 介音、y 介音、介音なし)となるものもある。しかし、呉音字全体(131字)と漢音字全体(159字)からみた場合、鼻音や濁音で読む漢字はその3割に過ぎないことが分かる。言い換えば、「ゼロ声母」で読む漢字は、呉音でも漢音でも基本鼻音や濁音にならないと言える。

### (3) まとめ

以上、2級漢字に限定した場合の現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音の対応関係を分析し考察した。その結果、以下のことが分かった。

まず、2級漢字の結果を3.1.1で導き出した対応関係と比較した結果、多少のズレ(つまり例外)はあるが、全体的にみた場合、ほとんどが3.1.1で導き出した対応関係と一致することが分かった。

次に、3.1.1で導き出した現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音の対応関係の特徴が、2級漢字においてどのように具体的に表れたかについて分析した結果、以下の2点が分かった。1点目は、「b」「p」「f」などの15声母のほとんどが、3.1.1で述べたように呉音では清音と濁音、漢音では清音のみになっている。呉音で濁音と読む漢字をさらに分析した結果、「j」以外の14声母について共通して言えることは以下のようである。第2声で読む漢字は、呉音では半数以上濁音となる。第4声で読む漢字は、呉音では約半分濁音となることが分かった。つまり、濁音となる漢字は現代中国語音の声母と声調の組み合わせに特徴がある。2点目は、「m」「n」「r」3声母については、そのほとんどが3.1.1で述べたように呉音では鼻音、漢音では濁音となっている。「ゼロ声母」については、呉音では鼻音、漢音では濁音になるものは全体の3割に過ぎない。

### 3.2.3.1.2 現代中国語音の韻母と吳音・漢音の主母音・特殊拍・入声韻尾

#### (1) 主母音について

ここでは、まず、現代中国語音を韻腹(つまり、[a] [ə] [o] [e] [i] [u] [y])ごとに分けて、吳音と漢音の主母音との関係を調査した。次に、その結果を基に、3.1.2で中古音を介して導き出した現代中国語音の韻母と吳音・漢音の主母音の対応関係(表3-5)と比較し、どの程度一致しているのか調べた。表3-15は、その結果を示したものである。表3-15では、3.1.2で導き出した漢字全体の対応関係にあるが、2級漢字の結果にないものは取り消し線で示している。例えば、1番の「a 韵母」と漢音の「エ段」の対応は2級漢字の結果にみられなかった。一方、導き出した対応関係にみられなかつたが2級漢字の結果にみられた関係は、太字で示している。( )の中にある数字は、字数を表している。例えば、11番の「üan 韵母」と漢音の「ア段」の関係が挙げられる。その関係を持つ漢字は2級漢字のうち、「院<sup>6</sup>園 カン (クワン)」の1字のみである。

表3-15 2級漢字の結果と3.1.2で導き出した全体の対応関係の比較

	現代中国語音 韻腹	吳音 韻母	漢音 主母音		現代中国語音 韻腹	吳音 韻母	漢音 主母音
1	[a]	a	ア段、エ段、オ段	ア段、エ段、オ段	[ə]	iou	イ段、ウ段、オ段
2		ia	ア段、エ段、オ段	ア段、オ段		en	イ段、ウ段、オ段
3		ua	ア段、エ段、ウ段、 オ段	ア段、エ段、オ段		uen	イ段、ウ段、オ段
4		ai	ア段、イ段、エ段、 オ段	ア段、オ段		eng	ウ段、オ段
5		uai	ア段、イ段、ウ段、 エ段、オ段	ア段、イ段、ウ 段、オ段		ueng	ウ段、オ段
6		ao	ア段、イ段、ウ段、 エ段、オ段	ア段、イ段、ウ 段、オ段		o	ア段、ウ段、オ段
7		iao	ア段、ウ段、オ段	ア段、ウ段、オ段		uo	ア段、イ段、エ 段、ウ段、オ段
8		an	ア段、エ段、オ段	ア段、エ段		ie	ア段、エ段、オ段
9		ian	ア段、エ段、オ段	ア段、エ段		üe	ア段、エ段、オ段
10		uan	ア段、エ段、オ段	ア段、エ段		i	ア段、イ段、ウ 段、エ段、オ段
11		üan	ア段、エ段、オ段	エ段、ア段(1)		in	イ段、ウ段、オ段
12		ang	オ段	オ段		ing	エ段、オ段
13		iang	オ段	オ段		u	ア段、イ段、ウ 段、オ段
14		uang	オ段	オ段		ong	ウ段、オ段
15	[ə]	e	ア段、イ段、エ段、 オ段、ウ段(1)	ア段、イ段、ウ 段、エ段、オ段	[y]	ü	イ段、ウ段、オ 段、ア段(1)
16		ei	ア段、イ段、ウ段、 エ段、オ段	ア段、イ段、ウ 段、オ段		ün	イ段、ウ段、オ 段(1)
17		uei	ア段、イ段、ウ段、 エ段	ア段、イ段、ウ 段、エ段		iong	ウ段、オ段
18		ou	イ段、ウ段、オ段	イ段、ウ段、オ段		er	イ段
				36	特別		

このように、3.1.2で導き出した対応関係にみられたが2級漢字の結果にみられなかつ

<sup>6</sup> 『角川新字源改訂版』(1994)によると、院園エン(エン)園カン(クワン)園イン(キン)である。

た対応が多くある。それは、2級に限定したからだと推測される。つまり、分析対象となる漢字の範囲により、導き出した漢字全体の対応関係の間に差が生じる。しかし、全体的にみれば、2級漢字の結果は全体の結果と概ね一致していることが分かる。

次に、3.1.2で導き出した現代中国語音の韻母と日本漢字音の主母音の対応関係にみられた特徴が、2級漢字においてどのように具体的に反映されているのかについて分析し考察する。

表3-16は、韻腹が[a]である現代中国語音の韻母と呉音・漢音の主母音についての結果を示している。太枠はその対応がないことを意味し、太丸は注目すべき箇所を意味する。以下同様。

表3-16 韵腹が[a]である現代中国語音の韻母と呉音・漢音の主母音の対応関係

現代中国語音 の韻母 (字)		日本漢字音の主母音 (字)						計
		ア段	イ段	ウ段	エ段	オ段		
a	23	呉音	9	0	0	2	7	18
		漢音	17	0	0	0	6	23
ia	8	呉音	0	0	0	4	0	4
		漢音	7	0	0	0	1	8
ua	8	呉音	0	0	0	5	0	5
		漢音	8	0	0	0	0	8
ai	37	呉音	27	0	0	0	0	27
		漢音	36	0	0	0	0	36
uai	2	呉音	0	0	0	2	0	2
		漢音	2	0	0	0	0	2
ao	44	呉音	0	0	1	0	24	25
		漢音	0	0	0	0	42	42
iao	31	呉音	4	0	0	0	21	25
		漢音	2	0	0	0	27	29
an	56	呉音	29	0	0	7	7	43
		漢音	47	0	0	5	0	52
ian	65	呉音	2	0	0	50	4	56
		漢音	8	0	0	53	0	61
uan	31	呉音	19	0	0	5	0	24
		漢音	24	0	0	4	0	28
üan	20	呉音	2	0	0	7	3	12
		漢音	1	0	0	19	0	20
ang	32	呉音	0	0	0	0	28	28
		漢音	0	0	0	0	29	29
iang	26	呉音	0	0	0	0	22	22
		漢音	0	0	0	0	25	25
uang	14	呉音	0	0	0	0	12	12
		漢音	0	0	0	0	13	13
合計	397	呉音	92	0	1	82	128	303
			30.4%	0.0%	0.3%	27.1%	42.2%	100.0%
		漢音	152	0	0	81	143	376
			40.3%	0.0%	0.0%	21.5%	37.9%	99.7%

まず、全体的にみると、韻腹が[a]の韻母はイ段にならない。ウ段になる漢字は「矛圓ム」の1字のみである。このように、呉音も漢音も主にア段・エ段・オ段になっていることが

分かる。そして、比率で言うと、吳音ではア段：エ段：オ段=3:3:4（四捨五入、以下同様）で、漢音ではア段：エ段：オ段=4:2:4というように、吳音も漢音もオ段になるものが若干多い。

次に、個々の韻母をみると、以上の全体比率と異なる場合が多い。例えば、吳音でみた場合は以下のことが分かる。「a 韵母」の場合は、ア段：エ段：オ段=9字(50.0%) : 2字(11.1%) : 7字(38.9%)で、「ia 韵母」の場合は、ア段:エ段:オ段=0字(0.0%) : 4字(100.0%) : 0字(0.0%)である。一方、漢音でみた場合は以下のことが分かる。「a 韵母」の場合は、ア段：エ段：オ段=17字(73.9%) : 0字(0%) : 6字(26.1%)で、「ia 韵母」の場合は、ア段：エ段：オ段=7字(87.5%) : 0字(0%) : 1字(12.5%)である。

表 3-16 から、以下の 3 点が明らかになった。  
 ①漢音では、エ段になるのは「an」「ian」「uan」「üan」の 4 韵母のみである。  
 ②吳音漢音を問わず、「ao」「iao」「ang」「iang」「uang」の 5 韵母はオ段のみと対応する。例外は「矛 mao2-ム」「較 jiao4-カク漢カク・コウ(カウ)」「角 jiao3-カク」「削 xiao1-サク」「薬 yao4-ヤク」の 5 字のみである。  
 ③吳音漢音を問わず、「ai 韵母」は例外なくア段と対応する。

表 3-17 は、韻腹が[ə]である現代中国語音の韻母と吳音・漢音の主母音についての結果を示している。

表 3-17 韵腹が[ə]である現代中国語音の韻母と吳音・漢音の主母音の対応関係

現代中国語音 の韻母 (字)		日本漢字音の主母音 (字)					
		ア段	イ段	ウ段	エ段	オ段	計
e	42	吳音 19	1	1	2	7	30
		漢音 27	0	1	5	8	41
ei	22	吳音 5	8	2	0	2	17
		漢音 8	8	2	0	2	20
uei	39	吳音 5	14	6	5	0	30
		漢音 10	16	7	5	0	38
ou	29	吳音 0	1	16	0	0	17
		漢音 0	1	14	0	13	28
iou	26	吳音 0	0	20	0	3	23
		漢音 0	1	24	0	0	25
en	23	吳音 0	14	2	0	6	22
		漢音 0	14	2	0	6	22
uen	20	吳音 0	1	4	0	12	17
		漢音 0	1	6	0	12	19
eng	32	吳音 0	0	4	0	19	23
		漢音 0	0	1	8	20	29
ueng	0	吳音 0	0	0	0	0	0
		漢音 0	0	0	0	0	0
合計	233	吳音 29	39	55	7	49	179
		16.2%	21.8%	30.7%	3.9%	27.4%	100.0%
		漢音 45	41	57	18	61	222
		20.3%	18.5%	25.7%	8.1%	27.5%	100.0%

まず、全体の比率をみると、吳音ではア段：イ段：ウ段：エ段：オ段=2:2:3:0:3で、漢音ではア段：イ段：ウ段：エ段：オ段=2:2:2:1:3というように、吳音と漢音のいずれにおいても、他の段に比べてエ段が少ないことが分かる。

次に、個々の韻母をみると、以上の全体比率と異なる場合が多い。例えば、吳音でみた場合は以下のことが分かる。「e 韵母」の場合はア段：イ段：ウ段：エ段：オ段=19字(63.3%)：1字(3.3%)：1字(3.3%)：2字(7%)：7字(23.3%)で、「ei 韵母」の場合はア段：イ段：ウ段：エ段：オ段=5字(29.4%)：8字(47.1%)：2字(11.8%)：0字(0.0%)：2字(11.8%)ある。一方、漢音でみた場合は以下のことが分かる。「e 韵母」の場合はア段：イ段：ウ段：エ段：オ段=27字(65.9%)：0字(0.0%)：1字(2.4%)：5字(12.2%)：8字(19.5%)で、「ei 韵母」の場合はア段：イ段：ウ段：エ段：オ段=8字(40.0%)：8字(40.0%)：2字(10.0%)：0字(0.0%)：2字(10.0%)である。

表3-17から、以下の2点が明らかになった。韻腹が[ə]である現代中国語音の韻母のうち、①吳音では、エ段になるのは「e」と「uei」の2韻母のみである。一方、漢音では、エ段になるのは「e」「uei」「eng」の3韻母である。②吳音漢音を問わず、ア段になるのは「e」「ei」「uei」の3韻母のみである。

表3-18は、韻腹が[o]である現代中国語音の韻母と吳音・漢音の主母音についての結果を示している。

表3-18 韵腹が[o]である現代中国語音の韻母と吳音・漢音の主母音の対応関係

現代中国語音 の韻母 (字)		日本漢字音の主母音 (字)					
		ア段	イ段	ウ段	エ段	オ段	計
o	10	吳音	6	0	0	0	6
		漢音	9	0	0	0	9
uo	33	吳音	18	0	1	0	21
		漢音	26	0	1	1	30
合計	43	吳音	24	0	1	0	27
			88.9%	0.0%	3.8%	0.0%	7.7%
		漢音	35	0	1	1	2
			89.7%	0.0%	2.6%	2.6%	5.3%

まず、全体の比率についてみると、吳音と漢音のいずれにおいてもア段が全体の約9割を占めていることが分かる。

次に、韻母ごとに詳しくみていくと、「o 韵母」字は、吳音も漢音も全てア段に対応している。そして、「uo 韵母」字のうち、「縮 suo1-シューク」がウ段となり、「說 shuo1-セツ」がエ段となり、「所 suo3-ショク」及び「國 guo2-コク」の2字がオ段と

なる。この4字（縮・説・所・国）以外の「uo 韵母」字も全てア段になっている。つまり、表3-18から明らかになったことは、韻腹が[e]である現代中国語音の韵母で読む漢字は、吳音でも漢音でも9割弱がア段となることである。

表3-19は、韻腹が[e]である現代中国語音の韵母と吳音・漢音の主母音についての結果を示している。

表3-19 韵腹が[e]である現代中国語音の韵母と吳音・漢音の主母音の対応関係

現代中国語音 の韵母 (字)		日本漢字音の主母音 (字)						
		ア段	イ段	ウ段	エ段	オ段	計	
ie	29	吳音	5	0	0	7	4	16
		漢音	11	0	0	11	5	27
üe	9	吳音	6	0	0	2	0	8
		漢音	5	0	0	3	0	8
合計	38	吳音	11	0	0	9	4	24
			45.8%	0.0%	0.0%	37.5%	16.7%	100.0%
		漢音	16	0	0	14	5	35
			45.7%	0.0%	0.0%	40.0%	14.3%	100.0%

まず、全体的に見ると、韻腹が[e]の韵母は、吳音においても漢音においてもイ段とウ段になることがなく、ア段・エ段・オ段のいずれかになることが分かる。また、全体の比率をみると、吳音ではア段：エ段：オ段=5:4:2で、漢音ではア段：エ段：オ段=5:4:1というように、吳音も漢音もア段とエ段に集中していることが分かる。最後に、個々の韵母をみると、オ段になるのは「ie 韵母」のみであり、「üe 韵母」はオ段にならないことも分かった。

表3-20は、韻腹が[i]である現代中国語音の韵母と吳音・漢音の主母音についての結果を示している。

表3-20 韵腹が[i]である現代中国語音の韵母と吳音・漢音の主母音の対応関係

現代中国語音 の韵母 (字)		日本漢字音の主母音 (字)						
		ア段	イ段	ウ段	エ段	オ段	計	
i	183	吳音	27	84	8	10	5	134
		漢音	0	98	9	55	11	177
in	26	吳音	0	15	0	0	9	24
		漢音	0	25	0	0	0	25
ing	55	吳音	0	0	0	0	41	41
		漢音	0	0	0	48	5	53
合計	264	吳音	27	99	8	10	55	199
			13.6%	49.7%	4.0%	5.0%	27.6%	100.0%
		漢音	0	123	9	103	16	255
			0.0%	48.2%	3.5%	40.4%	6.3%	100.0%

まず、全体の比率をみた場合、吳音ではア段：イ段：ウ段：エ段：オ段=1:5:0:1:3で、漢音ではア段：イ段：ウ段：エ段：オ段=0:5:0:4:1というように、吳音ではイ段とオ段に集中しているが、漢音ではイ段とエ段に集中していることが分かる。

次に、個々の韻母をみると、ア段になるのは「i 韵母」が対応する吳音にのみみられた。そして、吳音においても漢音においてもウ段になるのは「i 韵母」のみである。また、「ing 韵母」については、吳音では全てオ段となり、漢音ではほとんどエ段になるが、例外は5字ある。その5字は、「行 xing2/hang2-漢コウ（カウ）」、「幸 xing4-漢コウ（カウ）」、「興 xing4/xing1-漢キョウ」、「硬 ying4-漢コウ（カウ）」、「応 ying4/ying1-漢ヨウ」で、全て漢音はオ段になっている。

表3-21は、韻腹が[u]である現代中国語音の韻母と吳音・漢音の主母音についての結果である。

表3-21 韵腹が[u]である現代中国語音の韻母と吳音・漢音の主母音の対応関係

現代中国語音 の韻母（字）		日本漢字音の主母音（字）						計
		ア段	イ段	ウ段	エ段	オ段		
u	109	吳音	1	1	38	0	44	84
		漢音	1	3	33	0	65	102
ong	38	吳音	0	0	14	0	1	15
		漢音	0	0	6	1	31	38
合計	147	吳音	1	1	52	0	45	99
			1.0%	1.0%	52.5%	0.0%	45.5%	100.0%
		漢音	1	3	39	1	96	140
			0.7%	2.1%	27.9%	0.7%	68.6%	100.0%

全体の比率をみた場合、若干の例外があるが、韻腹が[u]の韻母は基本ア段・イ段・エ段にならず、吳音も漢音もウ段とオ段に集中している。そして、比率で言うと、吳音ではウ段：オ段=5:5で、漢音ではウ段：オ段=3:7となっている。

個々の韻母について具体的にみていくと、以下のことが分かる。まず、「u 韵母」については、吳音の場合は、ウ段が全体の45.2%、オ段が52.4%を占めている。ウ段またはオ段にならない例外は2字あり、「幕 mu4-漢マク」と「畜 chu4/xu4-漢チク/×（記載なし）」である。漢音の場合も、ウ段が全体の32.4%、オ段が全体の63.7%を占めている。ウ段またはオ段にならない例外は4字あり、「幕 mu4-漢バク」、「畜 chu4/xu4-漢チク/キク」、「築 zhu4-漢チク」、「陸 lu4/liu4-漢リク」である。このように、「u 韵母」が対応する吳音では、ウ段とオ段の比率は同じぐらいである。一方、「u 韵母」が対応する漢音をみると、ウ段は3割で、オ段は6割を占めている。このように、オ段の方が若干多いことが分かった。次

に、「ong 韵母」については、吳音では1字がオ段以外、他の漢字は全てウ段である。その1字とは、「栄 rong2-ヨウ (エウ)」である。一方、漢音では、1字がエ段、6字がウ段となる以外、全ての漢字がオ段である。エ段になる1字は「栄 rong2-エイ」で、ウ段になる6字は「中 zhong1-チュウ」、「融 rong2-ユウ」、「終 zhong1-シウ」、「充 chong1-シウ」、「衆 zhong4-シウ」、「銃 chong4-シウ」である。

表3-22は、韻腹が[y]である現代中国語音の韻母と吳音・漢音の主母音についての結果である。

表3-22 韵腹が[y]である現代中国語音の韻母と吳音・漢音の主母音の対応関係

現代中国語音 の韻母 (字)		日本漢字音の主母音 (字)						
			ア段	イ段	ウ段	エ段	オ段	
ü	42	吳音	1	3	6	0	20	30
		漢音	0	3	10	1	25	39
ün	10	吳音	0	1	8	0	1	10
		漢音	0	1	6	0	1	8
iong	5	吳音	0	0	1	0	2	3
		漢音	0	0	0	3	2	5
合計	57	吳音	1	4	15	0	23	43
			2.3%	9.3%	34.9%	0.0%	53.5%	100.0%
		漢音	0	4	16	4	28	52
			0.0%	7.7%	30.8%	7.7%	53.8%	100.0%

まず、全体をみると、吳音も漢音もア段とエ段にはほとんどならず、イ段とウ段とオ段に集中していることが分かる。そして、吳音においても漢音においてもイ段：ウ段：オ段=1:3:5で、オ段が5割を占めて最も多いことが分かる。

次に、個々の韻母について具体的にみていくと、①「ü 韵母」については、吳音と漢音を問わず主にイ段・ウ段・オ段のいずれかになる。その中で特にオ段に集中していることが分かる。②「ün 韵母」については、吳音も漢音もほとんどウ段になる。例外は2字あり、「均 jun1-キン」、「遜 xun4-ソン」である。③「iong 韵母」字は非常に少ないが、吳音ではウ段かオ段になり、漢音ではエ段かオ段になる。

表3-23は、特別韻母「er」と吳音・漢音の主母音についての結果である。

表3-23 特別韻母「er」と吳音・漢音の主母音の対応関係

現代中国語音 の韻母 (字)		日本漢字音の主母音 (字)						
			ア段	イ段	ウ段	エ段	オ段	
er	2	吳音	0	2	0	0	0	2
		漢音	0	2	0	0	0	2

表3-23から分かるように、2級漢字には「er 韵母」字が2字（「児 er2/ni2 -ニ/×(記載なし)ニジ/ゲイ」、「二 er4-ニニニジ」）のみである。そして、この2字は、吳音も漢音もイ段であることが分かる。

## (2) 特殊拍について

3.1.2で中古音を介して導き出した現代中国語音の韵母と日本漢字音の特殊拍との対応関係（表3-5）から以下の2点がすでに分かっている。1点目は、「-n」で終わる「an」「ian」「uan」「üan」「en」「uen」「in」「ün」の8韵母は、吳音・漢音の撥音「ン」と対応している。2点目は、①「-ng」で終わる「ang」「iang」「uang」「eng」「ueng」「ing」「ong」「iong」の8韵母は、吳音・漢音の長音「ウ/イ」と対応している。②「a」「e」「i」「u」「ü」「ia」「ie」「ou」「uei」「iou」「ao」「iao」の12韵母で読む漢字は吳音・漢音において長音となる場合がある。

そこで、ここではまず、2級漢字について、現代中国語音の「an」「ian」「uan」「üan」「en」「uen」「in」「ün」8韵母と吳音・漢音の撥音（ン）の対応関係を調査した。表3-24は、その結果を示したものである。

表3-24 現代中国語音の「-n」韵母と吳音・漢音の「-ン」の対応関係

	現代中国語音		日本漢字音の特殊拍（字）			割合 (B/A)	
	韵母	字数		記載数(A)	撥音数(B)		
1	an	57	吳音	45	45	100.0%	
			漢音	55	55	100.0%	
2	ian	64	吳音	55	55	100.0%	
			漢音	60	60	100.0%	
3	uan	31	吳音	25	25	100.0%	
			漢音	29	29	100.0%	
4	üan	20	吳音	12	12	100.0%	
			漢音	20	20	100.0%	
5	en	23	吳音	22	21	95.5%	
			漢音	22	21	95.5%	
6	uen	20	吳音	17	17	100.0%	
			漢音	19	19	100.0%	
7	in	26	吳音	24	24	100.0%	
			漢音	25	25	100.0%	
8	ün	10	吳音	10	10	100.0%	
			漢音	8	8	100.0%	
合計		251	吳音	210	209	99.5%	
			漢音	238	237	99.6%	

表3-24から分かるように、「en 韵母」の1字以外、現代中国語音では「-n」韵母で読む漢字は、吳音においても漢音においても「ン」で終わっていることが分かる。例外となつ

た1字は、「肯<sup>ク</sup>コウ<sup>漢</sup>コウ」である。

次に、2級漢字（1182字）に限定した場合、現代中国語音の「a」「e」「i」「u」「ü」「ia」「ie」「ou」「uei」「iou」「ao」「iao」の12韻母と「ang」「iang」「uang」「eng」「ueng」「ing」「ong」「iong」の8韻母合計20韻母と呉音・漢音の長音の関係を調査した。表3-25は、その結果を示したものである。○で囲んでいるのは、漢音ではほとんどが長音になるが、呉音ではほとんどが長音にならない。太字部分は、呉音も漢音もほとんどが長音になる。そして、斜字体部分は、呉音も漢音もほとんどが長音にはならない。

表3-25 現代中国語音の韻母と呉音・漢音の長音の対応関係

韻母	現代中国語音		日本漢字音		対応率 (B/A)	
	字数		記載数(A)	長音数(B)		
1 a	23	呉音	18	6	33.3%	
		漢音	23	6	26.1%	
2 e	42	呉音	30	2	6.7%	
		漢音	41	2	4.9%	
3 i	183	呉音	135	7	5.2%	
		漢音	177	44	24.9%	
4 u	109	呉音	83	1	1.2%	
		漢音	102	2	2.0%	
5 ü	42	呉音	30	0	0.0%	
		漢音	39	0	0.0%	
6 ia	8	呉音	4	0	0.0%	
		漢音	8	1	12.5%	
7 ie	29	呉音	15	4	26.7%	
		漢音	27	5	18.5%	
8 ou	29	呉音	17	0	0.0%	
		漢音	28	25	89.3%	
9 uei	39	呉音	30	0	0.0%	
		漢音	38	0	0.0%	
10 iou	26	呉音	23	2	8.7%	
		漢音	25	24	96.0%	
11 ao	44	呉音	25	23	92.0%	
		漢音	42	42	100.0%	
12 iao	31	呉音	25	21	84.0%	
		漢音	29	26	89.7%	
13 ang	32	呉音	28	28	100.0%	
		漢音	29	29	100.0%	
14 iang	26	呉音	22	22	100.0%	
		漢音	25	25	100.0%	
15 uang	14	呉音	12	12	100.0%	
		漢音	13	13	100.0%	
16 eng	32	呉音	23	19	82.6%	
		漢音	29	29	100.0%	
17 ueng	0	呉音				
		漢音				
18 ing	55	呉音	41	41	100.0%	
		漢音	55	55	100.0%	
19 ong	38	呉音	15	3	20.0%	
		漢音	38	38	100.0%	
20 iong	5	呉音	3	3	100.0%	
		漢音	5	5	100.0%	
合計		呉音	579	194	33.5%	
		漢音	773	371	48.0%	

表3-25から以下の4点が分かる。1点目は、現代中国語音では「ou」「iou」「ong」の3韻母で読む漢字は、漢音ではほとんど長音になるが、吳音ではほとんど長音にならない。

2点目は、現代中国語音では「ao」「iao」「ang」「iang」「uang」「eng」「ing」「iong」の8韻母で読む漢字は、吳音も漢音もほとんど長音になる。例外は、①「ao 韵母」の「矛<sup>アオム</sup>」と「賀<sup>アモ</sup>」の2字、②「iao 韵母」の「較<sup>アカク</sup>」<sup>カク</sup>・コウ(カウ)」「角<sup>アカク</sup>」「薬<sup>アヤク</sup>」「削<sup>アサク</sup>」の4字、③「eng 韵母」の「封<sup>エンフ</sup>」「豊<sup>エンフ</sup>」「風<sup>エンフ</sup>」「夢<sup>エンム</sup>」の4字である。

3点目は、現代中国語音では「e」「u」「ia」の3韻母で読む漢字は、吳音・漢音とも長音となるものはわずかである。そのわずかとは、①「e 韵母」の「合<sup>エウ</sup>ゴウ(ゴフ)」「<sup>カフ</sup>ウ(カフ)」と「渋<sup>エウ</sup>シュウ(シフ)」の2字、②「u 韵母」の「入<sup>エウ</sup>ニユウ(ニフ)」「<sup>ジ</sup>ュウ(ジフ)」と「母<sup>エウ</sup>ボウ」の2字、③「ia 韵母」の「压<sup>エウ</sup>オウ(アフ)」の1字である。そして、「a」「ie」「i」(「i」韻母が対応する吳音ではほとんど長音ではない)の3韻母で読む漢字は、吳音と漢音では一部だけ長音になる。

4点目は、3.1.2で導き出した対応関係と異なり、現代中国語音では「ü」「uei」の2韻母で読む漢字は、吳音・漢音とも長音にならない。

### (3) 入声韻尾

3.1.2で中古音を介して導き出した現代中国語音の韻母と日本漢字音の入声韻尾との対応関係(表3-5)から分かるように、現代中国語音において「a」「ia」「ua」「ai」「uai」「ao」「iao」「e」「ei」「ou」「iou」「o」「uo」「ie」「üe」「i」「u」「ü」の18韻母で読む漢字は、入声韻尾「ク・ツ・チ・キ」で終わる場合がある。

そこで、2級漢字について、現代中国語音の「a」「ia」「ua」「ai」「uai」「ao」「iao」「e」「ei」「ou」「iou」「o」「uo」「ie」「üe」「i」「u」「ü」18韻母と吳音・漢音の入声韻尾「ク・ツ・チ・キ」の関係を調査した。表3-26は、その結果を示したものである。

表 3-26 現代中国語音の韻母と呉音・漢音の入声韻尾の対応関係

現代中国語音	韻母	字数	日本漢字音								
			記載数(A)	入声韻尾				内訳			
				合計(B)	割合(B/A)	ク	ツ	チ	キ		
1	a	23	呉音	16	6	37.5%	0	1	5	0	
			漢音	23	9	39.1%	0	9	0	0	
2	ia	8	呉音	4	0	0.0%	0	0	0	0	
			漢音	8	0	0.0%	0	0	0	0	
3	ua	8	呉音	5	0	0.0%	0	0	0	0	
			漢音	8	1	12.5%	0	1	0	0	
4	ai	37	呉音	27	2	7.4%	2	0	0	0	
			漢音	36	4	11.1%	4	0	0	0	
5	uai	2	呉音	2	0	0.0%	0	0	0	0	
			漢音	2	0	0.0%	0	0	0	0	
6	ao	44	呉音	25	0	0.0%	0	0	0	0	
			漢音	42	0	0.0%	0	0	0	0	
7	iao	31	呉音	25	4	16.0%	4	0	0	0	
			漢音	29	3	10.3%	3	0	0	0	
8	e	42	呉音	30	16	53.3%	14	0	2	0	
			漢音	41	25	61.0%	20	5	0	0	
9	ei	22	呉音	17	2	11.8%	2	0	0	0	
			漢音	20	2	10.0%	2	0	0	0	
10	ou	29	呉音	17	1	5.9%	1	0	0	0	
			漢音	28	1	3.6%	1	0	0	0	
11	iou	26	呉音	17	1	5.9%	1	0	0	0	
			漢音	28	1	3.6%	1	0	0	0	
12	o	10	呉音	6	2	33.3%	1	0	1	0	
			漢音	9	6	66.7%	4	2	0	0	
13	uo	33	呉音	21	9	42.9%	9	0	0	0	
			漢音	30	19	63.3%	14	5	0	0	
14	ie	29	呉音	15	7	46.7%	1	0	6	0	
			漢音	27	12	44.4%	0	10	0	2	
15	üe	9	呉音	8	8	100.0%	6	0	2	0	
			漢音	8	8	100.0%	5	3	0	0	
16	i	183	呉音	134	26	19.4%	15	0	4	7	
			漢音	177	47	26.6%	12	12	0	23	
17	u	109	呉音	83	26	31.3%	25	0	1	0	
			漢音	102	32	31.4%	24	8	0	0	
18	ü	42	呉音	30	6	20.0%	4	0	1	1	
			漢音	39	10	25.6%	6	3	0	1	
全体(合計)		656	呉音	462	110	23.8%	85	0	17	8	
			漢音	626	171	27.3%	96	49	0	26	

表 3-26 から以下のことが分かる。①3.1.2 で導き出した対応関係と異なり、「ia」「uai」「ao」の3 韵母については、呉音・漢音の入声韻尾との対応がみられなかった（表 3-26 中に□で囲んでいる部分）。②呉音か漢音かに関係なく、「üe 韵母」は例外なく入声韻尾と対応している。③「e 韵母」は 50%以上の対応率で入声韻尾と対応している。④漢音のみでみた場合、「o 韵母」と「uo 韵母」は、60%以上の対応率で入声韻尾と対応している。⑤入声韻尾（ク・ツ・チ・キ）の中をみると、「a 韵母」と「ie 韵母」については、呉音ではほとんど「チ」と対応するが、漢音ではほとんど「ツ」と対応している。「ua 韵母」は 1

字のみであり、漢音の「ツ」と対応している。そして、「i 韵母」については、吳音では「ク/キ/チ」に対応するが、漢音では「キ/ク/ツ」に対応する。入声韻尾の「キ」に対応する現代中国語音の韻母は少なく、「ie」「i」「ü」の3韻母のみである。この中で、「i 韵母」字が最も多い。以上の「a」「ua」「ie」「i」の4韻母以外は、ほとんどが「ク」に対応することが分かった。

#### (4) まとめ

以上、2級漢字に限定した場合の現代中国語音の韻母と日本漢字音の主母音・特殊拍・入声韻尾の対応関係について分析し考察した。その結果、以下のことが分かった。

まず、2級漢字の結果を3.1.2で導き出した対応関係と比較した結果、3.1.2で導き出した対応関係にあるが、2級漢字ではみられなかった対応が多くあった。これは、漢字の範囲を2級に限定したからだと考えられる。この点以外は、2級漢字の結果は3.1.2で導き出した対応関係と概ね一致する。

次に、3.1.2で導き出した現代中国語音の韻母と日本漢字音の主母音・特殊拍・入声韻尾の対応関係の特徴が、2級漢字においてどのように具体的に反映されているのかについて分析した結果、以下の4点が分かった。

1点目は、1つの現代中国語音の韻母に対し、対応する日本漢字音の主母音の種類が複数ある場合は多いが、その中で、主となる主母音は大体1種類か2種類に限定することができる。つまり、3.1.2で導き出した対応関係に比べて2級漢字に限定した場合では、現代中国音の韻母と日本漢字音の主母音の主たる対応関係を見出すことが可能だと言える。

2点目は、2級漢字でみた場合、「en 韵母」の1字以外、「an」「ian」などの8韻母は例外なく日本漢字音の撥音（ン）と対応している。

3点目の長音の部分では、以下のことが分かった。まず、現代中国語音では「ao」「iao」などの8韻母で読む漢字は、吳音も漢音もほとんど長音になる。次に、「ou」「iou」「ong」の3韻母で読む漢字は、漢音ではほとんど長音になるが、吳音ではほとんど長音でない。そして、「e」「u」「a」などの6韻母で読む漢字は、吳音も漢音も一部だけ長音である。最後に、現代中国語音では「ü」「uei」の2韻母で読む漢字は、吳音も漢音も長音にならない。

4点目の入声韻尾の部分では、以下のことが分かった。まず、3.1.2で導き出した対応関係と異なり、「ia」「uai」「ao」の3韻母が対応する日本漢字音には入声韻尾がみられなかった。次に、吳音か漢音かに關係なく、「üe」韻母は100%、「e」韻母は50%以上の対応率

で入声韻尾と対応している。そして、「a」「ie」韻母については、吳音ではほとんど「チ」となるが、漢音ではほとんど「ツ」となる。「a」「ua」「ie」「i」以外の韻母は、ほとんど「チ・キ・ク・ツ」中の「ク」と対応していることが分かった。

### 3.2.3.2 現代中国語音と唐音の関係

唐音は以下の理由で、吳音・漢音と別項目としてここで分析する。2級漢字（1182字）について『角川新字源改訂版』（1994）で調査した結果、唐音の記載がある漢字は21字のみであり、分析できる漢字数が非常に少ないので、別項目として取りあげることにした。表3-27は、2級漢字において記載のある唐音字とその現代中国語音、中古音、日本漢字音を示したものである。

表3-27 2級漢字において記載のある唐音字

漢字	漢字	現代中国漢字音				中古音			日本漢字音			
		声母	韻母	声調	ピンイン	字母	韻	声調	吳音	漢音	唐音	慣用音
1 茶	茶	ch	a	2	cha2	澄	麻	平	×・ダ	サ・タ	サ・×	チャ
2 箇	箇	g	e	4	ge4	見	箇	去	カ	カ	コ	
3 合	合	h	e	2	he2/ge3	匣/見	合/合	入/入	ゴウ(ゴフ)	コウ(カフ)	ゴウ(ゴフ)・カツ・ガツ	
4 司	司	s	i	1	si1	心	之	平	シ	シ	ス	
5 事	事	sh	i	4	shi4	崇	志	去	ジ	シ	ズ	
6 子	子	z	i	3	zi3/zi0	精/x	止/x	上/x	シ	シ	ス	
7 京	京	j	ing	1	jing1	見	庚	平	キョウ(キャウ)	ケイ	キン	
8 瓶	瓶	p	ing	2	ping2	並	青	平	ヘイ	ヘイ	ピン	
9 清	清	q	ing	1	qing1	清	清	平	ショウ(シャウ)	セイ	シン	
10 青	青	q	ing	1	qing1	清	青	平	ショウ(シャウ)	セイ	チン	
11 請	請	q	ing	3	qing3	清	靜	上	ジョウ(ジャウ)	セイ	シン	
12 行	行	x	ing	2	xing2/hang2/hang4/heng2	匣/匣/匣/巖/x	庚/唐/巖/x	平/平/去/x	ギョウ(ギャウ)/ゴウ(ガウ)/コウ(カウ)/なし	コウ(カウ)/コウ(カウ)/コウ(カウ)/なし	アン/x/x/x	
13 明	明	m	ing	2	ming2	明	庚	平	ミョウ(ミヤウ)		ミン	メイ
14 歩	歩	b	u	4	bu4	並	暮	去	ブ	ホ	フ	
15 胡	胡	h	u	2	hu2	匣	模	平	ゴ	コ	ウ	
16 庫	庫	k	u	4	ku4	溪	暮	去	ク	コ	ク	
17 華	華	h	ua	2	hua2/hua4	匣/匣	麻/禡	平/去	ゲ	カ(クワ)	ケ	
18 外	外	ゼロ	uai	4	wai4	疑	泰	去	ゲ	ガイ(グワイ)	ウイ(ウヰ)	
19 亂	乱	l	uan	4	luan4	來	換	去	ラン	ラン	ロン	
20 暖	暖	n	uan	3	nuan3	泥	緩	上		ダン	ノン	
21 团	団	t	uan	2	tuan2	定	桓	平	ダン		トン・ドン	

表3-27から、以下ことが分かる。中古音の字母・韻・声調から見ても、現代中国語音の声母・声調から見ても、唐音には明確な特徴がない。しかし、現代中国語音の韻母でみた場合、主母音がiまたは介音がi（いわゆるi関係韻母）と、主母音がuまたは介音がu（いわゆるu関係韻母）がほとんどである。そして、その中で、「ing韻母」が7字で全体の1/3を占めている。また、この7字は、吳音では才段拗音、漢音では主にエ段長音で終

わっているのに対し、唐音では撥音「ン」で終わっていることが分かる。

一方、この21字のうち、2級漢語において読み方として現れたのは4字のみである。この4字とは、「茶 cha2-團サ」「子 zi3-團ス」「瓶 ping2-團ビン」「団 tuan2-團トン・ドン」である。第2章の「2.1.2.1 吳音と漢音と唐音」でも述べたように、これは、唐音は日常語における使用範囲が極めて狭いため、一般の国語への影響が非常に小さいからだと考えられる。

### 3.2.3.3 現代中国語音と慣用音の関係

第2章で述べたように、慣用音は、韻書・音義の反切及び韻図に基づいて演繹的に決定せられた吳音・漢音形と異なり、日本の具体的文献に見出される字音形の通称である。誤読が定着したもの、音便から生じた誤用、由来の不明なものなど、その内実は非常に複雑である。このような慣用音の性質から吳音・漢音・唐音と異なるため、別項目として取り扱うこととした。

2級漢字（1182字）について、『角川新字源改訂版』（1994）で調査した結果、慣用音の記載がある漢字が170字であり、2級漢語レベルの読み方として現れたのは125字<sup>7</sup>（全体170字の73.5%）である。つまり、慣用音の記載がある漢字の7割以上が2級漢字でも慣用音として讀んでいることが分かる。では、現代中国語音からみた際に、これらの慣用音字にはどういう特徴があるのだろうか。以下、中国語音の声母及び韻母という視点から、どういうものがよく慣用音で讀まれるかについて、以上の170字を分析する。

まず、現代中国語音の声母という視点から分析を行う。表3-28は170字について、現代中国語音の声母を唇音、舌音、舌根音、舌面音、そり舌音、歯音そしてゼロ声母の順に並べた分析データである。

<sup>7</sup> 125字のうち、日本漢字音が1種類は101字、2種類は24字である。

表 3-28 現代中国語音（声母順）と慣用音

漢字	声母	韻母	声調	ピンイン	日本漢字音			
					吳音	漢音	唐音	慣用音
1 板	b	an	3	ban3	ハン	ハン		パン
2 保	b	ao	3	bao3		ホウ（ハウ）		ホ
3 爆	b	ao	4	bao4		ホウ（ハウ）		バク
4 暴	b	ao	4	bao4/pu4	ボウ（バウ）/ボク	×/ホク		×/バク
5 便	b	ian	4	bian4/pian2	ベン	ヘン		ビン
6 別	b	ie	2	bie2/bie4	ベチ			ベツ
7 博	b	o	2	bo2		ハク		バク
8 不	b	u	4	bu4		フツ		フ
9 冊	c	e	4	ce4		サク		サツ
10 測	c	e	4	ce4				ソク
11 次	c	i	4	ci4	シ	シ		ジ
12 寸	c	uen	4	cun4		ゾン		スン
13 差	ch	a	1	cha1/cha4/cha11/chai4/ci1	×/×/×/ ×/シ	サ/サ/サイ/ サイ/シ		×/×/サ/ ×/×
14 茶	ch	a	2	cha2	×・ダ	サ・タ	サ・×	チャ
15 喫	ch	i	1	chi1		ケキ		キツ
170 危	ゼロ	uei	1	wei1				キ

以上のデータを声母ごとにまとめ、慣用音との関係について分析した。その結果を表3-29に示す。

表 3-29 慣用音 170 字を現代中国語音で読む場合（声母）

現代中国語音の声母		字数(A)	全体割合(=A/170)	
唇音	b	8	4.7%	26.5%
	p	9	5.3%	
	m	13	7.6%	
	f	15	8.8%	
舌音	d	3	1.8%	15.3%
	t	14	8.2%	
	n	6	3.5%	
	l	3	1.8%	
舌根音	g	4	2.4%	7.6%
	k	2	1.2%	
	h	7	4.1%	
舌面音	j	12	7.1%	12.4%
	q	2	1.2%	
	x	7	4.1%	
そり舌音	zh	12	7.1%	22.9%
	ch	6	3.5%	
	sh	16	9.4%	
	r	5	2.9%	
歯音	z	8	4.7%	7.6%
	c	4	2.4%	
	s	1	0.6%	
合計		170	100.0%	100.0%

表3-29から分かるように、現代中国語音の個々の声母からみると、慣用音170字は、特定の声母に集中することなく、万遍なく全ての声母に入っていることが分かる。

しかし、個々の声母ではなく、唇音、舌音、舌根音、舌面音、そり舌音、歯音そしてゼロ声母という視点でみた場合、唇音(26.5%)とそり舌音(22.9%)を合わせて全体の49.4%を占めることになるため、唇音とそり舌音が慣用音170字の半分を占めていることが分かる。このことから、慣用音字(170字)のみをみた場合は、現代中国語音の声母には特徴が見られ、唇音声母とそり舌音声母が多いことが分かった。

しかし、このことは2級漢字(1182字)でみた場合においても言えるだろうか。そこで、2級漢字について、慣用音の記載がある漢字の字数と全体(つまり呉音・漢音・唐音・慣用音全部含めた場合)の字数を調査した。その結果を表3-30に示す。

表3-30 声母ごとの慣用音と日本漢字音の字数

現代中国語音 の声母	慣用音の記載 のある字数(A)	呉音・漢音・唐音・慣 用音の合計字数(B)	割合 (=A/B)
唇音	b	8	15.7%
	p	9	39.1%
	m	13	26.0%
	f	15	35.7%
舌音	d	3	4.9%
	t	14	31.1%
	n	6	33.3%
	l	3	5.4%
舌根音	g	4	8.2%
	k	2	8.0%
	h	7	15.6%
舌面音	j	12	10.8%
	q	2	4.3%
	x	7	8.8%
そり舌音	zh	12	13.6%
	ch	6	15.4%
	sh	16	20.0%
	r	5	29.4%
歯音	z	8	21.6%
	c	4	13.8%
	s	1	3.7%
	ゼロ	13	8.0%
合計	170	1182	14.4%

表3-30から分かるように、慣用音の字数が全体の字数を占める割合が3割程度(網掛け部分)の声母は、「p」「m」「f」「t」「n」「r」の6声母である。つまり、2級漢字でみた場合でも、唇音声母(「p」「m」「f」)とそり舌音声母(「r」)で読む漢字を慣用音として読む可能性は他の声母字より若干高いことが言える。

次に、韻母の観点から慣用音の特徴を考察する。まず、現代中国語音の主母音という観

点から分析を行う。表3-31は170字について、現代中国語音の韻母を昇順に並べた分析データである。

表3-31 現代中国語音（韻母順）と慣用音

漢字	漢字	現代中国語音				日本漢字音			
		声母	韻母	声調	ピンイン	吳音	漢音	唐音	慣用音
1	差	ch	a	1	cha1/cha4/ chai1/chai 4/ci1	×/×/×/× /シ	サ/サ/サイ/ サイ/シ		×/×/サ/ ×/×
2	発	f	a	1	fal	ホチ	ハツ		ホツ
3	法	f	a	3	fa3	ホウ(ホフ)	ホウ(ハフ)		ホッ/ハツ
4	罰	f	a	2	fa2	バチ	ハツ		バツ
5	納	n	a	4	na4	ノウ(ナフ)	ドウ(ダフ)		トウ(タ フ)・ナ・ ナン・ ナッ
6	茶	ch	a	2	cha2	×・ダ	サ・タ	サ・×	チャ
7	雑	z	a	2	za2	ゾウ(ザフ)	ゾウ(サフ)		ザツ
8	概	g	ai	4	gai4	カイ	カイ		ガイ
9	壳	m	ai	4	mai4		バイ		マイ
10	派	p	ai	4	pai4/pal		ハイ		ハ
11	拍	p	ai	1	pail		ハク		ヒョウ (ヒヤウ)
12	汰	t	ai	4	tai4	タイ	タイ		タ
13	太	t	ai	4	tai4	タイ	タイ		タ
14	再	z	ai	4	zai4	サイ	サイ		サ
15	台	t	ai	2	tai2/tail	ダイ・タイ/ ×	タイ・タイ/ ×		×・ダイ/ ×
170	妥	t	uo	3	tuo3		タ		ダ

以上のデータを韻母ごとにまとめ、慣用音との関係を分析した結果を表3-32に示す。

表 3-32 慣用音 170 字を現代中国語音で読む場合（韻母）

現代中国語音の韻母	字数(A)	割合(=A/170)	
韻腹が [a]	a	7	4.1%
	ia	1	0.6%
	ua	2	1.2%
	ai	8	4.7%
	uai	0	0.0%
	ao	8	4.7%
	iao	0	0.0%
	an	7	4.1%
	ian	8	4.7%
	uan	0	0.0%
	üan	3	1.8%
	ang	2	1.2%
	iang	4	2.4%
	uang	0	0.0%
韻腹が [ə]	e	10	5.9%
	ei	0	0.0%
	uei	4	2.4%
	ou	8	4.7%
	iou	2	1.2%
	en	2	1.2%
	uen	2	1.2%
	eng	6	3.5%
	ueng	0	0.0%
韻腹が [o]	o	2	1.2%
	uo	3	1.8%
韻腹が [e]	ie	4	2.4%
	üe	2	1.2%
韻腹が [i]	i	21	12.4%
	in	1	0.6%
	ing	9	5.3%
韻腹が [u]	u	21	12.4%
	ong	14	8.2%
韻腹が [y]	ü	7	4.1%
	ün	2	1.2%
	iong	0	0.0%
	er	0	0.0%
合計	170	100.0%	100.0%

この 170 字について、現代中国語音の韻腹でみた場合、[a] [ə] [i] [u] 韵腹がそれぞれ 2 割ずつ占めていることが分かる。つまり、特定の韻腹に集中することはない。一方、現代中国語音の個々の韻母でみた場合、他の韻母に比べ「u 韵母」が 12.4% で 1 割を超えていることが分かる。しかし、この特徴は、2 級漢字（1182 字）においても、言えるのだろうか。そこで、2 級漢字について、慣用音の記載がある漢字の字数と全体（つまり呉音・漢音・唐音・慣用音全部含めた場合）の字数を調査した。その結果を表 3-33 に示す。

表 3-33 韻母ごとの慣用音と日本漢字音の字数

現代中国語音 の韻母	慣用音の記載が ある字数(A)	呉音・漢音・唐音・ 慣用音の合計字数(B)	割合 (=A/B)
韻腹が[a]	a	7	23
	ia	1	8
	ua	2	8
	ai	8	37
	uai	0	2
	ao	8	44
	iao	0	31
	an	7	57
	ian	8	65
	uan	0	31
	üan	3	20
	ang	2	32
	iang	4	26
	uang	0	14
韻腹が[ə]	e	10	42
	ei	0	22
	uei	4	39
	ou	8	29
	iou	2	26
	en	2	23
	uen	2	20
	eng	6	32
	ueng	0	0
韻腹が[o]	o	2	10
	uo	3	33
韻腹が[e]	ie	4	29
	üe	2	9
韻腹が[i]	i	21	183
	in	1	26
	ing	9	55
韻腹が[u]	u	21	109
	ong	14	38
韻腹が[y]	ü	7	42
	ün	2	10
	iong	0	5
	er	0	2
合計	170	1182	14.4%

表 3-33 から分かるように、「u 韵母」の割合は最も高いということではない。ここでは、慣用音の字数が全体の字数を占める割合が 3 割以上の韵母は、「a」「ong」の 2 韵母である。つまり、2 級漢字（1182 字）でみた場合では、この 2 韵母で読む漢字は慣用音で読む可能性が他の韵母字より若干高い。

以上、中国語音の声母及び韵母という視点から、どんな漢字がよく慣用音となるかについて分析した。その結果、①慣用音字（170 字）で分析した場合、声母では唇音声母とそり舌音声母、韵母では「u 韵母」で読む漢字が占める割合が最も大きいことが分かった。②2 級漢字（1182 字）で分析した場合、声母では唇音・舌音・そり舌音声母、韵母では「a」

「ong」の2韻母で読む漢字が慣用音となる可能性が若干高いことが分かった。①と②をまとめるに、唇音声母とそり舌音声母で読む漢字は慣用音で読む可能性が他の声母字より高いと言える。

### 3.3 本章のまとめ

3.1では、中古音を介して現代中国語音と日本漢字音の対応関係を導き出した。現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音の対応関係は表3-2に示し、現代中国語音の韻母と日本漢字音の主母音・特殊拍・入声韻尾の対応関係は表3-5に示している。そして、導き出されたこの対応関係には、どのような特徴があるのかを考察した。

現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音の対応関係では、以下の2点がみられた。第一に、現代中国語音で「b」「p」「f」などの15声母のいずれかで読む漢字は、呉音では清音または濁音になるが、漢音では全て清音になる。第二に、現代中国語音で「m」「n」「r」の3声母のいずれかで読む漢字は、呉音では基本鼻音になるが、漢音では基本濁音になる。「ゼロ声母」は一部のみ呉音では鼻音、漢音では濁音になる。

一方、韻母と日本漢字音の主母音・特殊拍・入声韻尾の対応関係では、以下の4点がみられた。第一に、同じ韻母であっても呉音と漢音の主母音が異なる場合が多い。第二に、「-n」で終わる「an」「ian」などの8韻母は呉音・漢音の撥音「ン」と対応している。第三に、①「-ng」で終わる「ang」「iang」などの8韻母は長音「ウ/イ」と対応している。②「a」「e」などの12韻母で読む漢字は呉音・漢音において長音である場合がある。第四に、現代中国語音において「a」「ia」「ua」「ai」などの18韻母のいずれかで読む漢字は、呉音・漢音では入声韻尾「ク・ツ・チ・キ」で終わる場合がある。

3.2では、2級漢字に限定し、現代中国語音と日本漢字音の対応関係を調査した。その調査結果を3.1で導き出した漢字全体に適用可能な対応関係と比較し、どの程度一致しているのか、そしてその特徴をどのように反映しているのかについてさらに調べて分析した。その結果、現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音の対応関係については、一部においてはズレがあるが、全体的にみれば一致していることが分かった。一方、現代中国語音の韻母と日本漢字音の主母音・特殊拍・入声韻尾の対応関係については、導き出した対応関係からはみ出すものはあまりないが、導き出した対応関係にみられたが2級漢字にみられなかった関係は多くあった。それは、漢字の範囲を2級に限定したからだと考えられる。

3.1で導き出した漢字全体に適用可能な対応関係の特徴は、2級漢字において、どのように表れているのかについて分析した結果、以下のことが分かった。

まず、現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音の対応関係については、以下の2点が分かった。1点目は、現代中国語では「b」「p」「f」などの15声母のいずれかで読む漢字について、呉音では大半が清音で、一部が濁音である。それに対し、漢音では全て清音である。そして、呉音の記載がある漢字について調査した結果、濁音となる漢字は現代中国語音の声母と声調の組み合わせに特徴があることが分かった。2点目は、「m」「n」「r」3声母共通して、呉音では鼻音、漢音では濁音となっている。そして、例外の中で、現代中国語音では「rong2」と読む漢字は、呉音も漢音もほとんど「ヤ行」になることが分かった。

次に、現代中国語音の韻母と日本漢字音の主母音・特殊拍・入声韻尾の対応関係については、以下の4点が分かった。1点目は、現代中国語音の各韻母と呉音・漢音の主母音との対応関係は一对一ではなく、複数ある場合が多いが、その中で、主たる対応関係を見出すことが可能である。2点目は、1字以外「-n」で終わる「an」「ian」などの8韻母は例外なく日本漢字音の撥音（ン）と対応している。3点目は、①「-ng」で終わる韻母と長音の対応について、例外は「封圓フ」「豊圓フ」「風圓フ」「夢圓ム」の4字のみである。②「ao」「iao」の2韻母で読む漢字は、呉音・漢音ともほぼ長音となる。「e」「u」「a」などの6韻母で読む漢字は、呉音も漢音も一部だけ長音となる。「ü」「uei」の2韻母で読む漢字は、呉音・漢音とも長音で読まない。4点目は、①「ia」「uai」「ao」の3韻母が対応する日本漢字音には入声韻尾がみられなかった。②呉音が漢音かに關係なく、「üe 韵母」は100%、「e 韵母」は50%以上の対応率で入声韻尾に対応している。③「a 韵母」と「ie 韵母」については、呉音ではほとんど「チ」となるが、漢音ではほとんど「ツ」となる。④「a」「ua」「ie」「i」4韻母以外の韻母は、ほとんど「チ・キ・ク・ツ」中の「ク」と対応している。

呉音・漢音の次に、2級漢字の中で唐音の記載がある漢字について、現代中国語音と唐音の関係も調査した。その結果、現代中国語音の韻母でみた場合、ほとんどが「i 関係の韻母」と「u 関係の韻母」が占めている。そして、その中で、「ing 韵母」が7字で全体の1/3を占めており、それに対応する唐音は撥音「ン」で終わっていることが分かった。

唐音の次に、2級漢字の中で慣用音の記載がある漢字について、現代中国語音の声母及び韻母という視点から、どういうものがよく慣用音となるかについて分析した。その結果、唇音声母とそり舌音声母で読む漢字は慣用音で読む可能性が他の声母字より高いことが分かった。

## 第4章 現代中国語音と日本漢字音の基本対応規則 —2級新出漢語の使用漢字について—

第3章では、中古音を介して現代中国語音と日本漢字音の対応関係を導き出した。そして、2級漢字に限定した場合の現代中国語音と日本漢字音の対応関係は、中古音を介して導き出した漢字全体に適用可能な対応関係に概ね一致することが分かった。では、これまで、この対応関係を日本語教育に活用しようとする先行研究にはどのようなものがあるのだろうか。現代中国語音と日本漢字音の対応関係をどのように利用すれば最も有効なのだろうか。本章では、基本対応規則を中心に、学習者にとって利用可能な対応規則にはどのようなものがあるのかについて分析し、検討する。ここでは、序論で述べたように旧試験3級レベルの中国語話者を対象学習者とし、2級新出漢字<sup>1</sup>を対象漢字とする。

### 4.1 先行研究と本章の目的

#### 4.1.1 先行研究の概観

現代中国語音と日本漢字音の対応関係を調査した研究は数多くある。以下、1) 現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音、2) 現代中国語音の韻母と日本漢字音の頭子音以外の部分という2つの側面から、現代中国語音と日本漢字音の対応関係に関連のある代表的な先行研究を年代順に取りあげる。

三好 (1993, p. 88)<sup>2</sup>は、「調査対象とした資料は、常用漢字—1945字<sup>3</sup>—についてである。それぞれの常用漢字の中国語普通話音を一字ずつ調べ、日本漢字音は頭子音と残りの部分、中国語普通話音は声母と韻母とにそれぞれ分解し、対照させた。」と述べている。表4-1と表4-2は、その結果から一部を抜粋したものである。表4-1は現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音との対照結果（一部）で、表4-2は現代中国語音の韻母と日本漢字音の「末部分」との対照結果（一部）である。

<sup>1</sup> 第1章で述べたように、「2級新出漢字」とは、「2級新出漢語」で使われている漢字である。「2級新出漢語」とは、旧試験3級から2級までの間に学習する漢語のことである。

<sup>2</sup> 三好理恵子「中国語（普通話）を第一言語とする日本語学習者のための中漢字音対照研究」『日本語教育研究』26、1993、pp. 87-102。

<sup>3</sup> 1981年内閣告示第1号である。（筆者注）

表4-1 現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音（三好、1993）

現代中国語音の声母	日本漢字音の頭子音	例数	例字
b	はへほ	55	把波霸排杯(後略)
	ひ	17	比彼卑被悲(後略)
	ばびぶべぼ	14	倍爆抜備鼻(後略)
	ふ	3	不布怖
p	はへほ	17	派破併配排(後略)
	ぱびぼ	12	婆培陪賠盤(後略)
	ひ	11	皮批披疲匹(後略)
	ふ	3	普譜噴
m	まみむめも	42	麻摩磨魔每(後略)
	ばびべぼ	31	馬壳梅媒買(後略)
	ひ	2	泌泌
f	ふ	35	夫父付扶府(後略)
	はへほ	26	肺廢發髮反(後略)
	ばぶぼ	15	縛伐罰闇番(後略)
	ひ	7	妃否肥非飛(後略)

「b 声母」を例に、表4-1を説明する。常用漢字（1945字）に限定した場合、現代中国語音の「b 声母」で読む漢字は、日本漢字音では以下の4パターンのいずれかになる。①最初の音が「は、へ、ほ」の漢字は55例ある。この55例とは、「把、波、霸、排、杯（後略）」である。②最初の音が「ひ」の漢字が17例で、「比、彼、卑、被、悲（後略）」である。③最初の音が「ば、び、ぶ、べ、ぼ」の漢字は14例で、「倍、爆、抜、備、鼻（後略）」である。④最初の音が「ふ」の漢字は3例で、「不、布、怖」である。このように、三好（1993）は、日本漢字音の頭子音を「ハ行」や「バ行」などにまとめるのではなく、「はへほ」「ひ」「ばびぶべぼ」「ふ」というような形で具体的に調査し、例数と例字を提示している。

表4-2 現代中国語音の韻母と日本漢字音の「末部分」（三好、1993）

現代中国語音の韻母	例数	例字
a	33	查砂差詐他(後略)
o	19	伯泊迫舶博(後略)
uo	50	火果菓貨渦(後略)
e	60	可何河科荷(後略)
ie	42	謁結傑潔切(後略)
üe	22	悦越閑欠穴(後略)

「a」韻母を例に、表4-2を説明する。常用漢字（1945字）に限定した場合、現代中国

語音の「a 韵母」で読む漢字は 33 例ある。この 33 例とは、「查 (サ)、砂 (サ)、差 (サ)、詐 (サ)、他 (タ) (後略)」(読み方は筆者) である。このように、現代中国語音の韵母と日本漢字音の「末部分」との対照結果(表 4-2)について、三好(1993)は、現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音との対照結果(表 4-1)のように、日本漢字音の「末部分」を詳しく明記はしていない。

三好(1993, p. 92)は、「小論では常用漢字の中国漢字音に基づく分類を試みたわけであるが、この資料をもとにして中国語を第一言語とする日本語学習者が犯しやすいと思われる読みの誤りを推定し、漢字テストを作成し、実施調査を行いたい。日本語教師とはどれだけ多くのことを短時間に効率よく学生に提示し、定着させることができるかでその真価が問われるのだと思う。」と述べている。このように、三好(1993)は、日本語教師が漢字テストを作成する際に参考になるように対照結果を示すことに留まっており、学習者が日本漢字音を学習するのに役立つように分析していない。

戸田(2003, p. 56)<sup>4</sup>は、「現場の日本語教育に役立つことを念頭に、特に初級段階を終えたあとの中・上級の漢字・語彙教育に役立つ具体的な法則を提示したいと考えている。」と述べている。そのため、「日本人が現代の国語を書き表わす場合の漢字使用の基準になっている常用漢字表(1981年内閣告示第 1 号)にある漢字 1945 字を取り上げ、そのうち訓のみで音を持たない漢字 40 字と、国字でありながら音を持っているものの中国語音を持たない漢字 2 字(働—ドウ、屏—ハイ)を除いた合計 1903 字を調査の対象とした。そしてこの 1903 字について常用漢字表の音訓欄にある総計 2185<sup>5</sup> のすべての音(漢字音)を取り上げ、現代中国語音とを対照させた。次に日本の漢字音を中国語の音韻体系に従い分類整理を試みた。」と述べている。その結果の一部を表 4-3 と表 4-4 に示す。表 4-3 は現代中国語音の「b、p、m、f」声母と日本漢字音の頭子音の対応で、表 4-4 は現代中国語音の「ゼロ声母<sup>6</sup>(介音なし)」と日本漢字音の頭子音の対応の結果である。

<sup>4</sup> 戸田昌幸「現代中国語に対応する日本語常用漢字音との対照分析」『麗澤大学論叢』14、2003、pp. 55-86。

<sup>5</sup> 延べ数である。(筆者注)

<sup>6</sup> 第 2 章で述べたように、「ゼロ声母」とは声母がないもののことである。

表4-3 現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音（戸田、2003）

中国語	日本語	ハ行			バ行		マ行		タ行		計	
		ha, hi, he, ho	hu	hy-	ba~bo	by-	ma~mo	my-	ta, te, to			
両唇音	b	69	4	7	19	1	—	—	—	100(100%)		
		80(80.0%)			20(20.0%)		—		—			
	p	25	3	4	15	1	—	—	—	48(100%)		
		32(66.7%)			16(33.3%)		—		—			
唇歯音	m	3	—	—	31	4	43	5	—	86(100%)		
		3(3.5%)			35(41.7%)		48(55.8%)		—			
	f	40	39	—	19	—	—	—	1	99(100%)		
		79(79.8%)			19(19.2%)		—		1(1.0%)			
計		137	46	11	84	6	43	5	1	333(100%)		
194(58.3)					90(27.0%)		48(55.8%)		1(0.3%)			

「b 声母」を例に、表4-3を説明する。まず、常用漢字（1945字）に限定した場合、現代中国語音の「b 声母」で読む漢字が100字ある。そのうち、日本漢字音で、最初の音が「ハ行」である漢字は80例、「バ行」である漢字は20例ある。そして、「ハ行」（80例）のうち、「は、ひ、へ、ほ」となるのは69例、「ふ」となるのは4例、「ひや、ひゅ、ひょ」となるのは7例である。一方、「バ行」（20例）のうち、「ば、び、ぶ、べ、ぼ」となるのは19例、「びや、びゅ、びょ」となるのは1例である。このように、「b 声母」と「は、ひ、へ、ほ」や「ふ」などと対応する漢字の数を示している点については、戸田（2003）は三好（1993）と同じである。しかし、「b 声母」が対応する日本漢字音の子音を「ハ行」と「バ行」にまとめている点については、三好（1993）と異なっている。筆者は、戸田（2003）の見解に賛成である。なぜなら、音声学的には「は、ひ、へ、ほ」と「ふ」とは、子音が異なるという点で区別が必要であるが、学習者にとってこの区別は必要ない。その意味で、「ハ行」にまとめて提示したほうがよいと思われる。

また、戸田（2003）は対応の確率（本研究では、以下「対応率」という）という考えを取り入れ、常用漢字（1945字）に限定した場合、現代中国語音の「b 声母」で読む漢字は、80%が日本漢字音で「ハ行」となり、20%が「バ行」となることを示している。この対応率の言及は日本漢字音教育にとって非常に重要であると考えられる。なぜなら、対応率を提示することで、「ハ行」と「バ行」のどちらの対応率が高いか、そしてどのぐらい高いかが分かる。そのことが、学習者がある漢字を推測する際に「ハ行」かそれとも「バ行」かで迷う場合の参考となると考えられるからである。

以上の2点のほか、三好（1993）では提示していない「ゼロ声母」と日本漢字音の頭子

音との対応についても、戸田（2003）では調査している。その結果の一部であるゼロ声母（介音なし）を表4-4に示す。

表4-4 現代中国語音のゼロ声母（介音なし）と日本漢字音の頭子音（戸田、2003）

中国語	日本語	ア行					ガ行	ザ行	ナ行	ヤ行	計
		a	i	u	e	o	ga~go	za~zo	na~no	ya, yu, yo	
ゼロ声母・介音なし	a										0
	o										0
	e	1					2			1	4
		1									
	er							2	3		5
	ai	2									2
		2									
	ei										0
	ao					2					2
						2					3
計		6	0	0	0	5	4 (19.0%)	2 (9.5%)	3 (14.3%)	1 (5.0%)	21 (100%)
11(52.4%)											

「ゼロ声母&a 韵母<sup>7</sup>」と「ゼロ声母&e 韵母」を例に、表4-4を説明する。常用漢字（1945字）に限定した場合、現代中国語音の「ゼロ声母&a 韵母」で読む漢字はないが、「ゼロ声母&e 韵母」で読む漢字は4字ある。そのうち、日本漢字音では「ア行」となるのが1字で、「ガ行」となるのが2字で、「ヤ行」となるのが1字である。このように、戸田（2003）では、現代中国語音の「ゼロ声母（介音なし）」と日本漢字音の「ア行」「ガ行」「ザ行」「ナ行」「ヤ行」との対応に従う漢字の数を示している。

このように、三好（1993）と比較した場合、戸田（2003）は日本漢字音の頭子音を簡潔にまとめており、対応率と現代中国語音の「ゼロ声母」についても言及している。これらの分析は、現場の日本語教育（漢字・語彙教育）において活用できる法則を導き出すために非常に必要である。しかし、戸田（2003）では、現代中国語音の韵母と日本漢字音につ

<sup>7</sup> ゼロ声母&a 韵母は、声母はないが、韵母は「a」である場合を意味する。以下同様。

いては言及していない。この点について、戸田（2003、p. 73）は、「ゼロ声母は声母なし」ということであるので、日本漢字音の子音の部分との対応というより、本来は韻母と日本漢字音の対応、特に第1拍音節及び第2拍音節の母音部分との対照分析を行う必要がある。次回の課題としたい。」というように課題を述べている。

一方、刑・山本・菊池（2010、p. 212）<sup>8</sup>は、「中国語ピンインと日本語音読みの対応規則を導出し、それを利用する漢字読み方学習システムを構築し、さらに中国人留学生による実験から対応規則利用の有効性を検証する。」と述べている。そして、導き出した対応規則の中に、表4-5のような規則がある。表4-5は、現代中国語音の「b声母」と日本漢字音の対応である。

表4-5 現代中国語音の声母と日本漢字音（刑・山本・菊池、2010）

韻母	声母[b]	韻母	声母[b]
[a]	ばつ(抜)	[i]	ひ(比)、び(鼻)、ひつ(筆)
[ai]	はく(白)、はい(敗)	[ian]	へん(辺)、べん(便)
[an]	はん(半)	[iao]	ひょう(表)
[ang]	ぼう(棒)	[ie]	べつ(別)
[ao]	ほう(報)	[in]	ひん(貧)
[ei]	は(杯)、倍(ばい)、ひ(被)、び(備)	[ing]	ひょう(氷)、びょう(病)、へい(兵)
[en]	ほん(本)	[o]	はく(泊)
[eng]	ほう(崩)	[u]	ぶ(部)

このように、刑・山本・菊池（2010）では、現代中国語音の「b声母」と各韻母（「a韻母」「ai韻母」「an韻母」など）が組み合わさった音節と日本漢字音の対応関係が提示されている。例えば、「b声母」と「a韻母」が組み合わさった「ba」という現代中国語音で読む漢字は、日本漢字音では「バツ」と読む。その例として、「抜」が挙げられる。同様に、「b声母」と「ai韻母」が組み合わさった「bai」という現代中国語音で読む漢字は、日本漢字音では「ハク」または「ハイ」と読む。それぞれの例として、「白」と「敗」が挙げられる。このように、「b声母」と各韻母が組み合わさった現代中国音が対応する日本漢字音は「バツ」「ハク」「ハイ」などの計25種類ある。「b声母」と同様に、「c声母」の場合は13種類、「ch声母」の場合は17種類、「d声母」の場合は20種類ある。その結果について、刑・山本・菊池（2010、p. 214）は「中国語ピンインの声母は23種類、韻母は40種類であ

<sup>8</sup> 刑振雷・山本秀樹・菊地章「ピンインと音読みの関係に基づいた漢字音読み学習システム」『教育システム情報学会誌』27-2、2010、pp. 211-220。

り、組み合わせると 920 種類になる。この中で中国語ピンインに対応する日本語漢字がない場合もあるため、結果として 384 種類の日本語音読み対応規則を得た。」と述べている。

刑・山本・菊池（2010）は、対応規則を導き出した後、対応規則の有効性の確認を行った。そのことについて、刑・山本・菊池（2010、p. 214）は、「日本語の熟語と読み方の対応表を用いた[評価試験 1]と中国語ピンインと日本語音読みの対応規則を用いた[評価試験 2]の二つの試験を行った。これにより、対応規則利用の有効性を調べた。」と述べている。

評価試験 1 の概要について、刑・山本・菊池（2010、p. 214）は以下のように述べている。試験対象は、「日本語能力検定試験が 2 級に届かない日本語初級レベルの中国人の留学生 5 名」である。試験問題は「日本語能力試験 1 級の 2006 年と 2007 年の試験問題の語彙試験の中の音読みに対応する熟語 50 個」である。試験内容は、「①50 個の問題が記載されている A4 サイズの試験用紙 1 枚を解答者に渡し、20 分間で音読みを解答させる。②50 個の問題・解答表を解答者に渡して 10 分間学習させる。③短期的な記憶を忘れさせることを目的として、10 分間雑談する。④全員ができなかつた問題 25 個を選び、再試験を行う。」の 4 点である。

評価試験 2 の概要について、刑・山本・菊池（2010、p. 214）は以下のように述べている。試験対象は、「評価試験 1 と同じ解答者」である。試験問題は、「50 個の熟語の試験問題ですべての熟語の中の二つ以上の熟語の漢字が同じピンインを持つように構成した問題」である。試験内容は、「①50 個の問題が記載されている A4 サイズの試験用紙 1 枚を解答者に渡し、20 分間で音読みを解答させる。②50 個の問題・解答表と 384 個の対応規則表を解答者に渡して 10 分間学習させる。③短期的な記憶を忘れさせることを目的として、10 分間雑談する。④全員ができなかつた問題 25 個を選び、再試験を行う。」の 4 点である。

試験の結果について、刑・山本・菊池（2010、p. 215）は、「すべての学習者で、対応規則を利用しない[評価試験 1]より対応規則を利用した[評価試験 2]の方が学習効果の向上が見られた。なお、評価試験後に学習者全員から対応規則表が欲しいと言われたことからも、対応規則を利用する漢字音読み学習が有効であると思われる。」と述べている。

対応規則の有効性を検証した後、刑・山本・菊池（2010）はコンピューターを利用し、対応規則を学習できるシステムを構築した。実際に構築されたシステムには、図 4-1 と図 4-2 のようなものある。図 4-1 と図 4-2 は、それぞれ刑・山本・菊池（2010）から抜粋した漢字学習画面と学習熟語（再）試験画面である。

第4章 現代中国語音と日本漢字音の基本対応規則  
—2級新出漢語の使用漢字について—

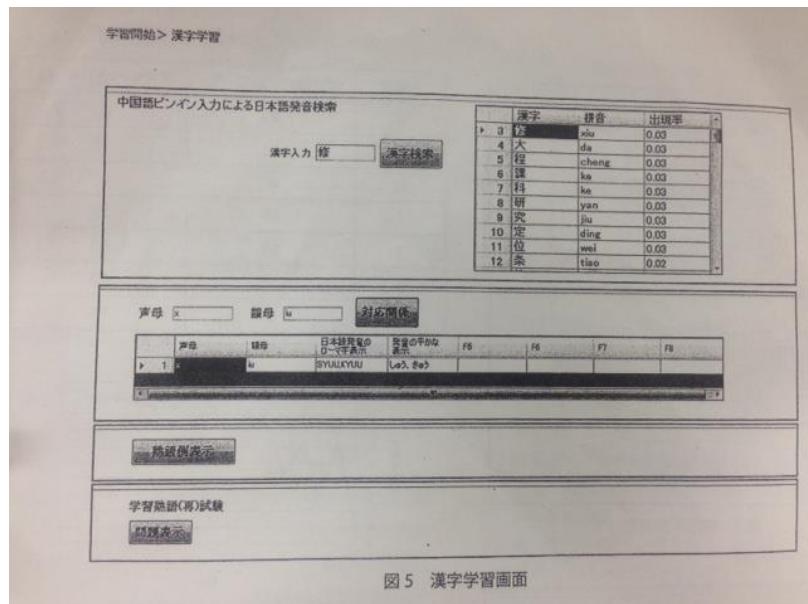


図5 漢字学習画面

図4-1 漢字学習画面

問題	解答	採点
1 学修	がくしゅう	レ
2 調修	きしゅう	レ
3 修学	しゅうがく	レ
4 修業	しゅうぎょう	×
5 修士	しゅうし	レ
6 修得	しゅうとく	レ
7 修了	しゅうりょう	×
8 修了者	しゅうりょうしゃ	×
9 専修	せんしゅう	レ
10 資修	りしゅう	レ

採点

再試験

入力漢字  
使用例

漢字学習

熟語学習

図7 学習熟語（再）試験

図4-2 学習熟語（再）試験画面

最後に、この漢字読み方学習システムの有効性及び学習者からのシステム利用の感想について、刑・山本・菊池（2010、p.219）は以下のように述べている。

学習の回数が増加するとともに徐々に成績が向上する様子が分かった。(中略) 実験後、システム利用の感想を学習者に中国語で聞くと、次の回答を得た。(1) 日本語音読みは中国語の影響があることは知っていたが、対応関係があることは知らなかつた。(2) 日本語漢字使用例が表示されるため、予想した発音が合っているかどうか分かりやすかつた。(3) 中国語ピンインから日本語音読みを予想するのはゲームみたいで面白かつた。(4) このシステムを使うと得点があがり、日本語発音が楽にできるようになった。(5) 最初、対応関係を覚えるのに時間がかかつたが、途中から対応規則の利用が楽になり、また使ってみたいと思った。(6) 同じ中国語ピンインの日本語音読みが予想できるようになつた。このように、学習者からは全て好意的な回答を得ており、また実験結果から見て学習システムの利用が有効であることが分かつた。

刑・山本・菊池（2010）のように、辞書などに基づき対応規則を導き出し、その導き出した対応規則を利用する学習システムを構築し、最後に検証するという試みは、日本漢字音教育のために非常に重要であると考えられる。ただし、刑・山本・菊池（2010）で導き出した対応規則は384種類もある。これらは学習者にとって本当に利用可能な対応規則と言えるのだろうか。

杜（2011、p.16）<sup>9</sup>は、「本稿は日本常用漢字表<sup>10</sup>にあげられている日本漢字音と現代中国語音との対照を中国人日本語学習者に対する漢字音の学習に役立つという見地から、日本漢字音と中国漢字音の対応関係を提示するのが目的とする（ただし、現代中国語音の標準語としての『普通話』に既に消滅入声音は別稿で扱う。）」と述べている。以下、杜（2011、p.21）で示された「b、p、m、f」声母と日本漢字音の対照結果の一部を取りあげる。

- (1) 声母が b の漢字はは行、ば行と対応している。
- (2) 声母が p の漢字はは行、ば行と対応している。

<sup>9</sup> 杜婷婷「日本漢字音と中国漢字音の対応関係について－中国人日本語学習者が常用漢字の字音を学習するために－」『日本語研究』31、首都大学東京、2011、pp.15-31。

<sup>10</sup> 2010年内閣告示第2号常用漢字表のことである。合計2136字であるが、杜（2011）で対象としたのは音読みを持っている2060字である。（筆者注）

(3) 声母が **m** の漢字はは行、ば行、ま行と対応している。

例外：「**秘**」 mi4 対応する現代日本漢字音はない。

bi4 現代中国漢字音では消滅した音

秘は現代日本漢字音でヒの場合、現代中国漢字音では消滅した音 bi4  
と対応している。

「**泌**」 mi4 対応する現代日本漢字音はない。

bi4 現代中国漢字音では消滅した音

泌は現代日本漢字音でヒの場合、現代中国漢字音では消滅した音 bi4  
と対応している。

(4) 声母が **f** の漢字はは行、ば行と対応している。

例外：「**缶**」 fou3 対応する現代日本漢字音は常用漢字表に示されていない。guan4  
現代中国漢字の「罐」と同じ

缶は現代日本漢字音でカンの場合、中国漢字音の guan4 と対応する。い  
わゆる中国漢字の「罐」の意味として扱う。

「**反**」 fan3 たん（慣）

現代中国語音の「**b** 声母」と「**m** 声母」を例に、引用した部分を説明する。「**b** 声母」は日本漢字音の「ハ行」、「バ行」と対応している。例外はない。

一方、「**m** 声母」は日本漢字音の「ハ行」、「バ行」、「マ行」と対応している。例外は2字あり、「**秘**」と「**泌**」である。この2字の現代中国語音は「mi4」であり、日本漢字音は「ヒ」である。しかし、①「mi4」という現代中国語音が対応する日本漢字音はない。②日本漢字音の「ヒ」に対応しているのは、現代中国語音の「mi4」ではなく、「bi4」（すでに消滅した）である。

「声母が **m** の漢字はは行、ば行、ま行と対応している。」というように、杜(2011)は「**m** 声母」と「は行」にも対応が存在していると述べている。しかし、その記述の下で杜(2011)は、「**秘ヒ**」と「**泌ヒ**」を例外として取りあげている。このことについては、不適切だと思われる。なぜなら、「**秘ヒ**」と「**泌ヒ**」が例外ならば、「声母が **m** の漢字はば行、ま行と対応している。」と言えないと筆者は考えるからである。

また、もう一つの問題点は、これまでの多くの先行研究と共通している。それは、「声母が **b** の漢字はは行、ば行と対応している」と提示していてもいつ「ハ行」になるいつ「バ

行」になるかについて言及していない点である。もし、「ハ行」になる漢字と「バ行」になる漢字に各々明確な特徴がなければ、「ハ行」と「バ行」ではどちらの対応率が高いかを提示すべきではないかと思われる。「ハ行」と「バ行」を区別するヒントあるいは対応率が提示されていないと、学習者は結局「ハ行」と「バ行」の間で選択に迷うことになる。

杜（2011、pp. 24-29）では、以上のように現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音との対応関係を提示しているほか、現代中国語音の韻母と日本漢字音の頭子音以外の部分の対応関係も以下の5項目に分けて提示している。「①尾音の対応」、「②日本漢字音の音尾 [aN]、[oN]、[uN(juN)]、[eN]、[iN] と韻母との対応」、「③[o・]、[jo・] で終わる日本漢字音の歴史的仮名遣いと中国の韻母との対応」、「④[ju・] で終わる日本漢字音の歴史的仮名遣いと韻母との対応」、「⑤[u・] で終わる日本漢字音と韻母との対応」、「⑥[ai]、[ei]、[ui] で終わる日本漢字音と韻母との対応関係」である。ここでは、「⑥[ai]、[ei]、[ui] で終わる日本漢字音と韻母との対応関係」を例に取りあげ、その問題点について述べる。

以下は、杜（2011、p. 29）から抜粋したものである。

#### ⑥ [ai]・[ei]・[ui] で終わる日本漢字音と韻母との対応関係

日本語 (IPA[ ])	中国語 (ピンイン)
ai	ai・ei・uai・uei・i・ia・ie
ei	i、uei eng・ing・iong
ui	ei、uei、uai

例外：「婿」xu4 対応する現代日本漢字音はない。

xi4 現代中国漢字音では消滅した音

婿の現代日本漢字音セイの場合、現代中国漢字音で消滅した音 xi4 と対応している。

「榮」rong2 対応する現代日本漢字音はない

yeng1 現代中国漢字音では消滅した音

榮の現代中国漢字音エイの場合、現代中国漢字音で消滅した音 yeng1 と対応している。

以上は、杜（2011）で示した「[ai]・[ei]・[ui] で終わる日本漢字音と韻母との対応関係」である。ここから、以下のことが分かる。日本漢字音では[ai]（つまり「アイ」）で読

む漢字は、現代中国語音では「ai」「ei」「uai」「uei」「i」「ia」「ie」 韻母のいずれかになる。同じように、日本漢字音では[ei]（つまり「エイ」）で読む漢字は、現代中国語音では「i」「uei」「eng」「ing」「iong」 韵母のいずれか、日本漢字音では[ui]（つまり「ウイ」）で読む漢字は、現代中国語音では「ei」「uei」「uai」 韵母のいずれかになる。このように、杜（2011）では、ある日本漢字音が現代中国語音のどの韻母と対応しているかについて言及している。つまり日本漢字音の視点から分析をしている。しかし、学習者は、現代中国語音から日本漢字音を推測する傾向にあるため、現代中国語音の各韻母が対応する日本漢字音は何かという視点から分析する必要があると思われる。また、以上の引用部分から分かるように、同じ現代中国語音の「uei」 韵母は、「アイ」「エイ」「ウイ」という3種の日本漢字音にも対応しているという問題がある。もちろん、「uei」 韵母のみならず、以上の引用部分で言えば、「ei」「uai」「i」 韵母も複数の日本漢字音に対応している。この問題については、声母と同様に、どのような環境・条件でどの日本漢字音に対応するかを区別するヒントを学習者に提示する必要がある。もし、区別するヒントが見出せない場合は、少なくとも、どの対応で推測すると正答率が最も高いのかが分かるように対応率を提示する必要があるだろう。

杜（2011）についてまとめると、以下のようになる。これまでの先行研究では言及されていなかった現代中国語音の韻母と日本漢字音の頭子音以外の部分について分析し、その対応関係を提示した点は日本漢字音教育の基礎的研究にとって非常に重要であると思われる。しかし、現代中国語音（声母または韻母）が対応する日本漢字音が複数ある場合、それらを区別するためのヒントまたは対応率というものについて言及していない。この問題点は、杜（2011）のみならず、三好（1993）と刑・山本・菊池（2010）にも言える。

#### 4.1.2 先行研究の問題点のまとめ

4.1.1では、日本語教育の立場から現代中国語音と日本漢字音の対応関係を明らかにしようとする研究を概観し、それぞれの問題点について述べてきた。ここで、改めて先行研究の問題点を整理すると、主に以下の4点が挙げられる。  
① 現代中国語音の韻母と日本漢字音の「主母音」・「頭子音以外の部分」の対応関係について言及するものが少ない。  
② 対応率を提示するものも少ない。  
③ 先行研究では提示された対応規則が複雑すぎるため、学習者が利用可能な形になっていない。  
④ 先行研究には、吳音・漢音・唐音・慣用音を区別し分析したものがない。  
しかし、第2章と第3章で述べていたように、これらはそれぞれ

異なる音体系を持っているため、区別した分析も必要である。以下、各々の問題点について詳しく検討した後に、本章での調査・分析の方法について述べる。

(1) 現代中国語音の韻母と日本漢字音の主母音・頭子音以外の部分の対応関係について

先行研究の中には、現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音の対応関係を提示したものは多くあるが、現代中国語音の韻母と日本漢字音の主母音・頭子音以外の部分の対応関係を研究したものは僅かしかない。しかし、現代中国語音から日本漢字音を推測するということを考える際に、声母と頭子音の対応関係だけでは不十分であり、韻母と主母音・頭子音以外の部分の対応関係を把握する必要もある。そこで、本研究では、現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音の対応関係はもちろん、韻母と主母音・頭子音以外の部分の対応関係についても言及する。

(2) 対応率について

本研究でいう「対応率」とは、ある現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音（又は現代中国語音の韻母と日本漢字音の主母音・頭子音以外の部分）の対応関係が一つではなく、複数ある場合に、それぞれの対応関係に従う漢字の数がその声母（又は韻母）全体字数に占める割合を意味する。例えば、呉音でみた場合、現代中国語音の「b 声母」が対応する呉音の頭子音は「ハ行」と「バ行」の2種類ある。では、現代中国語音の「b 声母」と「ハ行」はどの程度対応しているか、「バ行」とはどの程度対応しているか、どちらの対応が優勢であるかを知るには、対応率を示す必要があると考えられるが、先行研究では、対応率を示したものは極めて少ない。そこで、本研究では、提示する現代中国語音と日本漢字音の全ての対応関係に対応率を示す。

(3) 基本対応規則の提示

先行研究には、現代中国語音と日本漢字音の対応関係（主に現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音の対応関係）を示したものが多いが、学習者が利用可能な「基本対応規則」というものを提示しているものはほとんどない。ここでいう「基本対応規則」とは、現代中国語音と日本漢字音の対応関係の中で、最も対応率が高い対応のことを指す。なぜ対応関係全体ではなく、「基本対応規則」が必要かというと、それは、第3章からも分かるように、現代中国語音と日本漢字音の対応関係、その中で特に現代中国語音の韻母と日本漢字

音の主母音・頭子音以外の部分の対応が非常に多様で複雑であり、学習者にとってこれらの対応関係を全て把握することは不可能だと考えられるからである。そこで、本研究では、上述した対応率を基に、学習者が利用可能な「基本対応規則」を導き出す。

#### (4) 呉音・漢音・唐音・慣用音の区別について

先行研究には、呉音・漢音・唐音・慣用音を区別し分析したものがない。しかし、第2章と第3章で述べたように、日本漢字音には、呉音、漢音、唐音、慣用音といったものがある。その中で、呉音と漢音はそれぞれの音体系を持っている。唐音は日常語における使用範囲はきわめて狭いが呉音・漢音と異なる音的特徴も持っている。例えば、中国語音の喉内鼻音韻尾（-ng）については、呉音と漢音では「イ」または「ウ」で終わっているが、唐音では大体「ン」で終わっている。それに対し、慣用音は呉音・漢音・唐音のように明確な特徴を持っていない。先行研究のように、これらを一括して分析して本当によいのだろうか。より効率的な「基本対応規則」を導き出すには、呉音、漢音、唐音、慣用音それぞれがどの程度を占めているのか、現代中国語音とはそれほどどのような関係にあるのかを明らかにする必要があると考える。そこで、本研究では、日本漢字音を一括する場合の現代中国語音と日本漢字音の対応関係はもちろん、日本漢字音を呉音・漢音・唐音・慣用音に分けた場合の現代中国語音と日本漢字音の対応関係も調査し分析する。

##### 4.1.3 本章の目的と分析方法

以上の先行研究の問題点を踏まえた上で、本章では、旧試験3級レベルの中国語話者が効率よく現代中国語音から日本漢字音を推測するには、現代中国語音と日本漢字音の対応関係をどのように提示すべきかについて検討する。そのために、本章では、多音字<sup>11</sup>を除いた2級新出漢字を分析対象とする。これらの漢字について、以下のように分析する。日本漢字音と現代中国語音については、2級新出漢語に出現した発音に基づく。

まず、日本漢字音を呉音・漢音・唐音・慣用音に区別しない場合について、現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音、現代中国語音の韻母と日本漢字音の主母音・頭子音以外の部分の対応関係を調査する。その際、各対応関係の対応率も算出する。そして、調査結果を基に、日本漢字音教育現場で利用可能な「基本対応規則」を見出す。

次に、日本漢字音を呉音・漢音・唐音・慣用音に区別する場合について、それぞれと現

<sup>11</sup> 本研究でいう「多音字」は、日本漢字音を2種類以上持つ漢字のことを意味する。

代中国語音（声母と韻母）の対応関係を調査する。その際、各対応関係の対応率も算出する。その後、調査結果を基に日本漢字音教育現場で利用可能な「基本対応規則」を見出す。

最後に、以上で見出した2つの「基本対応規則」を比較し、日本語能力が旧試験3級レベルの中国語話者が現代中国語音から日本漢字音を推測するには、どちらの「基本対応規則」がより有効に利用できるかについて検討する。

#### 4.2 分析対象について

分析対象（つまり多音字を除いた2級新出漢字）は以下の手順で抽出する。まず、第3章の調査対象である2級漢語（2210語）から2級新出漢語を抽出する。その結果、1871語あることが分かった。次に、1871語で使用されている異なり漢字を抽出する。その結果、781字あることが分かった。表4-6は、2級新出漢字（781字）と2級新出漢語（1871語）をまとめ、「2級新出漢字」欄の「あいうえお」順に並べたものである。

表4-6 現代中国語音と日本漢字音一覧表（2級新出漢字）

2級新出漢字	2級新出漢語				現代中国語音	日本漢字音	
					ピンイン表記	仮名表記	種類
1 愛	愛	愛情	愛する		ai4	アイ	漢
2 挨	挨拶				ai1	アイ	漢
3 青	青年	青少年			qing1	セイ	漢
4 証	証明	保証			zheng4	ショウ	漢
5 確	確実	確認	確率	(後略)	que4	カク	漢(呉)
6 顕	顕微鏡				xian3	ケン	漢(呉)
7 照	対照				zhao4	ショウ	漢(呉)
8 悪	悪魔				e4	アク	漢(呉)
9 握	握手				wo4	アク	漢
10 焦	焦点				jiao1	ショウ	漢
11 價	価格	価値	高価	(後略)	jia4	カ	漢
12 圧	圧縮	気圧	血圧		yal	アツ	慣
13 兄	兄弟				xiong1	キョウ	呉
14 姉	姉妹				zi3	シ	漢(呉)
15 雨	梅雨				yu3	ウ	漢(呉)
16 謝	感謝				xie4	シャ	漢
17 改	改札	改正	改善	(後略)	gai3	カイ	漢
18 暗	暗記				an4	アン	漢
19 位	～位	位置	単位	(後略)	wei4	イ	漢(呉)
20 依	依頼				yil	イ	漢
64 重	貴重	慎重	重点	(後略)	zhong4	チョウ・ジュウ	漢・慣
781 湾	湾				wan1	ワン	漢(呉)

表4-6の現代中国語音は『現代漢語詞典第5版』(2005)<sup>12</sup>、日本漢字音は『日本語能力試験出題基準(改訂版)』(2007)の2級語彙表に挙げられている新出漢語の読み方に基づいている。そして、日本漢字音の種類については、『角川新字源改訂版』(1994)に依って、分類している。「種類」欄の中にある「漢(呉)」は、漢音と呉音は同じであることを意味する。この種の漢字は、合計255字ある。そして、「種類」欄の中にある「漢・慣」は、2級新出漢語では漢音と慣用音の2種類の日本漢字音が現れたという意味である。例えば64番の「重」の場合、「貴重」「慎重」のように「チョウ」と読む2級新出漢語もあれば、「重点」のように「ジュウ」と読むものもある。この種の漢字を本研究では「多音字」とする。調査した結果、2級新出漢字の中には、多音字が22字ある。この22字を除いた2級新出漢字(759字)が本章の分析対象である。多音字を除いたのは、多音字の学習方法は対応関係の利用というより、意味と連動して発音を区別することの方がより効果的であると思われるからである。

#### 4.3 呉音・漢音・唐音・慣用音を区別しない場合

##### 4.3.1 現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音

表4-6の「現代中国語音(ピンイン表記)」欄を声母ごとに整理した後、各声母に属する漢字及びそれらの漢字の日本漢字音の頭子音について調査した。その結果を、表4-7に示す。

<sup>12</sup> 中国社会科学語言研究所詞典編輯室『現代漢語詞典第5版』商務印書館、2005。

表4-7 現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音

	現代中国語音		日本漢字音			2級新出漢字（多音字除く）			
	声母	字数(A)	頭子音	字数(B)	対応率(=B/A)				
1	b	29	ハ行	25	86.2%	般	版	包	(後略)
			バ行	4	13.8%	棒	暴	爆	(後略)
2	p	15	ハ行	12	80.0%	拍	俳	砲	(後略)
			バ行	3	20.0%	盤	盆	膨	
3	f	20	ハ行	17	85.0%	販	犯	範	(後略)
			バ行	3	15.0%	凡	防	罰	
4	m	36	バ行	11	30.6%	馬	買	壳	(後略)
			マ行	24	66.7%	脈	満	慢	(後略)
			ハ行	1	2.8%	秘			
5	d	37	タ行	30	81.1%	達	答	帶	(後略)
			ダ行	5	13.5%	導	第	独	(後略)
			ザ行	2	5.4%	疊	盾		
6	t	27	タ行	18	66.7%	他	塔	態	(後略)
			ダ行	7	25.9%	駄	檜	童	(後略)
			サ行	1	3.7%	推			
			ザ行	1	3.7%	条			
7	n	9	ダ行	1	11.1%	努			
			ナ行	7	77.8%	南	難	脳	(後略)
			ガ行	1	11.1%	逆			
8	l	35	ラ行	35	100.0%	落	賴	欄	(後略)
<hr/>									
22	ゼロ	101	ガ行	15	14.9%	額	巖	岩	(後略)
			ア行	45	44.6%	挨	愛	暗	(後略)
			ヤ行	27	26.7%	羊	陽	養	(後略)
			ワ行	3	3.0%	湾	椀	碗	
			バ行	5	5.0%	亡	望	微	(後略)
			マ行	1	1.0%	未			
			カ行	4	4.0%	蚩	硬	完	(後略)
			ザ行	1	1.0%	児			
合計	22	759	69	759					

「b 声母」を例に表4-7を説明する。多音字を除いた2級新出漢字(759字)のうち、現代中国語で読むと「b 声母」になる漢字は29字ある。29字のうち、日本漢字音で「ハ行」になるのは25字で、「バ行」になるのは4字である。つまり、「ハ行」が全体29字に占める割合(「b 声母」と「ハ行」の対応率)は86.2%で、「バ行」が全体29字に占める割合(「b 声母」と「バ行」の対応率)は13.8%である。この対応率から、多音字を除いた2級新出漢字(759字)に限定した場合、現代中国語音で「b 声母」で読む漢字は、日本漢字音ではほとんど「ハ行」と読むことが分かる。例外は、「棒」「暴」「爆」「板」の4字である。

表4-7から分かるように、多音字を除いた2級新出漢字(759字)に限定した場合、22の声母のうち、ほとんどが日本漢字音と複数の関係を持っている。例外も含めて現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音には69種類の関係が存在していることが分かる。先行研

究のように、この69種類の関係を全て学習者に提示することは適切ではないと考える。では、学習者が活用可能かつ効率がよい現代中国語音の声母と日本漢字音の「基本対応規則」はどのように導き出すか。このことについては、対応率の利用が考えられる。具体的には、表4-7の各声母が対応する日本漢字音の中で、対応率が最も高い対応を抽出し、その対応を「基本対応規則」とする。つまり「1声母に1日本漢字音」という方法を取る。この作業によって導き出したものが表4-8である。

表4-8 現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音の基本対応規則

	現代中国語音		日本漢字音		対応率 (=B/A)
	声母	字数 (A)	頭子音	字数 (B)	
1	b	29	ハ行	25	86.2%
2	p	15		12	80.0%
3	f	20		17	85.0%
4	m	36	マ行	24	66.7%
5	d	37	タ行	30	81.1%
6	t	27		18	66.7%
7	n	9	ナ行	7	77.8%
8	l	35	ラ行	35	100.0%
9	g	35	カ行	34	97.1%
10	k	18		18	100.0%
11	h	27		20	74.1%
12	j	77		50	64.9%
13	q	34		20	58.8%
14	x	53		26	49.1%
15	zh	56		31	55.4%
16	ch	26	サ行	11	42.3%
17	sh	48		35	72.9%
19	z	27		20	74.1%
20	c	21		19	90.5%
21	s	19		16	84.2%
18	r	9	ヤ行	3	33.3%
22	ゼロ	101	ア行	45	44.6%
合計	22	759		516	68.0%

「x声母」を例に表4-8を説明する。多音字を除いた2級新出漢字(759字)のうち、現代中国語音で読むと「x声母」になる漢字は53字ある。53字のうち、日本漢字音では「カ行」になるものが最も多く、26字である。対応率でいうと49.1%である。「x声母」のように、対応率が50%以下のものは4つ(網掛け部分)ある。残りの18韻母の場合は、日本漢字音との対応率は全て50%以上である。全体的にみると、この基本対応規則に従う漢字は、全759字中516字(68.0%)であることが分かる。

また、以上の基本対応規則に当てはまらないもの(243字)については、第3章の

「3.2.3.1.1 現代中国語音の声母と吳音・漢音の頭子音」の分析結果を参考にし、現代中国語音の声母が韻母または声調との組み合わせでみた場合、特徴があるかどうかについて分析した。その結果、以下の表4-9のような補助対応規則を得ることができた。

表4-9 現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音の補助対応規則

	声母	補助規則	条件(声母/声調)	漢字	字数	対応率(基本対応規則のみ)		対応率(基本と補助の合計)
1	ゼロ	ヤ行	you	悠、優、遊、友、右、油、幼	7	44.6%	→	51.5%
2	r	ヤ行	rong2	融、容、溶	3	33.3%		66.7%
3	p	バ行	鼻音韻尾	盤、盆	2	80.0%		93.3%
4	x	ザ行	かつ第2声	旬、巡、循	3	49.1%		54.7%
合計		7	4		15			

「ゼロ声母」を例に表4-9を説明する。基本対応規則では「ゼロ声母」が日本漢字音の「ア行」に対応している。しかし、「ゼロ声母」の中の「you」という発音は、日本漢字音の「ヤ行」に対応しているため、この特徴を補助対応規則と見なした。この補助対応規則に従う「ゼロ声母」字は、「悠 you1-ヨウ」「優 you1-ヨウ」「遊 you2-ヨウ」「友 you3-ヨウ」「右 you4-ヨウ」「油 you2-ユ」「幼 you4-ヨウ」の7字ある。そして、対応率でみた場合、基本対応規則に従う漢字は「ゼロ声母」全体(101字)の44.6%を占めているのに対し、基本対応規則または補助対応規則に従う漢字は「ゼロ声母」全体の51.5%を占めていることが分かる。

表4-9で示した4つの補助対応規則のうち、いずれかの規則に従う漢字の合計は15字である。これを基本対応規則が適用できる516字と合わせると合計531字であり、多音字を除いた2級新出漢字(759字)の70.0%を占めていることが分かる。

#### 4.3.2 現代中国語音の韻母と日本漢字音の主母音及び頭子音以外の部分

表4-6を現代中国語音の韻母ごとに整理した後、各韻母と日本漢字音の主母音及び頭子音以外の部分について調査した。その結果を表4-10に示す。「頭子音以外の部分(対応関係)」欄にある「オウ」は、日本漢字音を仮名で表記される場合、1番目の仮名が「オ段」で、2番目の仮名が「ウ」ということを意味する。一方、拗音が付属している「ヨウ」の場合は、1番目の仮名が「ヨ」で、2番目の仮名が「ウ」である。あるいは2番目の仮名が「ヨ」で、3番目の仮名が「ウ」ということを意味する。以下同様。

表4-10 現代中国語音の韻母と日本漢字音の主母音及び頭子音以外の部分

韻母	現代中国語音		日本漢字音						2級新出漢字 (多音字除く)							
	字数 (A)	対応 関係	主母音			頭子音以外の部分										
			対応 字数 (B)	対応率 (=B/A)	対応 関係	字数 (C)	対応率 (=C/A)									
1	eng	20	才段	16	80.0%	オウ	9	45.0%	耕	更	層	(後略)				
			エ段	3	15.0%	エイ	3	15.0%	証	徵	勝	(後略)				
			ウ段	1	5.0%	ウ	1	5.0%	成	程	整					
2	ong	28	才段	19	67.9%	オウ	12	42.9%	東	凍	功	(後略)				
			ウ段	8	28.6%	ヨウ	7	25.0%	共	供	恐	(後略)				
			エ段	1	3.6%	エイ	1	3.6%	痛							
			イ段	1	3.6%	ユウ	6	21.4%	融	終	衆	(後略)				
			オ段	1	3.6%	ユ	1	3.6%	種							
9	an	33	ア段	27	81.8%	アン	27	81.8%	誕	旦	乾	(後略)				
			エ段	4	12.1%	エン	4	12.1%	扇	善	繕	(後略)				
			オ段	2	6.1%	オン	2	6.1%	紺	凡						
10	ian	38	エ段	33	86.8%	エン	32	84.2%	煙	延	演	(後略)				
			ア段	4	10.5%	エツ	1	2.6%	欠							
			イ段	1	2.6%	アン	4	10.5%	岩	監	鑑	(後略)				
			オ段	1	2.6%	イン	1	2.6%	眠							
17	iao	25	オ段	21	84.0%	ヨウ	19	76.0%	要	謡	曜	(後略)				
			ア段	4	16.0%	オウ	2	8.0%	孝	効						
			イ段	1	1.6%	アク	3	12.0%	較	角	削					
18	iou	18	ウ段	17	94.4%	ヤク	1	4.0%	薬							
			オ段	1	5.6%	ユウ	15	83.3%	悠	優	遊	(後略)				
			エ段	1	5.6%	ユ	2	11.1%	油	酒						
			オ段	1	5.6%	ヨウ	1	5.6%	幼							
35	u	61	オ段	41	67.2%	オ	21	34.4%	捕	補	粗	(後略)				
						ヨ	6	9.8%	署	処	諸	(後略)				
						オク	12	19.7%	穀	牧	速	(後略)				
						オツ	2	3.3%	骨	突						
			ウ段	16	26.2%	ウ	9	14.8%	膚	符	府	(後略)				
						ウク	2	3.3%	福	副						
						ユク	2	3.3%	祝	熟						
						ユ	1	1.6%	殊							
			エ段	1	1.6%	ユウ	1	1.6%	柱							
			イ段	3	4.9%	ユツ	1	1.6%	述							
36	ü	25	オ段	16	64.0%	ヨ	11	44.0%	魚	余	与	(後略)				
						オ	1	4.0%	娛							
						ヨク	3	12.0%	浴	欲	曲					
						オク	1	4.0%	続							
			ウ段	7	28.0%	ウ	3	12.0%	宇	雨	句					
						ユ	2	8.0%	愉	需						
						ユウ	1	4.0%	裕							
						ユツ	1	4.0%	屈							
			イ段	1	4.0%	イキ	1	4.0%	域							
			エ段	1	4.0%	エキ	1	4.0%	劇							
合計		35	759	759		154	759									

「eng 韵母」を例に、表4-10を説明する。多音字を除いた2級新出漢字(759字)のうち、現代中国語音で読むと「eng 韵母」になる漢字は20字ある。日本漢字音の主母音でみ

た場合、この 20 字のうち、「オ段」で読むのは 16 字で、「エ段」は 3 字、「ウ段」は 1 字である。この 3 種の関係について、対応率でみると、現代中国語音の「eng 韻母」と日本漢字音の「オ段」との対応率が最も高く、80.0%である。「オ段」の次に高いのは「エ段」で、15.0%となっている。対応率が最も低いのは「ウ段」の 5.0%である。そして、頭子音以外の部分でみた場合、この 20 字のうち、「オウ」になるのは 9 字、「ヨウ」になるのは 7 字、「エイ」になるのは 3 字、そして「ウ」になるのは 1 字である。この 4 種類の関係について、対応率でみると、現代中国語音の「eng 韵母」と日本漢字音の「オウ」の対応率が最も高く、45.0%である。「オウ」の次に高いのは「ヨウ」で、35.0%となっている。その次は「エイ」で、15.0%である。最後は「ウ」の 5.0%である。

表 4-10 の結果を基に、現代中国語音の韻母と日本漢字音の主母音の主たる対応、つまり基本対応規則を抽出した。表 4-11 は、その結果を「日本漢字音（主母音）」欄の「あいうえお」順に並べたものである。網掛け部分は、対応率が 50%以下のものである。そして、現代中国語音の韻母は 36 あるが、2 級新出漢字に限定した場合は、現代中国語音の「ueng 韵母」で読む漢字がないため、表 4-11 では韻母の合計が 35 になっている。

表4-11 現代中国語音の韻母と日本漢字音の主母音の基本対応規則

	現代中国語音		日本漢字音		対応率 (=B/A)
	韻母	字数 (A)	主母音	字数 (B)	
1	a	14	ア段	11	78.6%
2	ai	26		26	100.0%
3	an	33		27	81.8%
4	e	28		15	53.6%
5	ia	6		6	100.0%
6	o	10		10	100.0%
7	ua	4		4	100.0%
8	uai	1		1	100.0%
9	uan	20		17	85.0%
10	üe	5		4	80.0%
11	uo	24		23	95.8%
12	ei	11		5	45.5%
13	en	16		11	68.8%
14	er	1		1	100.0%
15	i	117	イ段	64	54.7%
16	in	16		16	100.0%
17	uei	27		13	48.1%
18	iou	18		17	94.4%
19	ou	18		10	55.6%
20	ün	8		6	75.0%
21	ian	38		33	86.8%
22	ie	16	エ段	8	50.0%
23	ing	34		22	64.7%
24	iong	3		1	33.3%
25	üan	9		8	88.9%
26	ang	16		16	100.0%
27	ao	35		32	91.4%
28	eng	20		16	80.0%
29	iang	18	オ段	18	100.0%
30	iao	25		21	84.0%
31	ong	28		19	67.9%
32	u	61		41	67.2%
33	ü	25		16	64.0%
34	uang	14		14	100.0%
35	uen	14		8	57.1%
36	ueng	0		0	
合計		35		560	73.8%

このように、多音字を除いた2級新出漢字(759字)に限定した場合、以上の5規則(「主母音」欄の合計)で、759字の73.8%に当たる560字の日本漢字音の主母音が推測できることになる。

また、以上の基本対応規則に当てはまらないもの(199字)については、「4.3.1 現代中

国語音の声母と日本漢字音の頭子音」と同様に、現代中国語音の韻母が声母または声調との組み合わせでみた場合、特徴があるかどうかについて分析した。その結果、表4-12のような補助対応規則を得ることができた。

表4-12 現代中国語音の韻母と日本漢字音の主母音の補助対応規則

	現代中国語音の韻母	補助規則	条件(声母/声調)	漢字	字数	対応率(基本対応規則のみ)		対応率(基本と補助の合計)
1	u	ウ段	f声母	膚、符、府、付、富、福、副	7	67.2%	→	78.7%
2	e	エ段	そり舌音	徹、設、折、哲	4	53.6%		67.9%
3	uan			船、栓、伝	3	85.0%		100.0%
5	uei	ウ段	そり舌音	炊、垂、睡、追	4	48.1%		63.0%
6	uen			瞬、順、純	3	57.1%		78.6%
7	an	エ段	そり舌音&第4声	扇、善、繕	3	81.8%		90.9%
合計		4	3		24			

「u 韵母」を例に表4-12を説明する。基本対応規則（表4-11）では「u 韵母」が日本漢字音の主母音「オ段」に対応しているが、「u 韵母」が「f 声母」と組み合わさる場合は、日本漢字音の主母音が「ウ段」になることが分析によって分かった。この特徴を補助対応規則と見なした。そして、この補助対応規則に従う「u 韵母」字は、「膚 fu1-<sup>漢</sup>フ」「符 fu2-<sup>漢</sup>フ」「府 fu3-<sup>漢</sup>フ」「付 fu4-<sup>漢</sup>フ」「富 fu4-<sup>漢</sup>フ」「福 fu4-<sup>漢</sup>フク」「副 fu4-<sup>ハ</sup>フク」の7字である。

表4-12から分かるように、この補助対応規則（表4-12）が適用できる漢字は合計24字である。この24字を基本対応規則が適用できる560字と合わせると、合計584字（全体の759字の76.9%）である。つまり、基本対応規則と補助対応規則の両方を利用することで、多音字を除いた2級新出漢字（759字）の7割強の漢字については、現代中国語音から日本漢字音の主母音を推測することができるということである。

主母音の次に、頭子音以外の部分についてみていく。表4-10の「頭子音以外の部分」欄の対応率を基に、基本対応規則を抽出した。表4-13は、その結果を「日本漢字音（頭子音以外の部分）」欄の「あいうえお」順に並べたものである。網掛け部分は、対応率が50%以下のものである。そして、表4-11の説明で述べていたように、2級新出漢字に限定した場合は、現代中国語音の「ueng 韵母」で読む漢字がないため、表4-13では韻母の合計が35になっている。

表 4-13 現代中国語音の韻母と日本漢字音の頭子音以外の部分の基本対応規則

	現代中国語音		日本漢字音		対応率 (=B/A)
	韻母	字数 (A)	頭子音以外 の部分	字数 (B)	
1	ia	6	ア	5	83.3%
2	ua	4		3	75.0%
3	uo	24		10	41.7%
4	o	10		4	40.0%
5	uai	1	アイ	1	100.0%
6	ai	26		22	84.6%
7	e	28	アク	8	28.6%
8	a	14	アツ	6	42.9%
9	an	33	アン	27	81.8%
10	uan	20		14	70.0%
11	uei	27		13	48.1%
12	ei	11	イ	5	45.5%
13	er	1		1	100.0%
14	i	117		55	47.0%
15	en	16		11	68.8%
16	in	16	イン	16	100.0%
17	ing	34		エイ	64.7%
18	ie	16	エツ	6	37.5%
19	üan	9	エン	8	88.9%
20	ian	38		32	84.2%
21	u	61	オ	21	34.4%
22	uang	14	オウ	10	71.4%
23	ang	16		11	68.8%
24	eng	20		9	45.0%
25	ong	28		12	42.9%
26	ao	35		25	71.4%
27	ou	18		7	38.9%
28	uen	14	オン	8	57.1%
29	üe	5	ヤク	2	40.0%
30	iong	3	ユウ	1	33.3%
31	iou	18		15	83.3%
32	ün	8	ユン	3	37.5%
33	ü	25	ヨ	11	44.0%
34	iang	18	ヨウ	10	78.6%
35	iao	25		19	76.0%
36	ueng	0		0	
合計	35	759	18	433	57.0%

表 4-13 から、多音字を除いた 2 級新出漢字（759 字）に限定した場合、現代中国語音では「ia」「ua」「uo」「o」4 韵母と読む漢字が日本漢字音では「ア段短音」になることが分かる。このような韻母と日本漢字音の頭子音以外の部分との基本対応規則は合計 18 ある。全体的にみると、この基本対応規則に従う漢字は、全 759 字中 433 字（57.0%）であるこ

とが分かる。

また、以上の基本対応規則に当てはまらないもの（326字）については、現代中国語音の声母との組み合わせでみた場合に特徴があるかどうかを分析した。その結果、表4-14のような補助対応規則を得ることができた。

表4-14 現代中国語音の韻母と日本漢字音の頭子音以外の部分との補助対応規則

	現代中国語音の韻母	補助規則	条件(声母)	漢字	字数	対応率(基本対応規則のみ)		対応率(基本と補助の合計)	
1	üe	アク	舌面音	確、覚	2	40.0%	→	80.0%	
2	en	ウン		雰、噴	2	68.8%		81.3%	
3	uei	ウイ		炊、垂、睡、追	4	48.1%		63.0%	
4	e	エツ		徹、設、折、哲	4	28.6%		42.9%	
5	an	エン		扇、善、繕、染	4	81.8%		93.9%	
6	uan			船、栓、伝	3	70.0%		85.0%	
7	ong	ユウ		融、終、衆、充、銃	5	42.9%		60.7%	
8	ou			抽、収、州、周、宙、昼	6	38.9%		72.2%	
9	uen	ユン	そり舌音	瞬、順、純	3	57.1%		85.7%	
10	u	ヨ		署、処、諸、貯、著、助	6	34.4%		44.3%	
11	ang	ヨウ		張、掌、帳、商、賞	5	68.8%		100.0%	
12	eng			証、徵、勝、乘、剩、症、蒸	7	45.0%		80.0%	
13	ao			超、少、朝、照、兆	5	71.4%		85.7%	
合計		9	3		56				

表4-14は、現代中国語音の韻母と日本漢字音の頭子音以外の部分との補助対応規則を「条件(声母)」ごとにまとめたものである。表から分かるように、補助対応規則は9つある。まず、現代中国語音の「üe 韵母」は、「j、q、x」声母(舌面音)と組み合わさる場合に日本漢字音の「アク」と対応する。次に、「en 韵母」は、「b、p、m、f」声母(唇音)と組み合わさる場合に日本漢字音の「ウン」と対応する。最後に、「uei」「e」「an」「uan」「ong」「ou」「uen」「u」「ang」「eng」「ao」の11韻母については、「zh、ch、sh」声母(そり舌音)と組み合わさる場合、対応する日本漢字音に特徴が見られ、補助対応規則として成り立った。この補助規則に従う漢字は合計56字である。この補助対応規則を基本対応規則に加えると、全体(759字)の64.4%に当たる489字の頭子音以外の部分を推測することができる。

#### 4.4 吳音・漢音・唐音・慣用音を区別する場合

##### 4.4.1 分類方法と基本対応規則の抽出方法

表4-6の「種類」欄の結果を基に、多音字を除いた2級新出漢字（759字）の日本漢字音を吳音、漢音、唐音、慣用音の4つに分類する。その際、「漢（吳）」（つまり漢音と吳音が同じ場合）という漢字については「漢音」に分類する。それは、現代日本語では吳音より漢音で読まれる漢字の方が多く、日本漢字音教育において活用できる対応規則を導き出す際により効率的であると考えられるからである。このように分類した結果、全759字のうち、吳音字は133（17.5%）、漢音字は554（73.0%）、唐音字は0、慣用音字は72（9.5%）となった。このように、多音字を除いた2級新出漢字（759字）の日本漢字音の中では、漢音が全体の7割強を占めており、最も多いことが分かる。吳音と慣用音は、それぞれ2割弱と1割弱を占めている。唐音で読むものはない。

そして、第2章と第3章から分かるように、吳音と漢音は異なる音体系を持っており、現代中国語音との対応関係においても異なる部分が多い。独自の音体系を持つ吳音と漢音に対し、慣用音は、「明治時代に入ってからの主として漢和辞典で、韻書・音義の反切及び韻図に基づいて演繹的に決定せられた吳音・漢音形と異なる場合の、わが国の具体的文献に見出される字音形に与えられた通称」<sup>13</sup>というように、慣用音は吳音の音体系にも漢音の音体系にも当てはまらない。そして、その中にさまざまなもののが含まれているため、独自の特徴というものはない。

以上のことから、日本漢字音教育において活用できる基本対応規則を以下の基準で抽出する。つまり、吳音字（133字）と漢音字（554字）の合計である687字については、日本漢字音の中心となっている漢音の主たる対応を基本対応規則とする。そして、この基本対応規則に当てはまらないものについては、吳音や現代中国語音から考察し、特徴のある対応を補助対応規則として提示する。一方、慣用音字については、上述したように吳音と漢音の音体系に当てはまらないことや、第3章の分析から分かるように現代中国語音からみても吳音・漢音のような明確な特徴があるとは言い難いため、吳音・漢音とは別扱いとしてそのまま覚えたほうがよいと考えられる。

そこで、以下、4.4.2では現代中国語音の声母と日本漢字音（漢音・吳音）の頭子音の対応関係、4.4.3では現代中国語音の韻母と日本漢字音（漢音・吳音）の主母音及び頭子音以外の部分の対応関係について分析を行う。そして、それの中では、さらに以下の

<sup>13</sup> 『漢字百科大事典』（1996）の「慣用音」の項（p.52、沼本克明）

分析を行う。まず、漢音字について分析しその主たる対応を抽出し、それを基本対応規則とする。次に、この基本対応規則は漢音・呉音字においてどの程度適用できるかについて分析する。最後に、この基本対応規則に当てはまらないものについては、呉音や現代中国語音から考察し、特徴のある対応を補助対応規則として提示する。

#### 4.4.2 現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音

表4-15は、多音字を除いた2級新出漢字(759字)に限定した場合の現代中国語音の声母と漢音の頭子音の対応関係を示したものである。ここでは、現代中国語音の声母を中国語話者及び中国語学習者が中国語を習う際によくみる声母順(つまり、「唇音・舌音・舌根音・舌面音・そり舌音・歯音」という順)に並べている。

表4-15 現代中国語音の声母と漢音の頭子音の対応関係

声母	現代中国語音 字数 (A)	漢音(3.1 で導出した 対応関係)	漢音			2級新出漢字 (多音字を除く)			
			対応関係	字数 (B)	対応率 (=B/A)				
1	b	22	ハ行	ハ行	22	100.0%	般	版	包
2	p	8	ハ行	ハ行	8	100.0%	拍	俳	砲
3	f	14	ハ行	ハ行	14	100.0%	販	犯	範
4	m	12	バ行	バ行	11	91.7%	馬	買	壳
			マ行	マ行	0	0.0%	秘		
			ハ行		1	8.3%	秘		
5	d	29	タ行	タ行	29	100.0%	達	答	帶
6	t	13	タ行	タ行	13	100.0%	他	塔	態
7	n	1	ダ行	ダ行	1	100.0%	努		
			ナ行	ナ行	0	0.0%			
8	l	32	ラ行	ラ行	32	100.0%	落	賴	欄
<hr/>									
22	ゼロ	86	ガ行	ガ行	14	16.3%	額	巖	(後略)
			ア行	ア行	40	46.5%	挨	愛	暗
			ヤ行	ヤ行	20	23.3%	羊	陽	養
			ワ行	ワ行	3	3.5%	湾	椀	
			バ行	バ行	5	5.8%	亡	望	微
			マ行	マ行	0	0.0%			
			カ行		3	3.5%	蚩	硬	完
			ザ行		1	1.2%	児		
合計	22	554	33	37	554				

まず、2級新出漢字の結果を第3章の3.1で中古音を介して導き出した現代中国語音の声母と漢音の頭子音の対応関係(表3-2)と比較した。比較した結果、以下の2点が分かった。1点目は、3.1で導き出した結果(表3-2)にはあるが、2級新出漢字の結果(表4-15)に見られなかった対応が3種類(表4-15中の太字部分)ある。この3種類とは、「m声母」と「マ行」、「n声母」と「ナ行」、「ゼロ声母」と「マ行」の対応である。2点目は、3.1で

導き出した結果（表3-2）にはないが、2級新出漢字の結果（表4-15）にみられたもの、つまり例外というものは6種類（表4-15中の網掛け部分）で合計10字ある。この6種類（10字）とは、「m声母」と「ハ行」の「秘 mi4-漢ヒ」、「r声母」と「ヤ行」の「融 rong2-漢ユウ」「容 rong2-漢ヨウ」「溶 rong2-漢ヨウ」、「r声母」と「ア行」の「栄 rong2-漢エイ」、「z声母」と「タ行」の「沢 ze2-漢タク」、「ゼロ声母」と「カ行」の「螢 ying2-漢ケイ」「硬 ying4-漢コウ」「完 wan2-漢カン」、「ゼロ声母」と「ザ行」の「兒 er2-漢ジ」である。これらの例外も含めて現代中国語音の22声母と漢音の間には合計37の関係がみられた。

次に、対応率でみた場合、現代中国語音の声母と漢音の頭子音についてどのような特徴があるのだろうか。表4-15の「m声母」を例に説明する。漢音字（554字）のうち、現代中国語で読むと「m声母」になる漢字は12字ある。この12字のうち、漢音が「バ行」であるのは11字で、「ハ行」であるのは1字である。対応率で言えば、「m声母」と「バ行」の対応率は91.7%で、「ハ行」とは8.3%ということになる。本研究では、「m声母」と「バ行」の対応を漢音の主たる対応関係と見なす。このように、「m声母」以外の各声母と漢音の主たる対応（つまり対応率が最も高い対応のこと）を調べた。それらの結果をまとめて表4-16に示す。

表4-16 現代中国語音の声母と漢音の頭子音の主たる対応関係

	現代中国語音		漢音		対応率 (=B/A)		現代中国語		漢音		対応率 (=B/A)	
	声母	字数 (A)	頭子音	字数 (B)			声母	字数 (A)	頭子音	字数 (B)		
1	b	22	ハ行	22	100.0%		j	59	カ行	45	76.3%	
2	p	8		8	100.0%		q	29		19	65.5%	
3	f	14		14	100.0%		x	34		22	64.7%	
4	m	12	バ行	11	91.7%	サ行	zh	44	サ行	25	56.8%	
5	d	29	タ行	29	100.0%		ch	18		10	55.6%	
6	t	13		13	100.0%		sh	29		29	100.0%	
7	n	1	ダ行	1	100.0%		z	17		16	94.1%	
8	l	32	ラ行	32	100.0%		c	16		16	100.0%	
9	g	32	カ行	32	100.0%		s	16		16	100.0%	
10	k	17		17	100.0%		r	6	ザ行	2	33.3%	
11	h	20		20	100.0%		ゼロ	86	ア行	40	46.5%	
					合計		22	554		9	439	79.2%

このように、現代中国語音の声母と漢音の頭子音の主たる対応（つまり基本対応規則）の中で、100%の対応は13個、90%～99%の対応は2個、70%～79%の対応は1個、60%～69%の対応は2個、50%～59%の対応は2個、40～49%の対応は1個、30～39%の対応

は1個である。つまり、主たる対応の対応率が50%以上のものは22声母中20声母であり、50%以下の対応（表4-16中網掛け部分）は2声母のみである。この2声母とは「r声母」と「ゼロ声母」である。以上のことから、現代中国語音の声母と漢音の頭子音でみた場合、両者の対応率がかなり高いことが分かる。

次いで、この基本対応規則は漢音・呉音字（687字）においてどの程度適用できるかについて調査した。その結果を表4-17に示す。

表4-17 現代中国語音の声母と漢音・呉音の頭子音の基本対応規則

	現代中国語音		漢音・呉音		対応率 (=B/A)		現代中国語音		漢音・呉音		対応率 (=B/A)
	声母	字数 (A)	頭子音	字数 (B)			声母	字数 (A)	頭子音	字数 (B)	
1	b	26	ハ行	24	92.3%	12	j	68	カ行	48	70.6%
2	p	10		8	80.0%	13	q	32		19	59.4%
3	f	17		15	88.2%	14	x	52		26	50.0%
4	m	29	バ行	11	37.9%	15	zh	50	サ行	30	60.0%
5	d	37	タ行	30	81.1%	16	ch	24		11	45.8%
6	t	19		16	84.2%	17	sh	42		34	81.0%
7	n	6	ダ行	1	16.7%	18	z	22		17	77.3%
8	l	34	ラ行	34	100.0%	19	c	19		17	89.5%
9	g	33	カ行	33	100.0%	20	s	18		16	88.9%
10	k	18		18	100.0%	21	r	8	ザ行	2	25.0%
11	h	26		20	76.9%	22	ゼロ	97	ア行	44	45.4%
						合計	22	687	9	474	69.0%

このように、以上の9規則は、漢音・呉音字（687字）の69.0%に当たる474字に適用可能である。この基本対応規則に当てはまらないもの（213字）については、第3章の「3.2.3.1.1 現代中国語音の声母と呉音・漢音の頭子音」の分析結果を参考にし、現代中国語音の声母が韻母または声調との組み合わせでみた場合、特徴があるかどうかについて分析した。その結果、以下の表4-18のような補助対応規則を得ることができた。

表4-18 現代中国語音の声母と漢音・呉音の頭子音の補助対応規則

	声母	補助規則	条件(声母/声調)	漢字	字数	対応率(基本対応規則のみ)	対応率(基本と補助の合計)
1	ゼロ	ヤ行	you	悠、優、遊、友、右、油、幼	7	45.5%	→
2	r	ヤ行	rong2	融、容、溶	3	25.0%	
3	m	マ行	鼻音韻尾	満、慢、夢、綿、免、面	6	37.9%	
4	p	バ行	鼻音韻尾 かつ 第2声	盤、盆	2	80.0%	
5	f	バ行		凡、防	2	88.2%	
6	n	ナ行		南、難、能	3	16.7%	
7	x	ザ行		旬、巡、循	3	50.0%	
合計					26		

この補助対応規則が適用できる漢字は合計 26 字である。これを基本対応規則が適用できる 474 字と合わせると、合計 500 字である。漢音・呉音字 (687 字) の 72.8% を占めていることが分かる。

#### 4.4.3 現代中国語音の韻母と日本漢字音の主母音及び頭子音以外の部分

4.4.2 では、現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音について分析した。ここでは、4.4.2 と同様に、まず、漢音字について分析しその主たる対応を抽出し、それを基本対応規則とする。次に、この基本対応規則は漢音・呉音字においてどの程度適用できるかについて分析する。最後に、この基本対応規則に当てはまらないものについては、呉音や現代中国語音から考察し、特徴のある部分を補助対応規則として提示する。

##### 4.4.3.1 現代中国語音の韻母と日本漢字音の主母音

表4-19 は、多音字を除いた 2 級新出漢字 (759 字) に限定した場合の現代中国語音の韻母と漢音の主母音及び頭子音以外の部分の対応関係を示したものである。表4-19 中の太字部分は、第3章の 3.1.2 で中古音を介して導き出した現代中国語音の韻母と漢音の主母音の対応関係 (表3-5) にはみられたが、2 級新出漢字の結果 (表4-19) に見られなかった対応である。この種の対応は 32 種類あることが分かった。例えば、「eng 韵母」と漢音の「ウ段」の対応、「iou 韵母」と「イ段」の対応などが挙げられる。一方、3.1.2 で導き出した対応関係 (表3-5) には見られなかったが、2 級新出漢字の結果 (表4-19) にみられたもの、つまり例外となるものは「対応関係」欄の中で網掛けで示している。全部で 3 種類、合計 3 字である。この 3 種類 (3 字) とは、「ong 韵母」と「エ段」の「榮 rong2-漢 エ

イ」、「üan 韵母」と「ア段」の「卷 juan4-漢 カン」、「ün 韵母」と「オ段」の「遜 xun4-漢 ソン」である。これらの例外も含め、多音字を除いた2級新出漢字（759字）に限定した場合の現代中国語音の韵母と漢音の主母音の対応関係は合計68種類あることが分かった。

表4-19 現代中国語音の韵母と漢音の主母音及び頭子音以外の部分の対応関係

韻母	現代中国語音		漢音（3.1で導出した対応関係）	漢音						2級新出漢字 (多音字を除く)								
	対応関係	字数(B)		主母音		頭子音以外の部分												
				対応関係	字数(C)	対応率(=B/A)	対応関係	字数(C)	対応率(=C/A)									
1	eng	11	オ段	オ段	8	72.7%	オウ	5	45.5%	耕	更	層	(後略)					
			エ段	エ段	3	27.3%	ヨウ	3	27.3%	証	徵	勝						
			ウ段	ウ段	0		エイ	3	27.3%	成	程	整						
2	ong	18	オ段	オ段	14	77.8%	オウ	7	38.9%	東	凍	功	(後略)					
			ウ段	ウ段	3	16.7%	ヨウ	7	38.9%	共	供	恐	(後略)					
			エ段	エ段	1	5.6%	ユウ	3	16.7%	融	終	衆						
9	an	22	ア段	ア段	21	95.5%	アン	21	95.5%	誕	旦	乾	(後略)					
			エ段	エ段	1	4.5%	エン	1	4.5%	扇								
10	ian	28	エ段	エ段	24	85.7%	エン	24	85.7%	煙	延	演	(後略)					
			ア段	ア段	4	14.3%	アン	4	14.3%	岩	監	鑑	(後略)					
17	iao	22	オ段	オ段	19	86.4%	ヨウ	17	77.3%	要	謡	曜	(後略)					
			エ段	エ段	3	13.6%	オウ	2	9.1%	孝	効							
			ウ段	ウ段	0		アク	2	9.1%	較	角							
18	iou	15	ウ段	ウ段	15	100.0%	ヤク	1	4.5%	葉								
			イ段	イ段	0		0	0.0%										
			オ段	オ段	0		ユウ	15	100.0%	悠	優	遊	(後略)					
25	ia	5	ア段	ア段	5	100.0%	ア	5	100.0%	加	仮	架	(後略)					
			オ段	オ段	0		0	0.0%										
26	ie	10	エ段	エ段	5	50.0%	エツ	4	40.0%	傑	潔	列	(後略)					
			ア段	ア段	2	20.0%	エキ	1	10.0%	液								
			オ段	オ段	3	30.0%	アイ	1	10.0%	解								
35	u	42	オ段	オ段	30	71.4%	オ	19	45.2%	捕	補	粗	(後略)					
			エ段	エ段	9	21.4%	ヨ	5	11.9%	署	处	諸	(後略)					
			ウ段	ウ段	0		オク	4	9.5%	穀	牧	速	(後略)					
36	ü	18	オ段	オ段	13	72.2%	オツ	2	4.8%	骨	突							
			エ段	エ段	5	27.8%	ウ	6	14.3%	膚	符	府	(後略)					
			ウ段	ウ段	0		エク	1	2.4%	福								
合計		35	554	98	68	554		105	554									

表4-19のデータを基に、各韻母（35個。本来現代中国語音の韻母は36個あるが、2級新出漢字の中には「ueng 韵母」字はないため、ここでは韻母が35となる）からみた場合、漢音の主母音との対応の中で対応率が最も高いものを調べた。その結果、100%の対応は14個、90%～99%の対応は3個、80～89%の対応は5個、70%～79%の対応は6個、60%～69%の対応は2個、50%～59%の対応は3個、40～49%の対応は1個、30～39%の対応は1個である。このように、最も高い対応率が30～39%である対応もあるが、70%以上の対応率である対応が28個で全体（35個）の8割を占めていることが分かる。つまり、現代中国語音の韻母と漢音の主母音の対応関係の中の最も高い対応率を持つ対応は、日本漢字音教育現場に十分活用できると考えられる。この主たる対応関係を整理してみると、表4-20のようになる。

表4-20 現代中国語音の韻母と漢音の主母音との主たる対応関係

	現代中国語音		漢音		対応率 (=B/A)		現代中国語音		漢音		対応率 (=B/A)
	韻母	字数(A)	主母音	字数(B)			韻母	字数(A)	主母音	字数(B)	
1	a	12	ア段	9	75.0%	19	ün	3	ウ段	1	33.3%
2	ai	19		19	100.0%	20	ian	28		24	85.7%
3	an	22		21	95.5%	21	ie	10		5	50.0%
4	e	23		14	60.9%	22	ing	23		21	91.3%
5	ia	5		5	100.0%	23	iong	1		1	100.0%
6	o	6		6	100.0%	24	üan	9		8	88.9%
7	ua	4		4	100.0%	25	ang	11		11	100.0%
8	uai	1		1	100.0%	26	ao	23		23	100.0%
9	uan	18		16	88.9%	27	eng	11		8	72.7%
10	üe	4		4	100.0%	28	iang	11		11	100.0%
11	uo	18		17	94.4%	29	iao	22		19	86.4%
12	ei	9	イ段	4	44.4%	30	ong	18	才段	14	77.8%
13	en	11		8	72.7%	31	ou	13		7	53.8%
14	er	1		1	100.0%	32	u	42		30	71.4%
15	i	86		50	58.1%	33	ü	18		13	72.2%
16	in	16		16	100.0%	34	uang	11		11	100.0%
17	uei	20		12	60.0%	35	uen	10		8	80.0%
18	iou	15		15	100.0%	合計	35	554		5	437 78.9%

このように、現代中国語音の「a」「ai」「an」などの11韻母は漢音では「ア段」になる。「ei」「en」「er」などの6韻母は「イ段」、「iou」と「ün」の2韻母は「ウ段」、「ian」「ie」「ing」などの5韻母は「エ段」、「ang」「eng」「iang」などの10韻母は「オ段」になることが分かる。そして、表4-20の主たる対応関係は、漢音字（554字）の78.9%に当たる437字に適用可能である。

次いで、吳音も含めて考える場合、この主たる対応、つまり基本対応規則はどの程度適用できるかについて分析する。表4-21は、その結果を示したものである。網掛け部分は、対応率が50%以下のものである。

表4-21 現代中国語音の韻母と漢音・吳音の主母音との基本対応規則

	現代中国語音		漢音・吳音		対応率 (=B/A)		現代中国語音		漢音・吳音		対応率 (=B/A)
	韻母	字数(A)	主母音	字数(B)			韻母	字数(A)	主母音	字数(B)	
1	a	12	ア段	9	75.0%	19	ün	7	ウ段	5	71.4%
2	ai	23		23	100.0%	20	ian	34		30	88.2%
3	an	31		26	83.9%	21	ie	13		5	38.5%
4	e	25		16	64.0%	22	ing	32	エ段	21	65.6%
5	ia	5		5	100.0%	23	iong	3		1	33.3%
6	o	9		9	100.0%	24	üan	9		8	88.9%
7	ua	4		4	100.0%	25	ang	16		16	100.0%
8	uai	1		1	100.0%	26	ao	29		28	96.6%
9	uan	20		17	85.0%	27	eng	17		13	76.5%
10	üe	4		4	100.0%	28	iang	17		17	100.0%
11	uo	22		21	95.5%	29	iao	25		21	84.0%
12	ei	11	イ段	5	45.5%	30	ong	19	オ段	15	78.9%
13	en	15		11	73.3%	31	ou	15		7	46.7%
14	er	1		1	100.0%	32	u	57		40	70.2%
15	i	104		57	54.8%	33	ü	22		16	72.7%
16	in	16		16	100.0%	34	uang	14		14	100.0%
17	uei	24		13	54.2%	35	uen	13		8	61.5%
18	iou	18		17	94.4%	合計	35	687		5	517 75.3%

このように、以上の5規則は漢音・吳音字(687字)の75.3%に当たる517字に適用できることが分かった。そして、この基本対応規則に当てはまらないもの(170字)についても、現代中国語音の韻母が声母または声調との組み合わせでみた場合、特徴があるかどうかについて分析した。その結果、表4-22のような補助対応規則を得ることができた。

表4-22 現代中国語音の韻母と漢音・呉音の主母音との補助対応規則

現代中国語音の韻母	補助規則	条件(声母/声調)	漢字	字数	対応率(基本対応規則のみ)		対応率(基本と補助の合計)
1 u	ウ段	f声母	膚、符、府、付、富、福	6	70.2%		80.7%
2 e	エ段		徹、設、折、哲	4	64.0%		80.0%
3 uan			船、栓、伝	3	85.0%		100.0%
4 ou	ウ段	そり舌音	抽、収、州、周、宙、昼、首、寿	8	46.7%	→	100.0%
5 uei			炊、垂、睡、追	4	54.2%		70.8%
6 uen	エ段	そり舌音&第4声	瞬、順、純	3	61.5%		84.6%
7 an			扇、善、繕	3	83.9%		93.5%
合計		4	3	31			

「an 韵母」を例に表4-22を説明する。基本対応規則（表4-21）では「an 韵母」が漢音・呉音の主母音「ア段」に対応しているが、「an 韵母」が「zh、ch、sh、r 声母」（いわゆるそり舌音）と組み合わさった第4声で読む漢字は、漢音・呉音の主母音が「エ段」になることが分析によって分かった。この特徴を補助対応規則と見なした。そして、この補助対応規則に従う「an 韵母」字は、「扇 shan4-ഷンゼン」「善 shan4-ഷンゼン」「繕 shan4-ഷンゼン」の3字である。

この補助対応規則（表4-22）が適用できる漢字は合計31字である。この31字を基本対応規則が適用できる517字と合わせると、合計548字（漢音・呉音字全体の687字の79.8%）である。つまり、基本対応規則と補助対応規則の両方を利用することで、漢音・呉音字（687字）の約8割の漢字については、現代中国語音から日本漢字音の主母音を推測することができるということである。

#### 4.4.3.2 現代中国語音の韻母と日本漢字音の頭子音以外の部分

表4-19から、現代中国語音の韻母と頭子音以外の部分の対応関係は、例外も含めて合計105種類あることが分かった。例えば、「eng 韵母」の場合、対応する漢音の主母音でみた場合、「オ段」との対応率は72.7%で、「エ段」との対応率は27.3%である。一方、主母音も含む「頭子音以外の部分」でみた場合、「オウ」との対応率は45.5%、「ヨウ」との対応率は23.7%で、「エイ」との対応率は23.7%である。このことから、「eng 韵母」と漢音の頭子音以外の部分との対応関係は3種類あり、その中で「オウ」との対応率が最も高いことが分かる。つまり、「eng 韵母」と漢音の「オウ」との対応が主たる対応である。

しかし、最も高い対応率が2つある場合がある。例えば、表4-19の2番「ong 韻母」は、「オウ」との対応率も、「ヨウ」との対応率も38.9%である。このような2級新出漢字の結果では判断できない場合は、第3章の漢音字の結果（2級漢字でみた場合）を参考に主たる対応を判断する。上述の「ong 韵母」の場合は、2級漢字の漢音字の結果において、「オウ」との対応率は50%で、「ヨウ」との対応率は31.8%であることから、ここでは「オウ」を主たる対応と判断した。「ong 韵母」以外に、「ün 韵母」と「üe 韵母」も最も高い対応率は2つある。この2韻母についても、同じように2級漢字の漢音字の結果を参考にそれぞれ「ウン」と「ヤク」を主たる対応と判断した。このように分析していくと、表4-23のような結果が得られた。

表4-23 現代中国語音の韻母と漢音の頭子音以外の部分との主たる対応関係

	現代中国語音		漢音		対応率 (=B/A)		現代中国語音		漢音		対応率 (=B/A)
	韻母	字数 (A)	頭子音以外の部分	字数 (B)			韻母	字数 (A)	頭子音以外の部分	字数 (B)	
1	ia	5	ア	5	100.0%		ing	23	エイ	21	91.3%
2	ua	4		3	75.0%		ie	10	エツ	4	40.0%
3	uai	1	アイ	1	100.0%		üan	9	エン	8	88.9%
4	ai	19		18	94.7%		ian	28		24	85.7%
5	uo	18	アク	7	38.9%		u	42	オ	19	45.2%
6	o	6		4	66.7%		uang	11		10	90.9%
7	e	23		8	34.8%		ang	11		8	72.7%
8	a	12	アツ	5	41.7%		eng	11	オウ	5	45.5%
9	an	22		21	95.5%		ong	18		7	38.9%
10	uan	18	アン	13	72.2%		ao	23		18	78.3%
11	uei	20		12	60.0%		ou	13		7	53.8%
12	ei	9	イ	4	44.4%		uen	10	オン	8	80.0%
13	er	1		1	100.0%		üe	4		2	50.0%
14	i	86		49	57.0%		iou	15		15	100.0%
15	en	11	イン	8	72.7%		ü	18	ヨ	9	50.0%
16	in	16		16	100.0%		iang	11		9	78.6%
17	ün	3	ウン	1	33.3%		iao	22	ヨウ	17	77.3%
18	iong	1	エイ	1	100.0%		合計	35		18	66.4%

表4-23から分かるように、現代中国語音の「ia」「ua」の2韻母は漢音では「ア」になる。そして、それぞれの対応率は100%と75.0%である。一方、「uai」「ai」の2韻母は「アイ」になる。そして、それぞれの対応率は100.0%と94.7%である。

このように、100%の対応は6個、90%～99%の対応は4個、80～89%の対応は3個、70%～79%の対応は7個、60%～69%の対応は2個、50%～59%の対応は4個、40～49%の対応は5個、30～39%の対応は4個である。上述した「主母音」でみた場合の対応率と比較すると、多少低くなっているが、70%以上の対応率のものが20個で全体（35個）の6割

弱占めていることが分かる。そして、以上の18規則は漢音字(554字)の66.4%に当たる368字に適用可能である。

次いで、吳音も含めて考える場合、この主たる対応、つまり基本対応規則はどの程度適用できるかについて分析した。表4-24は、その結果を示したものである。網掛け部分は、対応率が50%以下のものである。

表4-24 現代中国語音の韻母と漢音・吳音の頭子音以外の部分との基本対応規則

	現代中国語音		漢音・吳音		対応率 (=B/A)		現代中国語音		漢音・吳音		対応率 (=B/A)
	韻母	字数(A)	頭子音以外の部分	字数(B)			韻母	字数(A)	頭子音以外の部分	字数(B)	
1	ia	5	ア	5	100.0%	19	ing	32	エイ	21	65.6%
2	ua	4		3	75.0%	20	ie	13	エツ	4	30.8%
3	uai	1	アイ	1	100.0%	21	üan	9	エン	8	88.9%
4	ai	23		21	91.3%	22	ian	34		30	88.2%
5	uo	22	アク	8	36.4%	23	u	57	オ	21	36.8%
6	o	9		4	44.4%	24	uang	14	オウ	10	71.4%
7	e	25		8	32.0%	25	ang	16		11	68.8%
8	a	12	アツ	5	41.7%	26	eng	17		7	41.2%
9	an	31	アン	26	83.9%	27	ong	19		7	36.8%
10	uan	20		14	70.0%	28	ao	29	オウ	23	79.3%
11	uei	24	イ	13	54.2%	29	ou	15		7	46.7%
12	ei	11		5	45.5%	30	uen	13	オン	8	61.5%
13	er	1		1	100.0%	31	üe	4	ヤク	2	50.0%
14	i	104		54	51.9%	32	iou	18	ユウ	15	83.3%
15	en	15	イン	11	73.3%	33	ü	22	ヨ	11	50.0%
16	in	16		16	100.0%	34	iang	17	ヨウ	10	58.8%
17	ün	7	ウン	2	28.6%	35	iao	25		19	76.0%
18	iong	3	エイ	1	33.3%	合計	35	687	18	412	60.0%

このように、以上の18規則は漢音・吳音字(687字)の60.0%に当たる412字に適用できることが分かった。そして、この基本対応規則に当てはまらないもの(275字)についても、現代中国語音の声母や声調との組み合わせでみた場合、特徴があるかどうかについて分析した。その結果、表4-25のような補助対応規則を得ることができた。

表4-25 現代中国語音の韻母と漢音・吳音の頭子音以外の部分との補助対応規則

	現代中国語音の韻母	補助規則	条件(声母/声調)	漢字	字数	対応率(基本対応規則のみ)		対応率(基本と補助の合計)	
1	üe	アク	舌面音 x声母 かつ2声	確、覚	2	50.0%	→	100.0%	
2	ün	ウン		旬、巡、循	3	42.9%		85.7%	
3	uei	ワイ		炊、垂、睡、追	4	54.2%		70.8%	
4	e	エツ		徹、設、折、哲	4	32.0%		48.0%	
5	an	エン		扇、善、纏	3	83.9%		93.5%	
6	uan			船、栓、伝	3	70.0%		85.0%	
7	ou	ユウ		抽、収、州、周、宙、昼	6	46.7%		86.7%	
8	ong	ヨウ		容、溶、冗、衝	4	36.8%		45.6%	
9	uen	ウン		瞬、順、純	3	61.5%		84.6%	
10	u	ヨ		署、処、諸、貯、著	5	36.8%		45.6%	
11	ao	ヨウ		超、少、朝、照、兆	5	79.3%		96.6%	
12	ang			張、掌、帳、商、賞	5	68.8%		100.0%	
13	eng			証、徵、勝、乘、剩、症	6	41.2%		76.5%	
合計		9	3		53				

「üe 韵母」を例に表4-25を説明する。基本対応規則(表4-24の31番)では、「üe 韵母」が「ヤク」に対応しているが、「üe 韵母」は舌面音の「j、q、x 声母」と組み合わさる場合は、漢音・吳音の「アク」に対応することが分析によって分かった。そこで、この特徴を補助対応規則と見なした。この補助対応規則に従う「üe 韵母」字は以下の2字である。「確 que4-漢カク」と「覚 jue2-漢カク」である。

この補助対応規則(表4-25)が適用できる漢字は合計53字である。この53字を基本対応規則が適用できる412字と合わせると、合計465字(漢音・吳音字全体の687字の67.7%)である。つまり、基本対応規則と補助対応規則両方利用することで、漢音・吳音字(687字)の7割弱の漢字については、現代中国語音から日本漢字音の頭子音以外の部分を推測することができるということである。

#### 4.5 区別しない場合と区別する場合の比較

4.3では日本漢字音を吳音・漢音・唐音・慣用音に区別しない場合の「基本対応規則」と「補助対応規則」、4.4では日本漢字音を吳音・漢音・唐音・慣用音に区別する場合の「基本対応規則」と「補助対応規則」を見出した。本節では、4.3と4.4の分析結果を比較し、2級新出漢字を学習する3級レベルの中国語話者のために、より有効に活用できるような

現代中国語音と日本漢字音の対応規則を検討する。

#### 4.5.1 基本対応規則の比較

まず、現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音の基本対応規則についてみていく。表4-26は区別しない場合（表4-8と同じもの）で、表4-27は区別する場合（表4-17と同じもの）の基本対応規則である。

表4-26 声母と日本漢字音の頭子音の基本対応規則（区別しない場合）

	現代中国語音		日本漢字音		対応率 (=B/A)
	声母	字数 (A)	頭子音	字数 (B)	
1	b	29	ハ行	25	86.2%
2	p	15		12	80.0%
3	f	20		17	85.0%
4	m	36		24	66.7%
5	d	37		30	81.1%
6	t	27		18	66.7%
7	n	9		7	77.8%
8	l	35		35	100.0%
9	g	35		34	97.1%
10	k	18		18	100.0%
11	h	27	カ行	20	74.1%
12	j	77		50	64.9%
13	q	34		20	58.8%
14	x	53		26	49.1%
15	zh	56		31	55.4%
16	ch	26		11	42.3%
17	sh	48		35	72.9%
19	z	27	サ行	20	74.1%
20	c	21		19	90.5%
21	s	19		16	84.2%
18	r	9		3	33.3%
22	ゼロ	101		45	44.6%
合計	22	759		516	68.0%

表4-27 声母と日本漢字音の頭子音の基本対応規則（区別する場合）

	現代中国語音		漢音・吳音		対応率 (=B/A)
	声母	字数 (A)	頭子音	字数 (B)	
1	b	26	ハ行	24	92.3%
2	p	10		8	80.0%
3	f	17		15	88.2%
4	m	29		11	37.9%
5	d	37		30	81.1%
6	t	19		16	84.2%
7	n	6		1	16.7%
8	l	34		34	100.0%
9	g	33		33	100.0%
10	k	18		18	100.0%
11	h	26	カ行	20	76.9%
12	j	68		48	70.6%
13	q	32		19	59.4%
14	x	52		26	50.0%
15	zh	50		30	60.0%
16	ch	24		11	45.8%
17	sh	42		34	81.0%
18	z	22	サ行	17	77.3%
19	c	19		17	89.5%
20	s	18		16	88.9%
21	r	8		2	25.0%
22	ゼロ	97		44	45.4%
合計	22	687		474	69.0%

このように、○で囲んでいる3箇所以外、区別しない場合と区別する場合とで、現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音の基本対応規則が同じであり、漢音の主たる対応は、日本漢字音全体の主たる対応とほぼ同じであることが分かる。このことから、漢音の主たる対応は日本漢字音全体においても十分活用可能であると言える。

そして、基本対応規則において異なるのは、「m 声母」「n 声母」「r 声母」と日本漢字音の対応である。「m 声母」「n 声母」は、区別しない場合ではそれぞれ「マ行」「ナ行」（鼻音）に対応するが、区別する場合ではそれぞれ「バ行」と「ダ行」（濁音）に対応している。そ

これは、区別しない場合は、現代中国語で「m 声母」または「n 声母」で読む漢字は、日本漢字音では漢音より呉音で読まれるものが多いからである。従って、呉音の特徴（「m 声母」や「n 声母」のような鼻音声母は、呉音においても鼻音となる）が基本対応規則に反映されている。一方、「r 声母」は、区別しない場合では「ヤ行」、区別する場合では「ザ行」である。区別しない場合の「ヤ行」は3.1で導き出した全体の対応関係によっては例外である。つまり、2級新出漢字に限定した場合、偶然例外である関係に従う漢字が、漢音字よりも呉音字よりも多いため、基本対応規則となることもある。以上から分かるように、区別しない場合の基本対応規則は、場合によって異なる。多くの場合は漢音の主たる対応関係が基本対応規則になっているが、漢音以外は、呉音の主たる対応関係がなる場合もあれば、その他の場合もある。それに対し、区別する場合（つまり漢音の主たる対応関係を基本対応規則とする場合）は、対象漢字の範囲が変わっても基本対応規則は変わることはない。つまり、学習者がこの基本対応規則を覚えれば、2級新出漢字の学習においても、1級新出漢字の学習においても活用可能である。

また、基本対応規則の対応率についてみると、区別しない場合は68.0%であるのに対し、区別する場合は69.0%である。このように、区別する場合の方が対応率がやや高いことが分かる。

次に、現代中国語音の韻母と日本漢字音の主母音の基本対応規則についてみていく。表4-28は区別しない場合（表4-11と同じもの）で、表4-29は区別する場合（表4-21と同じもの）の基本対応規則である。

表4-28 韻母と日本漢字音の主母音の基本対応規則（区別しない場合）

	現代中国語音		日本漢字音		対応率 (=B/A)
	韻母	字数 (A)	主母音	字数 (B)	
1	a	14	ア段	11	78.6%
2	ai	26		26	100.0%
3	an	33		27	81.8%
4	e	28		15	53.6%
5	ia	6		6	100.0%
6	o	10		10	100.0%
7	ua	4		4	100.0%
8	uai	1		1	100.0%
9	uan	20		17	85.0%
10	üe	5		4	80.0%
11	uo	24		23	95.8%
12	ei	11	イ段	5	45.5%
13	en	16		11	68.8%
14	er	1		1	100.0%
15	i	117		64	54.7%
16	in	16		16	100.0%
17	uei	27		13	48.1%
18	iou	18	ウ段	17	94.4%
19	ou	18		10	55.6%
20	ün	8		6	75.0%
21	ian	38	エ段	33	86.8%
22	ie	16		8	50.0%
23	ing	34		22	64.7%
24	iong	3		1	33.3%
25	üan	9		8	88.9%
26	ang	16	オ段	16	100.0%
27	ao	35		32	91.4%
28	eng	20		16	80.0%
29	iang	18		18	100.0%
30	iao	25		21	84.0%
31	ong	28		19	67.9%
32	u	61		41	67.2%
33	ü	25		16	64.0%
34	uang	14		14	100.0%
35	uen	14		8	57.1%
合計	35	759	5	560	73.8%

表4-29 韵母と日本漢字音の主母音の基本対応規則（区別する場合）

	現代中国語音		漢音・吳音		対応率 (=B/A)
	韻母	字数 (A)	主母音	字数 (B)	
1	a	12	ア段	9	75.0%
2	ai	23		23	100.0%
3	an	31		26	83.9%
4	e	25		16	64.0%
5	ia	5		5	100.0%
6	o	9		9	100.0%
7	ua	4		4	100.0%
8	uai	1		1	100.0%
9	uan	20		17	85.0%
10	üe	4		4	100.0%
11	uo	22		21	95.5%
12	ei	11		5	45.5%
13	en	15	イ段	11	73.3%
14	er	1		1	100.0%
15	i	104		57	54.8%
16	in	16		16	100.0%
17	uei	24		13	54.2%
18	iou	18		17	94.4%
19	ün	7	ウ段	5	71.4%
20	ian	34		30	88.2%
21	ie	13		5	38.5%
22	ing	32		21	65.6%
23	iong	3		1	33.3%
24	üan	9	エ段	8	88.9%
25	ang	16		16	100.0%
26	ao	29		28	96.6%
27	eng	17		13	76.5%
28	iang	17		17	100.0%
29	iao	25		21	84.0%
30	ong	19		15	78.9%
31	ou	15		7	46.7%
32	u	57		40	70.2%
33	ü	22		16	72.7%
34	uang	14	オ段	14	100.0%
35	uen	13		8	61.5%
合計	35	687	5	517	75.3%

声母と同じように、区別しない場合と区別する場合とでは、現代中国語音の韻母と日本漢字音の主母音の基本対応規則が1箇所以外全て同じである。その1箇所とは「ou 韵母」である。「ou 韵母」は、区別しない場合では「ウ段」、区別する場合では「オ段」である。そして、基本対応規則の対応率でみた場合、区別しない場合は73.8%であるのに対し、区別する場合は75.3%である。このように、区別する場合の方が対応率がやや高いことが分

かる。

最後に、現代中国語音の韻母と日本漢字音の頭子音以外の部分の基本対応規則についてみていく。表4-30は区別しない場合（表4-13と同じもの）で、表4-31は区別する場合（表4-24と同じもの）の基本対応規則である。

表4-30 韵母と日本漢字音の頭子音以外の部分の基本対応規則（区別しない場合）

	現代中国語音		日本漢字音		対応率 (=B/A)
	韻母	字数 (A)	頭子音以 外の部分	字数 (B)	
1	ia	6	ア	5	83.3%
2	ua	4		3	75.0%
3	uo	24		10	41.7%
4	o	10		4	40.0%
5	uai	1	アイ	1	100.0%
6	ai	26		22	84.6%
7	e	28	アク	8	28.6%
8	a	14	アツ	6	42.9%
9	an	33	アン	27	81.8%
10	uan	20		14	70.0%
11	uei	27	イ	13	48.1%
12	ei	11		5	45.5%
13	er	1		1	100.0%
14	i	117		55	47.0%
15	en	16	イン	11	68.8%
16	in	16		16	100.0%
17	ing	34	エイ	22	64.7%
18	ie	16	エツ	6	37.5%
19	üan	9	エン	8	88.9%
20	ian	38		32	84.2%
21	u	61	オ	21	34.4%
22	uang	14	オウ	10	71.4%
23	ang	16		11	68.8%
24	eng	20		9	45.0%
25	ong	28		12	42.9%
26	ao	35	ヨウ	25	71.4%
27	ou	18		7	38.9%
28	uen	14	オン	8	57.1%
29	üe	5	ヤク	2	40.0%
30	iong	3	ユウ	1	33.3%
31	iou	18		15	83.3%
32	ün	8	ユン	3	37.5%
33	ü	25	ヨ	11	44.0%
34	iang	18	ヨウ	10	78.6%
35	iao	25		19	76.0%
合計	35	759	18	433	57.0%

表4-31 韵母と日本漢字音の頭子音以外の部分の基本対応規則（区別する場合）

	現代中国語音		漢音・吳音		対応率 (=B/A)
	韻母	字数 (A)	頭子音以 外の部分	字数 (B)	
1	ia	5	ア	5	100.0%
2	ua	4		3	75.0%
3	uai	1		1	100.0%
4	ai	23		21	91.3%
5	uo	22	アク	8	36.4%
6	o	9		4	44.4%
7	e	25		8	32.0%
8	a	12		5	41.7%
9	an	31	アン	26	83.9%
10	uan	20		14	70.0%
11	uei	24	イ	13	54.2%
12	ei	11		5	45.5%
13	er	1		1	100.0%
14	i	104		54	51.9%
15	en	15	イン	11	73.3%
16	in	16		16	100.0%
17	ün	7	ウン	2	28.6%
18	iong	3	エイ	1	33.3%
19	ing	32		21	65.6%
20	ie	13	エツ	4	30.8%
21	üan	9	エン	8	88.9%
22	ian	34		30	88.2%
23	u	57	オ	21	36.8%
24	uang	14	オウ	10	71.4%
25	ang	16		11	68.8%
26	eng	17		7	41.2%
27	ong	19		7	36.8%
28	ao	29	ヨウ	23	79.3%
29	ou	15		7	46.7%
30	uen	13	オン	8	61.5%
31	üe	4	ヤク	2	50.0%
32	iou	18	ユウ	15	83.3%
33	ü	22	ヨ	11	50.0%
34	iang	17	ヨウ	10	58.8%
35	iao	25		19	76.0%
合計	35	687	18	412	60.0%

主母音と同様に、日本漢字音を区別しない場合と区別する場合とで、現代中国語音の韻

母と日本漢字音の頭子音以外の部分の基本対応規則は3箇所以外全て同じである。その3箇所とは「o」「uai」「iong」3韻母と日本漢字音の対応である。区別しない場合では、「o」「uai」「iong」3韻母がそれぞれ「ア」「アイ」「ユウ」に対応しているが、区別する場合ではそれぞれ「アク」「アイ」「エイ」に対応している。そして、基本対応規則の対応率でみた場合、区別しない場合は57.0%であるのに対し、区別する場合は60.0%である。このように、区別する場合の方が対応率がやや高いことが分かる。

以上をまとめると、基本対応規則について、区別しない場合(4.3)と区別する場合(4.4)とでは、規則の内容はほぼ同じである。しかし、対応率でみた場合は区別する場合の方がやや高い。そして、2級新出漢字という範囲が変わっても、有効に利用できるのは区別する場合の基本対応規則である。

#### 4.5.2 補助対応規則の比較

まず、声母と日本漢字音の頭子音についてみていく。表4-32は区別しない場合(表4-9と同じもの)で、表4-33は区別する場合(表4-18と同じもの)の補助対応規則である。

表4-32 声母と日本漢字音の頭子音の補助対応規則(区別しない場合)

	声母	補助規則	条件(声母/声調)	漢字	字数
1	ゼロ	ヤ行	you	悠、優、遊、友、右、油、幼	7
2	r	ヤ行	rong2	融、容、溶	3
3	p	バ行	鼻音韻尾	盤、盆	2
4	x	ザ行	かつ第2声	旬、巡、循	3
合計		7	4		15

表4-33 声母と日本漢字音の頭子音の補助対応規則(区別する場合)

	声母	補助規則	条件(声母/声調)	漢字	字数
1	ゼロ	ヤ行	you	悠、優、遊、友、右、油、幼	7
2	r	ヤ行	rong2	融、容、溶	3
3	m	マ行	鼻音韻尾	満、慢、夢、綿、免、面	6
4	p	バ行	鼻音韻尾かつ	盤、盆	2
5	f	バ行	第2声	凡、防	2
6	n	ナ行		南、難、能	3
7	x	ザ行		旬、巡、循	3
合計		7	4		26

このように、現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音について、区別しない場合より

区別する場合のほうは補助対応規則が多い。なぜ区別する場合により多くの補助規則が見出せたのかというと、それは以下の理由が考えられる。区別しない場合では、基本対応規則に当てはまらない漢字の中には、呉音字と慣用音字が多く含まれている。第3章から分かるように、呉音字については、現代中国語音からみた場合ある程度の特徴を持っているが、慣用音字については特徴がない。このような特徴がない慣用音字の影響で、補助対応規則として特徴が見出せなかった。しかし、これらの慣用音字を別扱いすれば（つまり区別する場合）、基本対応規則に当てはまらないものには呉音字がほとんどである。従って、呉音の特徴利用した補助対応規則を見出すことができたわけである。

次に、現代中国語音の韻母と日本漢字音の主母音の補助対応規則についてみていく。表4-34は区別しない場合（表4-12と同じもの）で、表4-35は区別する場合（表4-22と同じもの）の補助対応規則である。

表4-34 韵母と日本漢字音の主母音の補助対応規則（区別しない場合）

	現代中国語音の韻母	補助規則	条件（声母/声調）	漢字	字数	
1	u	ウ段	f声母	膚、符、府、付、富、福、副	7	
2	e	エ段	そり舌音	徹、設、折、哲	4	
3	uan			船、栓、伝	3	
5	uei	ウ段		炊、垂、睡、追	4	
6	uen			瞬、順、純	3	
7	an	エ段	そり舌音&第4声	扇、善、繕	3	
合計		4	3		24	

表4-35 韵母と日本漢字音の主母音の補助対応規則（区別する場合）

	現代中国語音の韻母	補助規則	条件（声母/声調）	漢字	字数	
1	u	ウ段	f声母	膚、符、府、付、富、福	6	
2	e	エ段	そり舌音	徹、設、折、哲	4	
3	uan			船、栓、伝	3	
4	ou	ウ段		抽、収、州、周、宙、昼、首、寿	8	
5	uei			炊、垂、睡、追	4	
6	uen	エ段		瞬、順、純	3	
7	an	そり舌音&第4声	扇、善、繕	3		
合計		4	3		31	

このように、現代中国音の韻母と日本漢字音の主母音の補助対応規則について、区別しない場合と区別する場合とでは1箇所異なった。それは、「ou 韵母」である。区別しない場合にはないが、区別する場合には「ou 韵母」と「ウ段」の対応がみられた。

最後に、現代中国語音の韻母と日本漢字音の頭子音以外の部分の補助対応規則についてみていく。表4-36は区別しない場合（表4-14と同じもの）で、表4-37は区別する場合（表4-25と同じもの）の補助対応規則である。

表4-36 韵母と日本漢字音の頭子音以外の部分の補助対応規則（区別しない場合）

	現代中国語音の韻母	補助規則	条件（声母）	漢字	字数
1	üe	アク	舌面音	確、覚	2
2	en	ウン	唇音	霧、噴	2
3	uei	ウイ	そり舌音	炊、垂、睡、追	4
4	e	エツ		徹、設、折、哲	4
5	an	エン		扇、善、繕、染	4
6	uan			船、栓、伝	3
7	ong	ユウ		融、終、衆、充、銃	5
8	ou			抽、収、州、周、宙、昼	6
9	uen	ユン		瞬、順、純	3
10	u	ヨ		署、処、諸、貯、著、助	6
11	ang			張、掌、帳、商、賞	5
12	eng	ヨウ		証、徵、勝、乗、剩、症、蒸	7
13	ao			超、少、朝、照、兆	5
合計		9	3		56

表4-37 韵母と日本漢字音の頭子音以外の部分の補助対応規則（区別する場合）

	現代中国語音の韻母	補助規則	条件（声母/声調）	漢字	字数
1	üe	アク	舌面音	確、覚	2
2	ün	ユン	そり舌音 かつ2声	旬、巡、循	3
3	uei	ウイ		炊、垂、睡、追	4
4	e	エツ		徹、設、折、哲	4
5	an	エン		扇、善、繕	3
6	uan			船、栓、伝	3
7	ou	ユウ		抽、収、州、周、宙、昼	6
8	ong	ヨウ		容、溶、冗、衝	4
9	uen	ユン		瞬、順、純	3
10	u	ヨ		署、処、諸、貯、著	5
11	ao			超、少、朝、照、兆	5
12	ang	ヨウ		張、掌、帳、商、賞	5
13	eng			証、徵、勝、乗、剩、症	6
合計		9	3		53

このように、現代中国音の韻母と日本漢字音の頭子音以外の部分の補助対応規則について、区別しない場合と区別する場合とでは2箇所異なった。区別しない場合には「en 韵母」と日本漢字音の「ウン」の対応があったが、区別する場合にはその対応が見られなかった。

逆に、区別しない場合では見られなかつたが、区別する場合ではみられたのは「ün 韻母」と日本漢字音の「ユン」の対応である。

補助対応規則についてまとめると、区別しない場合（4.3）と区別する場合（4.4）とでは、規則の内容が重複する部分も多くあるが、全体的にみた場合、区別する場合の方がより多くの規則が導き出されていることが言える。

#### 4.6 本章のまとめ

4.5 の比較分析の結果から、本章の結論として以下のことが示唆された。旧試験3級レベルの中国語話者が未習の2級新出漢字を学習する際、効率よく現代中国語音から日本漢字音を推測するには、日本漢字音を区別する場合で提示している基本対応規則と補助対応規則がより有効であることが分かった。そして、特徴がない慣用音字（72字）はそのまま覚えるほうがよいと考えられる。

## 第5章 中国語話者の日本漢字音習得の実態と課題

第4章では、旧試験3級レベルの中国語話者を対象学習者、2級新出漢字を対象漢字とし、基本対応規則を中心とした、対象学習者にとって利用可能な対応規則にはどういうものがあるのかについて分析し検討した。その結果、漢音の主たる対応関係を基本対応規則、吳音の特徴や現代中国語音の特徴を補助対応規則としたものを提示した。しかし、より効率的に2級新出漢字を学習する方法を考案するには、対応関係や対応規則以外に中国語話者の日本漢字音習得の実態と課題を明らかにする必要もある。そこで、本章では、中国語話者を対象に、日本漢字音習得の実態を調査した上で、中国語話者の日本漢字音習得上、どのような問題点・課題があるのかを明らかにする。

### 5.1 先行研究の問題点と本章の目的

#### 5.1.1 先行研究の概略

漢字の読み方に関する主な先行研究として、以下の4つが挙げられる。

阿久津（1991、p. 132）は、担当している漢字圏の漢字クラス<sup>1</sup>の実情を基に、漢字の「音・形・義」の3つの観点から、漢字圏の学生<sup>2</sup>に対する漢字教育の課題について述べている。その中で、「音」について、次のように述べられている。

漢字圏の学生は漢字を見て意味がだいたいわかるため、発音をおろそかにしやすい。  
特に漢語（字音語）の発音には問題がある。漢語は中国語や韓国語と形が共通のものが多く、発音も似ているものが少なくないため、発音を正確に覚えず、不正確に発音しやすい。（強調は筆者、以下同様）

---

<sup>1</sup> 漢字圏の漢字クラスの補足として、阿久津（1991、p. 129）は、「漢字圏と非漢字圏のどちらの授業を選択するかは、学生個人に任せられているため、必ずしも漢字圏出身の学生が漢字圏の漢字クラスに出席し、非漢字圏出身の学生が非漢字圏の漢字クラスに出席しているわけではない。」と述べている。

<sup>2</sup> 漢字圏の学生について、阿久津（1991、p. 129）は、「漢字圏の学生というのは、母国語や母語の表記に漢字を使用している、中国（大陸）、韓国、台湾、香港、マレーシア（中国系）などの出身の学生のことであるが、一口に漢字圏といっても、国や地域、年代などにより、受けた漢字教育に相当程度の差が見られるようである。」と述べている。

このように、阿久津（1991）は漢語の発音、つまり日本漢字音は特におろそかになりがちであることを指摘している。

加納（1994、p. 4）は、「中級段階の漢字圏学習者は漢字の読みに不正確さが残る場合が多いが、特に字音語の読みに音の清濁、音の長短、促音の有無などの間違いが多い」と述べている。そして、漢字圏学習者への中級段階の漢字指導の問題の1つとして、音読みが2つ以上ある漢字<sup>3</sup>を取りあげている。

濱田・高畠（2009、p. 1）<sup>4</sup>では、以下のように述べられている。

中級レベルの日本語能力を有する中国人学習者に対して、漢字の授業の確認のために行ったクイズの誤答を資料として、中国人学習者の漢字の読み<sup>5</sup>問題と書き問題における誤答の特徴を分析した。

ここでは、濱田・高畠（2009）の「読み問題」の分析結果のみ取りあげる。濱田・高畠（2009）は、読み問題の誤答タイプを5つに分けて分析した。その結果、5タイプの中で最も多いのは「当該漢字の読みと類似の音を書いた誤り」（誤答数176、例：住ジュウ→ジュ）である。次いで多いのは「当該漢字が有する他の読みを書いた誤り」（誤答数131、例：平ビヨウ→ヘイ）である。その次は「無解答」（105）で、以下、「当該漢字語と類似の他の漢字語の読みを書いた誤り」（誤答数39、例：出荷シユッカ→にもつ）、「当該漢字の字形と類似の漢字の読みを書いた誤り」（誤答数5、例：町チヨウ→テイ）の順になっている。

さらに、濱田・高畠（2009）の分析結果から以下のことが分かった。それは、誤答数が最も多い「当該漢字の読みと類似の音を書いた誤り」には、清濁・長短による誤り以外に、「子音の交替<sup>6</sup>・添加・脱落による誤り」（例：一イツ→シツ）や「母音の交替<sup>7</sup>による誤り」（例：残ザン→ゼン）などもみられたことである。このことから、読み問題の誤答のパターンは、清濁・長短だけではなく、非常に多様であることが分かる。

<sup>3</sup> 加納（1994）は、「下」、「画」、「強」、「地」、「重」の5字を取りあげている。

<sup>4</sup> 濱田美和・高畠智美「中国人学習者に対する漢字教育のための基礎研究—漢字の読み・書きクイズにおける誤答の分析—」『富山大学留学生センター紀要』8、2009、pp. 1-12。

<sup>5</sup> 濱田・高畠（2009）でいう「漢字の読み」には、音読みも訓読みも含まれている。（筆者注）

<sup>6</sup> 本研究でいう「子音の交代」を指す。

<sup>7</sup> 本研究でいう「母音の交代」を指す。

胡 (2012, p. 94)<sup>8</sup>は、「中国人日本語学習者」(本研究でいう「中国語話者」のことである)を対象に調査を行い、既知の中国語漢字の音韻・形態・意味の知識が、日本漢字音習得にどのような影響を及ぼすかについて、以下の4つの仮説の検証を試みた。

- ①中国語の音韻が同じ2つの漢字<sup>9</sup>は、日本語の音読みが同じ場合より、異なる場合のほうが間違いややすい。
- ②同じ音符を持つ2つの形声文字は、日本語の音読みが同じ場合より、異なる場合のほうが間違いややすい。
- ③両言語の音韻が似ている漢字より、似ていない漢字の音読みが間違いややすい。
- ④日中同形同義語より、中国語に存在しない漢語の音読みが間違いややすい。

上記①、③、④の仮説は、胡 (2012) によって全て検証された。そして、胡 (2012, p. 100) では、以下のように述べられている。

中国語の発音が同じであれば、日本語の音読みも同じだろうと学習者は考える傾向があると考えられる。(中略) 読み方を書くときに音韻の類似<sup>10</sup>の影響が見られる。(中略) 同形同義語の音読みが、非存在語<sup>11</sup>より習得しやすい傾向があると考えられる。

このように、胡 (2012) から、既知の現代中国語音の知識が、中国語話者の日本漢字音の習得に大きく影響していることが分かる。

### 5.1.2 先行研究の問題点

5.1.1 で述べたように、漢字の読み方に関する先行研究は多数あるが、以下の2点にお

<sup>8</sup> 胡曉睿「漢字の音読みの習得に及ぼす母語の影響—中国人日本語学習者の場合—」『明海日本語』 17、2012、pp. 95-102。

<sup>9</sup> 胡 (2012) で「音韻が同じ2つの漢字」として、「至難」の「至」と、「志向」の「志」を例として挙げている。従って、胡 (2012) の「音韻が同じ2つの漢字」は、「現代中国語音が同じ2つの漢字」を意味する。

<sup>10</sup> 胡 (2012) でいう「音韻の類似」は、中国語と日本語の発音が似ていることを意味する。例えば、「誤解 wu4jie3-ゴカイ」より「代理 dai4li-ダイリ」の方が中国語音と日本語音が似ているので、「代理」の方の類似度が高い。(筆者注)

<sup>11</sup> 胡 (2012) は、「非存在語」を「中国語に存在しない漢語」と定義している。

いて問題があると考えられる。1)誤答パターン、2)確信度である。以下、この2点について検討した後に、本研究での調査の指針について述べる。

これまでの先行研究において、誤答パターンの分析が清濁・拗音・長短・促音・撥音に偏る傾向にある。しかし、実際の日本漢字音学習の現場では、清濁以外に子音の交代・脱落による誤答や、母音の交代・脱落による誤答なども考えられる。つまり、誤答パターンは先行研究でよく取りあげられている上記の5つ以外にもあるのではないだろうか。日本漢字音学習を改善するには、学習者がどのような誤答をしているかを調査し、その誤答パターンを分析する必要があると考える。そこで、本章では、学習者にアンケート調査を行い、その調査結果にみられる誤答を基に、誤答パターンについて分析する。

また、本章で重要な点は、確信度を導入したことである。これまでの中国語話者の日本漢字音習得における問題に関する研究では、学習者の確信度を含めたものがなかった。本研究では、確信度を、「学習者自身がどれだけ自信や確信を持って解答しているかの程度」と定義し、「自信がある」と「あまり自信がない」と「全く自信がない」の3段階の尺度で表す。では、確信度はなぜ必要か。それは、同じ誤答であっても、自信があったにもかかわらず誤りとなった場合と、自信がなくて誤りとなった場合とでは、誤答の性質が異なるからである。しかし、従来の研究では、この2つをまったく区別せず、同列に扱っている。本章では、両者を区別した上で日本漢字音習得上の課題を検討する。

### 5.1.3 本章の目的

先述した先行研究の問題点を踏まえた上で、本章では、2級新出漢語に限定し、日本漢字音習得の実態を調査する。その際、学習者の確信度に着目し、1)確信度と正答率の関係、2)確信度に影響を与える要因、3)確信度別の誤答パターンを明らかにし、日本漢字音習得上の課題を検討することを目的とする。上記の3点を明らかにすべく、各々について以下の3つの仮説を立てた。

仮説1：確信度が高いほど正答率が高いという相関関係がある。

仮説2：確信度は当該漢字<sup>12</sup>・漢語が既習か未習かに大きく依存する。

仮説3：確信度により、誤答パターンは異なる。

---

<sup>12</sup> 第1章で述べたように、本研究では、「漢字」と「漢語」を区別している。「漢字」は「漢語」を構成する要素である。

## 5.2 調査の概要

中国語話者の日本漢字音習得の実態を調査するために、日本語能力が新試験 N4 以上 N2 以下<sup>13</sup>で、N2<sup>14</sup>を目指して学習している中国語話者を対象に、旧試験 2 級新出漢語 49 語<sup>15</sup>の読み方、及びその読み方に対する学習者の確信度について、アンケート<sup>16</sup>調査を実施した。

本調査を行う前に、予備調査を実施した。予備調査は、2014 年 3 月に、日本国内の A 大学で学ぶ留学生（日本語専攻ではない）3 名を対象としたアンケートである。表 5-1 に示した通り、自信がある場合は①、自信がない場合は②の欄に解答を記入するように求めた。

表 5-1 予備調査の調査票

2級新出漢語の読み方に関する調査			
出身地:	( ) 省 ( ) 市		
日本語学習歴:	( ) 年 ( ) ヶ月		
来日年数:	( ) 年 ( ) ヶ月		
以下は全て日本語能力試験2級レベルに相当する漢語です。これらの漢語の読み方（つまり音読み）を（ ）の中に書いてください。自信がある場合は①の下に、自信がない場合は②の下にご記入ください。空欄のないようにお願い致します。（20分）			
番号	漢語	①	②
[1]	外交	( )	( )
[2]	分野	( )	( )
[3]	繞々	( )	( )
[4]	符号	( )	( )
[5]	機関	( )	( )
<hr/>			
[49]	明確	( )	( )

調査後、さらに、調査項目や調査方法の適切さについて、フォローアップインタビューを行った。その結果、「自信がある」と「自信がない」に加え、「あまり自信がない」という欄も設けた方がよいという意見があったため、本調査では表 5-2 のように、3 段階とした。また、調査票は中国語の方がよいとの意見から、本調査では中国語の調査票を用いた。表 5-3 は本調査票の内容を日本語に訳したものである。

<sup>13</sup> 新試験の N4 以上 N2 以下は、旧試験の 3 級レベルに相当する。

<sup>14</sup> 新試験の N2 は、旧試験の 2 級に相当する。

<sup>15</sup> この 49 語は、2 級新出漢語（1871 語）の中から無作為に抽出したものである。

<sup>16</sup> このアンケートは、テストの解答とアンケートの回答との 2 つの性格を持ち合わせている。

表 5-2 本調査の調査票（中国語版）

有关2级音读汉语词的读音的问卷调查				
年级：____年级		籍贯：( ) 省 ( ) 市		
日语学习年数：( ) 年 ( ) 个月				
去过日本吗？ 去过／没去过				
以下是从日语能力考试2级出题范围中抽出的49个音读汉语词。请写出这些单词的读音。注音的时候，如果你觉得很有把握的话，请写在①栏。如果觉得没有多大把握的话，请写在②栏。如果完全不知道怎么读，只能凭直觉的话，请写在③栏。请不要留下空白栏。（20分钟）				
番号	漢語	①	②	③
[1]	外交	( )	( )	( )
[2]	分野	( )	( )	( )
[3]	繞々	( )	( )	( )
[4]	符号	( )	( )	( )
[5]	機關	( )	( )	( )
				
[49]	明確	( )	( )	( )

表 5-3 本調査の調査票（日本語版）

2級新出漢語の読み方に関する調査				
学年：____年生		出身地：( ) 省 ( ) 市		
日本語学習歴：( ) 年 ( ) ヶ月				
日本に行ったことがある？ ある／ない				
以下は全て日本語能力試験2級の語彙表から抽出したものです。( ) の中に読み方（音読み）を書いてください。自信がある場合は①の欄に、あまり自信がない場合は②の欄に、全く自信がない場合は③の欄にご記入ください。空欄のないようにお願い致します。				
番号	漢語	①	②	③
[1]	外交	( )	( )	( )
[2]	分野	( )	( )	( )
[3]	繞々	( )	( )	( )
[4]	符号	( )	( )	( )
[5]	機關	( )	( )	( )
				
[49]	明確	( )	( )	( )

以下、本調査について詳述する。2014年4月に本調査を実施した。調査協力者（以下、協力者と呼ぶ）は、中国南京市にあるN大学で日本語を専門に学ぶ大学2年生55名である。全員、中国語話者で、日本への留学経験はない。担当教員による<sup>17</sup>と、日本語能力が新試験N4以上N2以下の学生が中心である。協力者に、調査票を配布し、49語の調査項目につ

<sup>17</sup> 中国の大学で日本語を専門とする学生の中、新試験N4とN3を受験する学生は比較的少ないため、学習者の日本語レベルは担当教員の判断に基づく。

いて読み方を確信度別に該当する欄に記入することを依頼した。

なお、調査を始める前に協力者に対し、この調査は、研究にのみ使用すること、及びデータ分析や学会発表にあたっては、調査対象者の人権やプライバシーに配慮し、調査対象者に不快感を与えないよう、十分に注意を払うことを説明し、全員の承諾を得た上で、実施した。

### 5.3 分析と考察

協力者 55 名のうち、新試験 N1 及び N2 合格者が各 1 名、確信度について正確に把握していない<sup>18</sup>協力者が 1 名、空欄のある協力者が 11 名いた。有効回答数はそれら 14 名を除いた 41 名（以下、この 41 名を「回答者」という）である。以下、回答者のデータに基づき、1) 確信度と正答率の関係、2) 確信度別の漢語群の特徴、3) 確信度別の誤答パターンについて分析を行う。

#### 5.3.1 確信度と正答率の関係

表 5-4 は、個々の回答者に注目し、確信度別（つまり、「自信がある」、「あまり自信がない」、「全く自信がない」）の正答率と全体の正答率を示したものである。また、この表は、「自信がある」場合の正答率の高い順に整理している。

表 5-4 確信度別の正答率と全体の正答率

回答者	確信度別									全体 (Z)		
	自信がある (J)			あまり自信ない (A)			全く自信がない (M)					
	総数 (Jt)	正答数 (Jc)	正答率 (=Jc/Jt)	総数 (At)	正答数 (Ac)	正答率 (=Ac/At)	総数 (Mt)	正答数 (Mc)	正答率 (=Mc/Mt)	調査総数 (Zt)	総正答数 (Zc)	総正答率 (=Zc/Zt)
1	21	21	100.0%	15	7	46.7%	13	0	0.0%	49	28	57.1%
2	13	13	100.0%	18	9	50.0%	18	4	22.2%	49	26	53.1%
3	16	16	100.0%	9	6	66.7%	24	4	16.7%	49	26	53.1%
4	35	33	94.3%	12	5	41.7%	2	0	0.0%	49	39	79.6%
5	31	29	93.5%	14	6	42.9%	4	0	0.0%	49	35	71.4%
6	12	11	91.7%	8	6	75.0%	29	5	17.2%	49	22	44.9%
7	36	33	91.7%	10	4	40.0%	3	1	33.3%	49	38	77.6%
8	12	11	91.7%	16	9	56.3%	21	2	9.5%	49	22	44.9%
40	25	13	52.0%	6	1	16.7%	18	3	16.7%	49	17	34.7%
41	1	0	0.0%	34	13	38.2%	14	0	0.0%	49	13	26.5%
平均			78.0%			46.0%			13.0%			51.0%

<sup>18</sup> 「正確に把握していない」というのは、協力者が 1 つの調査項目に対して「自信がある」と「あまり自信がない」2 つの欄の両方に回答を記入している場合を指す。

まず、全体の正答率の平均は 51%である。一方、確信度別でみた場合、「自信がある」場合の正答率の平均は 78%、「あまり自信がない」場合は 46%、「全く自信がない」場合は 13%となっている。次に、確信度別に各回答者の正答率をみると、「自信がある」グループの中でも、回答者によって、正答率に差がみられる。「自信がある」と答えていても、正答率が 90%以上と高い回答者もいれば、52%や 0%のように低い回答者もいる。このように正答率に差がみられる点に関しては、「あまり自信がない」と「全く自信がない」のグループでも同様である。

確信度と正答率の関係を詳しくみるために、回答者の正答率を、0%、1~9%、10~19%、20~29%、30~39%、40~49%、50~59%、60~69%、70~79%、80~89%、90~99%、100%の 12 階層に分けてさらに分析した。その結果を図 5-1~5-3 に示している。図 5-1 は「自信がある」を選択した回答者、図 5-2 は「あまり自信がない」を選択した回答者、図 5-3 は「全く自信がない」を選択した回答者の正答率の分布を示している。全体の回答者数 (N) はいずれも 41 名である。

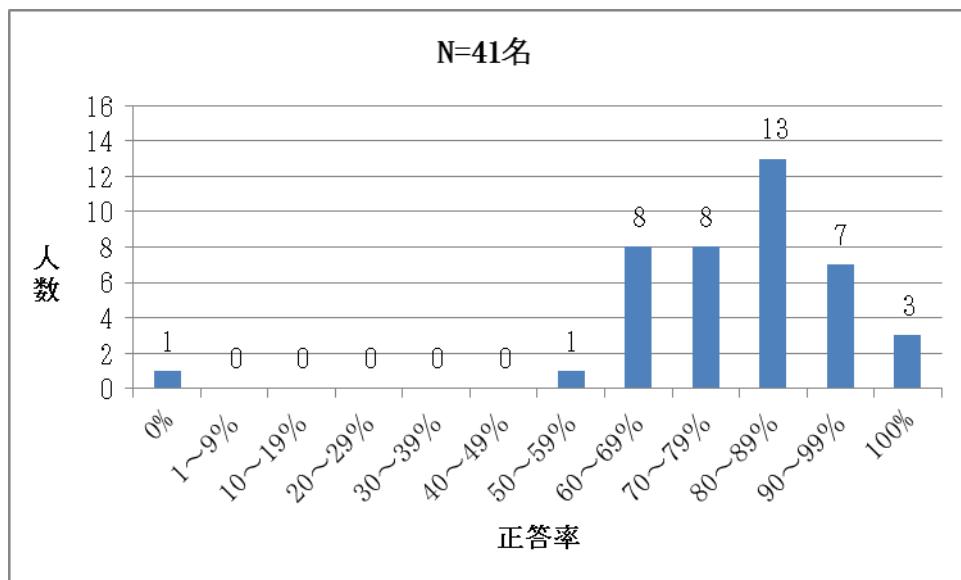


図 5-1 「自信がある」の正答率の分布

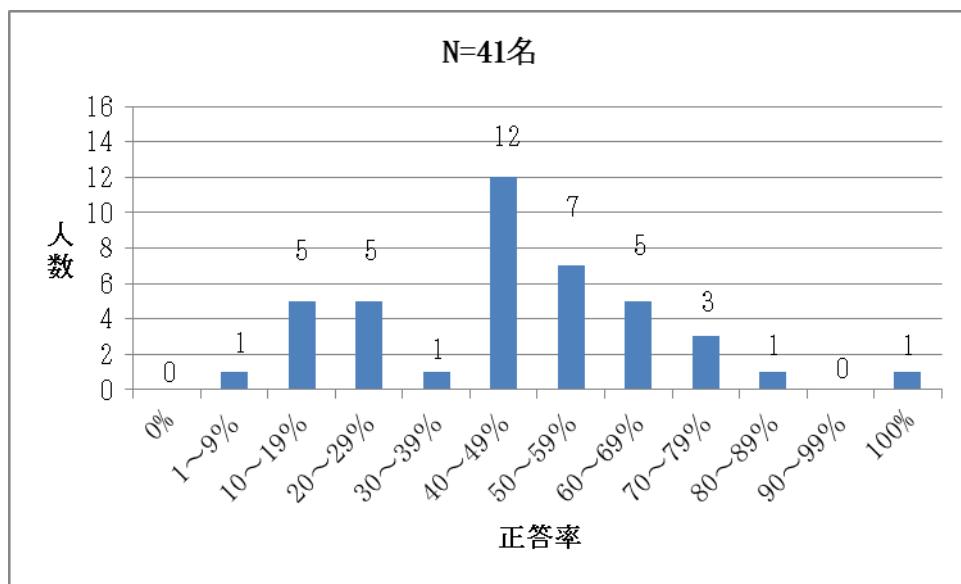


図5-2 「あまり自信がない」の正答率の分布

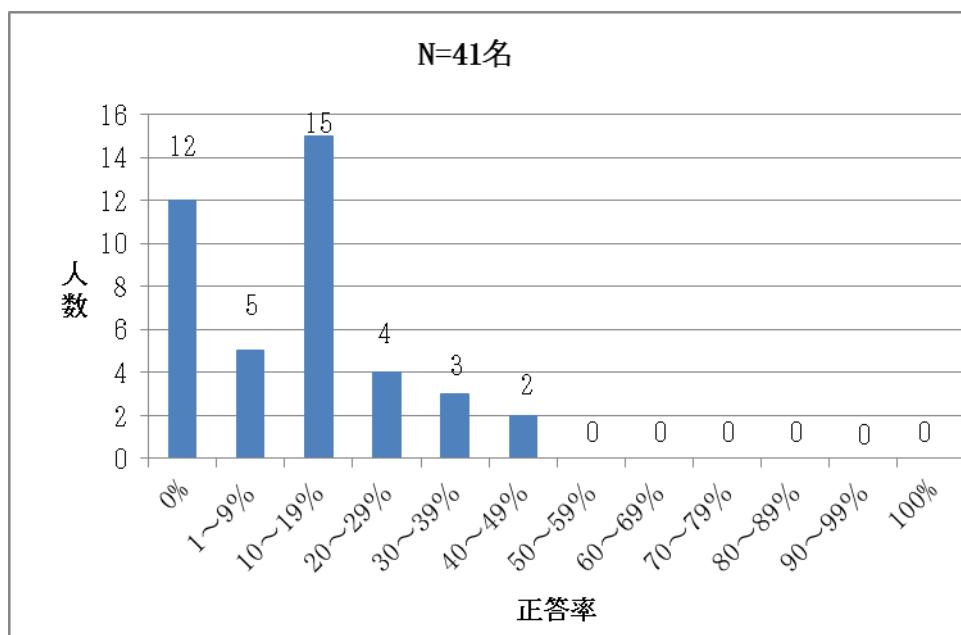


図5-3 「全く自信がない」の正答率の分布

図5-1～5-3から、「自信がある」回答者の正答率は主に60%以上、「あまり自信がない」回答者の正答率は40%を中心に分布しており、「全く自信がない」回答者の正答率は20%以下に集中していることが分かる。従って、確信度と正答率には相関関係があると言える。この結果は仮説1「確信度が高いほど正答率が高いという相関関係がある」ということを支持している。

### 5.3.2 確信度別の漢語群の特徴

5.3.1 の分析結果から、確信度と正答率には相関関係があることが明らかになった。では、確信度に影響する要因は何であろうか。その点につき、ここでは、調査項目に着目して分析を行う。

表 5-5 は、回答者の回答に基づき、49 語の調査項目について、確信度別の回答者数と回答をまとめたものである。読み方の後にある数字は回答者数を意味する。例えば、「人気」について、39 名が「自信がある」を選択している。そのうち、36 名が「にんき」と書いている。「★」印は、①「自信がある」と②「あまり自信がない」と③「全く自信がない」3 グループの中で最も人数が多いことを意味する。以下、「自信がある」を選択した回答者が最も多い漢語のことを「自信がある」が最も多い漢語、「あまり自信がない」を選択した回答者が最も多い漢語のことを「あまり自信がない」が最も多い漢語、「全く自信がない」を選択した回答者が最も多い漢語のことを「全く自信がない」が最も多い漢語と略す。また、表 5-5 は、グループごとに、人数の降順に整理している。

表 5-5 漢語別の人数と回答

	漢語	①自信がある				②あまり自信がない				③全く自信がない				
		小計 (名)	内訳			小計 (名)	内訳			小計 (名)	内訳			
1	人気	★39	にんき	36	にんげん	1	(後略)	2	にんき	2			0	該当なし
2	自然	★38	しぜん	35	しせん	1	(後略)	2	しぜん	1	しつぜん	1	1	しぜん
3	入社	★38	にゅうしや	33	にゅうしや	2	(後略)	2	にゅうしや	2			1	にゅうしや
24	人種	9	じんしゅ	3	にんしゅ	3	(後略)	★26	にんしゅ	4	じんしゅ	3	6	にんじゅう
25	外交	15	がいこう	11	かいこう	1	(後略)	★22	がいこう	11	かいこう	6	4	がいこう
26	応用	17	おうよう	16	おうよん	1		★19	おうよう	10	おんよう	5	5	おうよう
32	紺	1	こん	1				5	かん	2	こん	1	★35	かん
33	郡	2	くん	2				5	じゅん	1	じゅう	1	★34	くん
34	莫大	1	もくたい	1				9	もうだい	3	ばくだい	1	★31	もうだい
48	税	★15	ぜい	9	ぜ	3	(後略)	11	ぜ	3	ぜい	1	★15	ぜい
49	評価	13	ひょうか	7	へいか	4	(後略)	★14	へいか	7	ひょうか	3	(後略)	★14
													ひょうか	8
													ひょうか	1
														(後略)

表 5-5 をみると、「人気」「自然」「入社」などは「自信がある」が最も多い漢語である。「人種」「外交」「応用」などは「あまり自信がない」が最も多い漢語である。「紺」「郡」「莫大」などは「全く自信がない」が最も多い漢語であることが分かる。表 5-5 を基に分類していくと、49 語のうち、「自信がある」が最も多い漢語は 23 語、「あまり自信がない」が最も多い漢語は 8 語、「全く自信がない」が最も多い漢語は 16 語である。そのほか、「自信がある」と「全く自信がない」が同数である漢語は 1 語（「税」）で、「あまり自信がない」と「全く自信がない」が同数である漢語も 1 語（「評価」）ある。

次に、これらの漢語が多くの回答者にとってそれぞれ「自信がある」、「あまり自信がない」、「全く自信がない」となる理由、すなわち、確信度に影響を与える要因について検討する。以下では、回答者が主に使用している日本語の教科書<sup>19</sup>におけるこれらの漢字・漢語の学習状況について調査し、確信度別の漢語群の特徴を考察する。

表 5-6 「自信がある」が最も多い漢語、及びその教科書での学習状況

漢語	①「自信がある」				漢語として既習	漢字として既習						
	個数	全体に占める割合(=個数/41)	正答数	正答率(=正答数/個数)		漢字	発音	既習	漢語例	漢字	発音	既習
流行	16	39.0%	13	81.3%	×	流	りゅう	○	一流	行	こう	○ 銀行
友好	17	41.5%	17	100.0%	×	友	ゆう	○	友人	好	こう	○ 格好
是非	18	43.9%	16	88.9%	×	是	ぜ	×		非	ひ	○ 非常
永遠	18	43.9%	13	72.2%	×	永	えい	×		遠	えん	○ 遠慮
続々	21	51.2%	1	4.8%	×	続	ぞく	○	存続	(々)		
公平	22	53.7%	22	100.0%	×	公	こう	○	公立	◆平	へい	○ 平日
信号	22	53.7%	9	40.9%	×	信	しん	○	自信	号	ごう	○ 番号
曲	23	56.1%	19	82.6%	○							
注目	24	58.5%	19	79.2%	○							
国語	24	58.5%	22	91.7%	×	国	こく	○	国際	語	ご	○ 日本語
風景	27	65.9%	19	70.4%	○							
内科	28	68.3%	27	96.4%	○							
収入	30	73.2%	26	86.7%	×	収	しゅう	○	吸收	入	にゅう	○ 入学
中心	31	75.6%	30	96.8%	○							
機関	35	85.4%	32	91.4%	×	機	き	○	機械	関	かん	○ 関係
歌手	35	85.4%	27	77.1%	○							
外出	35	85.4%	32	91.4%	○							
被害	36	87.8%	34	94.4%	○							
得意	37	90.2%	37	100.0%	○							
自然	38	92.7%	35	92.1%	○							
入社	38	92.7%	33	86.8%	○							
誤解	38	92.7%	33	86.8%	○							
人気	39	95.1%	36	92.3%	○							

表 5-6 は、「自信がある」が最も多い漢語（23 語）をまとめ、「全体に占める割合」欄の昇順に並べたものである。表中の「全体に占める割合」とは、「自信がある」を選択した回答者の数が全体（41 名）の中に占める割合である。漢語「流行」を例に説明する。「流行」については、「①自信がある」を選択した回答者は 41 名中 16 名である。従って、漢語「流行」の「全体に占める割合」は 39.0%（16 名/41 名）となる。また、表 5-6 中の◆印は、その漢字について、回答者がすでに複数の音読み<sup>20</sup>を学習していることを意味する。この点については、表 5-7 と表 5-8 も同様である。

表 5-6 から以下のことが分かる。23 語のうち、「漢語として既習」であるものが 13 語（「曲」、「注目」など）、「漢字として既習」<sup>21</sup>であるものが 8 語（「流行」、「友好」など）、2 字中 1 字のみ既習であるものが 2 語（「是非」と「永遠」）である。

<sup>19</sup> 1 年次は『日語精読』第一冊（全 28 課）、2 年次は『日語精読』第二冊を使用し、調査時点（2014 年 4 月現時点）では『日語精読』第二冊（全 20 課）の第 14 課を勉強していた。

<sup>20</sup> 誤答分析などの都合上、これ以降、「日本漢字音」と同じ意味の「音読み」ということばを用いる。

<sup>21</sup> 「漢字として既習」は、「漢語」の構成要素である「漢字」の全てを学習していることを意味する。

また、表5-6中の「全体に占める割合」に着目すると、以下のことが分かる。まず、「全体に占める割合」が50%以下、すなわち「自信がある」を選択した回答者が半数（41/2=21名）以下の漢語は4語ある。この4語は、全て「漢語として既習」ではない。一方、「全体に占める割合」が50%以上、すなわち「自信がある」を選択した回答者が半数以上の漢語は19語ある。そのうち、「漢語として既習」であるものは13語（「曲」、「注目」など）で、そうではないものは6語（「続々」、「公平」など）である。さらに分析していくと、「漢語」としては未習であるこの6語は、全て「漢字」としては「既習」であることが分かる。

以上のことから、「自信がある」が最も多い漢語の特徴は、漢語か漢字のいずれかをすでに学習していることである。

表5-7 「あまり自信がない」が最も多い漢語、及びその教科書での学習状況

漢語	②「あまり自信がない」				漢語として既習	漢字として既習							
	個数	全体に占める割合 （=個数/41）	正答数	正答率 （=正答数/個数）		一番目			二番目				
						漢字	発音	既習	漢語例	漢字	発音	既習	漢語例
夫人	18	43.9%	11	61.1%	×	◆夫	ふ	○	夫妻	◆人	じん	○	外国人
最中	18	43.9%	14	77.8%	×	最	さい	○	最近	◆中	ちゅう	○	中国
自治	19	46.3%	0	0.0%	×	◆自	じ	○	自信	治	ち	×	
応用	19	46.3%	10	52.6%	×	応	おう	○	応援	用	よう	○	用意
分解	19	46.3%	10	52.6%	×	◆分	ぶん	○	分析	解	かい	○	解決
明確	19	46.3%	11	57.9%	×	明	めい	○	明治維新	確	かく	○	確立
外交	22	53.7%	11	50.0%	×	外	がい	○	外国	交	こう	○	交通
人種	26	63.4%	3	11.5%	×	◆人	じん	○	人生	種	しゅ	○	種

表5-7は、「あまり自信がない」が最も多い漢語（8語）をまとめ、「全体に占める割合」欄の昇順に並べたものである。表から分かるように、この8語は、全て「漢語として既習」ではない。しかし、8語のうち、「自治」以外の7語は「漢字として既習」である。また、「自治」については、「自」がすでに他の漢語の中で学習している。

このように、「あまり自信がない」が最も多い漢語の特徴は、「漢語」として学習していないが、「漢字」として学習していることである。この点は「自信がある」の特徴の一部と重なっているが、両者を比較すると、「あまり自信がない」の方が、複数の音読みを学習している漢字（◆印）が多く含まれていることが分かる。例えば、「人種」の「人」については、「じん」（人生、人物、人類など）と「にん」（人気、人間、人数など）をすでに学習している。このように、複数の音読みを学習しているために、解答時に選択に迷い、自信を持って回答することが困難になったと考えられる。

表5-8 「全く自信がない」が最も多い漢語、及びその教科書での学習状況

漢語	③「全く自信がない」				漢語として既習	漢字として既習							
	個数	全体に占める割合 (=個数/41)	正答数	正答率 (=正答数/個数)		一番目			二番目				
						漢字	発音	既習	漢語例	漢字	発音	既習	漢語例
答案	15	36.6%	3	20.0%	×	答	とう	×		案	あん	○	案内
混合	16	39.0%	2	12.5%	○	器	き	×		用	よう	○	用意
器用	16	39.0%	13	81.3%	×	解	かい	○	解消	答	とう	×	
解答	18	43.9%	2	11.1%	×	◆分	ぶん	○	分析	野	や	○	野球
分野	19	46.3%	2	10.5%	×	攻	こう	○	専攻	擊	げき	×	
攻撃	20	48.8%	2	10.0%	×	余	よ	×		裕	ゆう	×	
余裕	22	53.7%	2	9.1%	×	活	かつ	×		字	じ	○	漢字
活字	23	56.1%	4	17.4%	×	符	ふ	×		号	ごう	○	番号
符号	24	58.5%	0	0.0%	×	着々	ちやく	○	到着	(々)			
着々	25	61.0%	1	4.0%	×	塔	とう	×					
塔	28	68.3%	2	7.1%	×	毛	もう	×		布	ふ	○	財布
毛布	29	70.7%	8	27.6%	×	鉄	てつ	○	鉄筋	砲	ほう	×	
鉄砲	31	75.6%	2	6.5%	×	莫	ばく	×	◆大	だい	○		大学
莫大	31	75.6%	0	0.0%	×	郡	ぐん	×					
郡	34	82.9%	0	0.0%	×	紺	こん	×					
紺	35	85.4%	0	0.0%	×								

表5-8は、「全く自信がない」が最も多い漢語（16語）をまとめ、「全体に占める割合」欄の昇順に並べたものである。表をみると、ほとんどの漢語は、「漢語」としても「漢字」としても学習していないことが分かる。例外は、「混合」「分野」「着々」の3語のみである。「混合」は「漢語として既習」であり、「分野」と「着々」は「漢字として既習」である。以下、この3語について詳しく分析する。

まず、「混合」の場合、漢語「混合（こんごう）」としては学習していないが、「和洋混合（わようこんごう）」という形で、すでに「混合」を学習している。そして、「自信がある」を選択した回答者が13名で、「あまり自信がない」が12名で、「全く自信がない」が16名である。では、なぜ「漢語」として既習であるにもかかわらず、「全く自信がない」を選択した回答者が最も多いのか。それは、以下の理由が考えられる。第一に、同じ「漢語として既習」である表5-6中の漢語に比べ、「和洋混合」という漢語は、教科書に出現する頻度と教室外においても目にしたり耳にしたりする機会が少ないことが考えられる。第二に、「和洋混合」以外に、「混」が含まれている既習漢語は1語（「混乱」）のみである。そして、「合」が含まれている漢語は3語あるが、そのうち複数の音読み（「ごう<sup>22</sup>」と「がっ<sup>23</sup>」）が含まれていることが分かる。このように、たとえ既習漢語であっても、教科書に出現する頻度や教室外においても目にしたり耳にしたりする機会が少ない漢語で、かつ複数の音

<sup>22</sup> 「ごう」と読む既習漢語は「都合つごう」「集合しゅうごう」「合理的ごうりてき」の3語である。

<sup>23</sup> 「がっ」と読む既習漢字語は「雪合戦ゆきがっせん」の1語である。本研究において、「漢語」とは、日本漢字音で読む語のことである。「漢語」は「漢字」同士または「漢字」と送り仮名で構成される場合がある。この「漢語」に対し、漢字だけで構成されているが、①一部が音読みで一部が訓読みで読まれるもの、②全て訓読みで読まれるもの、のことを「漢字語」という。①の例として、「雪合戦（ゆきがっせん）」や「試合（しあい）」などが挙げられる。②の例として、「場合（ばあい）」が挙げられる。

読みを持つ漢字が含まれる漢語については、回答者は確信を持って回答することが難しいと考えられる。

次に、「分野」は、「あまり自信がない」（表5-7）中の「最中」「分解」「人種」の3語と同じパターンで、いずれも「漢字として既習」であり、2字中の1字については回答者がすでに複数の音読みを学習している。しかし、なぜ「分野」のみ「全く自信がない」が最も多い漢語になったのか。そこで、「分野」と「最中」「分解」「人種」の学習状況を調査し、その結果を表5-9に示した。読み方の後ろの数字は、その発音で読まれる既習漢語の例数を表している。例えば、「最さい」が含まれる既習漢語は8例で、「中ちゅう」が含まれる既習漢語は17例で、「中じゅう」が含まれる既習漢語が2例である。

表5-9 「分野」と「最中」「分解」「人種」の学習状況の比較

	1番目の漢字	2番目の漢字
最中	さい8	ちゅう17、じゅう2
分解	ぶん7、ふん1	かい4
人種	じん18、にん11	しゅ3
分野	ぶん7、ふん1	や1

この表から分かるように、「分野」と「分解」は、そのパターンが非常に似ている。異なっているのは、2番目の漢字が含まれる漢語の例数が「分野」の方が若干少ないことのみである。このことから、「漢字」として既習であっても、「漢語」の例数が非常に少ない場合は、その「漢字」の読み方が定着していない可能性が高く、そのため、「分野」については、「全く自信がない」を選択した回答者が最も多いという結果になった可能性がある。

最後に、「着々」について分析する。「着々」は、表5-6「自信がある」中にある「続々」と同じパターンである。では、なぜ「続々」については「自信がある」を選択した回答者が最も多いのに対し、「着々」については「全く自信がない」を選択した回答者が最も多いのか。中國語話者にとって、「着々」「続々」のように同じパターンで読む漢語であっても、その確信度が異なっているのはなぜなのか。この2語を比較した結果、「々」という記号を使って同じ漢字を表すのは中國語でも同じであるが、「続々」が中國語（「断々續々」）に存在しているのに対し、「着々」は中國語に存在しないことが分かった。つまり、同形の漢語が中國語に存在しているかどうかということが確信度に影響を与えている可能性がある。

以上のことをまとめると、以下のようになる。「全く自信がない」が最も多い漢語の特徴

は、「漢語」としても「漢字」としても学習していないことである。また、以下の3種類の漢語については、多くの回答者が「全く自信がない」を選択した。第一は、教科書に出現する頻度や日常生活における使用頻度が低く、かつ複数の音読みを持つ漢字が含まれているものである。第二は、一方の漢字は複数の音読みを持っており、もう一方の漢字が含まれる既習漢語の数が非常に少ないものである。第三は、同形の漢語が中国語に存在しないものである。

以上、「自信がある」が最も多い漢語、「あまり自信がない」が最も多い漢語、「全く自信がない」が最も多い漢語のそれぞれについて分析考察してきた。以下に、「5.3.2 確信度別漢語群の特徴」をまとめておく。まず、「自信がある」が最も多い漢語（23語）の特徴は、「漢語」または「漢字」としてすでに学習していることである。次に、「あまり自信がない」が最も多い漢語（8語）の特徴は、「漢語」としては学習していないが、「漢字」として学習している。そして、「自信がある」が最も多い漢語に比べ、「漢語」に使われている「漢字」には複数の音読みを持つものが多い。最後に、「全く自信がない」が最も多い漢語（16語）の特徴は、「漢語」としても「漢字」としても学習していないことである。

以上のことと言い換れば、「漢語」として学習した場合や、既習漢字の知識が利用できる単純な未習漢語（音読みが1つである場合、例：表5-6の「国語」）を推測する場合では、回答者の多くは、確信を持って、正しく答えていた。しかし、既習漢字を利用した複雑な未習漢語（音読みが複数ある場合、例：表5-7の「人種」）の推測では、回答者の多くはあまり確信を持てない傾向がみられた。そして、既習漢字の知識が利用できない未習漢語の推測では、回答者は全く確信を持てない傾向があった。このように「漢字」と「漢語」の学習状況が確信度に大きな影響を与えていることが明らかになった。この事実は、仮説2「確信度は当該漢字・漢語が既習か未習かに大きく依存する」ということを支持していると言える。

### 5.3.3 確信度別の誤答分析

5.3.2では、調査項目（漢字・漢語）の学習状況が確信度に大きく影響を与えていることを明らかにした。ここでは、回答者の誤答に着目し、確信度と誤答パターンについて分析を行う。

### 5.3.3.1 誤答パターン

中国語話者が音読みを学習していく上では、どのような誤答がみられるのだろうか。以下、この問題について分析を行う。表5-10は、中国語話者の音読みに関する主な誤答パターンをまとめたものである。これは、調査結果に基づき、先行研究も参考にして、正答の音読みと誤答の音読みを対照して問題点（つまり誤っている箇所）の分類を行ったものである。表5-10「漢語例」欄の「-」は、そのタイプの誤答が本調査でみられなかつたことを意味する。

表5-10 誤答パターン

レベル	番号	誤答のパターン	漢語例	備考
1. 漢字 レベル で起 こ る 誤り	(1)母音 ①	母音の交代	紺 (かん)	
	②	母音の脱落	-	
	(2)子音 ③	清濁	信号 (しんこう)	清音・濁音・半濁音による誤り
	④	子音の交代	答案 (こうあん)	
	⑤	子音の添加・脱落	-	
	(3)半母 音 ⑥	半母音の添加・脱落	入社 (にうしや)	
	⑦	長短	信号 (しんご)	長音・短音による誤り
	(4)特殊 拍・入声 韻尾 ⑧	入声韻尾	活字 (かじ)	入声韻尾の添加・脱落、入声韻尾のところに長音を書いた誤り
	⑨	撥音	応用 (おんよう)	撥音の添加・脱落、撥音のところに長音を書いた誤り
	(5)音節 ⑩	音節の転倒	-	
	⑪	音節の添加・脱落	攻撃 (こうき)	特殊拍以外の音節の添加・脱落
	⑫	1字の脱落	余裕 (よう)	1字の発音の脱落
	⑬	多音	人種 (にんしゅ)	音読みが2つ以上で、その漢字の別の音読みを書いた誤り
	⑭	音訓	分野 (ぶんの)	その漢字の訓読みを書いた誤り
2. 漢語 レベル で起 こ る 誤り	(6)その 他 ⑮	誤答2つ	是非 (しひ)	漢字レベルで起くる誤りのパターン (①～⑯) が2つ
	⑯	誤答3つ	活字 (ほうじ)	漢字レベルで起くる誤りのパターン (①～⑯) が3つ
	⑰	誤答4つ	莫大 (もたい)	漢字レベルで起くる誤りのパターン (①～⑯) が4つ
	⑱	連濁	鉄砲 (てっぽう)	濁音化・半濁音化による誤り
	⑲	促音化	歌手 (かっしゅ)	
	⑳	他の漢語	人種 (じんるい)	「義」「形」が近い他の漢語の読み方を書いた誤り

このように、中国語話者の誤答パターンは大きく2つに分けることができる。1つは「漢字レベル」で起くる誤りで、もう一つは「漢語レベル」で起くる誤りである。前者の例として、<①母音の交代>や<④子音の交代>などが挙げられる。後者の例として、<⑯連濁>や<⑲促音化>などが挙げられる。以下、「紺 (かん)」と「莫大 (もたい)」(表5-10の網掛け部分)を例に、分類方法を説明する。

まず、「紺」について、辞書には「こん」(呉音)と「かん」(漢音)の2つの音読みが記載されているが、回答者たちは「こん」という読み方しか学習していない。そこで、「紺 (か

ん)」を誤答と見なした。そして、「紺 (こん)」を「かん」と読んだのは、「こ ko→か ka」というように母音を間違えたことから、誤答パターン<①母音の交代>に分類した。

次に、正答である「莫大 (ばくだい)」と誤答である「莫大 (もたい)」を対照した場合、誤答「莫大 (もたい)」には以下の4つの誤答パターンが含まれている。まず、「ばく」を「も」と読むことには、<④子音の交代>、<①母音の交代>、<⑧入声韻尾>（ここでは、入声韻尾の脱落を指す）という問題が含まれている。次に、「大 (だい)」を「たい」と読むのは、<③清濁>の誤りである。従って、「莫大 (もたい)」という誤答には、④①⑧③の4つの問題が含まれている。なぜ「莫大」を「もたい」と読んだのか。それは、以下の理由が考えられる。「莫大」は中国語で「mo4 da4」（国際音声記号で表すと[mota]となる）と発音するため、「莫」の日本語の音読みが「も」であると回答者が類推したと思われる。そして、「大」については、「大学 (だいがく)」と「大氣 (たいき)」のように「だい」と「たい」の2つの音読みをすでに学習しているため、選択に迷いが生じたのではないかと考えられる。

### 5.3.3.2 確信度と誤答パターンの分析

5.3.3.1 では、中国語話者が音読みを学習していく際、どのような誤答パターンがあるのかを明らかにした。ここでは、確信度と誤答パターンの関係性について分析を行う。一般的に、確信を持っている学習者は、ある程度その原因が推測可能な間違い方（長短や清濁などによるもの）をするが、確信を持っていない学習者は、見当外れの間違い方（母音の交代や子音の交代などによるもの）をすると考えられる。仮説3「確信度により、誤答パターンは異なる。」を検証するために、以下、確信度別に、3名以上が同様の誤答をしていた漢語を取りあげて分析する。

表5-11は「自信がある」を選択した回答者3名以上にみられた誤答とその分析結果である。出現回数の降順に並べている。網掛け部分は、1つの漢語について、3名以上にみられた誤答が2種類以上ある場合を意味する。例えば、「信号」の場合、回答者41名中8名は「自信がある」を選択して「しんご」と書いたが、5名は「自信がある」を選択して「しんこう」と書いた。誤答「信号 (しんご)」は<⑦長短>によるものであるが、誤答「信号 (しんこう)」は<③清濁>によるものである。また、読み方の後にある数字は回答者数を意味する。例えば、「歌手」について、回答者41名中6名が「自信がある」を選択して「かしゅう」と書いたことを意味する。以下同様である。

表5-11 「自信がある」回答者の誤答について

漢語	①「自信がある」の誤答（3回以上）		
	誤答	パターン	出現回数
信号	しんご8	⑦長短	27
歌手	かしゅう6		
混合	こんご3		
税	ぜ3		
誤解	ごうかい3		
風景	ふけい4		
続々	つきづき7	⑭音訓	13
続々	つづ6		
信号	しんこう5	③清濁	8
分解	ふんかい3		
評価	へいか4	⑬多音	7
人種	にんしゅ3		
永遠	ようえん4	⑮誤答2つ	4
答案	こうあん3		
機関	きかい3	⑭子音の交代	3
		⑰他の漢語	3

表5-11から分かるように、「自信がある」を選択した回答者の誤答には、<⑦長短>によるものが最も多かった。<⑦長短>に次いで多かったのは<⑭音訓>である。その次は<③清濁>、以下、<⑬多音>、<⑮誤答2つ>、<⑭子音の交代>、<⑰他の漢語>と続く。

次に、「あまり自信がない」回答者の誤答について分析を行う。表5-12は、「あまり自信がない」を選択した回答者3名以上にみられた誤答とその分析結果である。

表5-12 「あまり自信がない」回答者の誤答について

漢語	②「あまり自信がない」の誤答（3回以上）		
	誤答	パターン	出現回数
外交	かいこう6	③清濁	18
信号	しんこう7		
分解	ふんかい5		
自治	じじ4		
答案	たあん4		
是非	しひ4		
人種	にんしゅう3	⑮誤答2つ	15
夫人	ふうじん4		
人種	じんしゅう3		
税	ぜ3		
風景	ふけい4		
評価	へいか7		
人種	にんしゅ4	⑦長短	14
続々	つづ5		
着々	きぎ4		
応用	おんよう5		
自治	じじ3		
攻撃	こうき3		
莫大	もうだい3	⑪音節の添加・脱落	3
人種	じんるい3		

表5-12から分かるように、「あまり自信がない」を選択した回答者の誤答には、<③清濁>、<⑯誤答2つ>、<⑦長短>、<⑬多音>によるものが比較的多かった。それらの他に、<⑭音訓>、<⑨撥音>、<④子音の交代>、<⑪音節の添加・脱落>、<⑯誤答3つ>、<⑳他の漢語>によるものもみられた。

最後に、「全く自信がない」回答者の誤答について分析を行う。表5-13は、「全く自信がない」を選択した回答者3名以上にみられた誤答とその分析結果である。

表5-13 「全く自信がない」回答者の誤答について

漢語	③「全く自信がない」の誤答（3回以上）		
	誤答	パターン	出現回数
符号	ふうこう3	⑯誤答2つ	44
郡	じゅん6		
塔	た7		
塔	たい4		
塔	たく3		
毛布	もぬの3		
是非	しひ6		
莫大	もくだい3		
解答	かいたつ3		
紺	がん3		
活字	こうじ3	③清濁	31
分野	ふんや4		
符号	ふこう8		
信号	しんこう3		
郡	くん10		
混合	こんこう3		
分解	ふんかい3	⑯誤答3つ	21
莫大	もうだい6		
莫大	もだい6		
莫大	もくたい4		
活字	ほうじ5	⑭音訓	19
分野	ぶんの4		
続々	つづ4		
続々	つきづき3		
着々	きぎ5		
着々	つくづく3		
紺	かん9	①母音の交代	9
自治	じし4	④子音の交代	8
自治	じじ4		
評価	へいか8	⑬多音	8
莫大	もたい5	⑰誤答4つ	5
夫人	ふうじん3	⑦長短	3
活字	かじ3	⑧入声韻尾	3

表5-13から分かるように、「自信がある」及び「あまり自信がない」より「全く自信がない」の回答者には、1つの漢語について、3名以上にみられた誤答が2種類以上の場合（網掛け部分）が非常に多い。また、「全く自信がない」を選択した回答者の誤答には、<⑯誤答2つ>によるものが最も多い。<⑯誤答2つ>に次いで多かったのは<③清濁>、<⑯誤答3つ>と<⑭音訓>である。以下、<①母音の交代>、<④子音の交代>、<⑬多音>、<⑯誤答4つ>、<⑦長短>、<⑧入声韻尾>の順になっている。

このように、「全く自信がない」回答者の誤答パターンには、<⑯誤答2つ>、<⑯誤答3つ>のような複数の誤答パターンを含むものが目立った。さらに、<⑯誤答4つ>は「全く自信がない」回答者にのみみられた。以下、<⑯誤答2つ>、<⑯誤答3つ>、<⑯誤答4つ>の詳細を表5-14に示す。

表5-14 複数の誤答パターンの詳細

	詳細	誤答	出現回数	合計
⑯誤答2つ	①母音の交代+⑦長短	塔(た)	7	12
	①母音の交代+⑦長短	塔(たい)	4	
	①母音の交代+⑧入声韻尾	塔(たく)	3	
	①母音の交代+⑧入声韻尾	解答(かいたつ)	3	
	①母音の交代+⑧入声韻尾	活字(こうじ)	3	
	④子音の交代+①母音の交代	是非(しひ)	6	
	④子音の交代+①母音の交代	莫大(もくだい)	3	
	④子音の交代+①母音の交代	紺(がん)	3	
	④子音の交代+⑥半母音の添加・脱落	郡(じゅん)	6	
	⑦長短+③清濁	符号(ふうこう)	3	
	⑦長短+⑭音訓	毛布(もぬの)	3	
	小計		44	44
⑯誤答3つ	④子音の交代+①母音の交代+⑧入声韻尾	莫大(もうだい)	6	17
	④子音の交代+①母音の交代+⑧入声韻尾	莫大(もだい)	6	
	④子音の交代+①母音の交代+⑧入声韻尾	活字(ほうじ)	5	
	④子音の交代+①母音の交代+③清濁	莫大(もくたい)	4	
	小計		21	21
⑯誤答4つ	④子音の交代+①母音の交代+⑧入声韻尾+③清濁	莫大(もたい)	5	5
	合計		70	70

表5-14から、複数の誤答パターンを含むものの中には、<①母音の交代>と<④子音の交代>が多く含まれていることが分かる。では、それぞれの誤答パターンが何回出現したのだろうか。集計した結果、以下のことが分かった。この中で、出現回数が最も多かったのは<①母音の交代>（59例）である。次いで多かったのは<④子音の交代>（44例）であり、3番目は<⑧入声韻尾>（31例）である。以下、<⑦長短>（18例）、<③清濁>（8例）、<⑥半母音の添加・脱落>（6例）、<⑭音訓>（3例）の順になっている。

以上のように、「全く自信がない」回答者の誤答パターンで特に目立った複数の誤答パターンを含むものをさらに分析した結果、その中には<①母音の交代>、<④子音の交代>、<⑧入声韻尾>が特に多いことが分かった。これは現代中国語音の影響による可能性が非常に大きい。なぜならば、回答者は現代中国語音に近い発音で読んでいると思われるからである。例えば、表5-13中の「郡じゅん」の場合、「郡ぐん」を「じゅん」と読んだのは、「郡」の現代中国語音が「jun4」([tɕyn])であるためであろう。また、同じ表5-13中の「塔(とう)」を「た」「たい」「たく」と読んだのも、「塔」の現代中国語音が「ta3」([tʰa])であることの影響があったのではないかと考えられる。同じように、「是非(しひ)」、「莫大(もくだい)」・「莫大(もうだい)」・「莫大(もだい)」・「莫大(もくたい)」、「紺(がん)」、「活字(ほうじ)」についても現代中国語音の影響が考えられる。このように、回答者は母語の現代中国語音を積極的に活用しようとしているが、結果的には正答と異なった結果となっている。それは、回答者は現代中国語音と日本漢字音の対応関係を知らない可能性が非常に高いためであると思われる。

### 5.3.3.3 まとめ

ここでは、「自信がある」、「あまり自信がない」、「全く自信がない」、これら3者の共通点と相違点について考察する。図5-4～5-6は、それぞれ表5-11～5-13を図式化したものである。

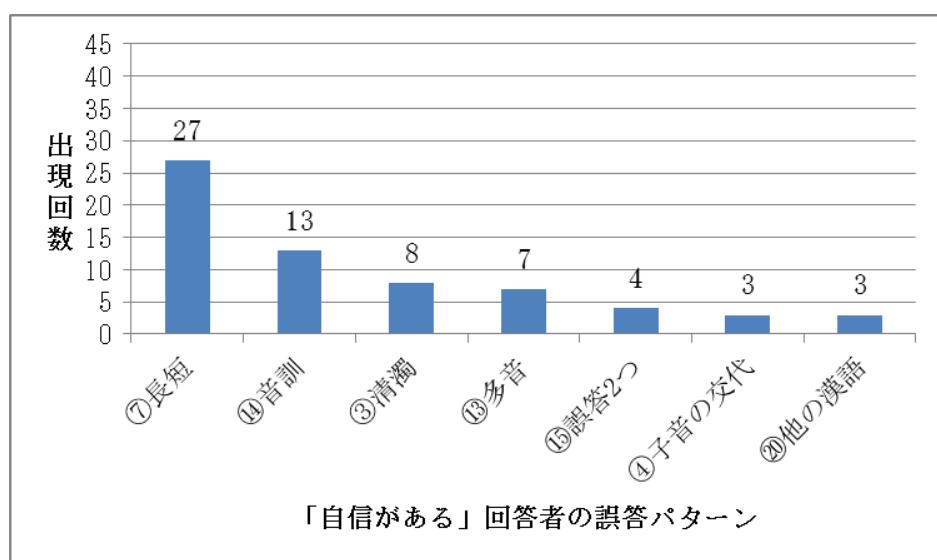


図5-4 「自信がある」の誤答パターン

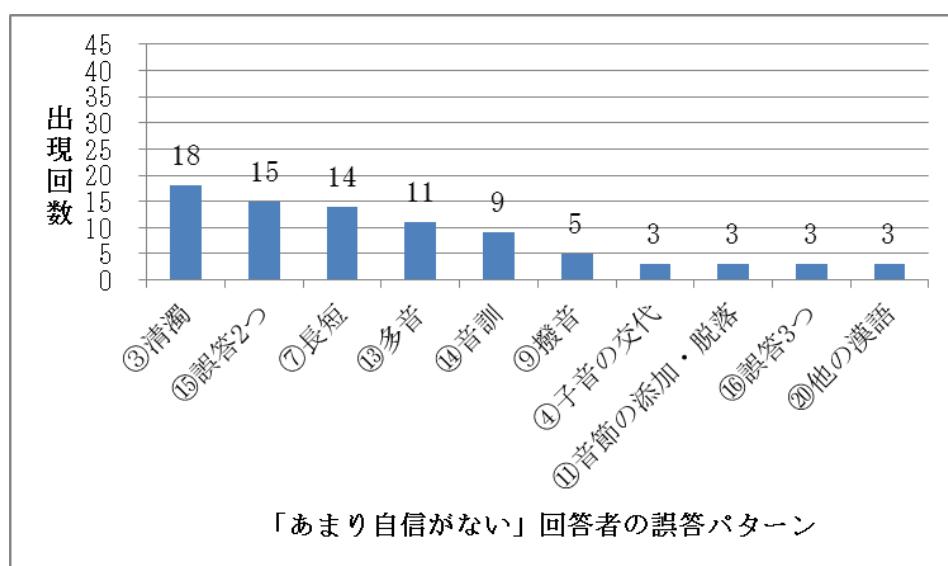


図 5-5 「あまり自信がない」回答者の誤答パターン

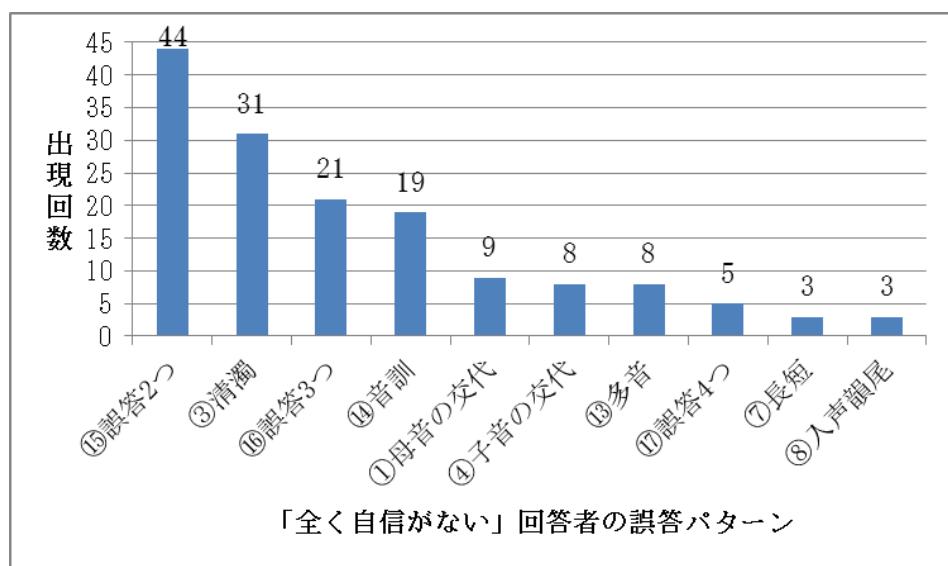


図 5-6 「全く自信がない」回答者の誤答パターン

以上の3つの図から分かるように、3者の共通点は、<③清濁>と<⑭音訓>がいずれも多くのみられたことである。相違点については、以下の2点が挙げられる。

1点目は、<③清濁>と<⑭音訓>を除き、「自信がある」回答者の誤答パターンには<⑦長短>と<⑬多音>が比較的多かったが、「全く自信がない」回答者の誤答パターンには<⑯誤答2つ>と<⑯誤答3つ>、つまり<①母音の交代>、<④子音の交代>、<⑤入声韻尾>が比較的多かった。そして、「あまり自信がない」回答者の誤答パターンには、<

⑯誤答2つ>、<⑦長短>と<⑬多音>が比較的多かった。つまり、「あまり自信がない」グループは「自信がある」グループと「全く自信がない」グループの特徴を併せ持っていると言えよう。そのほか、<⑨撥音>と<⑪音節の添加・脱落>は「あまり自信がない」のみにみられた。

2点目は、表5-11～5-13から分かるように、誤答が2種類以上（いずれも出現回数は3回以上）の漢語（網掛け部分）が確信度が下がるにつれ次第に多くなっている。つまり、確信度が低いほど、1つの漢語に対して、誤答の種類が多い。それらの誤答は、主に回答者が母語である現代中国語音に近い発音で読んだ結果だと考えられる。このことから、回答者たちは確信を持っていないときに自分の母語を活用しようとしており、また、人によってその推測結果がかなり異なっていることが分かる。

以上のことから、「自信がある」「あまり自信がない」「全く自信がない」3者の間には、共通点もあるが、それ以上に相違点があることが明らかになった。この結果は、仮説3「確信度により、誤答パターンは異なる」を支持していると言えるだろう。

#### 5.4 本章のまとめ

本章の分析結果と考察をまとめると以下のようになる。

第一に、回答者自身の回答に対する確信度と、実際の読み方の正誤との間に相関関係があることが分かった。

第二に、回答者の確信度は、当該漢字・漢語が既習か未習かに大きく依存しているということが分かった。既習漢語である場合や、既習漢字の知識が利用できる単純な未習漢語の読み方を推測する場合では、回答者は通常確信を持って正しく答えていた。一方、既習漢字の知識が利用できるが（音読みが2つ以上ある漢字が含まれる）複雑な未習漢語の読み方を推測する場合は、回答者はあまり確信が持てない傾向がみられた。そして、既習漢字の知識が利用できない未習漢語の読み方の推測では、回答者は全く確信を持てない傾向があることが分かった。これらのことから、漢語の学習状況、つまり①既習漢語、②既習漢字の知識を用いることで読み方が推測可能な未習漢語、③完全な未習漢語、の区別が回答者の確信度に反映されていることが分かった。ゆえに、確信度という尺度を含めた形で、日本漢字音習得の課題をさらに見直すべきことが示唆された。

第三に、誤答パターンの分析結果から、以下のことが分かった。まず、確信度と関係な

く存在している共通の問題点は、<③清濁>と<⑭音訓>である。共通の問題点以外に、確信度による個別の問題点がある。確信度が高い場合には、先行研究でも指摘されている<⑦長短>問題の他に、<⑬多音>問題も顕著であった。一方、確信度が低い場合には、現代中国語音からの影響だと考えられる、<①母音の交代>、<④子音の交代>、<⑧入声韻尾>の問題が目立ったが、この点についてはこれまでほとんど指摘されてこなかった。そして、確信度があまり高くない場合には、「自信がある」グループと「全く自信がない」グループの特徴を併せ持っているほか、<⑨撥音>と<⑪音節の添加・脱落問題>がみられた。しかし、これらの共通の問題点、個別の問題点のいずれもが漢語レベル（促音化や連濁化など）ではなく、漢字レベルの問題であることが分かった。つまり、これまでの研究で注目されてきた漢語レベルで起こる誤り（促音化や連濁）は、中級日本漢字音学習上においてはそれほど大きな課題となっていないことが明らかになった。従って、日本漢字音の課題として、漢字レベルで起こる誤りのパターンを中心に問題点を解決すれば、中國語話者にとって日本漢字音はより一層効率的に習得できると考えられる。これらの学習上の困難点を、どのような順序で取りあげ、どのように解決していくかについては、次の第6章で詳しく論じる。

## 第6章 システムデザインに向けて —2級新出漢語の使用漢字について—

第5章では、中国語話者を対象に、確信度を含めた日本漢字音学習の実態を調査し、習得上の課題を明らかにした。では、第5章で明らかになった問題点の間にはどのような関係があるのだろうか。学習課題を解決するためには、一つ一つの課題を個別に解決していくべきか、あるいは幾つかの課題を組み合わせて解決していくことが可能なのが問題になる。このことについて、本章では、第5章で明らかにした問題点を改めて整理し、それぞれの解決策を検討する。そして学習課題の構造化を試みる。

### 6.1 学習課題の提示

第5章で明らかにした日本漢字音習得上の課題は、共通の問題点と個別の問題点を中心漢字レベルで起こっている。しかし、学習者の読み能力を向上させるには、漢語レベルで起こる問題も解決する必要があると考え、ここでは、漢字レベルの問題点に漢語レベルの問題点（促音化、連濁、促音化・連濁）も加えて、それぞれの解決策を検討する。その際、第2章から第4章までで明らかにした対応関係や対応規則を活用する。一方、これまでの分析結果で解決できない問題点については、本章で改めて分析し考察する。以下漢字レベルと漢語レベルに分けて述べる。

#### 6.1.1 漢字レベル

第5章の「5.3.3 確信度別の誤答分析」で、確信度別に、同様の誤答が3名以上の学習者にみられた漢語を分析した結果から分かるように、漢字レベルの中には、さらに、共通の問題点と個別の問題点がある。共通の問題点は確信度と関係なく学習者全員に多くみられた問題であるのに対し、個別の問題点は確信度と深くかかわっている。

##### 6.1.1.1 共通の問題点

第5章の分析結果から、確信度と関係なく学習者全員に多くみられた共通の問題点として、清濁と音訓があった。以下、この2つの問題点及びその解決法について検討する。

#### 6.1.1.1.1 清濁について

第5章の調査結果でみられた清濁による誤答例として、「誤解（二かい）」、「被害（ひかい）」、郡「（くん）」（下線部が誤答である。以下同様。）が挙げられる。このように、誤答は濁音のところを全て清音としてしまうものである。この問題の解決には、どんな場合に濁音として読むのかということを学習者に知ってもらう必要がある。その際、現代中国語音の声母と日本漢字音の濁音の対応関係の知識が役に立つ。

第3章の「3.2.3.1.1 現代中国語音の声母と呉音・漢音の頭子音」の分析から分かるように、呉音の場合で濁音になる声母は、「b」「p」「f」「d」「t」「h」「j」「q」「x」「zh」「ch」「sh」「z」「c」「s」の15声母である。漢音の場合で濁音になる声母は、「m」「n」「r」「ゼロ」の4声母である。

そこで、2級新出漢字の漢音字・呉音字（687字）において、以上で述べた19声母を調査した。その結果を表6-1に示す。

表6-1 現代中国語音の声母と漢音・呉音の濁音

	現代中国語音		漢音・呉音 濁音字(B)	対応率 (B/A)	備考
	声母	字数(A)			
1	b	26	2	7.7%	棒ボウ、暴ボウ
2	p	10	2	20.0%	盤バン、盆ボン
3	f	17	2	11.8%	凡ボン、防ボウ
4	d	37	7	18.9%	導ドウ、第ダイ、独ドク、毒ドク、断ダン
5	t	19	3	15.8%	駄ダ、楮ダ
6	h	26	3	11.5%	害ガイ、豪ゴウ、互ゴ
7	j	68	2	2.9%	郡グン、剤ザイ
8	q	32	2	6.3%	棋ゴ、情ジョウ
9	x	52	11	21.2%	嫌ゲン、現ゲン、限ゲン、像ゾウ、邪ジヤ、徐ジヨ、序ジヨ、続ゾク、旬ジュン、巡ジュン、循ジュン
10	zh	50	1	2.0%	状ジヨウ
11	ch	24	5	20.8%	伝デン、臣ジン、乘ジヨウ、持ジ、純ジュン
12	sh	42	8	19.0%	善ゼン、繕ゼン、剩ジヨウ、示ジ、寿ジュ、熟ジュク、属ゾク、順ジュン
13	z	22	4	18.2%	在ザイ、臓ゾウ、罪ザイ、座ザ
14	c	19	2	10.5%	材ザイ、磁ジ
15	s	18	2	11.1%	寺ジ、隨ズイ
16	m	29	11	37.9%	馬バ、買バイ、壳バイ、冒ボウ、梅バイ、米ベイ、秒ビヨウ、莫バク、漠バク、募ボ、牧ボク
17	n	6	2	33.3%	努ド
18	r	8	2	25.0%	冗ジヨウ、弱ジャク
19	ゼロ	97	20	20.6%	額ガク、嚴ゲン、岩ガン、疑ギ、儀ギ、芸ゲイ、迎ゲイ、魚ギヨ、娛ゴ、源ゲン、瓦ガ、我ガ、悟ニ、誤ゴ、亡ボウ、望ボウ、微ビ、武ブ、舞ブ、児ジ
合計		602	91	15.1%	

表6-1の「対応率」欄から分かるように、以上の19声母と漢音・呉音の濁音の対応率は全て40%以下である。つまり、この19声母は基本的に濁音にはならないということである。

例外は、表6-1の「備考」欄に示した合計91字である。第4章の表4-17<sup>1</sup>と表4-18<sup>2</sup>に示した分析結果を参考に、この91字を分析していくと、以下の3点が分かる。

まず、「p」「f」「x」声母については、鼻音韻尾（つまり「-n」あるいは「-ng」）の韻母との組み合わせで、かつ第2声で読む漢字は、日本漢字音では濁音となる。この対応に従う漢字は91字中7字である。例えば、「盤 (pan2-バン)」「防 (fang2-ボウ)」「循 (xun2-ジュン)」が挙げられる。

次に、「m」「n」「r」声母の場合、漢音では濁音、呉音では鼻音となるという特徴がある。そして、濁音となる漢字を現代中国語音からみた場合は特徴がみられないのに対し、鼻音となる漢字には若干ではあるが特徴がみられた。そこで、「m」「n」「r」声母については日本漢字音では濁音となり、例外は鼻音になることであると、覚えるとよいだろう。いつ鼻音になるかというと、それは「m 声母」と「鼻音韻尾」、「n」「r」声母と「鼻音韻尾かつ第2声」が組み合わさる場合のみである。この対応に従う漢字は91字中15字である。

最後に、以上で述べた2つの特徴を持つ漢字以外の69字については、現代中国語音から特徴が見出せなかつたため、そのまま覚えるしか方法がない。しかし、学習者に覚えやすいようにするために、声母ごとで3字以上の漢字がある場合について、可能な限り、それらの漢字を用いて意味のある文を作成してみると、①「d 声母」の場合は「毒導第（的）独断」（毒導第という人の独断）、②「ch 声母」の場合は「臣伝（了）持剩純」（私は持剩純という人を呼んできた）、③「z 声母」の場合は「在座（有）臓罪」（ここにいるあなたたちには「臓罪」という罪がある）という文で覚える方法が考えられる。

表6-1に挙げた91字の日本漢字音を覚えさえすれば、前述の誤答例「誤解（こかい）」、「被害（ひかい）」、「郡（くん）」の清音が全て濁音になると判断できるはずである。なぜならば、「誤解」の「誤」、「被害」の「害」、「郡」の3字は、表6-1（○で囲んでいる部分）で示したように、濁音となるからである。

#### 6.1.1.2 音訓について

第5章の調査結果でみられた音訓による誤答例として、「毛布（も ぬの）」「続々（つづ き づつき）」「歌手（うた しゅ）」が挙げられる。このように、音読みで書くべきところに訓読みを書いてしまう場合や、訓読みからの影響で間違える場合がある。このように、音

<sup>1</sup> 表4-17は、現代中国語音の声母と漢音・呉音の頭子音の基本対応規則を示したものである。

<sup>2</sup> 表4-18は、現代中国語音の声母と漢音・呉音の頭子音の補助対応規則を示したものである。

読みと訓読みを明確に区別していない学習者が多くいることが分かる。そこで、以下では、佐藤（2011）<sup>3</sup>に基づき、簡単に音読みか訓読みかを判断する方法を提示する。

佐藤（2011、p. 6）は、常用漢字の音訓表を使用し、音読み音節構造の特性と、日本人が音読みだと認識する語感の所以について以下のように述べている。

一漢字あたりの音読みに使われているカタカナ<sup>4</sup>の数は、最大三文字までということである。したがって、「哀」を「あわれむ」、「汚」を「けがれる」などのように送仮名までふくめて四文字以上で読むのは、まず訓読みと認識して差し支えない。二拍で読みきれる漢字で、しかも拗音で始まるものは音読みだと考えてよい。（中略）拗音を除外すると、二字目のカナは「イ・ウ・キ・ク・チ・ツ・ッ・ン」の八種類しか存在しない。イ・ウ・キ・ク・チ・ツ・ッ・ンを二拍目にもつ読みは漢字音である可能性が高いということである。逆に言えば、二拍目にそれ以外の読みを持つ語はすなわち訓読みである（右みぎ/羽はね/雨あま/雨あめ/臼うす/渦うず/浦うら/雲くも/餌えさ/影かげなど）。カタカナ一文字とひらがな一文字の読みの特徴から音と訓を判別する手立てはない。ただ、一字の訓読みはそれほど多くはないので、慣れて覚えるほかないであろう。それに比して、一字の音読みは枚挙にいとまがない。（強調は筆者、以下同様。）

以上のことから、音読みの特徴を以下の3点にまとめることができる。第一に、音読みに使われるカナは最大3文字までである。第二に、二拍で読みきれる漢字で、しかも拗音で始まるものは音読みである。そして、拗音を除外すると、二字目のカナが「イ・ウ・キ・ク・チ・ツ・ッ・ン」である場合、ほとんど音読みである。第三に、仮名が一文字の場合、音読みで読むことが多い。この3つの特徴を把握すれば、前述の誤答「毛布（も ぬの）」の「布ぬの」、「続々（つづき づつき）」の「続つづき」、「歌手（うたしゅ）」の「歌うた」は音読みではないと判断できるはずである。

<sup>3</sup> 佐藤進「日本語における音読みについて」『日本語学』漢字音研究の現在特集30-3、明治書院、2011、pp. 4-17。

<sup>4</sup> 常用漢字表の中では、音読みはカタカナ、訓読みはひらがなで表記している。（筆者注）

### 6.1.1.2 個別の問題点

第5章から分かるように、以上で取りあげた共通の問題点（清濁と音訓）以外に、確信度の違いによってみられた個別の問題点もある。「自信がある」場合は長短と多音、「全く自信がない」場合は母音の交代・子音の交代・入声韻尾による誤答が多くみられた。そして、「あまり自信がない」場合は、「自信がある」グループと「全く自信がない」グループの特徴を併せ持っているほか、撥音と音節の添加・脱落による誤答がみられた。以下では、音節の添加・脱落以外の問題点とその解決法について検討する。音節の添加・脱落を除外したのは、長短・入声韻尾・撥音いわゆる特殊拍に関わる問題点が解決すれば、音節の添加・脱落もほぼ解決できると考えられるからである。

#### 6.1.1.2.1 長短について

第5章の調査結果でみられた長短による誤答例として、信号「(しんご)」、誤解「(ごうかい)」、風景「(ふけい)」、夫人「(ふうじん)」、人種「(じんしゅう)」が挙げられる。このように、長音のところを短音<sup>5</sup>と書いてしまう場合や、短音のところを長音と書いてしまう場合がある。この問題を解決するには、現代中国語音の韻母と日本漢字音の長音の対応関係の知識が必要になってくると考えられる。

第3章の「3.2.3.1.2 現代中国語音の韻母と吳音・漢音の主母音・特殊拍・入声韻尾」の対応関係から分かるように、現代中国語音の36韻母のうち、「ao」「iao」「ou」「iou」「iong」「a」「ie」「i」などの17韻母で読む漢字は、漢音字・吳音字では長音となる可能性があるが、それ以外の韻母は長音となる可能性はない。そこで、2級新出漢字における漢音字・吳音字（687字）の中で、以上で述べた17韻母で読む漢字について調査した。その結果を表6-2に示す。表6-2は、対応率を昇順に並べている。

<sup>5</sup> 本研究では、長母音を持っておらず、1拍のみの日本語音節を短音という。

表 6-2 現代中国語音の韻母と漢音・吳音の長音

	現代中国語音 韻母	漢音・吳音 字数A)	長音字(B)	対応率 (B/A)	備考
1	e	25	0	0.0%	
2	u	57	0	0.0%	
3	ia	5	0	0.0%	
4	i	104	21	20.2%	長音(21)：系ケイ、継ケイ、契ケイ、憩ケイ、稽ケイ、芸ゲイ、齊セイ、勢セイ、制セイ、低ティ、抵ティ、底ティ、提ティ、閉ヘイ、幣ヘイ、米ベイ、例レイ、及キュウ、級キュウ、吸キュウ、集シユウ
5	a	12	3	25.0%	長音(3)：答トウ、蠅ロウ、塔トウ、
6	ie	13	4	30.8%	長音(4)：怯キヨウ、協キヨウ、葉ヨウ、疊ジョウ、
7	iao	25	21	84.0%	例外(4)：較カク、角カク、葉ヤク、削サク
8	ou	15	13	86.7%	例外(2)：寿ジユ、首しゆ
9	iou	18	16	88.9%	例外(2)：酒シユ、油ユ
10	eng	17	16	94.1%	例外(1)：夢ム
11	ong	19	18	94.7%	例外(1)：種シユ
12	ao	29	28	96.6%	例外(1)：矛ム
13	ang	16	16	100.0%	
14	iang	17	17	100.0%	
15	uang	14	14	100.0%	
16	ing	32	32	100.0%	
17	iong	3	3	100.0%	
合計		421	222	52.7%	

この表から以下の2点が分かる。1点目は、「-ng」7韻母と「ao」「iao」「ou」「iou」4韻母で読む漢字は長音となることである。そして、その例外は、以上で示した「矛(ム)」「種(シユ)」「夢(ム)」「酒(シユ)」「寿(ジユ)」「較(カク)」など合計11字である。

2点目は、以上の11韻母以外の24韻母で読む漢字は、基本的には長音にならないことである。そして、その例外、つまり長音になるものは、「i」「a」「ie」韻母字の一部である。まず、「i」韻母の場合は、「(系ケイ)」や「継(ケイ)」などの21字が長音になる。この21字を、「i」韻母字であるが日本漢字音では長音にならない漢字と比べた結果、以下の特徴があることが分かった。  
 ①現代中国語音では「i 韵母」と「d/t 声母」が組み合わさった漢字の場合、日本漢字音では長音となる。例えば、「低(di1-ティ)」や「提(ti2-ティ)」が挙げられる。  
 ②「及」という声符を持つ漢字は、日本漢字音では長音となる。例えば、「級(キュウ)」や「吸(キュウ)」が挙げられる。  
 次に、「a 韵母」の場合は、「答(トウ)」「蠅(ロウ)」「塔(トウ)」の3字のみ長音となる。最後に、「ie 韵母」の場合は、「怯(キヨウ)」「協(キヨウ)」「葉(ヨウ)」「疊(ジョウ)」の4字のみ長音となる。

以上で述べた知識を身に付ければ、最初に取りあげた誤答「信号(しんご)→(シンゴウ)」(誤答はひらがなで、正答はカタカナで表記する。以下同様。)、「誤解(ごうかい)→(ゴカイ)」、「風景(ふけい)→(フウケイ)」、「夫人(ふうじん)→(フジン)」、「人種(じんしゅう)→(ジンシュ)」というように正しく読むことができる。なぜならば、「信号」

の「号」は現代中国語音で「hao4」と読み、「ao 韵母」である。以上の分析結果から「ao 韵母」は長音となるので、「号」は「ご」ではなく「ゴウ」であると判断できる。また、「誤解」の「誤」と、「夫人」の「夫」は、現代中国語音で読むとそれぞれ「wu4」と「fu1」であり、「u 韵母」である。以上の分析から「u 韵母」は短音となるため、「誤」は「ごう」ではなく「ゴ」で、「夫」は「ふう」ではなく「フ」であることが判断できる。そして、「風景」の「風」と、「人種」の「種」は、現代中国語音で読むとそれぞれ「feng1」と「zhong3」であり、「-ng」韵母である。以上の分析から「-ng」韵母は長音となるが、「矛ム」「種シユ」「夢ム」の3字が例外であることが分かる。つまり、「風」は「ふ」ではなく「フウ」であるが、「種」は「しゅう」ではなく「シユ」であると判断できる。このように、以上の分析結果を利用することで、より正確に日本漢字音を推測することができる。

#### 6.1.1.2.2 多音について

第5章の調査結果でみられた多音による誤答例として、「公平 (こうひょう)」が挙げられる。このように、1つの漢字に複数の音読みがある場合は、学習者が間違ってしまう可能性が高くなる。

第4章の「4.2 分析対象について」の部分で述べているように、2級新出の多音字は22字ある。この22字を覚えやすくするために、筆者はこの22字を使って以下のような文章を作った。

象負重登木、次、土平石頭坊。弟言極率直、然、漁判讀省惠（「会」同音）

この文の意味は、「象は重いものを負って木に登った。その後、土で『石頭坊』という場所を埋めて平らにした。（そのことについて、）弟は（象が）とても素直であると言った。しかし、漁師は（象に中国の各省の行政府の所在地である）省会を読ませる罰を与えた。」である。この22の多音字を覚えたという前提で、以下では、この22字の発音を見分けるキーワードについて詳述する。★は基本的にこの発音で読めばよいという意味である。（ ）中の漢語は2級新出ではなく、より多くの漢語例を提示するために、大越・高橋（2003）<sup>6</sup>や『角川新字源改訂版』（1994）を参照し提示したものである。

<sup>6</sup> 大越美恵子・高橋美和子『中国人のための漢字の読み方ハンドブック』スリーエーネットワーク、2003。

① 象 (ゾウ) : 象

(★ショウ) : 【象以外の漢語】 … 対象 抽象 現象 印象

② 負 (ブ) : 勝負

(★フ) : 【勝負以外の漢語】 … 負担 (負荷 負傷 負債)

③ 重 (チヨウ) : 貴重 慎重 尊重

(★ジュウ) : 【貴重、慎重、尊重以外の漢語】 … 重～～重 重視 重体

④ 登 (ト) : 登山

(★トウ) : 【登山以外の漢語】 … 登場 (登録 登校 登用)

⑤ 木 (ボク) : 大木

(★モク) : 【大木以外の漢語】 … 木曜／木 木材 材木

⑥ 次 (シ) : 次第

(★ジ) : 目次 (次回 次男 次期)

⑦ 平 (ビヨウ) : 平等

(★ヘイ) : 【平等以外の漢語】 … 平和 平野 平凡 平日

⑧ 土 (ト) : 土地

(★ド) : 【土地以外の漢語】 … 土曜／土 (土台 土足 土着)

⑨ 石 (シャク) : 磁石

(★セキ) : 【磁石以外の漢語】 … 石炭 石油 石鹼 宝石

⑩ 頭 (ズ) : 頭痛、頭脳

(★トウ) : 【頭痛、頭脳以外の漢語】 … ～頭 先頭

⑪ 坊 (ボッ) : 坊ちゃん

(★ボウ) : 【坊ちゃん以外の漢語】 … 坊さん 坊や (坊主)

⑫ 弟 (ヂ) : 弟子

(★ダイ) : 兄弟

⑬ 言 (ゴン) : 伝言 (過言 無言 遺言)

(★ゲン) : 【伝言など以外の漢語】 … 言語 方言 (言及 言動)

⑭ 極 (ゴク) : 極

(★キョク) : 【極以外の漢語】 … 南極 北極 消極的 積極的

⑮ 率 (ソツ) : 率直

(★リツ) : 【率直以外の漢語】 … 率 能率 確率

⑯ 直 (ジキ) : 直 正直

(★チョク) : 【直、正直以外の漢語】 …直後 直接 直線 直前

⑰ 然 (ネン) : 天然

(★ゼン) : 【天然以外の漢語】 …偶然 自然 全然 突然

⑱ 漁 (リョウ) : 漁師

(★ギョ) : 【漁師以外の漢語】 …漁業 (漁具 漁村 漁民)

⑲ 判 (バン) : 評判 裁判

(★ハン) : 【評判、裁判以外の漢語】 …判断 判事 批判 審判

⑳ 読 (トウ) : 句読点 (読点)

(★ドク) : 【読点など以外の漢語】 …読書 (読者 読破 読解)

㉑ 省 (セイ) : 反省

(★ショウ) : 【反省以外の漢語】 …省～ ～省 省略

㉒ 恵 (エ) : 知恵

(★ケイ) : 【知恵以外の漢語】 …恩恵 (互恵 特恵 恵贈)

このように、これらの22字の2音のうち、1音が使用されている漢語が非常に限定される場合が多いことが分かる。学習する際に、この特徴を有効に利用すれば、多音字学習の促進につながると予想される。

これらのが分かれば、前述の誤答例「公平 (こうひょう)」は「ひょう」ではなく「へイ」であることが判断できるはずである。

#### 6.1.1.2.3 母音の交代について

第5章の調査結果でみられた母音の交代による誤答例として、「永遠 (ようえん)」と「曲 (きゆく)」が挙げられる。このように、誤答の中には、日本漢字音の特殊拍や頭子音などは正しくても、母音（または介音と母音）の部分のみを間違える場合がある。

この母音の交代という問題を解決するには、第4章の「4.4.3.1 現代中国語音の韻母と日本漢字音の主母音」で見出した「現代中国語音の韻母と漢音・吳音の主母音との基本対応規則」(表4-21)とその「補助対応規則」(表4-22)を活用するのが有効であろう。その基本対応規則と補助対応規則を以下に示す。表6-3は基本対応規則で、表6-4は補助対応規則である。網掛け部分は対応率が50%以下のものである。

表 6-3 現代中国語音の韻母と漢音・吳音の主母音との基本対応規則

	現代中国語音		漢音・吳音		対応率 (=B/A)		現代中国語音		漢音・吳音		対応率 (=B/A)
	韻母	字数(A)	主母音	字数(B)			韻母	字数(A)	主母音	字数(B)	
1	a	12	ア段	9	75.0%	19	ün	7	ウ段	5	71.4%
2	ai	23		23	100.0%	20	ian	34	エ段	30	88.2%
3	an	31		26	83.9%	21	ie	13		5	38.5%
4	e	25		16	64.0%	22	ing	32		21	65.6%
5	ia	5		5	100.0%	23	iong	3		1	33.3%
6	o	9		9	100.0%	24	üan	9		8	88.9%
7	ua	4		4	100.0%	25	ang	16	オ段	16	100.0%
8	uai	1		1	100.0%	26	ao	29		28	96.6%
9	uan	20		17	85.0%	27	eng	17		13	76.5%
10	üe	4		4	100.0%	28	iang	17		17	100.0%
11	uo	22		21	95.5%	29	iao	25		21	84.0%
12	ei	11	イ段	5	45.5%	30	ong	19		15	78.9%
13	en	15		11	73.3%	31	ou	15		7	46.7%
14	er	1		1	100.0%	32	u	57		40	70.2%
15	i	104		57	54.8%	33	ü	22		16	72.7%
16	in	16		16	100.0%	34	uang	14		14	100.0%
17	uei	24		13	54.2%	35	uen	13		8	61.5%
18	iou	18	ウ段	17	94.4%	合計	35	687	5	517	75.3%

以上の5規則は、漢音・吳音字(687字)の75.3%に当たる517字に適用可能である。対応率が50%以下のものとして、「ei」「ie」「iong」「ou」4韻母と漢音・吳音の対応がある。このうち、「ou 韵母」と漢音・吳音の対応は、以下の表6-4の補助対応規則の利用によって、対応率を46.7%から100%に上げることができた。

表 6-4 現代中国語音の韻母と漢音・吳音の主母音との補助対応規則

	現代中国語音の韻母	補助規則	条件(声母/声調)	漢字	字数	対応率(基本対応規則のみ)		対応率(基本と補助の合計)
1	u	ウ段	f声母	膚、符、府、付、富、福	6	70.2%	→	80.7%
2	e			徹、設、折、哲	4	64.0%		80.0%
3	uan			船、栓、伝	3	85.0%		100.0%
4	ou		そり舌音	抽、収、州、周、宙、昼、首、寿	8	46.7%		100.0%
5	uei			炊、垂、睡、追	4	54.2%		70.8%
6	uen			瞬、順、純	3	61.5%		84.6%
7	an	エ段	そり舌音&第4声	扇、善、繕	3	83.9%		93.5%
合計		4	3		31			

この補助対応規則が適用できる漢字は合計31字である。これを基本対応規則が適用でき

る 517 字と合わせると、合計 548 字（つまり漢音・呉音 687 字の 79.8%）になる。

これらのが分かれば、前述の誤答例「永遠（ようえん）」と「曲（きゅく）」はそれぞれ「永遠（エイエン）」と「曲（キョク）」であると判断できるはずである。なぜならば、「永遠」の「永」は、現代中国語音で「yong3」と読んでおり、「iong 韻母」である。以上の分析結果から「iong 韵母」は「エ段」となるので、「永」は「よう」ではなく「エイ」であることが判断できる。同じように、「曲」は現代中国語音で「qu3」で読んでおり、つまり「ü 韵母」である。以上の分析結果から「ü 韵母」は「オ段」となるので、「曲」は「きゅく」ではなく「キョク」であると判断できる。

#### 6.1.1.2.4 子音の交代について

第5章の調査結果でみられた子音の交代による誤答例として、「答案（こうあん）」、「応用（ほうよう）」が挙げられる。このように、誤答の中には、日本漢字音の主母音や特殊拍などは正しいが、頭子音の部分のみ間違える場合がある。

この子音の交代という問題を解決するには、第4章の「4.4.2 現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音」で見出した「現代中国語音の声母と漢音・呉音の頭子音の基本対応規則」（表4-17）とその「補助対応規則」（表4-18）の活用が考えられる。その基本対応規則と補助対応規則を以下に示す。表6-5は基本対応規則で、表6-6は補助対応規則である。網掛け部分は対応率が50%以下のものである。

表6-5 現代中国語音の声母と漢音・呉音の頭子音の基本対応規則

	現代中国語音		漢音・呉音		対応率 (=B/A)		現代中国語音		漢音・呉音		対応率 (=B/A)
	声母	字数 (A)	頭子音	字数 (B)			声母	字数 (A)	頭子音	字数 (B)	
1	b	26	ハ行	24	92.3%		j	68	カ行	48	70.6%
2	p	10		8	80.0%		q	32		19	59.4%
3	f	17		15	88.2%		x	52		26	50.0%
4	m	29	バ行	11	37.9%	サ行	zh	50	サ行	30	60.0%
5	d	37	タ行	30	81.1%		ch	24		11	45.8%
6	t	19	16	84.2%	sh		42	34		81.0%	
7	n	6	ダ行	1	16.7%		z	22		17	77.3%
8	l	34	ラ行	34	100.0%	カ行	c	19	ア行	17	89.5%
9	g	33	33	100.0%	s		18	16		88.9%	
10	k	18	18	100.0%	r		8	2		25.0%	
11	h	26	20	76.9%	ゼロ		97	44		45.4%	
							合計	687		474	69.0%

以上の9規則は、漢音・呉音字（687字）の69.0%に当たる474字に適用可能である。

対応率が50%以下のものとして、「m」「n」「ch」「r」「ゼロ」5声母と漢音・呉音の対応がある。このうち、「ch」以外の4声母と漢音・呉音の対応は、以下の表6-6の補助対応規則の利用によって、対応率を50%以上に上げることができた。

表6-6 現代中国語音の声母と漢音・呉音の頭子音の補助対応規則

	声母	補助規則	条件(声母/声調)	漢字	字数	対応率(基本対応規則のみ)		対応率(基本と補助の合計)
1	ゼロ	ヤ行	you	悠、優、遊、 友、右、油、 幼	7	45.5%	→	52.6%
2	r	ヤ行	rong2	融、容、溶	3	25.0%		62.5%
3	m	マ行	鼻音韻尾	満、慢、夢、 綿、免、面	6	37.9%		58.6%
4	p	バ行	鼻音韻尾 かつ 第2声	盤、盆	2	80.0%		100.0%
5	f	バ行		凡、防	2	88.2%		100.0%
6	n	ナ行		南、難、能	3	16.7%		66.7%
7	x	ザ行		匂、巡、循	3	50.0%		55.8%
合計		7	4		26			

この補助対応規則が適用できる漢字は合計26字である。これを基本対応規則が適用できる474字と合わせると、合計500字（つまり漢音・呉音687字の72.8%）になる。

これらのが分かれれば、前述の誤答「答案（こうあん）」と「応用（ほうよう）」はそれぞれ「ト」と「オ」であると判断できるはずである。なぜならば、「答案」の「答」は、現代中国語音で「da2」と読んでおり、「d声母」である。以上の分析結果から「d声母」は「タ行」となるので、「答」は「こう」ではなく「トウ」であることが判断できる。同じように、「応用」の「応」は「ying4」と読んでおり、「ゼロ声母」である。以上の分析結果から「ゼロ声母」は「ア行」となるので、「応」は「ほう」ではなく「オウ」であることが判断できる。

#### 6.1.1.2.5 入声韻尾について

第5章の調査結果でみられた入声韻尾による誤答例として、「塔（たく）」と「解答（かいたつ）」などが挙げられる。このように、長音を書くべきところに入声韻尾を書いてしまう場合がある。これらの誤答から、学習者がいつ長音になるか分からぬほか、いつ入声韻尾で終わるのかも分からぬことがうかがえる。長音については、「6.1.1.2.1 長短について」の部分すでに述べたため、ここでは、現代中国語音の韻母の知識を利用していつ入声韻尾で終わるのかを推測できる方法を提示する。

第3章の「3.2.3.1.2 現代中国語音の韻母と吳音・漢音の主母音・特殊拍・入声韻尾」の分析結果から分かるように、現代中国語音の「üe」韻母で読む漢字は、吳音・漢音では例外なく入声韻尾で終わる。「a」「ua」「ai」「iao」「e」「ei」「ou」「iou」「o」「uo」「ie」「i」「u」「ü」14 韵母で読む漢字は、日本漢字音では一部のみ入声韻尾で終わる。そこで、2級新出漢字の漢音字・吳音字（687字）において、以上で述べた14 韵母と「üe」韻母について調査した。その結果を表6-7に示す。

表6-7 現代中国語音の韻母と漢音・吳音の入声韻尾

韻母	現代中国語音 字数 (A)	漢音・吳音 入声韻尾				対応率 (B/A)	備考	
		字数 (B)	内訳					
			チ	キ	ク	ツ		
1	a	12	5			5	41.7%	殺サツ、札サツ、擦サツ、達タツ、拶サツ
2	ua	4	1			1	25.0%	刷サツ
3	ai	23	1		1		4.3%	脈ミヤク
4	iao	25	4		4		16.0%	較カク、角カク、葉ヤク、削サク
5	e	25	18		14	4	72.0%	例外(7)：歌カ、箇カ、河カ、可カ、舍シヤ、捨シヤ、和ワ
6	ei	11	2		2		18.2%	北ホク、黒コク
7	ou	15	0				0.0%	
8	iou	18	0				0.0%	
9	o	9	5	1	4		55.6%	例外(4)：波ハ、破ハ、魔マ、摩マ
10	uo	22	13		11	2	59.1%	例外(9)：多タ、果カ、過カ、貨カ、左サ、我ガ、駄ダ、精ダ、座ザ
11	ie	13	6	1	1	4	46.2%	潔ケツ、傑ケツ、列レツ、血ケツ、液エキ、借シヤク
12	üe	4	4		4		100.0%	覺カク、確カク、躍ヤク、略リヤク
13	i	104	23	13	9	1	22.1%	赤セキ、的テキ、敵テキ、滴テキ、積セキ、績セキ、籍セキ、曆レキ、戚セキ、析セキ、益エキ、識シキ、織シキ、カリヨク、職ショク、植ショク、翌ヨク、逆ギヤク、枳シヤク、息ソク、役ヤク、憶オク、必ヒツ
14	u	57	21		19	2	36.8%	畜チク、督トク、福フク、穀コク、陸リク、牧ボク、速ソク、祝シユク、築チク、促ソク、毒ドク、独ドク、録ロク、目モク、幕マク、属ゾク、熟ジユク、足ソク、燭ソク、骨コツ、突トツ
15	ü	22	5	1	4		22.7%	曲キヨク、浴ヨク、欲ヨク、続ゾク、域イキ
合計		364	108	1	15	73	29.7%	

このように、2級新出漢字の漢音字・吳音字（687字）でみた場合、入声韻尾で終わる漢字は108字である。この108字を分析すると、以下の4つの特徴がみられた。1つ目は、現代中国語音の「üe 韵母」は例外なく入声韻尾（ク）に対応することである。2つ目は、「e 韵母」は約7割入声韻尾になることである。例外は「歌（カ）」や「箇（カ）」などの7字（表6-7の備考欄参照）である。3つ目は、「a」「ua」「ai」「iao」「ei」「o」「uo」「ie」「i」「u」「ü」11 韵母は一部のみ（表6-7の備考欄参照）入声韻尾になることである。この中で、入声韻尾（チ）になるのは、「鉢ハチ」の1字である。入声韻尾（キ）になるのは

ほとんど「i 韵母」である。それ以外のものは、入声韻尾（ク）または入声韻尾（ツ）になる。その中で、「iao」「o」「uo」「u」「ü」韵母はほとんど入声韻尾（ク）になり、「a」「ua」「ie」韵母はほとんど入声韻尾（ツ）になることが分かった。4つ目は、以上の13韵母以外の23韵母は、入声韻尾にならないことである。

これらのが分かれば、先述の誤答例「塔（たく）」と「解答（かいたつ）」は入声韻尾ではないことが判断できるはずである。なぜならば、「塔」と「解答」の「答」は、現代中国語音ではそれぞれ「ta3」と「da2」で読んでおり、「a 韵母」である。以上の分析結果から、「a 韵母」の場合、「殺」「札」「擦」「達」「拶」の5字以外、入声韻尾ではないことが分かる。従って、「塔」と「解答」の「答」は、入声韻尾ではないと判断できる。

#### 6.1.1.2.6 撥音について

第5章の調査結果でみられた撥音による誤答例として、「応用（おんよう）」と「応用（おうよん）」が挙げられる。このように、長音のところを撥音と書いて間違える場合がある。この誤答例から、学習者がいつ長音になるか分からないほか、いつ撥音になるかも分からないことがうかがえる。長音については、「6.1.1.2.1 長短について」の部分すでに述べたので、ここでは現代中国音の韵母の知識を利用していつ撥音になるかを推測する方法を提示する。

第3章の「3.2.3.1.2 現代中国語音の韵母と吳音・漢音の主母音・特殊拍・入声韻尾」での分析から分かるように、現代中国語音の「an」「ian」「uan」「üan」「en」「uen」「in」「ün」8韵母、つまり「-n」で終わる韵母は漢音・吳音の撥音と対応している。そこで、2級新出漢字の漢音字・吳音字（687字）において、以上で述べた8韵母について調査した。その結果を表6-8に示す。

表6-8 現代中国語音の韵母と漢音・吳音の撥音

现代中国語音 韵母	现代中国語音 字数A)		対応率 (B/A)	備考
	现代中国語音 韵母	漢音・吳音 撥音字(B)		
1	an	30	30	100.0%
2	ian	34	34	100.0%
3	uan	20	20	100.0%
4	üan	9	9	100.0%
5	en	15	14	93.3% 例外(1)：肯コウ
6	uen	13	13	100.0%
7	in	16	16	100.0%
8	ün	7	7	100.0%
合計		144	143	99.3%

このように、現代中国語音の「-n」韻母は漢音・呉音の撥音と対応している。例外は「肯（コウ）」（表6-8の網掛け部分）の1字のみである。以上のことから、最初で取りあげた誤答「応用（おんよう）」と「応用（おうよん）」は撥音ではないと判断できるはずである。なぜならば、「応用」の「応」と「用」は、現代中国語音でそれぞれ「ying4」と「yong4」と読んでおり、「-n」韻母ではなく「-ng」韻母である。以上の分析結果と「6.1.1.2.1 長短について」の分析結果から、「応」と「用」は、撥音ではなく長音になることが判断できる。

### 6.1.2 漢語レベル

第5章では、漢語レベルで起こる誤り（促音化や連濁）は、日本語能力が新試験N4以上N2以下<sup>7</sup>の学習者が旧試験2級新出漢語・漢字を学習する上において、漢字レベルほど大きな問題となっていないことが分かった。つまり、漢語レベルの問題点より漢字レベルの問題点の方が解決すべき重要な課題であることを明らかにした。しかし、日本語では、漢字から漢語になる時点で促音化や連濁などが起こる場合がある。たとえ漢字の正しい発音（音読みを指す）が分かっていても、促音化や連濁が起こるルールが分からなければ、漢語を正しく発音できない場合もある。従って、学習者の読み能力を向上させるには、漢語レベルの問題点について検討する必要もある。そこで、6.1.1漢字レベルの問題点に加え、以下では漢語レベルの問題点を提示し、その解決策について検討する。

第5章の調査結果である学習者の誤答パターンから分かるように、漢語レベルで起こる問題点は促音化、連濁、促音化・連濁（つまり促音化と連濁が同時に起こる場合。例：「一方（イッポウ）」）の3つである。ここでは、まず、2級新出漢語（1871語）の中からそれぞれ促音化、連濁、促音化・連濁が起こっている漢語を抽出する。そして、促音化した漢語、連濁が起こった漢語、促音化・連濁が同時に起こった漢語のそれぞれについて分析する。その分析結果を踏まえた上で、2級新出漢語（1871語）において、どのような場合に促音化、連濁、促音化・連濁が起こるのかについて考察する。

#### 6.1.2.1 促音化について

2級新出漢語（1871語）の中から促音化した漢語のみ（つまり促音化・連濁が同時に起こった漢語を除く）を抽出した。その結果、97語あることが分かった。そして、これら97

<sup>7</sup> 第5章で述べたように、「新試験N4以上N2以下」は旧試験の3級レベルに相当する。

語の1番目の漢字は必ず入声韻尾（ク・ツ・チ・キ）のいずれかで終わっていることが分かった。そこで、1番目の漢字の入声韻尾（ク・ツ・チ・キ）とその直後にくる2番目の漢字の頭子音の関係を整理してみた。その結果を表6-9に示す。網掛け部分は促音化が起こる主なパターンとその語数である。

表6-9 2級新出漢語の促音化した漢語

	パターン	漢語	語数
t+母音+t	ツ+タ行	列島（レットウ）、出張（シュッショウ）など	17
	チ+タ行	日程（ニッティ）、日中（ニッチュウ）	2
t+母音+s	ツ+サ行	傑作（ケッサク）、列車（レッシャ）など	33
t+母音+k	ツ+カ行	括弧（カッコ）、実験（ジッケン）など	20
	チ+カ行	日課（ニッカ）、日光（ニッコウ）、一家（イッカ）	3
k+母音+k	ク+カ行	格好（カッコウ）、食器（ショッキ）など	19
	キ+カ行	積極的（セッキョクテキ）、石鹼（セッケン）	2
特別		坊ちゃん（ボッチャン）	1
合計			97

このように、「ツ+タ行」・「ツ+サ行」・「ツ+カ行」・「ク+カ行」が促音化の主なパターンであることが分かる。このことから、入声韻尾「ツ」で終わる漢字と頭子音が「カ行」「サ行」「タ行」で始まる漢字が組み合わさる漢語と、入声韻尾「ク」で終わる漢字と頭子音が「カ行」で始まる漢字が組み合わさる漢語の場合、促音化が起こることが分かる。それ以外は、「日程（ニッティ）」「日中（ニッチュウ）」「日課（ニッカ）」「日光（ニッコウ）」「一家（イッカ）」「積極的（セッキョクテキ）」「石鹼（セッケン）」「坊ちゃん（ボッチャン）」の8語においても促音化が起こっている。

#### 6.1.2.2 連濁について

連濁について、『漢字百科大事典』（1996）の「連濁」の項（p. 69、菊田紀郎）では、以下のように述べられている。

主として漢語の場合に規則的に連濁が起きることが知られており、①鼻音の後において生じる、②鼻音尾をもつもので上昇調アクセントの場合に生じやすい、という傾向があるようである。（中略）江戸時代に入ると鼻音でない字音のあとで連濁するような例も多く、混乱が生じてくるのである。

このように、鼻音である字音の後とそうでない場合とで連濁が起こっている。では、2級新出漢語（1871語）の中には、連濁が起こった漢語は何語あるのだろうか。そこで、2級新出漢語から連濁が起こった漢語のみ（つまり促音化・連濁が同時に起こった漢語を除く）抽出した。その結果、33語あることが分かった。33語のうち、23語は濁音化で、10語は半濁音化である。それぞれについて分析し、その結果を以下に示す。表6-10は濁音化した23語で、表6-11は半濁音化した10語である。

表6-10 濁音化が起こっている漢語

パターン	漢語	語数
ン+ カ/サ/タ/ハ行	運河（ウンガ）、人間（ニンゲン） 万歳（バンザイ） 患者（カンジヤ）、便所（ベンジョ） 演説（エンゼツ） 満足（マンゾク）、先祖（センゾ） 面倒（メンドウ）、問答（モンドウ） 南北（ナンボク）	11
「ン」で終わる	火山（カザン） 用心（ヨウジン） 座布団（ザブトン）	3
ウ+ カ/サ行	方角（ホウガク） 定規（ジョウギ） 東西（トウザイ） 障子（ショウジ）	4
重複	精々（セイゼイ） 騒々しい（ソウゾウしい） 方々（ホウボウ） 繞々（ゾクゾク）	4
その他	始終（シジュウ）	1
合計		23

表6-10から分かるように、2級新出漢語中に濁音化した漢語（23語）を①「ン+カ/サ/タ/ハ行」タイプ、②「ン」で終わるタイプ、③「ウ+カ/サ行」タイプ、④重複タイプ、⑤その他の5つに分類することができた。この結果から、濁音化は主に鼻音と関係する字音で起こっていることが分かる。しかし、2級新出漢語（1871語）の中で鼻音の撥音（ン）が含まれる漢語を調査した結果、濁音化が起こらないものがほとんどであることが分かった。例えば、「半径（ハンケイ）」「反抗（ハンコウ）」「反省（ハンセイ）」「独身（ドクシン）」「都心（トシン）」「途端（トタン）」などが挙げられる。つまり、全体（鼻音の撥音（ン）が含まれる漢語）からみれば濁音化が起こる漢語は少数を占めるに過ぎないことが分かる。

従って、表6-10で示した濁音化した2級新出漢語23語はそのまま覚えた方が効率がよいと判断される。

次に、半濁音化についてみていく。表6-11から分かるように、半濁音化した10語は全て「ン+ハ行」のタイプである。そして、2級新出漢語（1871語）の中で「ン+ハ行」を調べたが、半濁音化が免れるものは1語もないことが分かった。つまり、「ン」で終わる漢字と「ハ行」で始まる漢字が組み合わさって漢語になった場合、必ず半濁音化が起こると言える。

表6-11 半濁音化が起こっている漢語

パターン	漢語例		語数
ン+ハ行	ン+ハ	審判（シンパン）、電波（デンパ）など	4
	ン+フ	扇風機（センプキ）、分布（ブンブ）	2
	ン+ヘ	短編（タンペン）	1
	ン+ホ	進歩（シンポ）、憲法（ケンポウ）など	3
合計			10

#### 6.1.2.3 促音化・連濁について

2級新出漢語（1871語）の中で、促音化と連濁が同時に起こっている漢語を調査した。その結果、8語あることが分かった。表6-12は、その8語を示したものである。

表6-12 促音化・連濁が起こっている漢語

パターン	漢語例		語数
t+母音+h	ツ+ハ行	一般（に）（イッパン（ニ））、執筆（シッピツ）、出版（シュッパン）、鉄砲（テッポウ）、発表（ハッピョウ）、立派（リッパ）	6
	チ+ハ行	日本（ニッポン）、一方（イッポウ）	2
合計			8

表から分かるように、この8語は全て「t+母音+h」のタイプである。そして、さらに分類すると、7語は「ツ+ハ行」で、1語は「チ+ハ行」であることが分かった。また、2級新出漢語（1871語）の中で「ツ+ハ行」と「チ+ハ行」を調べたが、促音化・連濁が免れるものは1語もないことが分かった。つまり、「ツ」または「チ」で終わる漢字と「ハ行」で始まる漢字が組み合わさって漢語になった場合、必ず促音化と半濁音化が同時に起こると言える。

## 6.2 学習課題の構造化

6.1 では、日本漢字音の学習課題を提示し、各問題点の解決法について検討した。しかし、これらの学習上の問題点の間にはどのような関係があるのだろうか。また、日本語能力が新試験 N4 以上 N2 以下の学習者が旧試験 2 級新出漢語及びそこで使われている漢字の読み方を学習する際、これらの問題点を一つずつ解決していくのと、幾つかの問題を組み合わせて解決していくのではどちらがより高い学習効果が得られるのだろうか。この点を考えるためには、学習課題の論理構造を明らかにする必要がある。そこで、本節では、学習課題の構造化を行う。

### 6.2.1 漢語レベルと漢字レベルについて

ここでは、漢語レベルの問題点と漢字レベルの問題点の関係について述べる。「6.1.2 漢語レベル」の分析で分かるように、促音化の問題を解決するには、まずいつ入声韻尾で終わるかを知る必要がある。つまり、漢語レベルの促音化問題を解決するためには、まず漢字レベルの入声韻尾問題を解決しなければならない。同様に、漢語レベルの連濁問題を解決するには、まず漢字レベルの撥音問題を解決しなければならない。従って、図 6-1 のように、漢語レベルの問題点を解決する前に、漢字レベルの問題点を解決する必要がある。



図 6-1 漢語レベルと漢字レベルの問題点の解決順

### 6.2.2 漢字レベルについて

ここでは、漢字レベルの各問題点について考えてみよう。漢字レベルの問題点には、共通の問題点と個別の問題点がある。そして、共通の問題点には清濁と音訓という 2 つの問題がある。個別の問題点には長短、多音、母音の交代、子音の交代、入声韻尾、撥音という 6 つの問題がある。共通の問題点と個別の問題点を合わせて合計 8 つの問題があることになる。この 8 つの問題のうち、長短・母音の交代・入声韻尾・撥音の 4 つは、現代中国語音の韻母と日本漢字音の主母音・特殊拍・入声韻尾の対応関係と深く関係している。そして、この 4 つの関係について考えてみると、以下のことことが分かる。長音の場合、二字目のカナは「イ」か「ウ」は一字目のカナによる。一字目が「エ段」であれば、二字目は「イ」

になる。一字目が「ウ段」や「オ段」であれば、二字目は「ウ」になる。このことから、母音の交代問題（つまり日本漢字音の主母音は何になるのか）を解決してから、長短問題を解決した方がよいと考えられる。また、第5章の調査結果の中で「自然（しぜい）」、「明確（めんたく）」、「中心（ちゅうせい）」などの誤答がみられた。これらの誤答から、学習者の中には、長音か撥音かで判断できない人が多くいることが分かる。そこで、長短と撥音の問題点は同時に解決した方がよいと考えられる。入声韻尾問題については、「ク・ツ・チ・キ」のいずれかになるか、ある程度は前の母音によるところがある。例えば、常用漢字表（2010、内閣告示）の中の二文字音読みでみた場合、「イキ」「イク」「イチ」「イツ」はみられるが、「ウツ」以外に「ウチ」「ウク」「ウキ」はみられなかった。従って、入声韻尾も母音の交代の後がよいと考えられる。また、第5章から分かるように、確信度の高い学習者の誤答には長短によるものが最も多いかった。つまり、長短問題は日本漢字音習得の最終段階においても課題として残っている。このことから、長短を先に解決した方が適切だと考えられる。以上をまとめると、長短・母音の交代・入声韻尾・撥音の4問題点は図6-2のような順番で解決した方が効率がよいと考えられる。

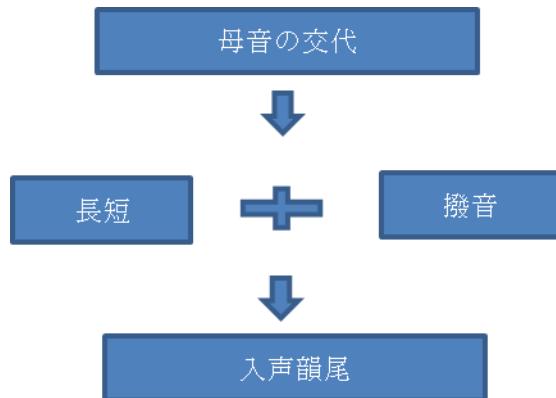


図6-2 長短・母音の交代・入声韻尾・撥音問題点の解決順

そして、残りの4つの問題のうち、清濁と子音の交代は、現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音の対応関係と関係している。この2つの問題には、以下のような関係があると思われる。子音の交代を解決することは清濁問題を解決する前提となる。つまり、子音の交代を解決し、現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音の対応関係の全体像を知った上で、少数派である濁音にはいつなるのかを把握した方が効率がよいと考えられる。以上をまとめると、以下の図6-3のような順番で解決した方が効率がよいと考えられる。



図 6-3 子音の交代と清濁問題点の解決順

最後に、音訓と多音の問題が残っている。この二つの問題の関係、そしてこの二つの問題と以上の6つの問題（母音の交代や子音の交代など）の関係はどのようにになっているのだろうか。多音と以上の6つの問題は全て音読みが前提であるのに対し、音訓問題は音読みだけでなく訓読みも関わっている。このことから、音訓問題は多音などの7問題を解決する前に解決すべきだと考える。そして、音読み関連の7問題のうち、多音以外の以上の6つの問題は全て音読みが一種類の場合であるため、多音問題はその前に解決すべきであろう。また、母音の交代や長短などの6問題の解決方法は全て漢音・呉音字に限定しているため、その前に慣用音字について覚える必要があると考えられる。慣用音字については、第4章の「4.4 哥音・漢音・唐音・慣用音を区別する場合」で述べたように、2級新出漢字には72字の慣用音字がある。この72字の学習方法としては、これらの漢字が使われる漢語の中で覚えるのがよいと考えられる。なぜならば、慣用音で読まれる漢語は、日本語の日常語としての使用範囲が極めて狭いものが多数を占めているからである。慣用音も含めた9問題の解決のための順番を図式化すると、以下の図6-4のようになる。



図 6-4 漢字レベルの諸問題点の解決順

### 6.2.3 まとめ

6.2.1と6.2.2で検討した結果をまとめると、以下のようになる。第一に、漢語レベルの問題を解決する前に、漢字レベルの問題を解決する。第二に、漢字レベルの問題点のうち、以下の順番がよいと考えられる。まず、音読みか訓読みかが判断できるように、音訓の問題を解決する。次に、音読み2つ以上を持つ漢字について、音読みの使い分けができるように、多音の問題を解決する。その後、日本漢字音の少数派となっている慣用音の問題を解決する。最後に、日本漢字音の中心である漢音・呉音が関わっている6つの問題（母音の交代、長短、撥音、入声韻尾、子音の交代、清濁）を解決する。

### 6.3 本章のまとめ

第6章では、第5章で明らかにした漢字レベルの問題点に、漢語レベルの問題点を加えて、それぞれの解決法について検討した。その結果、これらの問題点のうち、第2章から第4章の分析結果を活用することで解決可能なものがほとんどであることが分かった。それ以外の問題点は、第6章で改めて分析と考察を行った。これらの分析考察を踏まえた上で、学習課題の論理構造を明らかにした。その結果をまとめて図6-5に示す。

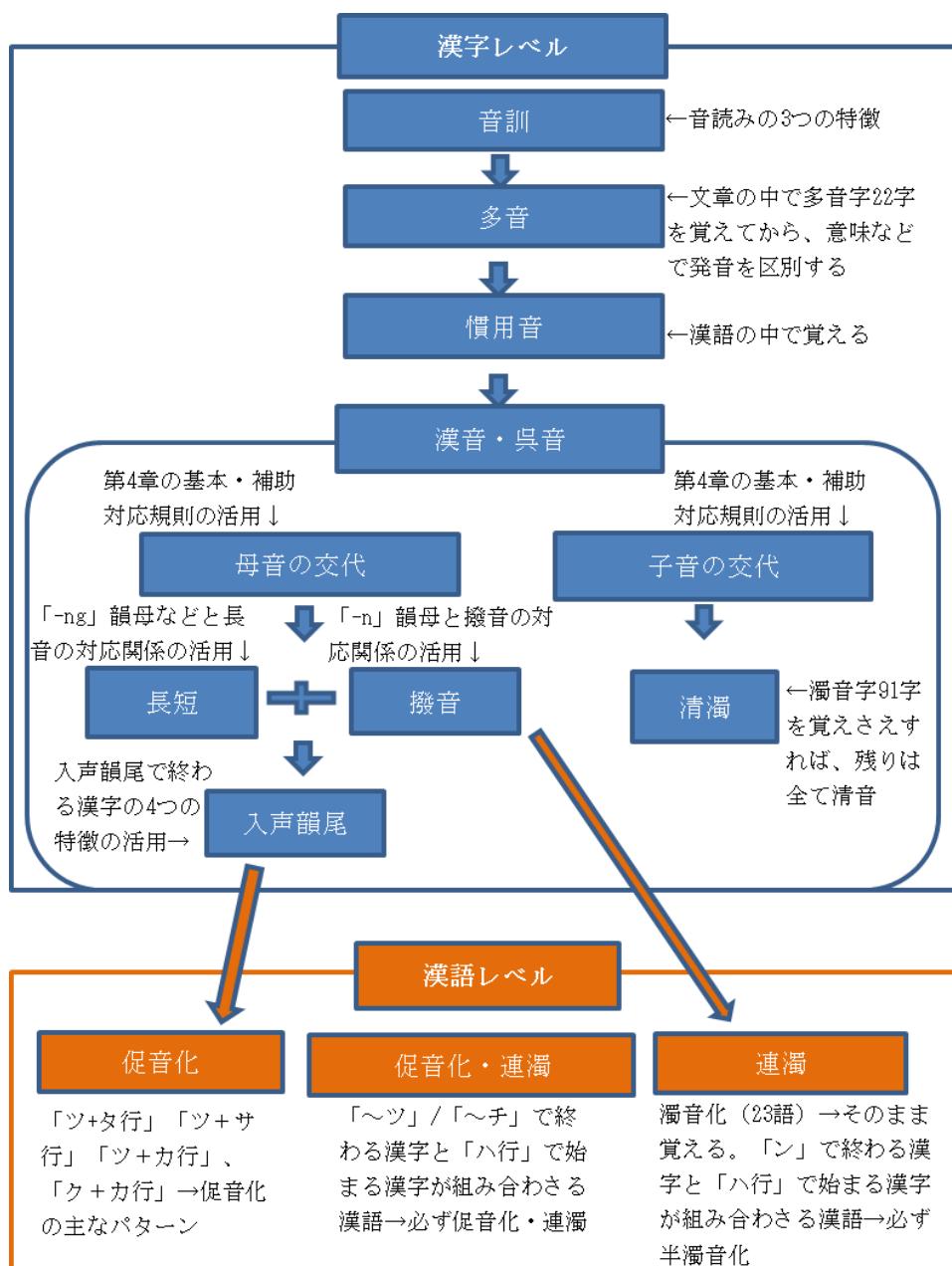


図6-5 学習課題の構造化

## 第7章 WEB教材—試作品

第6章では、第5章で明らかにした問題点の解決法を提案した。そして、それを踏まえた上で、学習課題の構造化を行った。本章では、第6章で示した学習課題の論理構造に基づき、WEB教材を試作し、その効果を見定め、教材改良に向けた検討を行う。

### 7.1 WEB教材の作成

第6章で示した学習課題の論理構造に基づき、「WebOCMnext（ウェブ・オーシーエム・ネクスト）」の「ダイナミック教材作成システム」を利用し、WEB教材を試作する。「WebOCMnext」は、「大阪大学サイバーメディアセンター・マルチメディア言語教育研究部門が、七大学(とりわけ北大、東北大、九大)関連委員会の支援を受けつつ、長年開発を進めてきた次世代型ネットタイプ学習環境」<sup>1</sup>である。以下は、WebOCMnext の公式ホームページのスクリーンショットである。



図7-1 WebOCMnext の公式ホームページ

<sup>1</sup> 大阪大学アウトリーチWEB「開講時間にとらわれない次世代型学習環境：WebOCMnext一般向け初公開」、[http://outreach.21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jp/images\\_data/i3a73m/release\\_20141030](http://outreach.21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jp/images_data/i3a73m/release_20141030)（閲覧日：2015年9月27日）

そして、WebOCMnext 中の主な機能について、『大阪大学サイバーメディアセンター年報』(2015、p. 17) では、以下のように述べている。

WebOCMnext では、教師の負担を極限にまで減らしながら、学習者個々人の学習状況、学習成果等が自動でリアルタイムに確認できる「ダイナミック教材」が作成できる。その他の主な機能として、コミュニケーションツールの電子掲示板（新世界）、マルチメディア辞書、テスト、出席管理、成績管理、ファイル管理がある。

図 7-2 は、WebOCMnext にログインした後の画面である。左側にある「e ラーニングメニュー管理」や「新世界」などは「学習支援メニュー」である。WebOCMnext の中核となる「ダイナミック教材作成システム」（図 7-2 の中の太枠）のメニューは、この中にある。図 7-2 の右側は、「ダイナミック教材作成システム」に入った直後の画面である。この「ダイナミック教材作成システム」を利用して、WEB 教材を試作する。



図 7-2 WebOCMnext と「ダイナミック教材作成システム」

### 7.1.1 教材の設計

#### (1) 本教材の目的と学習対象者

本教材の開発は、現代中国語音の知識を活用して日本語の音読み<sup>2</sup>の学習を改善する妥当で有効なシステムの開発への第一歩である。本教材の学習を通して、旧試験 3 級レベルの

<sup>2</sup> 本研究において、「音読み」は「日本漢字音」と同じ意味である。第7章では、日本語学習者のことを考慮し、全て「音読み」ということばを使用している。

学習者が、母語である中国語の知識を活用して旧試験2級新出漢語及びそこで使われている漢字の音読みを効率よく学習できるようにすることを目指している。本教材は、以下の2つの条件を同時に満たす学習者を想定して作成している。

- ① 中国語話者<sup>3</sup>であること。
- ② 新試験N2合格を目指し、これから勉強を始める者、又は今勉強している者。

## (2) 本教材の教育内容

本教材は第1課～第10課までで構成されている。中国語話者が日本語の音読みを習得していく上で、間違いやすい10の課題を各課で取りあげた。例えば、音読みか訓読みか、長母音か短母音か、長母音か撥音か、清音か濁音か、いつ促音化が起こるかなどである。詳細は以下の通りである。第2課の「多音字」とは音読みを2つ以上持つ漢字を指す。

表7-1 本教材の教育内容

	学習内容
第1課	音読みと訓読み
第2課	多音字
第3課	中国語の声母と日本語の頭子音
第4課	清音と濁音
第5課	中国語の韻母と日本語の主母音
第6課	長母音と短母音
第7課	長母音と撥音
第8課	入声韻尾
第9課	促音化
第10課	連濁

第1課～第8課では、「漢語」（音読みで読む語彙のことを意味する）の構成要素である「漢字」個々の発音について学習する。第9課～第10課では、「漢字」個々の発音を把握した上で、「漢語」になる際の留意点などについて学習する。

## (3) 各課の構成

各課は、基本的に「本日の学習」と「本日の暗記」から構成されている。場合によっては「本日の暗記」の部分が「豆知識」になることもある。各課の学習としては「本日の学

<sup>3</sup> 第1章で述べたように、本研究でいう「中国語話者」とは、中国語を母語とする日本語学習者を指す。

習」が中心となる。「本日の学習」は、解説＆練習というスタイルを取っている。解説では、課題を解決するために必要な知識（中国語の知識と日本語の知識）を学習者に伝える。練習では、練習問題を通して学習者にどのように学習した知識を利用して各課の課題を解決していくのかを理解させる。

#### (4) 学習形態と環境

本教材では、基本的に、学習者は自律学習をする。インターネット接続とパソコンのある環境であれば、都合のよい時間と場所で学習ができる。WebOCMnext の使い方については、筆者が事前に作成したビデオなどを見ながら操作が可能である。一方、今後の教材改良のために、今回は、学習者が気軽に質問ができるように、E メールや電子掲示板（新世界）を活用する。これらの普段の連絡を通して学習者との信頼関係を築き、教材改良に向けて多くの学習者の声を収集していく。

##### 7.1.2 各課の学習手順

以下、第1課を例示しながら各課の学習手順を説明する。以下の図は全て日本語版であるが、調査ではその中国語版を用いた。

#### (1) 本日の学習

図7-3のように、本WEB教材の「本日の学習」は、全て「解説」と「練習」からなっている。左側は解説で、右側が練習問題である。解説内容を学習し終えるまで、練習問題は表示されないように作成している。

解説部分は、本課の目的、基礎知識、基本ルール（場合によってはこれに「例外」が加わる）、理解度チェックの4つの部分から構成されている。この中で、課題解決に欠かせないもの、つまり学習者に最も覚えてほしい事項は「基本ルール」である。このことは、「Home」で学習者に伝えるようになっている。

図 7-3 第1課の本日の学習—その1

解説の内容を学習し終えたら、最後に学習者自身による理解度チェックがある。理解度に応じて、筆者のアドバイスまたは練習問題のいずれかが表示される。

理解度の5段階のうち1（お手上げ）と2（何とか理解した）を選択した学習者には、再度解説を学習するようアドバイスが表示される（図7-4）。

**4. 理解度チェック**

本日の内容は理解できましたか？学習した知識は身に付きましたか？自分の理解度と習熟度をチェックしてください。いずれかの□に✓を入れてください。

理解度チェック  X  ○  ○  ○  ○  ○

**学習上のアドバイス**

「お手上げ」を選択した人は、本日の学習内容をもう一度読んでください。質問があれば、その箇所にある ? の ■ をクリックして、質問してください。

大体理解できたと思ったら、もう一度理解度チェックをしてください。右側に練習問題が表示されます。

図7-4 理解度チェックについて

理解度が5段階のうち3-5、つまり「だいたい理解した」と「殆ど理解した」と「完璧！」を選択した学習者には、解説の右側に練習問題が表示されるように作成している（図7-5）。

**音読みについて**

例：「私(し)」、「我(が)」、「破(は)」⇒ 音読み

**【特徴2】漢字1つ仮名2つの場合**  
（1）**拗音が付属しているものは音読みです。**

例：「者(しゃ)」、「茶(ちゃ)」、「著(ちょ)」⇒ 音読み  
※拗音とは、日本語の音を仮名表記したときに、「や、ゅ、ょ」が付いて、仮名2つで一緒にになって表される音。例：きゅ、きょ、きょ。

（2）**拗音の場合を除いて、2つ目の仮名が「イ・ウ・キ・チ・ツ・ン」である場合は、ほとんど音読みです。それ以外の場合は訓読みです。**

例：「拍(はく)」、「英(えい)」、「音(おん)」⇒ 音読み  
「右(みぎ)」、「渦(うず)」、「雲(くも)」⇒ 訓読み

**【特徴3】漢字1つ仮名3つの場合**  
**拗音が付属しているものは音読みです。それ以外の場合は訓読みです。**

例：「承(しょう)」、「局(きょく)」、「牛(ぎゅう)」⇒ 音読み  
「私(わたし)」、「置(たたみ)」、「暖かい(あたたかい)」⇒ 訓読み

**【特徴4】漢字1つ仮名4つ以上の場合**  
**全て訓読みです。**

例：「紫(むらさき)」、「唇(くちびる)」、「承る(うけたまわる)」⇒ 訓読み

**4. 理解度チェック**

本日の内容は理解できましたか？学習した知識は身に付きましたか？自分の理解度と習熟度をチェックしてください。いずれかの□に✓を入れてください。

理解度チェック  X  ○  ○  ○  ○

**練習問題**

本日学習した知識を利用して以下の問題を解いてください。解き終わったら **Check** を押してください。そうすると、得点(ページの左上)と次の学習へ進むボタン(ページの下部)が表示されます。

(1) 「布(ぬの)」は - - - です。 - - - から判断しました。

(2) 「歌(か)」は - - - です。 - - - から判断しました。

(3) 「駅(えき)」は - - - です。 - - - から判断しました。

(4) 「鉄(てつ)」は - - - です。 - - - から判断しました。

(5) 「兄(きょう)」は - - - です。 - - - から判断しました。

(6) 「材(ざい)」は - - - です。 - - - から判断しました。

(7) 「哀れむ(あわれむ)」は - - - です。 - - - から判断しました。

(8) 「郡(ぐん)」は - - - です。 - - - から判断しました。

(9) 「出(しゅつ)」は - - - です。 - - - から判断しました。

(10) 「信(い)」は - - - です。 - - - から判断しました。

**Check 306**

図7-5 第1課の本日の学習—その2

このように、左側の解説を見ながら練習問題を解くこともできるが、学習内容の定着を促進するために、学習者には、解説を見ずに練習問題を解くように勧めている。図7-6の手順を行うことで、解説の「基本ルール」を隠すことができる。まず、「基本ルール」前の?アイコンを右クリックすると、!とA+の2つのアイコンが表示される。次に、A+アイコンを左クリックすれば、「基本ルール」部分が隠れるようになる。



学習者には、この隠された状態で、練習問題を解くように指示する。解き終わったら、「Check」ボタンを押す。そうすると、図7-7のように、自動採点された得点がページの左上に表示される。そして、次のページへ進むボタン「next」が「Check」の下に表示される。この「next」ボタンを押すと、次の学習へ進むことができる。

本日の学習 豆知識  
!! 85.00 / 100.00

### 音読みについて

**1. 本課の目標**

音読みと訓読みの特徴を覚えて、ある漢字の発音、またはある漢字語彙の発音を見た時に、その発音が音読みか訓読みかを判断できるようになることです。

**2. 基礎知識**

音読み・訓読みについて

日本語の漢字には、音読みと訓読み2種類の読み方があります。

音読み（オンヨミ）は中国から伝わった発音を基にしてできた読みです。訓読み（クンヨミ）は日本で使われていた話を当てた読みです。

	音読み	訓読み
例 :	人 ジン、ニン ひと	
男	ダン	おとこ
女	ジョ	おんな

**3. 理解度チェック**

本日の内容は理解できましたか？学習した知識は身に付きましたか？自分の理解度と習熟度をチェックしてください。いずれかの□に✓を入れてください。

理解度チェック  ✗  ⚡  ✓  ⚡  ✗

**練習問題**

本日学習した知識を利用して以下の問題を解いてください。解き終わったら **Check** を押してください。そうすると、得点(ページの左上)と次の学習へ進むボタン(ページの下部)が表示されます。

- (1) 「布(ぬの)」は訓読み □(5.00)です。  
特徴2の(2) □(5.00)から判断しました。
- (2) 「歌(か)」は音読み □(5.00)です。  
特徴1 □(5.00)から判断しました。
- (3) 「駅(えき)」は音読み □(5.00)です。  
特徴2の(2) □(5.00)から判断しました。
- (4) 「鉄(てつ)」は音読み □(5.00)です。  
特徴2の(2) □(5.00)から判断しました。
- (5) 「兄(きょう)」は音読み □(5.00)です。  
特徴3 □(5.00)から判断しました。
- (6) 「材(ざい)」は音読み □(5.00)です。  
特徴2の(2) □(5.00)から判断しました。
- (7) 「哀れむ(あわれむ)」は訓読み □(5.00)です。  
特徴2の(2) □(0.00)から判断しました。
- (8) 「郡(ぐん)」は音読み □(5.00)です。  
特徴2の(2) □(5.00)から判断しました。
- (9) 「出(しゅつ)」は音読み □(5.00)です。  
特徴2の(2) □(0.00)から判断しました。
- (10) 「偉(い)」は訓読み □(5.00)です。  
特徴1 □(5.00)から判断しました。

**Check 306**

back finish next

図 7-7 自動採点機能

## (2) 本日の暗記

「本日の暗記」は、「慣用音字が使われる漢語 10 個」と「練習問題」からなる。つまり、左側では、漢語の中で慣用音字とその発音を覚えてから右側の練習問題を解くというスタイルになっている。

音読み語	音読み語
1 親(ジュウ)	6 罰する(ハツ) *ハツ
2 銅(ドウ)	7 蒸気(ジョウキ)
3 税(ゼイ)	8 宗教(シュウキョウ)
4 蜜(ミツ)	9 濃度(クード)
5 墓(ゴ)	10 概論(ガイロン)

\*黄色部分の漢字と音読みを覚えてください。

	音読み語	読み
(1)	免税	メン
(2)	蒸発	ハツ

図 7-8 「本日の学習」の例

### (3) 豆知識

「本日の暗記」の代わりに「豆知識」が入る場合がある。「豆知識」では、学習者に漢字や漢語に関わる知識を紹介している。「豆知識」には、練習問題のあるもの（図 7-9）となるもの（図 7-10）がある。

日本語の語彙の分類			
・和語(わご)：日本で生まれた語です。書くときは、漢字(訓読み)、ひらがなを使います。例：花(はな)、犬(いぬ)など			
・漢語(カンゴ)：古い時代に中国から日本へ伝わった語です。書くときは、漢字(音読み)を使います。例：先週(センシュー)、学生(ガクセイ)など。			
・外来語(かいらいご)：主に英語やフランス語、ドイツ語などのことばから日本語に取り入れられた語です。書くときは、カタカナ、ローマ字を使います。例：スーパー、テレビなど。			
・混種語(こんしゅご)：1つの単語の中に、和語、漢語、外来語成分が交じっている語です。例：生ビール(なまビール※和+外)、気持ち(きもち※漢+和)など。			

	語	読み方	語の種類
(1)	学校	がっこう	-- ▼
(2)	テキスト	テキスト	-- ▼
(3)	★本棚	ほんだな	-- ▼
(4)	パソコン	パソコン	-- ▼
(5)	犬	いぬ	-- ▼
(6)	★荷物	にもつ	-- ▼

図 7-9 練習問題がある「豆知識」の例

**1. 吳音・漢音・唐音・慣用音とは？**

伝わってきた時代と場所の違いによって、音読みはさらに「**吳音**」「**漢音**」「**唐音**」に分ることができます。また、それ以外に「**慣用音**」という音読みもあります。

**吳音・漢音・唐音・慣用音について**

- 漢音(カンオン)**：7～9世紀のころ「陳」や「唐」からの留学生や遣唐使などが持ってきたものです。
- 吳音(ゴン)**：漢音が伝来する以前に日本で行われていた漢字の発音をまとめたものです。
- 唐音(トウイン)**：宋代から清代中期にかけて日本に渡来したものです。
- 慣用音(カニヨウオノ)**：吳音・漢音などの体系から外れており、慣用的に使われてきたものです。

**2. 例**

「行」「経」「瓶」「納」「女」「和」「子」7字の音読みは、以下の通りです。「—」は、読みがないことを意味します。

	吳音	漢音	唐音	慣用音
<b>行</b>	ギョウ	コウ	アン	—
	行列 (ギョウル)	銀行 (キョウク)	行火 (アンカ)	
<b>経</b>	キョウ	ケイ	—	—
	経文 (キョウモン)	経済 (キヨザイ)		

**1. 2級新出音読み語の使用漢字における割合は？**

音読みの中には吳音・漢音・唐音・慣用音というものがあることを知ったうえで、「**2級新出音読み語の使用漢字**」の**音読みで見た場合**、この4種類の音がそれぞれ占める割合を見てみましょう。

\*多音字について(1)は、詳しく知りたい人は第2課の「本日の学習」の「基礎知識」の部分を読んでください。

**占める割合について**

多音字(22字)を除いた2級新出音読み語の使用漢字(759字)で見た場合、吳音・漢音・唐音・慣用音それぞれ占める割合は、以下の通りです。

	字数	全体に占める割合
吳音	133	17.5%
漢音	554	73.0%
唐音	0	0.0%
慣用音	72	9.5%
合計	759	100.0%

図 7-10 練習問題がない「豆知識」の例

## 7.2 実施

試作品としてのWEB教材の学習効果をみるために、2015年9月中旬～10月中旬まで、日本語能力が新試験 N4～N2<sup>4</sup>の中国語話者を中心に、調査を実施した。調査の詳細は以下の通りである。

### 7.2.1 調査内容

調査は、事前テスト（15分程度）を受験した後、各自でWEB教材（5時間程度）を学習し、最後に修了テスト（15分程度）を受験し、アンケート（15分程度）に答えてもらうという形で行った。このうち、事前テストと修了テストは、どちらも旧試験2級新出漢語か

<sup>4</sup> N4～N2 は新試験 N4 以上 N2 以下を意味する。旧試験の3級レベルに相当する。

ら無作為に抽出した50語について、その読み方と読み方に対する学習者の確信度を調査するものである。いずれのテストもWebOCMnext上で実施した。事前テストと修了テストの一部は、それぞれ図7-11と図7-12に示している。図7-11と図7-12は日本語版であるが、調査ではその中国語版を用いた。

	音読み語	読み方	確信度
[1]	防止	緑色	-- ▼
[2]	掲示	緑色	-- ▼
[3]	時速	緑色	-- ▼
[4]	度	緑色	-- ▼
[5]	図表	緑色	-- ▼
[6]	濃度	緑色	-- ▼
[7]	～社	緑色	-- ▼
[8]	体育	緑色	-- ▼
[9]	直流	緑色	-- ▼
[10]	詩人	緑色	-- ▼
[11]	苦情	緑色	-- ▼
[12]	決心	緑色	-- ▼
[13]	紅葉	緑色	-- ▼
[14]	地名	緑色	-- ▼
[15]	高～	緑色	-- ▼

図7-11 事前テスト（日本語版）

上述のように、事前テスト（図7-11）には50語の調査項目がある。この50語は旧試験2級新出漢語から無作為に抽出したものである。学習者には、50語の調査項目について「読み方」と「確信度」を記入するように指示した。解答時間は30分である。

	音読み語	読み方	確信度
[1]	始終	<div style="width: 100%;"> </div>	-- ▼
[2]	溶岩	<div style="width: 100%;"> </div>	-- ▼
[3]	訳す・する	<div style="width: 100%;">す・する</div>	-- ▼
[4]	我慢	<div style="width: 100%;"> </div>	-- ▼
[5]	主義	<div style="width: 100%;"> </div>	-- ▼
[6]	回数券	<div style="width: 100%;"> </div>	-- ▼
[7]	古典	<div style="width: 100%;"> </div>	-- ▼
[8]	負担	<div style="width: 100%;"> </div>	-- ▼
[9]	思想	<div style="width: 100%;"> </div>	-- ▼
[10]	作法	<div style="width: 100%;"> </div>	-- ▼
[11]	格好	<div style="width: 100%;"> </div>	-- ▼
[12]	大層	<div style="width: 100%;"> </div>	-- ▼
[13]	数字	<div style="width: 100%;"> </div>	-- ▼
[14]	予防	<div style="width: 100%;"> </div>	-- ▼
[15]	観光	<div style="width: 100%;"> </div>	-- ▼

図7-12 修了テスト（日本語版）

修了テスト（図7-12）は、事前テスト（図7-11）と抽出方法、学習者への指示、解答時間が全て同じであるが、調査項目のみ異なっている。厳密に言うと、「天然」という漢語以外、49語は異なっている。

最後のアンケートは、WEB教材の改良に向けて、学習者の感想や意見を聞くためのものである。これは、WEBアンケートツールの「SurveyMonkey」を用いて作成した。図7-13は日本語版であるが、調査ではその中国語版を用いた。

SurveyMonkey Inc. [us] <https://jp.surveymonkey.com/create/survey/preview?sm=noBzcIVBMTlQ>

音読み学習のWEB教材 アンケート（日本語最新版）

皆様へ

このたびは、音読み学習用のWEB教材を学習していただき、誠にありがとうございました。  
今度の参考とさせていただくため、以下のアンケートにご協力ください。  
今回の調査結果およびアンケート結果は、研究以外の目的には使用しませんので、ご安心ください。  
ご協力をお願いいたします。

1. 今回のWEB教材学習活動について、全体的な印象はいかがでしたか。

大変満足	満足	普通	不満足	大変不満足
<input type="radio"/>				

〔最も満足だった点〕または〔最も不満足だった点〕を教えてください。)

2. 単語の丸暗記と比べて、中国語の知識を利用して日本語の音読みを学習するという勉強法はよいと思いますか？

大変よい	よい	普通	よくない	大変よくない
<input type="radio"/>				

〔そのように思われる理由をお書き下さい。〕

3. 教材の内容（全10課からなる学習課題）はいかがでした。

大変満足	満足	普通	不満足	大変不満足
<input type="radio"/>				

〔内容的に〔最も満足だった課〕または〔最も不満足だった課〕について教えてください。〕

4. 教材中の説明は分かりやすかったですか。

大変分かりやすかった	分かりやすかった	普通	分かりにくかった	大変分かりにくかった
<input type="radio"/>				

〔最も分かりやすかった課〕と〔最も分かりにくかった課〕について教えてください。〕

図7-13 アンケート調査票（日本語版）

## 7.2.2 調査協力者

本WEB教材は、旧試験3級レベルに相当する中国語話者を想定して作ったものであるが、実際には、新試験N2<sup>5</sup>合格者（3名）とN1<sup>6</sup>合格者（1名）もWEB教材の使用を希望したので、教材の改良や効果を見るためにも、日本語能力がさまざまな学習者から意見を聞くことは意義があると考え、それらの学習者にも調査協力を依頼した。その結果、今回の調査

<sup>5</sup> 新試験のN2は、旧試験の2級に相当する。

<sup>6</sup> 新試験のN1は、旧試験の1級に相当する。

協力者は、新試験 N4～N2 である学習者を中心とする中国語話者 11 名となった。11名の調査協力者の詳細は、表 7-2 の通りである。この表は、日本語能力が低い順に並べられている。日本語能力については、協力者自身による判断もしくは担当教員による判断に基づいている。

表 7-2 調査協力者の情報

	日本語能力	出身	所属（学校所在地）
学習者1	N5～N4	中国	大学院法学研究科・修士課程1年(日本)
学習者2	N4～N3	台湾	大学院法学研究科・修士課程1年(日本)
学習者3	N3～N2	中国	日本語学校(日本)
学習者4	N3～N2	中国	大学院工学研究科・博士後期課程1年(日本)
学習者5	N3～N2	中国	大学院工学研究科・博士後期課程1年(日本)
学習者6	N3～N2	マレーシア (中国系)	大学院薬学研究科(日本)
学習者7	N3～N2	マレーシア (中国系)	大学院物理研究科・修士課程1年(日本)
学習者8	N2～N1 (2015年N2合格)	中国	文学院中国語専攻・学部3年生 (中国)
学習者9	N2～N1 (2015年N2合格)	中国	日本語学校(日本)
学習者10	N2～N1 (2015年N2合格)	中国	無所属(専業主婦、家族滞在ビザで日本滞在中)
学習者11	N1 (2011年N1合格)	中国	大学院言語文化研究科・修士課程2年(日本)

なお、調査を実施する前に、調査協力者全員に本調査が研究のみに使用すること、調査協力者の人権やプライバシーに配慮することなどを説明し、承諾を得た上で調査を開始した。

調査期間中、調査協力者が気軽に筆者に質問（教材やシステムに関する質問、日本語学習上の問題点など）できるように、WebOCMnext の中にある電子掲示板「新世界」や E メールなどを利用した。協力者の学習をサポートしていくうちに、筆者と調査協力者の間に信頼関係が築かれた。

### 7.3 WEB教材の学習記録

学習者 7 の学習記録を例に説明する。図 7-14 は、WebOCMnext の「教材集計管理」にある学習者 7 の学習記録である。この記録から、各課（「本日の学習」と「本日の暗記」／「豆知識」）を学習するのにかかった時間（図 7-14 中の 1）、学習者による「本日の学習」に関

する理解度の自己評価（図7-14中の2）、「本日の学習」または「本日の暗記」にある練習問題の初回得点（図7-14中の3）が分かる。以下、この3点について、学習記録のデータに基づき、分析を行う。

Sort	XfID	Group	教材名	Reading速度 (WPM)	所要時間 (秒)	理解度 (1~5)	単習時間 / 分 (ページ滞在時間)	初回得点	学習終了者数	不適切学習 (確認解説 (%))	ピント (確認解説 (%))	最終更新日時
0	1703		音読み学習教材(中国語版)	--	--	2.9	14.1 min	74.9	11 / 25	--	--	15/09/15 23:31
		L	Home	--	--	0	0.2 min	--	15 / 25	--	--	15/09/15 23:31
		L	アイコンの説明	--	--	0	0.6 min	--	14 / 25	--	--	15/09/15 23:31
		L	第1課 音読みと訓読み - 本日の学習	--	--	3.0	11.3 min	90.0	15 / 25	--	--	15/09/15 23:31
		L	第1課 音読みと訓読み - 豆知識	--	--	0	0.3 min	--	15 / 25	--	--	15/09/15 23:31
		L	第2課 多音字 - 本日の学習	--	--	4.0	2.1 min	100.0	15 / 25	--	--	15/09/15 23:31
		L	第2課 多音字 - 本日の暗記	--	--	0	0.9 min	50.0	13 / 25	--	--	15/09/15 23:31
		L	第3課 中国語の声母と日本語の頭子音 - 本日の学習	--	--	1.0	24.4 min	38.8	13 / 25	--	--	15/09/15 23:31
		L	第3課 中国語の声母と日本語の頭子音 - 本日の暗記	--	--	0	1.2 min	66.7	13 / 25	--	--	15/09/15 23:31
		L	第4課 清音と濁音 - 本日の学習	--	--	3.0	4.9 min	75.0	13 / 25	--	--	15/09/15 23:31
		L	第4課 清音と濁音 - 本日の暗記	--	--	0	0.7 min	100.0	12 / 25	--	--	15/09/15 23:31
		L	第5課 中国語の韻母と日本語の主母音 - 本日の学習	--	--	3.0	31.1 min	71.5	11 / 25	--	--	15/09/15 23:31
		L	第5課 中国語の韻母と日本語の主母音 - 本日の暗記	--	--	0	0.9 min	50.0	11 / 25	--	--	15/09/15 23:31
		L	第6課 長母音と短母音 - 本日の学習	--	--	4.0	7.9 min	79.7	11 / 25	--	--	15/09/15 23:31
		L	第6課 長母音と短母音 - 本日の暗記	--	--	0	0.5 min	25.0	11 / 25	--	--	15/09/15 23:31
		L	第7課 擬音と長母音 - 本日の学習	--	--	3.0	9.5 min	90.9	11 / 25	--	--	15/09/15 23:31
		L	第7課 擬音と長母音 - 本日の暗記	--	--	0	0.8 min	100.0	11 / 25	--	--	15/09/15 23:31
		L	第8課 入声韻尾 - 本日の学習	--	--	2.0	202.5 min	92.8	11 / 25	--	--	15/09/15 23:31
		L	第8課 入声韻尾 - 本日の暗記	--	--	0	0.8 min	80.0	11 / 25	--	--	15/09/15 23:31
		L	第9課 促音化 - 本日の学習	--	--	3.0	12.5 min	100.1	11 / 25	--	--	15/09/15 23:31
		L	第9課 促音化 - 豆知識	--	--	0	1.6 min	50.0	11 / 25	--	--	15/09/15 23:31
		L	第10課 連濁 - 本日の学習	--	--	3.0	9.6 min	87.5	12 / 25	--	--	15/09/15 23:31
		L	第10課 連濁 - 豆知識	--	--	0	0.2 min	--	11 / 25	--	--	15/09/15 23:31

図7-14 学習者7の学習記録

### 7.3.1 各課の学習時間

図7-14中の1「学習時間/分 ページ滞在時間」を基に、学習者の各課の学習時間（「本日の学習」と「本日の暗記」の合計）をまとめた。その結果を表7-3に示す（単位：分）。表7-3中の「--」は、インターネットへの接続が不安定であったことが原因でデータが記録されなかつたものである。網掛け部分は、学習時間が異常に長いケースである。この原因として、ログインしたままの状態で他のことを行っていたことなどが考えられる。Eメール・電子掲示板などをを利用して、そのように長い時間勉強していなかったことは当該学習者に直接確認している。また、「×」は、学習者がその課を学習していないことを意味する。以上の理由から、「--」部分、網掛け部分、「×」部分は、合計と平均の計算に入れなかつた。なお、表中の各課のタイトル<sup>7</sup>は簡略化して示している。以下同様である。

<sup>7</sup> 各課のタイトルは以下の通りである。第1課音読みと訓読み、第2課多音字、第3課中国語の声母と日本語の頭子音、第4課清音と濁音、第5課中国語の韻母と日本語の主母音、第6課長母音と短母音、第7課長母音と擬音、第8課入声韻尾、第9課促音化、第10課連濁である。

表7-3 学習時間

	Home など	第1課 音訓	第2課 多音	第3課 子音	第4課 清濁	第5課 母音	第6課 長短	第7課 撥音	第8課 入声	第9課 促音	第10課 連濁	合計	平均
学習者1	8.9	6.1	30.0	47.7	11.3	18.0	9.7	3.5	4.7	2.2	0.6	148.2	13.5
学習者2	4.0	16.1	44.1	34.1	19.7	92.2	26.8	10.8	8.3	11.9	10.5	290.2	26.4
学習者3	0.7	8.5	242.0	67.6	20.8	370.7	74.4	17.4	14.5	11.9	7.9	223.7	24.9
学習者4	×	13.1	15.1	20.2	12.4	--	1.1	--	18.9	7.0	2.0	89.8	11.2
学習者5	3.0	35.6	45.2	150.8	16.9	38.6	11.9	6.2	16.7	6.3	5.2	185.6	18.6
学習者6	0.8	9.4	--	×	--	26.2	10.6	4.2	8.9	16.1	6.5	82.7	10.3
学習者7	0.8	11.6	3.0	25.6	5.6	32.0	8.4	10.3	203.3	14.1	10.0	135.5	13.6
学習者8	7.8	16.9	2.7	35.6	8.8	73.1	27.8	4.5	21.4	13.0	7.1	229.1	20.8
学習者9	0.9	37.5	8.0	72.1	53.9	50.6	81.1	33.9	84.5	30.1	44.0	516.6	47.0
学習者10	1.5	11.2	65.1	29.4	21.9	29.3	950.3	9.1	12.4	19.5	13.2	255.8	25.6
学習者11	0.2	2.6	1.7	9.8	2.5	87.1	7.2	2.7	16.9	12.9	3.5	147.1	13.4
平均	2.9	15.3	23.9	38.0	17.1	49.7	25.9	10.3	20.7	11.9	9.7	209.5	19.0
SD	3.1	23.3	20.9	20.9	14.4	27.8	28.6	9.4	23.0	8.4	11.9	126.0	

表7-3から以下の2点が分かる。まず、合計学習時間について、個人差が大きくみられた。10課の内容を2時間程度<sup>8</sup>で学習する者（学習者6や学習者4）もいれば、5時間程度をかけて学習する者（学習者9や学習2）もいる。各学習者の平均をみた場合、一回の学習時間が比較的短いのは学習者6、学習者4、学習者11、学習者1、学習者7の5名である。次に、各課の平均学習時間についてみた場合、第5課母音は49.7分、第3課子音は38.0分となっており、それ以外の課が30分以下であるのに対して特に長いことが分かる。

### 7.3.2 理解度

図7-14中の2「理解度（1～5）」を基に、各学習者の「本日の学習」内容の理解度をまとめた。その結果を表7-4に示す。

表7-4 理解度

	第1課 音訓	第2課 多音	第3課 子音	第4課 清濁	第5課 母音	第6課 長短	第7課 撥音	第8課 入声	第9課 促音	第10課 連濁	平均
学習者1	1	4	2	2	3	3	4	3	3	3	2.8
学習者2	4	5	2	3	4	4	4	4	4	4	3.8
学習者3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4.0
学習者4	4	5	3	4	3	4	4	4	5	4	4.0
学習者5	5	5	4	2	4	4	5	4	4	4	4.1
学習者6	3	3	×	3	3	3	3	3	3	3	3.0
学習者7	3	4	1	3	3	4	3	2	3	3	2.9
学習者8	5	3	4	4	3	3	5	4	5	5	4.1
学習者9	4	3	3	4	4	4	5	3	5	4	3.9
学習者10	4	3	2	3	3	3	4	4	4	4	3.4
学習者11	5	5	4	4	3	2	5	3	4	4	3.9
平均	3.8	4.0	2.9	3.3	3.4	3.5	4.2	3.5	4.0	3.8	

<sup>8</sup> 「--」記録されなかった課もあることを考慮し、「2時間程度」とした。

表7-4から以下の2点が分かる。まず、同じ課であっても、学習者により理解度が異なる。各学習者の平均からみれば、学習者1、学習者6、学習者7は比較的低いことが分かる。次に、同じ学習者であっても、課により理解度が異なる。例外は2名（学習者3と学習者6）のみとなっている。平均でみた場合、第3課は「2.9」で比較的低かった。それ以外の課は大体3~4（3：だいたい理解した、4：殆ど理解した）となっており、第2課音訓、第7課撥音、第9課促音が特に高かった。

### 7.3.3 練習問題の初回得点<sup>9</sup>

図7-14中の3「初回得点」を基に、各学習者の「本日の学習」にある練習問題の初回得点をまとめた。その結果を表7-5に示す。

表7-5 初回得点（「本日の学習」の場合）

	第1課 音訓	第2課 多音	第3課 子音	第4課 清濁	第5課 母音	第6課 長短	第7課 撥音	第8課 入声	第9課 促音	第10課 連濁	平均
学習者1	90.0	85.0	75.6	90.0	65.2	83.8	65.0	52.1	17.2	56.3	68.0
学習者2	75.0	100.0	92.2	95.0	84.6	74.0	89.2	81.3	65.7	100.0	85.7
学習者3	100.0	100.0	41.5	95.0	83.5	88.5	85.0	74.0	57.2	87.5	81.2
学習者4	85.0	100.0	68.0	95.0	78.9	59.9	86.7	75.0	97.2	87.5	83.3
学習者5	100.0	100.0	94.3	75.0	91.0	90.1	91.7	78.2	91.5	56.3	86.8
学習者6	75.0	100.0	×	90.0	71.1	71.3	77.5	69.8	100.0	87.5	74.2
学習者7	90.0	100.0	38.8	75.0	71.5	79.7	90.9	92.8	100.0	87.5	82.6
学習者8	--	100.0	95.0	100.0	91.6	73.4	93.4	88.6	82.9	93.8	81.9
学習者9	70.0	80.0	80.3	90.0	74.1	63.5	72.5	--	100.0	87.5	71.8
学習者10	95.0	90.0	90.1	75.0	83.1	88.5	97.5	80.3	88.6	68.8	85.7
学習者11	80.0	80.0	79.5	100.0	69.1	68.7	89.2	74.4	68.6	56.3	76.6
平均	86.0	94.1	75.5	89.1	78.5	76.5	85.3	76.7	79.0	79.0	

表7-5より以下の2点が分かる。まず、各課の平均値からみた場合、全ての課は75点以上であり、中でも、特に第1課音訓、第2課多音、第4課清濁、第7課撥音が高かった。また、この結果は、「7.3.2 理解度」の結果とほぼ一致していることも分かった。次に、各学習者の平均値からみた場合、学習者1を除き、全ての学習者の得点が70点以上になっている。

図7-14中の3「初回得点」を基に、各学習者の「本日の暗記」あるいは「豆知識」にある練習問題の初回得点をまとめた。その結果を表7-6に示す。「/」とは、その課の「本日の暗記/豆知識」には練習問題がないことを意味する。○で囲んでいる部分は初回の得点が「ゼロ」の場合である。

<sup>9</sup> 実際、学習者は練習問題を何回行ってもよいが、学習記録には1回目の得点のみが表示される。

表7-6 初回得点（「本日の暗記」あるいは「豆知識」の場合）

	第1課 音訓	第2課 多音	第3課 子音	第4課 清濁	第5課 母音	第6課 長短	第7課 撥音	第8課 入声	第9課 促音	第10課 連濁	平均
学習者1	/	0.0	100.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	66.7	/	24.0
学習者2	/	50.0	66.7	100.0	75.0	100.0	100.0	80.0	83.3	/	81.9
学習者3	/	0.0	0.0	100.0	75.0	100.0	100.0	100.0	66.7	/	67.7
学習者4	/	50.0	100.0	66.7	75.0	75.0	100.0	100.0	66.7	/	79.2
学習者5	/	0.0	--	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	/	85.7
学習者6	/	--	×	66.7	25.0	75.0	80.0	80.0	100.0	/	71.1
学習者7	/	50.0	66.7	100.0	50.0	25.0	100.0	80.0	50.0	/	65.2
学習者8	/	100.0	100.0	100.0	75.0	100.0	100.0	100.0	100.0	/	96.9
学習者9	/	50.0	66.7	100.0	100.0	50.0	100.0	80.0	83.3	/	78.8
学習者10	/	0.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	83.3	/	85.4
学習者11	/	100.0	100.0	66.7	100.0	100.0	100.0	100.0	83.3	/	93.8
平均	/	40.0	77.8	81.8	72.7	75.0	89.1	83.6	80.3	/	

表7-6から以下の2点が分かる。まず、多くの学習者は最初の第2課の「本日の暗記」の練習問題で低い点数を取っている。各課の平均値からみた場合、第2課以外の課では、全て70点以上である。次に、学習者の中で、学習者1の「0.0点」が非常に多くて目立つ（表7-6の○で囲んでいる部分）。各学習者の平均値からみた場合、学習者1を除き、全ての学習者の得点が65点以上になっている。この結果は、「本日の学習」の場合の結果（表7-5）とほぼ一致している。

#### 7.4 効果測定

学習者がWEB教材を学習する前に事前テストを行い、学習し終えた時点で修了テストを実施した。図7-15は、学習者3の事前テストの結果の一部である。このように、このテスト結果から、各学習者の解答、確信度、点数が分かる。これらのデータを基に、学習者の確信度と正答率について分析する。分析する前に、正答率と点数の関係を説明する。現在のWebOCMnext上では、テストとアンケートを同時に作成することができないため、確信度にも点数をつけた。確信度は全部で50項目あるため、合計50点となる。従って、正答率を計算する際は、この50点を引く必要がある。その結果、正答率と点数の関係は、「正答率 = (点数-50) / 50」である。学習者3の場合は、正答率が(78-50) / 50 = 56%となる。

	"音読み"単词	读音	確信度
[1]	防止	ボウシ ○ 1.00	1 ▾ ○ 1.00
[2]	掲示	アンシン × 0	2 ▾ ○ 1.00
[3]	時速	シンソク ○ 1.00	1 ▾ ○ 1.00
[4]	度	ド ○ 1.00	1 ▾ ○ 1.00
[5]	図表	ズヒョウ ○ 1.00	1 ▾ ○ 1.00
[6]	濃度	ノウド ○ 1.00	3 ▾ ○ 1.00
[7]	～社	～ シャ ○ 1.00	1 ▾ ○ 1.00
[8]	体育	タイイク ○ 1.00	1 ▾ ○ 1.00
[9]	直流	チャクリョウ × 0	3 ▾ ○ 1.00
[10]	詩人	シジン ○ 1.00	1 ▾ ○ 1.00
[11]	苦情	クジョウ ○ 1.00	1 ▾ ○ 1.00
[12]	決心	ケンジン × 0	2 ▾ ○ 1.00
[13]	紅葉	モミジ × 0	1 ▾ ○ 1.00
[14]	地名	チメイ ○ 1.00	1 ▾ ○ 1.00
[15]	高～	コウ ○ 1.00～	2 ▾ ○ 1.00

図 7-15 学習者 3 の事前テストの結果

#### 7.4.1 確信度について

図 7-15 「確信度」欄の「1」は「自信がある」、「2」は「あまり自信がない」、「3」は「全く自信がない」を意味する。これらのデータを基に、各学習者の事前テストと修了テストの確信度をまとめた。その結果を表 7-7 に示す。学習者 1 を例に表 7-7 を説明する。学習者 1 にとって、事前テストの 50 語については、「自信がある」が 0 語、「あまり自信がない」が 0 語、「全く自信がない」が 50 語である。一方、修了テストの 50 語については、「自信がある」が 15 語、「あまり自信がない」が 1 語、「全く自信がない」が 34 語である。

表7-7 事前テストと修了テストの比較—確信度について

	自信がある (語数)		あまり自信がない (語数)		全く自信がない (語数)		合計 (語数)	
	事前	修了	事前	修了	事前	修了	事前	修了
学習者1	0	15	0	1	50	34	50	50
学習者2	0	7	0	22	50	21	50	50
学習者3	29	29	10	15	11	6	50	50
学習者4	32	38	10	11	8	1	50	50
学習者5	13	26	10	15	27	9	50	50
学習者6	9	3	37	38	4	9	50	50
学習者7	40	31	7	17	3	2	50	50
学習者8	21	27	23	19	6	4	50	50
学習者9	15	25	16	9	19	16	50	50
学習者10	15	34	11	12	24	4	50	50
学習者11	37	44	7	6	3	0	50	50
平均	19	25	12	15	19	10	50	50

表7-7から以下の2点が分かる。まず、全体的にみた場合、学習者の確信度が高くなつた。つまり、「全く自信がない」が減り、「自信がある」が増える傾向がみられた。次に、個別的にみた場合、確信度が若干下がった学習者もいる。その学習者は、学習者6（中国系マレーシア人）と学習者7（中国系マレーシア人）の2名である。

#### 7.4.2 正答率とその考察

図7-15中の「読み方」欄の正答数のデータなどを基に、各学習者の事前テストと修了テストの正答率をまとめ、図7-16に示した。

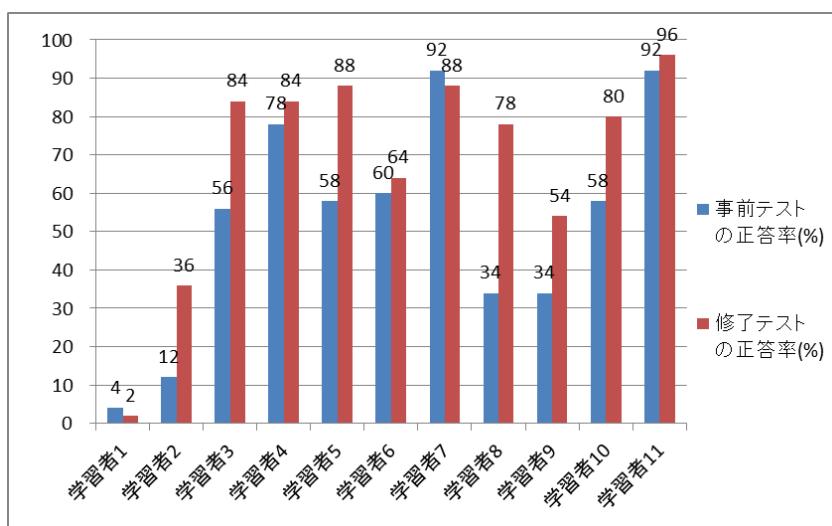


図7-16 事前テストと修了テストの比較—正答率について

図7-16から以下の2点が分かる。1点目は、事前テストと修了テストの問題が異なっているにもかかわらず、11名中9名の修了テストの結果が向上していることである。残りの2名(学習者1と学習者7)については、成績が上がらず、むしろ下がっている。学習1の場合は、事前テストにおいても修了テストにおいてもほとんど正解できていないことから、本教材を学習するための必要な基礎知識が足りない。つまり、本教材は学習者1には適していないと考えられる。本人とやり取りした結果、ピンインの知識がしっかりと身についていること及び日本語の知識も十分ではないという2つの理由から、教材の学習が難しいということが確認できた。学習者7の場合は、一種の天井効果の可能性が考えられる。しかし、同じ天井効果がある学習者11と比較した場合、学習時間(表7-3)がほぼ同じであるにもかかわらず、理解度(表7-4)が学習者11より低かった。理解度は学習者自分でチェックしたものであるため、つまり学習者7自身も自分があまり理解していないことが分かっている。では、なぜ学習者11は成績が上がったのに対し、学習者7は下がったのだろうか。なぜ学習者7はそれほど理解できなかつたのだろうか。直接やり取りした結果、学習者7(中国系マレーシア人)の場合は、中国語も日本語も、学習スタイルが中国出身の学習者と異なっており、中国語についてはピンインが特に難しいと感じていたこと、また日本語については中国語を媒介語として日本語を学習することに不慣れであることが分かった。

2点目は、正答率が上がった9名のうち、伸び率が高かったのは学習者2、学習者3、学習者5、学習者8、学習者9、学習者10の6名である。この6名の学習時間(表7-3)をみると、学習者9(47.0分)以外の5名は19分~26分であることが分かる。それに対し、結果が向上しているがそれほど大きな差がみられなかつた学習者4と学習者6の学習時間(表7-3)は、それぞれ10.3分(学習者6)と11.2分(学習者4)で非常に短かつたことが分かる。また、学習者6については、表7-4の分析結果から分かるように理解度は比較的低かった。一般に理解度が低かつたら一層学習するはずだと思われるが、学習者6はそうではなかつた。そこには、学習者6の理解を阻害する要因があると考えられる。そのことについて、直接やり取りした結果、学習者6は学習者7と同じ中国系マレーシア人で、ピンイン知識がしっかりと身についていないため、本教材の学習内容、特に第3課と第5課を理解するのは難しかつたことが分かつた。一方、学習者4については、理解度(表7-4)も、事前テストと修了テスト両方の確信度(表7-7)もかなり高かつた。では、ピンイン知識がある学習者4は、なぜ伸び率が低かつたのだろうか。最後のアンケートの問9「今

回と同じスタイルの日本語能力試験N1の音読みWEB教材があれば、使用したいと思いますか。」という質問に「あまり学習したくない」と答えており、その理由として「普段の蓄積と活用で、多くの知識は活用できるから」と回答している。このことから、本教材の学習スタイルが学習者4に適していないと考えられる。

## 7.5 学習者のフィードバックの分析

教材学習終了後、教材の内容や構成について、アンケート調査を行った。以下、選択項目と自由記述に分けてアンケートの結果を分析する。

### 7.5.1 選択項目について

表7-8はアンケートの選択項目1~5、8、9の結果をまとめたものである。項目6と項目7については、選択肢の性質が若干異なるため、別表（表7-9）にまとめた。

表7-8のうち、A~Eは、それぞれ選択肢の5段階評価を表し、詳細は以下の通りである。

- |                 |              |              |
|-----------------|--------------|--------------|
| A 大変満足 / 大変よい   | / 大変分かりやすかった | / ゼひ学習したい    |
| B 満足 / よい       | / 分かりやすかった   | / 学習したい      |
| C 普通 / 普通       | / 普通         | / 分からない      |
| D 不満 / よくない     | / 分かりにくかった   | / あまり学習したくない |
| E 大変不満 / 大変よくない | / 大変分かりにくかった | / 学習したくない    |

表7-8 選択項目の結果—その1

選択項目の質問	A	B	C	D	E
1. 今回のWEB教材学習活動について、全体的な印象はいかがでしたか。	5	6			
2. 単語の丸暗記と比べて、中国語の知識を利用して日本語の音読みを学習するという勉強法はよいと思いますか。		8	3		
3. 教材の内容（全10課からなる学習課題）についてはいかがでしたか。	4	6	1		
4. 教材中の説明は分かりやすかったですか。	2	5	3	1	
5. 教材のロジック・構成（漢字の発音から漢語の発音へ、全体の対応関係から個別の対応関係へ）についてはいかがでしたか。	1	9	1		
8. 「解説&練習問題」という勉強スタイルについてどう思われましたか。	4	6	1		
9. 今回と同じスタイルの日本語能力試験N1の音読みWEB教材があれば、使用したいと思いますか。	5	2	3	1	

表7-8から全体的な傾向として、以下の3点が分かる。まず、今回のWEB教材学習活動の全体（項目1）、教材の内容（項目3）、教材のロジック・構造（項目5）、「解説&練習問題」（項目8）という勉強スタイルについては、学習者のほとんどが満足していることである。次に、中国語の知識を利用した日本語音読み学習法（項目2）、教材中の説明（項目4）については、学習者の半数以上が満足している。最後に、今回と同じスタイルの新試験N1の音読みWEB教材があれば学習したいかという質問（項目9）に対しても、学習者の半数以上が「ぜひ学習したい」または「学習したい」と答えている。

学習者が「よかったです」と答えた理由、「普通だった」と答えた理由、そして「よくなかった」と答えた理由については、以下の「7.5.2自由記述について」に詳しく述べる。

表7-9は難易度についての質問の回答をまとめたものである。表7-9のうち、F～Jは、それぞれ選択肢の5段階評価（つまり、「難しすぎた」、「少し難しかった」、「ちょうどよかったです」、「少し易しかった」、「易しすぎた」）を表し、詳細は以下の通りである。

表7-9 選択項目の結果—その2

選択項目の質問	F	G	H	I	J
6. 教材の難易度はいかがでしたか。	1	5	5		
7. 練習問題の難易度はいかがでしたか。		2	8	1	

表7-9から全体的な傾向として、以下の2点が分かる。まず、教材の難易度については、「少し難しかった」と「ちょうどよかったです」と答えた学習者が半分ずつ占めている。次に、練習問題の難易度については、学習者の半数以上が「ちょうどよかったです」と答えている。

学習者にとって、「最も分かりやすかった課」または「最も分かりにくかった課」については、以下の「7.5.2自由記述について」に詳しく述べる。

### 7.5.2 自由記述について

自由記述については、学習者のアンケートを基に項目ごとにまとめると、以下のようになる。（ ）の中は筆者の補足である。

#### (1) 今回のWEB教材学習活動の全体について

最もよかったです点としては、実用的であること、教材作成者が定期的に気づきや学習を促してくれること、日本語の読み方が判断しやすくなって日本語への理解も深まったこと、

内容は分かりやすくて表も非常に見やすかったこと、中国語話者の弱点に焦点を当てる教材であること、中国語のピンインを十分に活用して関連付けた日本語学習ができたこと、多くの例が提示されているので理解・記憶しやすかったことなどが挙げられる。

一方、よくなかった点としては、高いレベルのピンイン知識が必要であることが挙げられる。これは、マレーシア出身の学習者6の回答である。

#### (2) 中国語の知識を利用した日本語音読み学習法について

「大変よい」または「よい」と答えた理由として、以前は混乱やすかったところが区別できるようになったこと、より記憶に残りやすいこと、母語によるマイナス影響で生じた問題を解決してくれたこと、勉強が楽になり、面白くなったこと、ピンインの知識があれば、すぐに活用できることなどが挙げられる。一方、「よい」と答えた学習者の回答には、覚えやすいが、混乱しやすい部分もある。また、例外を排除することはできないという指摘もあった（学習者3）。

「普通」と答えた理由としては、ピンインの知識がある程度ないと学習が難しいこと、規則を覚えるより日本語の読み方に慣れる方がいいという回答が挙げられる。前者は中国語のピンインの知識をほとんど忘れてしまった学習者9の回答で、後者は、マレーシア出身で、日本語の学習に中国語を媒介語としなかった学習者7の回答である。

#### (3) 教材の内容について

最もよかつた課としては、第1課音訓（1名）、第2課多音（3名）、第3課清濁（1名）、第6課長短（1名）、第8課入声（1名）が挙げられている。また、全体的によいと答えた学習者は2名いた。

最もよくなかった課として、第5課母音が挙げられた（学習者6）。また、文書記述が多すぎるので、それらを図表などにすると教材がもっとよくなるという指摘もあった（学習者9）。

#### (4) 教材中の説明について

分かりやすかった課としては、第1課音訓（1名）、第2課多音（3名）、第3課清濁（1名）、第6課長短（1名）、第8課入声（1名）が挙げられている。また、全体的によかつたと答えた学習者は2名である。その中に1名の学習者から、もう少し工夫すればもっとよ

くなるところもあるという指摘を得た（学習者5）。

分かりにくかった課としては、第3課子音（学習者2、学習者4、学習者7）、第5課母音（学習者2、学習者6、学習者7、学習者8）が挙げられている。

#### （5）教材のロジック・構成について

「よい」と答えた理由として、最も基本である声母と韻母から教え始めること、例をたくさん挙げていること、「漢字」から「漢語」への流れが分かりやすかったこと、例外について詳しく取りあげていること、中国語から日本語の読み方を推測することができることが挙げられている。一方、「よい」と答えた学習者の中には、教材の最後に漢字1つの判断方法から漢語の判断方法まで、具体的に提示してほしい（学習者2）、表の内容と文書記述は重複するところがあるので、その部分については直接表を用いた方がいい（学習者9）、という意見があった。

「普通」と答えた理由としては、（このロジックの方がいい場合もあれば、別のロジックの方がいい場合もあるので、）よく分からぬといいうことが挙げられている。これは、マレーシア出身の学習者7の回答である。

「あまりよくない」と答えた理由としては、新試験N2の漢字に限定されているからということが挙げられている。これは、新試験N2合格者である学習者9の回答である。

#### （6）教材の難易度について

最も分かりやすかった課として、第1課音訓（2名）、第2課多音（2名）、第6課長短（1名）、第8課入声（1名）、第9課促音（1名）が挙げられている。

最も分かりにくかった課として、第3課子音（学習者2と学習者4）、第5課母音（学習者2と学習者6）が挙げられている。また、方言の影響で、ピンインの基礎がしっかりとしていないことや、日本語の語彙力が不足していることなどにより、教材の学習が大変だったという学習者（学習者1）も1名いた。そのほか、ピンインに弱い学習者の場合は、教材を理解する際にズレが生じやすいという指摘もあった（学習者10）。

#### （7）練習問題の難易度について

最も易しかった課としては、第1課音訓（1名）、第2課多音（2名）、第8課入声（1名）、第9課促音（1名）が挙げられている。また、全体的によかつたと答えた学習者が1名い

た。

最も難しかった課としては、第3課子音（学習者2）、第5課母音（学習者2と学習者6）、第6課長短（学習者4）、第8課入声（学習者8と学習者9）が挙げられている。

#### （8）「解説＆練習問題」という勉強スタイルについて

最もよかつた課として、第3課子音（2名）、第5課母音（2名）、第8課入声（1名）、第9課促音（1名）が挙げられている。また、全体的によかつたと答えた学習者は4名いた。その中に、なぜ全部の練習問題に片仮名で書かないといけないのかと疑問に思う学習者（学習者3）が1名いた。この質問については、パソコンの自動変換機能を使うことを防止するため片仮名を使用するように指示したと回答した。

あまりよくなかった課として、第5課母音（学習者6）が挙げられている。

#### （9）同じスタイルの新試験N1の音読みWEB教材がある場合について

「ぜひ学習したい」または「学習したい」と答えた理由として、焦点がはっきりしていること、N1の語彙には普段めったに使わないものが（N2より）さらに多く存在している（ため、規則を利用した方が覚えやすい）こと、N1の勉強になったら、細かいところへの注意や発音の正確性がもっと必要となること、役に立つこと、活用できること、が挙げられている。

「あまり学習したくない」と答えた理由としては、普段の蓄積と活用で、多くの知識は自然と身に付くことが挙げられている（学習者4）。

「分からぬ」と答えた理由としては、N1などの試験のために（学習して本当にいいのか）はもう少し検討する必要があること、機会があればその時考えること、が挙げられている。前者はN1合格者である学習者11的回答で、後者は事前テストでも修了テストでも40点以上（50点満点）を取っているマレーシア出身の学習者7的回答である。

#### （10）その他の意見、感想、質問などについて

この自由記述の中には、「まだ漢字の識別に慣れていませんが、慣れれば上手になると信じているので、今後さらに上達できると思います。」（学習者2）、「教材はとても素晴らしいです。」（学習者3）、「WEB自体はよくできています。」（学習者7）のように教材全体への感想があった。また、「各課の練習問題はもう少し増やした方がいいと思います。そして、

解説部分と違う語彙を使った方が、学んだことがより活用できると思います。」(学習者8)、「学習者が調べやすいように中国語のピンイン表を教材の中に入れた方がいいと思います。」(学習者9)というような教材改良への意見もあった。さらに、「漢字のほか、日本語全体についてのこの種類のWEB教材がほしいです。」(学習者5)という学習者からの要望もあった。

## 7.6 教材の改良に向けて

学習者の確信度と正答率の上昇から、本教材の学習効果が見て取れる。また、アンケートから、学習者自身からも効果があったという声が聞かれた。その中で、教材の出版を期待する学習者もいることが分かった。一方、本教材の効果を最大限に生かすためにも、教材の改良を進めるためにも、いくつかの課題の解決が必要と考えられる。以下、教材の改良に向けて検討していく。

### 7.6.1 提示された課題・改善点のまとめ

教材の改良に向けた検討をする前に、ここでは、「7.3 WEB教材の学習記録」から分かつたこと、「7.4 効果測定」の結果からみえた課題、「7.5 学習者のフィードバックの分析」で提示された改善点についてまとめる。

「7.3 WEB教材の学習記録」の結果から以下の4点が分かる。まず、学習時間の分析結果からは、第5課母音と第3課子音が比較的長かったことが分かる。このことから、多くの学習者にとって第5課と第3課が難しいと考えられる。次に、理解度の分析結果からは、第3課が比較的低かったことが分かる。つまり、第3課は多くの学習者にとって難しいということである。また、練習問題の初回得点の分析結果からは、第2課の「本日の暗記」の得点の平均は比較的低かったことが分かる。これは、学習者が初めて「本日の暗記」の練習問題に触れるため、どのように解答すべきか分からなかった可能性がある。最後に、学習時間、理解度、練習問題の初回得点の分析結果を総合的にみた場合、本教材の学習スタイルは学習者4、学習者6、学習者7に適していないことが分かる。この結果から、本WEB教材には向き・不向きがあるということが分かった。

「7.4 効果測定」の結果からみえた課題は、以下の2点である。1点目は、以下の3種類の学習者にとって、本教材の学習が非常に難しく感じたり、却って混乱してしまったり

する可能性がある。この3種類とは、1) 中国語ピンインの知識がしっかりと身についていない学習者、2) 日本語の能力がまだ低くて基本的な語彙や漢字に関する知識が欠けている学習者、そして、3) 中国語は母語であるが日本語学習に中国語を媒介語とした経験のなかった学習者、つまり中国語を媒介語として日本語を学習するのに抵抗を感じる学習者、である。2点目は、学習効果と学習時間の間に相関関係がみられたことである。つまり、学習時間が比較的短い学習者にとって学習効果があまり期待できない傾向がある。

7.5に提示された改善点にも、上述と同じように、中国語ピンイン、日本語の語彙量、日本語学習の媒介語というものがあった。そのほかには、学習記録の分析結果にもみられたが、10課のうち、第5課母音と第3課子音は比較的難しいという問題がある。

### 7.6.2 教材の改良に向けた検討

ここでは、課題・改善点のまとめ（7.6.1）及び学習者からのフィードバック（7.5）などを基に、教材の改良に向けた検討を行う。

#### (1) 新試験N4以上の学習者について

効果測定（7.4）、学習者からのフィードバック（7.5）及び学習者とのやり取りから、総合的にみると、本教材は新試験N4以上の学習者に有効である。当初、本教材では、中国語が母語で、日本語能力が旧試験3級レベル（つまり新試験N4～N2）の学習者を想定していた。しかし、実際の調査では、新試験N2合格者にとっても効果的な学習ができることが分かった。さらに、新試験N1合格者にも若干ではあるが成績の向上がみられた。また新試験N1合格者から、音読みと母語である中国語の対応関係が今後の日本語学習に十分活用できるという回答を得ている。

新試験N4以上の学習者のうち、注目すべき事例の学習者が3名いる。学習者2、学習者7、学習者8である。

まず、他の学習者に比べて学習効果がそれほど大きくなかった学習者2について詳しく見る。事前テストでは、50語中6語しか正解できなった学習者2（新試験N4～N3）は、修了テストでは18語正解であった。直接やり取りをした結果、台湾出身の学習者2は、中国語のピンインを学習したことがないことが分かった。そして、学習途中から、本教材を学習する際に、注音字母とピンインの対応表を活用していたことも分かった。学習者2の事例から、台湾出身の学習者には注音字母とピンイン対応表を事前に提供すれば、本教材の

学習が支障なくできると予想される。

次に、成績の向上がみられなかつた学習者7の事例がある。なぜ成績の向上がみられなかつたのかについては、以下の原因が考えられる。事前テストすでに46点(満点50点)という高い点数を取つてゐるため、天井効果が働いた可能性がある。また、本人とやり取りをした結果、中国語の学習スタイルが、中国出身の学習者と異なるため、ピンインの知識がしっかりと身についていない。そして、日本語学習の媒介語が中国語でなく英語であるため、中国語の知識を使って日本語を学習することに慣れていないことが分かった。従つて、ピンインの知識をどの程度身につけているのか、日本語を学習する際の媒介語がどの言語であるかということが、本WEB教材学習にとって非常に重要であると言える。

最後に、事前テストと修了テストの結果で最も差があつたのは学習者8である。なぜ学習者8にそのような変化が起つたのだろうか。その原因として、学習者8は中国語を専門にしているため、他の学習者よりピンインに触れる機会が多かつたことが考えられる。学習者8に比べ、他の学習者は、小学校1年生の時(地方によってそれよりさらに以前)にピンインを習つて以来、体系的にピンインに触れたことがない。そのため、多くの学習者がピンインを体系的に扱つてゐる第5課(韻母)と第3課(声母)に難しさを感じている。従つて、中国語のピンインの知識を忘れてゐる学習者のために、第3課と第5課にピンイン表を掲載する必要があると考えられる。

## (2) 新試験N4以下の学習者について

新試験N4以下の学習者は、学習者1のみである。学習者1には、本教材の効果がみられなかつた。その原因として、ピンインの知識や日本語の語彙量が不足していることが考えられる。このことから、ある程度のピンイン知識と日本語の語彙を身につけていることが、本WEB教材を学習する前提とする必要があることが再確認された。

## (3) その他

本教材の内容を学習者により分かりやすく理解させるには、以下の改良が必要だと考える。

### ① 漢字の音読みの推測方法について

第1課～第8課は「漢字」の読み方についてで、第9課～第10課は「漢語」の読み方についてである。第8課を学習し終えた時点で、「漢字」の読み方についての全体

的な復習を行う。特に、全く読み方の分からない漢字の音読みを推測する方法については、例を通して詳しく紹介する。

#### ② 漢字と漢語の読み方の推測方法について

第10課を学習し終えた時点で、漢字と漢語の読み方を含めた全体の復習をする。特に、全く読み方が分からない漢語の音読みを推測する方法については、例を通して詳しく紹介する。

#### ③ 解答例について

学習記録の分析結果から、「本日の暗記」の「練習問題の初回得点」について、第2課のみが低いことが分かった。これは、第2課で初めて「本日の暗記」のような学習スタイルに触れたためだと考えられる。そこで、練習問題の最初に解答例を加える。

#### ④ 学習時間について

学習効果と学習時間の分析結果から、一回の学習時間が20分前後である学習者の伸び率が最も顕著であることが分かった。今後、学習者には一回の学習時間の目安を20分程度にするようにとの指示を加える。

### 7.7 本章のまとめ

第7章では、第6章で示した学習課題の論理構造に基づき、試作品としてのWEB教材の作成、実施、学習効果の測定、教材改良に向けた検討を行った。分析結果の中で、最も注目すべき点は、中国語のピンインの知識をどの程度把握しているかが本教材の学習効果に大きく影響する点である。そして、アンケートの結果から、日本語の音読みを効率的に学習するには母語の知識、特にピンインの知識とその活用が如何に重要であるかを、多くの学習者が今回の教材学習を通して改めて実感したと言える。

また、本教材の今後の使い方として、以下の2パターンが考えられる。1つは、学習者による自律学習用のWEB教材として活用する。この場合は、教材作成者や教師などによるサポートなどが一切ないため、学習者が主体的に学習する必要がある。もう1つは、教育プログラムの補助教材として使用する。この場合は、本調査と同じように、WebOCMnext中の「電子掲示板」や「質問機能」などを利用することで、教師と学生間の双方向のコミュニケーションができる、「手厚い教育」に繋がっていく可能性がある。

## 第8章 結論

### 8.1 本研究のまとめ

如何にして漢字の読み能力を向上させるかは、中国語話者を対象とした日本語漢字教育上の課題の1つである。この課題を解決する一つの鍵は現代中国語音と日本漢字音の関係を正確に把握することであると考える。しかし、現代中国語音と日本漢字音の関係については不明な点が多く、中国語話者を対象とした日本漢字音教育のための基礎的研究は未だ不十分である。そこで、本研究は、現代中国語音と日本漢字音の関係を明らかにし、日本漢字音教育のための基礎的研究を行った。そして、その基礎的研究に基づき、初級段階を終えた旧試験3級レベルの学習者が2級新出漢語及びそこで使われている漢字を効率よく学習するためにシステムデザインを行った。各章では、以下のような分析・考察を行った。

第1章では、本研究の背景として、漢字圏の学生に対する漢字教育が重要視されているなか、如何にして字音語の読み能力を向上させるかは、中国語話者を対象とした日本語漢字教育上の課題の一つであることを述べた後、本研究の目的と本論文の構成を説明した。

第2章では、先行研究に基づき、現代中国語音と日本漢字音の基になっている古代中国語音、特に中古音に焦点を当て、中古音と現代中国語音、中古音と日本漢字音の対応関係を分析し整理した。

第3章の3.1では、第2章で整理した中古音と現代中国語音の対応関係と、中古音と日本漢字音の対応関係を基に、中古音を介して現代中国語音と日本漢字音の対応関係を導き出し、その特徴について検討した。その結果、6つの特徴があることが分かった。3.2では、旧試験2級漢字に限定した場合の対応関係を調査し、中古音を介して導き出した、漢字全体に適用可能な対応関係と比較分析を行った。その結果、2級漢字に限定した場合の対応関係は、全体の対応関係に概ね一致することが分かった。このことから、3.1で中古音を介して導き出した現代中国語音と日本漢字音の対応関係は、今後日本漢字音を分析していく上での基盤になると言える。そして、2級漢字に限定した場合の対応関係において、全体の対応関係の6つの特徴がどのように具体的な形で表れているのかを分析し考察した。この分析結果から、吳音と漢音では、同じ対応もあるが、異なる対応も多くあることが分かった。この点は、その後の基本対応規則を見出す際に、重要な役割を果たしている。

第4章の4.1では、これまでの日本語教育の中で、現代中国語音と日本漢字音の対応関

係に注目し、それを日本語教育現場に活用しようとする先行研究を概観し、問題点を考察した。その問題点を踏まえた上で、4.2から4.5では、第3章の3.1で導き出した現代中国語音と日本漢字音の対応関係をどのように利用すれば最も効果的なのかについて検討した。具体的には、旧試験3級レベルの中国語話者を対象学習者とし、2級新出漢語で使われている漢字を対象漢字とした。そして、現代中国語音と日本漢字音の基本対応規則を中心とした、対象学習者が学習する際に利用可能な対応規則にはどのようなものがあるのかについて分析し検討した。その結果、旧試験3級レベルの中国語話者が2級新出漢字の日本漢字音を効率よく学習するには、まず、慣用音字(72字)についてはそのまま覚える。次に、漢音・呉音字(687字)については、漢音の主たる対応関係を基本対応規則(表8-1と表8-2)とし、呉音の特徴や現代中国語音の特徴を補助対応規則(表8-3と表8-4)とすることで、効果的な学習が可能になると考へた。表8-1から表8-4は、それぞれ第4章の表4-17、表4-24、表4-18、表4-25と同じものである。

表8-1 声母と頭子音

	現代中国語音		漢音・呉音		対応率 (=B/A)
	声母	字数(A)	頭子音	字数(B)	
1	b	26	ハ行	24	92.3%
2	p	10		8	80.0%
3	f	17		15	88.2%
4	m	29	バ行	11	37.9%
5	d	37	タ行	30	81.1%
6	t	19		16	84.2%
7	n	6		1	16.7%
8	l	34	ラ行	34	100.0%
9	g	33	カ行	33	100.0%
10	k	18		18	100.0%
11	h	26		20	76.9%
12	j	68		48	70.6%
13	q	32		19	59.4%
14	x	52		26	50.0%
15	zh	50		30	60.0%
16	ch	24	サ行	11	45.8%
17	sh	42		34	81.0%
18	z	22		17	77.3%
19	c	19		17	89.5%
20	s	18		16	88.9%
21	r	8	ザ行	2	25.0%
22	ゼロ	97	ア行	44	45.4%
合計		687	9	474	69.0%

表8-2 韻母と頭子音以外の部分

	現代中国語音		漢音・呉音		対応率 (=B/A)
	韻母	字数(A)	頭子音以外の部分	字数(B)	
1	ia	5	ア	5	100.0%
2	ua	4		3	75.0%
3	uai	1	アイ	1	100.0%
4	ai	23		21	91.3%
5	uo	22	アク	8	36.4%
6	o	9		4	44.4%
7	e	25		8	32.0%
8	a	12		5	41.7%
9	an	31	アン	26	83.9%
10	uan	20		14	70.0%
11	uei	24	イ	13	54.2%
12	ei	11		5	45.5%
13	er	1		1	100.0%
14	i	104		54	51.9%
15	en	15	イン	11	73.3%
16	in	16		16	100.0%
17	ün	7		2	28.6%
18	ióng	3	エイ	1	33.3%
19	ing	32		21	65.6%
20	ie	13		4	30.8%
21	üan	9		8	88.9%
22	ian	34		30	88.2%
23	u	57		21	36.8%
24	uang	14		10	71.4%
25	ang	16	オウ	11	68.8%
26	eng	17		7	41.2%
27	ong	19		7	36.8%
28	ao	29		23	79.3%
29	ou	15		7	46.7%
30	uen	13	オン	8	61.5%
31	üe	4	ヤク	2	50.0%
32	iou	18	ユウ	15	83.3%
33	ü	22	ヨ	11	50.0%
34	iang	17	ヨウ	10	58.8%
35	iao	25		19	76.0%
合計		35	687	18	412 60.0%

表8-3 声母と頭子音

	声母	補助規則	条件 (声母/声調)	漢字	字数
1	ゼロ	ヤ行	you	悠、優、遊、友、右、油、幼	7
2	r	ヤ行	rong2	融、容、溶	3
3	m	マ行	鼻音韻尾	満、慢、夢、綿、免、面	6
4	p	バ行		盤、盆	2
5	f	バ行	鼻音韻尾か つ第2声	凡、防	2
6	n	ナ行		南、難、能	3
7	x	ザ行		旬、巡、循	3
合計		7	4		26

表8-4 韻母と頭子音以外の部分

	韻母	補助規則	条件 (声母/声調)	漢字	字数
1	üe	アク	舌面音	確、覚	2
2	ün	ュン	x声母 かつ2声	旬、巡、循	3
3	uei	ウイ		炊、垂、睡、追	4
4	e	エツ		徹、設、折、哲	4
5	an	エン		扇、善、繕	3
6	uan			船、栓、伝	3
7	ou	ユウ		抽、収、州、周、宙、昼	6
8	ong	ヨウ		容、溶、冗、衝	4
9	uen	ュン		瞬、順、純	3
10	u	ヨ		署、処、諸、貯、著	5
11	ao	ヨウ		超、少、朝、照、兆	5
12	ang			張、掌、帳、商、賞	5
13	eng			証、徵、勝、乗、剩、症	6
合計		9	3		53

第5章では、学習者の確信度に着目し、新試験N4以上N2以下（旧試験3級レベル）の中国語話者を対象に、日本漢字音習得の実態を調査し、習得上の課題について検討した。その結果として、以下の2点が挙げられる。①中国語話者を対象とした日本漢字音習得上の課題は、共通の問題点（清濁と音訓）と個別の問題点（長短・多音・母音の交代・子音の交代・入声韻尾・撥音）が中心となる漢字レベルの問題である。これらの問題が解決されれば、中国語話者にとって日本漢字音はより一層効率的に習得できると考えられる。②日本漢字音習得の実態（つまり、既習漢語の習得状況、既習漢語の未習漢語への応用力、完全な未習漢語を推測する力）が回答者の確信度に表れているため、今後日本漢字音習得について研究する際、確信度という尺度を含めた形で検討すべきだと考えられる。

第6章では、第5章で明らかにした共通の問題点及び個別の問題点を中心とした漢字レベルの問題点に、漢語レベルの問題点（促音化、連濁、促音化・連濁）を加えて、それらの解決法について検討した。これらの問題点は、第2章から第4章までの分析結果を活用することで解決可能なものがほとんどである。それ以外の問題点は、第6章で改めて分析と考察を行った。これらの検討を踏まえた上で、学習課題の論理構造を明らかにした。その結果を図8-1に示す。図8-1は第6章の図6-5と同じものである。

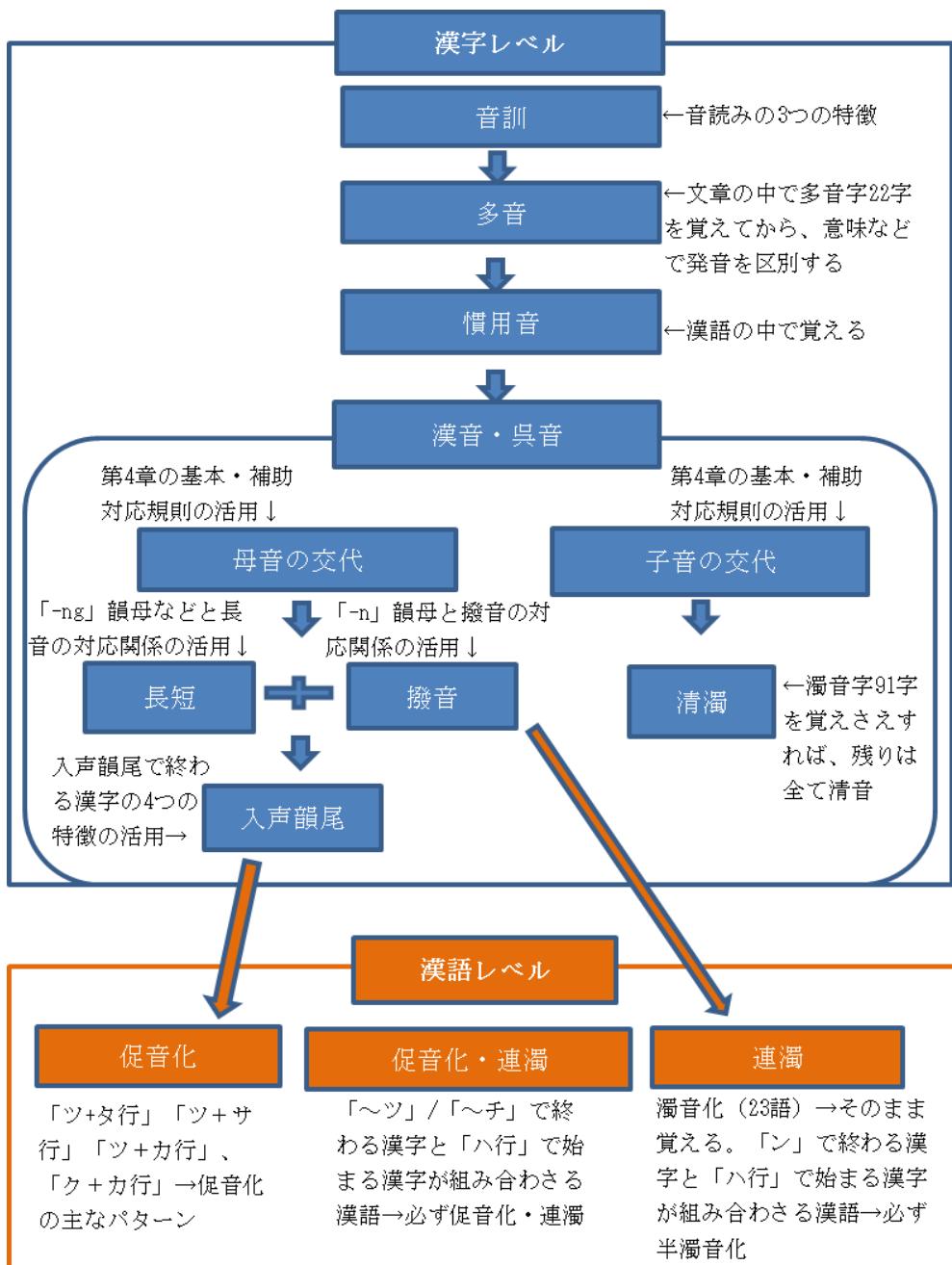


図 8-1 学習課題の構造化

第7章では、第6章で示した学習課題の論理構造に基づき、WEB教材を試作した。その後、調査を行い、学習効果を見定め、教材改良に向けた検討を行った。その結果、試作品としてのWEB教材は、さまざまな日本語能力（新試験N4以上）を有する者からの評価が高く、教材の出版を期待する学習者もいることが分かった。教材の学習効果は学習者の確信度と正答率にも表れている。また、教材の改良について、特に重要なのは、学習の前

提を明示することであることが分かった。本教材を学習する前提としては、1)ある程度の中国語のピンイン知識と日本語の語彙を身につけていていること、2) 日本語を学習する際の媒介語が中国語であることが挙げられる。さらに、教材の改善点として、ピンイン表の追加、解答例の追加、復習用の重要項目のまとめと練習問題の追加、一回の学習時間を 20 分程度に設定することが挙げられる。

## 8.2 本研究の意義

現代中国語音と日本漢字音の関係に注目し、それを日本語教育に活用しようとする研究が数多くある。しかし、従来の日本語教育の研究は、現代中国語音と日本漢字音の対応規則を求めるものが主流で、多くの対応規則を列挙するに留まり、教育実践には利用しがたいもののが多かった。

本研究は、現代中国語音と中国中古音、中国中古音と日本漢字音に関する先行研究を整理し、中古音を介在させた上で、日本語教育に利用可能な「基本対応規則」を中心とする現代中国語音と日本漢字音の対応規則を提案することに成功した。そして、中国語話者を対象に、確信度を含めた日本漢字音習得の実態を調査し、習得上の課題を明らかにした。以上の研究成果を踏まえた上で、日本漢字音習得上の課題の解決策を具体的に提示することができた。さらに、研究成果に基づき、旧試験 2 級漢語とその使用漢字に限定し、日本漢字音学習 WEB 教材の開発を試みた。学習者から高い評価を得ており、正答率や確信度の向上など学習効果があることも確認できた。

以上のことから、今後の中国語話者を対象とする日本漢字音教育の発展のために、本研究は一定の意義があると考える。

## 8.3 今後の展望

筆者の関心は、現代中国語音を活用して日本漢字音の学習を改善するための妥当で有効なシステムを開発することにある。本研究は、その基礎的研究と実践に向けた研究の第 1 ステップである。今後は、本研究の成果をさらに活用した日本漢字音教育の実践的研究を行う予定である。また、本研究の分析結果及び WEB 教材作成の技術を応用し、現代中国語音教育のための教材開発も行う。

## 参考文献

### 論文等

- 阿久津智「漢字圏の学生に対する漢字教育について」『筑波大学留学生教育センター日本語教育論集』6、1991、pp. 129–144。
- 阿久津智「濁音の問題」『筑波大学留学生教育センター日本語教育論集』8、1993、pp. 49–62。
- 汪南雁「常用漢字の中国語音と日本語音との対照からの一考察」『日本語支援教育研究』1、2012、pp. 64–68。
- 汪南雁「中国語話者を対象とする日本語漢字の音読み教育の一考察 一日本語能力試験2級語彙表の音読み語の分析から一」『第8回日本語実用言語学国際会議 THE EIGHTH INTERNATIONAL CONFERENCE ON PRACTICAL LINGUISTICS OF JAPANESE (ICPLJ8) CONFERENCE HANDBOOK』国立国語研究所、2014、pp. 108–111。
- 汪南雁「『確信度』からみた中国語話者を対象とする日本漢字音教育の課題—2級新出漢語の読み方に関する調査結果の分析—」『大阪大学言語文化学』24、2015、pp. 115–127。
- 大阪大学サイバーメディアセンター広報委員会「マルチメディア言語教育研究部門」『大阪大学サイバーメディアセンターニュース』15、2015、pp. 17–23。
- 加藤大鶴（2011）「中国の漢字の声調と日本漢字音のアクセント」『日本語学』30–3、明治書院、2011、pp. 48–58。
- 加納千恵子「漢字圏学習者への中級漢字指導の問題(2)—音読みが2つ以上ある漢字の指導—」『日本語教育方法研究会誌』1–3、1994、pp. 4–5。
- 加納千恵子「漢字に関する Can-do statements 調査と漢字力—漢字圏、非漢字圏、韓国の学習者による評価の違い—」『第8回日本語実用言語学国際会議 THE EIGHTH INTERNATIONAL CONFERENCE ON PRACTICAL LINGUISTICS OF JAPANESE (ICPLJ8) CONFERENCE HANDBOOK』国立国語研究所、2014、pp. 52–55。
- 刑振雷・山本秀樹・菊地章「ピンインと音読みの関係に基づいた漢字音読み学習システム」『教育システム情報学会誌』27–2、2010、pp. 211–220。
- 小出敦「日本漢字音・中国中古音対照表」『京都産業大学論集』人文科学系列37、2007、pp. 133–156。
- 胡曉睿「漢字の音読みの習得に及ぼす母語の影響—中国人日本語学習者の場合—」『明海日

- 本語』17、2012、pp. 95-102。
- 坂本正「第二言語習得研究における盲点—確信度—」『日本文化學報』33、韓国日本文化学会、2007、pp. 95-109。
- 佐藤進「日本語における音読みについて」『日本語学』漢字音研究の現在特集 30-3、明治書院、2011、pp. 4-17。
- 戸田昌幸「現代中国語に対応する日本語常用漢字音との対照分析」『麗澤大学論叢』14、2003、pp. 55-86。
- 杜婷婷「日本漢字音と中国漢字音の対応関係について—中国人日本語学習者が常用漢字の字音を学習するために—」『日本語研究』31、首都大学東京、2011、pp. 15-31。
- 濱田美和・高畠智美「中国人学習者に対する漢字教育のための基礎研究—漢字の読み・書きクイズにおける誤答の分析—」『富山大学留学生センター紀要』8、2009、pp. 1-12。
- 三好理恵子「中国語（普通話）を第一言語とする日本語学習者のための日中漢字音対照研究」『日本語教育研究』26、1993、pp. 87-102。

### 研究書・教科書・教師用ハンドブック等

#### ◆日本語

- インターラカルト日本語学校『やさしい日本語の発音トレーニング』ナツメ社、2011。
- 牛島徳次・香坂順一・藤堂明保『中国文化叢書1 言語』大修館書店、1967。
- 榎本正嗣『現代日本語発音の基礎知識』学文社、2006。
- 大越和孝『子どもに教えてくなる国語科クイズ』東洋館出版社、2010。
- 大越美恵子・高橋美和子『中国人のための漢字の読み方ハンドブック』スリーエーネットワーク、2003。
- 大矢透「隋唐音図」大矢透著・小松英雄解説『韻鏡考・隋唐音図 下』勉誠社文庫、1978年所収。
- 沖森卓也編著、陳力衛・肥爪周二・山本真吾著『日本語ライブラリー 日本語史概説』朝倉書店、2011。
- 国際交流基金『日本語教授法シリーズ3 文字・語彙を教える』ひつじ書房、2011。
- 佐藤尚子・佐々木仁子『留学生のための漢字の教科書初級300』国書刊行会、2009。
- 佐藤尚子・佐々木仁子『留学生のための漢字の教科書中級700』国書刊行会、2010。

- 佐藤保子・三島敦子・虫明美喜『漢字系学習者のための漢字から学ぶ語彙 2 学校生活編』アルク、2008。
- 藤堂明保・相原茂『新訂中国語概論』大修館書店、2005。
- 中村雅之『中古音のはなし—概説と論考』古代文字資料館、2007。
- 西口光一『改訂版 例文で学ぶ漢字と言葉 N2』スリーエーネットワーク、2012。
- 西口光一『NEJ: A New Approach to Elementary Japanese—テーマで学ぶ基礎日本語—(vol. 1)』くろしお出版、2012。
- 沼本克明『日本漢字音の歴史』東京堂出版、1986。
- 濱川祐紀代編著『日本語教師のための実践・漢字指導』くろしお出版、2010。
- ヒューマンアカデミー『日本語教育能力検定試験完全攻略ガイド第 2 版』翔泳社、2011。
- 松浦真理子・上妻直博・半田健一『KANJIENSE 漢字のコツがわかる本』アスク、2009。
- 松崎寛・河野俊之『よくわかる音声（日本語教師・分野別マスターシリーズ）』アルク、2007。
- 李思敬著、慶谷寿信・佐藤進編訳、伊地智善継・牛島徳次・香坂順一監修『基本中国語学 双書 6 音韻のはなし—中国音韻学の基本知識』光生館、1987。
- ◆中国語
- 李榮『音韻存稿』商務印書館、1982。
- 龍庄偉編『漢語音韻学』語文出版社、2005。
- 史存直編『漢語音韻学綱要』安徽教育出版社、1985。
- 宿久高・周異夫主編『日語精読』外語教研出版、2006 年。
- 王力『漢語音韻』中華書局、1963。
- 王力『音韻学初步』商務印書館、1980。

## 辞書等

- ◆日本語
- 小川環樹・西田太一郎・赤塚忠『角川新字源改訂版』角川書店、1994。
- 国際交流基金・日本国際教育支援協会『日本語能力試験出題基準（改訂版）』「1、2 級語彙表」凡人社、2007。
- 佐藤喜代治・遠藤好英・加藤正信・佐藤武義・飛田良文・前田富祺・村上雅孝編集『漢字百科大事典』明治書院、1996。

高見澤孟監修・高見澤孟・伊藤博文・ハント蔭山裕子・池田悠子・西川 寿美・恩村由香  
子『新・はじめての日本語教育基本用語事典』アスク、2004。

日本語教育学会編『新版日本語教育事典』大修館書店、2005。

◆中国語

漢語大字典編輯委員会『漢語大字典』四川辞書出版社・湖北人民出版社、1990。

中国社会科学語言研究所詞典編輯室『現代漢語詞典第5版』商務印書館、2005。

参考ウェブサイト

大阪大学アウトリーチWEB「開講時間にとらわれない次世代型学習環境：WebOCMnext一般  
向け初公開」、

[http://outreach.21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jp/images\\_data/i3a73m/release\\_20141030](http://outreach.21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jp/images_data/i3a73m/release_20141030)  
（閲覧日：2015年9月27日）

日本語能力試験公式ウェブサイト「旧試験との比較・認定目安（新旧対照）」

<http://www.jlpt.jp/about/comparison.html>（閲覧日：2015年7月18日）

文化庁文化審議会「常用漢字表」、

[http://kokugo.bunka.go.jp/kokugo\\_nihongo/joho/ki\\_jun/naikaku/pdf/joyokanjihyo\\_20101130.pdf](http://kokugo.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/joho/ki_jun/naikaku/pdf/joyokanjihyo_20101130.pdf)（閲覧日：2015年11月29日）

## 資料一覧

### 第2章

- 【資料2-1】 中古音の韻と現代中国語音の韻母の対応関係（簡略版→表2-9）  
【資料2-2】 中古音の韻と日本漢字音の頭子音以外の部分の対応関係（簡略版→表2-17）

### 第3章

- 【資料3-1】 中古音の字母・現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音の対応関係（簡略版→表3-1）  
【資料3-2】 中古音の韻・現代中国語音の韻母と日本漢字音の頭子音以外の部分の対応関係（簡略版→表3-3）  
【資料3-3】 現代中国語音の韻母と日本漢字音の頭子音以外の部分の対応関係（簡略版→表3-4）  
【資料3-4】 現代中国語音の韻母と日本漢字音の主母音・特殊拍・入声韻尾の対応関係（簡略版→表3-5）

### 第4章

- 【資料4-1】 2級新出漢字（多音字を除く）における現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音（簡略版→表4-7）  
【資料4-2】 2級新出漢字（多音字を除く）における現代中国語音の韻母と日本漢字音の主母音及び頭子音以外の部分（簡略版→表4-10）  
【資料4-3】 2級新出漢字（多音字を除く）における現代中国語音の声母と漢音の頭子音（簡略版→表4-15）  
【資料4-4】 2級新出漢字（多音字を除く）における現代中国語音の韻母と漢音の主母音及び頭子音以外の部分の対応関係（簡略版→表4-19）

### 第5章

- 【資料5-1】 予備調査の調査票（簡略版→表5-1）  
【資料5-2】 本調査の調査票（日本語版）（簡略版→表5-3）

【資料 5-3】 確信度別の正答率と全体の正答率（簡略版→表 5-4）

【資料 5-4】 漢語別の人数と回答（簡略版→表 5-5）

## 第 7 章

【資料 7-1】 WEB 教材（日本語版）（第 1 課→図 7-3～7-7、図 7-10）

【資料 7-2】 事前テスト（日本語版）（簡略版→図 7-11）

【資料 7-3】 修了テスト（日本語版）（簡略版→図 7-12）

【資料 7-4】 アンケート調査票（日本語版）（簡略版→図 7-13）

【資料2-1】 中古音の韻と現代中国語音の韻母の対応関係（簡略版→表2-9）

	中古音				現代中国語音	
	攝	韻目	開・合	等	韻母	備考
1	果	歌	開	一	uo、 e	端系→uo; 見系→e
2	果	戈	開	三	ie	
3	果	戈	合	一	o、 uo、 e/uo	幫組→o; 端系→uo; 見系→e/uo
4	果	戈	合	三	üe	
5	仮	麻	開	二	ia、 a	見系→ia
6	仮	麻	開	三	e、 ie	章組と日母→e
7	仮	麻	合	二	ua	
8	遇	模	合	一	ua	
9	遇	虞	合	三	u、 ü	非組知系→u、 泥組精組見系→ü
10	遇	魚	合	三	u、 ü	知系→u、 泥組精組見系→ü
11	蟹	咍	開	一	ei、 ai	幫組→ei
12	蟹	泰	開	一	ei、 ai	幫組→ei
13	蟹	皆	開	二	ie、 ai	見系→ie
14	蟹	佳	開	二	ie、 ai	見系→ie
15	蟹	夬	開	二	ai	
16	蟹	祭	開	三	i	
17	蟹	廢	開	三	i	
18	蟹	齊	開	四	i	
19	蟹	灰	合	一	ei、 uei	幫組泥組→ei、 端組精組見系→uei
20	蟹	泰	合	一	ei、 uei、 uei/uai	泥組→ei、 端組精組→uei、 見系→uei/uai
21	蟹	皆	合	二	uai	
22	蟹	佳	合	二	uai/ua	
23	蟹	夬	合	二	uai	
24	蟹	祭	合	三	uei	
25	蟹	廢	合	三	ei、 uei	非組→ei、 見系→uei
26	蟹	齊	合	三	uei	
27	止	支	開	三	i/ei、 i、 er	幫組→i/ei、 日母→er
28	止	脂	開	三	i/ei、 i、 er	幫組→i/ei、 日母→er
29	止	之	開	三	i、 er	日母→er
30	止	微	開	三	i	
31	止	支	合	三	ei、 uai、 uei	泥組→ei、 莊組→uai
32	止	脂	合	三	ei、 uai、 uei	泥組→ei、 莊組→uai
33	止	微	合	三	ei、 uei	非敷奉母→ei、 微母見系→uei
34	効	豪	開	一	ao	
35	効	肴	開	二	iao、 ao	見系→iao
36	効	宵	開	三	ao、 iao	知章日組→ao
37	効	蕭	開	四	iao	
38	流	俟	開	一	ou	幫組→ou、 u、 ao
39	流	尤	開	三	ou/u、 ou/ao、 ou、 iou	非敷奉母→ou/u、 明母→ou/ao、 知系→ou、 泥精組見系→iou
40	流	幽	開	三	iao/iou、 iou	幫組→iao/iou
41	咸	覃	開	一	an	
42	咸	合	開	一	a、 e	端系→a、 見系→e
43	咸	談	開	一	an	
44	咸	盍	開	一	a、 e	端系→a、 見系→e
45	咸	咸	開	二	ian、 an	見系→ian
46	咸	洽	開	二	ia、 a	見系→ia
47	咸	銜	開	二	ian、 an	見系→ian

48	咸	狎	開	二	ia	
49	咸	鹽	開	三	an、ian	知系→an
50	咸	葉	開	三	e、ie	知系→e
51	咸	嚴	開	三	ian	
52	咸	業	開	三	ie	
53	咸	添	開	四	ian	
54	咸	帖	開	四	ie	
55	咸	凡	合	三	an	
56	咸	乏	合	三	a	
57	深	侵	開	三	en、in	知系→en
58	深	緝	開	三	i、e、u	莊組→e、日母→u
59	山	寒	開	一	an	
60	山	曷	開	一	a、e	端系→a、見系→e
61	山	山	開	二	ian、an	見系→ian
62	山	黠	開	二	ia、a	見系→ia
63	山	刪	開	二	ian、an	見系→ian
64	山	鐸	開	二	ia、a	見系→ia
65	山	仙	開	三	an、ian	知系→an
66	山	薛	開	三	e、ie	知系→e
67	山	元	開	三	ian	
68	山	月	開	三	ie	
69	山	先	開	四	ian	
70	山	屑	開	四	ie	
71	山	桓	合	一	an、uan	幫組→an
72	山	末	合	一	o、uo	幫組→o
73	山	山	合	二	uan	
74	山	黠	合	二	ua	
75	山	刪	合	二	uan	
76	山	鐸	合	二	ua	
77	山	仙	合	三	uan、üan、ian	知系→uan、來母→ian
78	山	薛	合	三	uo、üe、ie	知系→uo、來母→ie
79	山	元	合	三	an、uan、üan	非敷奉母→an、微母→uan、見系→üan
80	山	月	合	三	a、ua、üe	非敷奉母→a、微母→ua、見系→üe
81	山	先	合	四	üan	
82	山	屑	合	四	üe	
83	臻	痕	開	一	uen、en	透母→uen、見系→en
84	臻	沒	開	一	e	匣母のみある→he
85	臻	真	開	三	en、in	知系→en
86	臻	欣	開	三	in	
87	臻	質	開	三	i	
88	臻	臻	開	三	en	莊組のみある→en
89	臻	櫛	開		i/e	莊組のみある→i/e
90	臻	迄	開	三	i	
91	臻	魂	合	一	en、uen	幫組→en
92	臻	沒	合	一	u/o/ei、u	幫組→u/o/ei
93	臻	諄	合	三	uen/ün、uen、ün	精組→uen/ün、知章組來母→uen、見系→ün
94	臻	術	合	三	u/ü、u、ü	精組→u/ü、知章組→u、來母見系→ü
95	臻	真	合	三	ün	
96	臻	質	合		uai	
97	臻	文	合	三	en、uen、ün	生母→uai、微母→uen、見系→ün

98	臻	物	合	三	u/o、ü	非組→u/o、見系→ü
99	宕	唐	開	一	ang	
100	宕	鐸	開	一	o/ao、uo/ao、e/ao	幫組→o/ao、端系→uo/ao、見系→e/ao
101	宕	陽	開	三	ang、uang、iang	知章日組→ang、莊組→uang
102	宕	藥	開	三	uo/ao、üe/iao	知章日組→uo/ao
103	宕	唐	合	一	uang	
104	宕	鐸	合	一	uo	
105	宕	陽	合	三	ang、uang	非敷奉母→ang、微母見系→uang
106	宕	藥	合	三	u、üe	奉母→u、見系→üe
107	江	江	開	二	ang、uang、iang	幫組→ang、知莊組→uang、見系→iang
108	江	覺	開	二	o/ao/u、uo、e/uo/ü e/iao	幫組→o/ao/u、知莊組→uo、見系→e/uo/üe/iao
109	曾	登	開	一	eng	
110	曾	德	開	一	o/ei、e/ei	幫組→o/ei、端見系→e/ei
111	曾	蒸	開	三	eng、ing	知章日組→eng
112	曾	職	開	三	e/ai、i	莊組→e/ai
113	曾	登	合	一	ong	
114	曾	德	合	一	uo	
115	曾	職	合	三	ü	
116	梗	庚	開	二	eng/ing、ing	見系→eng/ing
117	梗	陌	開	二	o/ai、e/ai、e	幫組→o/ai、知莊組→e/ai、見系→e
118	梗	耕	開	二	eng/ing、eng	見系→eng/ing
119	梗	麥	開	二	o/ai、e/ai、e/ie	幫組→o/ai、知莊組→e/ai、見系→e/ie
120	梗	庚	開	三	ing	
121	梗	陌	開	三	i	
122	梗	清	開	三	eng、ing	知系→eng
123	梗	昔	開	三	i	
124	梗	青	開	四	ing	
125	梗	錫	開	四	i	
126	梗	庚	合	二	ong	
127	梗	陌	合	二	uo	
128	梗	耕	合	二	ong	
129	梗	麥	合	二	uo/uai/ua	
130	梗	庚	合	三	iong	
131	梗	清	合	三	ing	
132	梗	昔	合	三	i	
133	梗	青	合	四	iong/ing	
134	梗	錫	合	四	ü	
135	通	東	合	一	eng、ueng、ong	幫組→eng、影母→ueng
136	通	屋	合	一	u	
137	通	冬	合	一	ong	
138	通	沃	合	一	uo、u	影母→uo
139	通	東	合	三	eng、ong、ong/iong	非敷奉明母→eng、泥精組知系→ong、見系→ong/iong
140	通	屋	合	三	u、u/ü/iou、u/ou、uo、ü	非敷奉明母→u、泥精組→u/ü/iou、知章日組→u/ou、見系→ü
141	通	鐘	合	三	eng、ong、ong/iong	非敷奉母→eng、泥精組知系→ong、見系→ong/iong
142	通	燭	合	三	u/ü、u、ü	泥組→u/ü、精組知系→u、見系→ü

【資料2-2】 中古音の韻と日本漢字音の頭子音以外の部分の対応関係（簡略版→表2-17）

	中古音				日本漢字音			
	撰	韻目	開・合	等	漢音	備考（漢音）	吳音	備考（吳音）
1	果	歌	開	一	-a		-a	
2	果	戈	開	三	-ya		-ya/-a	
3	果	戈	合	一	-a、 -wa	牙喉音→-wa	-a、 -wa	牙喉音→-wa
4	果	戈	合	三	-wa		-	
5	仮	麻	開	二	-a		-a/-e、 -ya、 -a	齒音→-ya、 舌音→-a
6	仮	麻	開	三	ya、 -ya	牙喉音（以母）→ya	ya、 -ya	牙喉音（以母）→ya
7	仮	麻	合	二	-wa		-wa/-we	
8	遇	模	合	一	-o、 wo	牙喉音（影母）→wo	-u/-o、 -o、 u/wo	影母以外の牙喉音・齒音→-o、 牙喉音（影母）→u/wo
9	遇	虞	合	三	-u、 -yu、 yu、 -uu/-u、 -iu	齒音（三等・四等）・齒音（日母）→-yu、 牙喉音（以母）→yu、 齒音（二等）→-uu/-u、 来母以外の舌音→-iu	-u、 -yu、 -iu、 yu、 -yu/-u	齒音（二等・三等）→-yu、 齒音（日母）・来母以外の舌音→-iu、 牙喉音（以母）→yu、 齒音（四等）→-yu/-u
10	遇	魚	合	三	-yo、 yo、 -o/-yo	牙喉音（以母）→yo、 齒音（二等）→-o/-yo	-yo、 -o/-yo、 -o, yo	齒音（二等・四等）・舌音（来母）→-o/-yo、 以母以外の牙喉音→-o、 牙喉音（以母）→yo
11	蟹	咍	開	一	-ai		-ai	
12	蟹	泰	開	一	-ai		-ai	
13	蟹	皆	開	二	-ai		-ai、 -ai/-e	牙喉音→-ai/-e
14	蟹	佳	開	二	-ai		-ai、 -ai/-e	牙喉音→-ai/-e
15	蟹	夬	開	二	-ai		-ai、 -ai/-e	牙喉音→-ai/-e
16	蟹	祭	開	三	-ei		-ei、 -ai	齒音（四等）→-ai
17	蟹	廢	開	三	-ai		-ai	
18	蟹	齊	開	四	-ei		-ei、 -ai、 -ai/-ei	齒音→-ai、 舌音→-ai/-ei
19	蟹	灰	合	一	-ai、 -wai	牙喉音→-wai	-ai、 -we	牙喉音→-we
20	蟹	泰	合	一	-ai、 -wai	牙喉音→-wai	-ai、 -we	牙喉音→-we
21	蟹	皆	合	二	-wai、 -wa		-we	
22	蟹	佳	合	二	-wai、 -wa		-we	
23	蟹	夬	合	二	-wai、 -wa		-we	
24	蟹	祭	合	三	-ei、 -wei	牙喉音→-wei	-ei、 ei、 -we、 -ai	齒音（三等）→-ei、 牙喉音（以母）→ei、 牙喉音→-we、 齒音（四等）→-ai
25	蟹	廢	合	三	-wai		-we	
26	蟹	齊	合	三	-wei、 -ei		-we	
27	止	支	開	三	-i		-i	
28	止	脂	開	三	-i		-i	
29	止	之	開	三	-i		-i	
30	止	微	開	三	-i		-i	
31	止	支	合	三	-ui、 -wi、 -i、 wi	牙喉音（三等）→-wi、 牙喉音（四等）→-i、 牙喉音（以母）→wi	-ui、 -wi、 -i、 yui	牙喉音（三等）→-wi、 牙喉音（四等）→-i、 牙喉音（以母）→yui

32	止	脂	合	三	-ui、-wi、-i、wi	牙喉音(三等) →-wi、 牙喉音(四等) →-i、 牙喉音(以母) →wi	-ui、-wi、-i、yui	牙喉音(三等) →-wi、 牙喉音(四等) →-i、 牙喉音(以母) →yui
33	止	微	合	三	-ui、-wi、-i、wi	牙喉音(三等) →-wi、 牙喉音(四等) →-i、 牙喉音(以母) →wi	-ui、-wi、-i、yui	牙喉音(三等) →-wi、 牙喉音(四等) →-i、 牙喉音(以母) →yui
34	効	豪	開	一	-au、-ou	唇音→-ou	-au、-ou	唇音→-ou
35	効	肴	開	二	-au		-eu/-au、-eu	唇音・齒音→-eu/-au、牙喉音・舌音→-eu
36	効	宵	開	三	-eu		-eu	
37	効	蕭	開	四	-eu		-eu	
38	流	侯	開	一	-ou、-ou/-o	唇音→-ou/-o	-u/-o、-ou	齒音→-ou
39	流	尤	開	三	-iu、-ou、-u/-uu	唇音(明母) →-ou、明母以外の唇音→-u/-uu	-u、-yu、-iu、yu	齒音(二・三・四等) →-yu、齒音(日母)・來母以外の舌音→-iu、牙喉音(以母) →yu
40	流	幽	開	三	-iu、-iu/-eu	唇音→-iu/-eu	-eu、-eu/-iu	牙喉音→-eu/-iu
41	咸	覃	開	一	-am		-am/-om、-am	齒音→-am
42	咸	合	開	一	-ap		-ap、-ap/-op	牙喉音→-ap/-op
43	咸	談	開	一	-am		-am	
44	咸	盍	開	一	-ap		-ap	
45	咸	咸	開	二	-am		-am/-em	
46	咸	洽	開	二	-ap		-ap/-ep	
47	咸	銜	開	二	-am		-am/-em	
48	咸	狎	開	二	-ap		-ap/-ep	
49	咸	塩	開	三	-em		-em	
50	咸	葉	開	三	-ep		-ep	
51	咸	巖	開	三	-am、-em	唇音→-am、牙喉音→-em	-om、-om/-em	唇音→-om、牙喉音→-om/-em
52	咸	業	開	三	-ap、-ep		-op	
53	咸	添	開	四	-em		-em	
54	咸	帖	開	四	-ep		-ep	
55	咸	凡	合	三	-am、-em	唇音→-am、牙喉音→-em	-om、-om/-em	唇音→-om、牙喉音→-om/-em
56	咸	乏	合	三	-ap、-ep		-op	
57	深	侵	開	三	-im		-im、-om	唇音(三等)・牙喉音(三等)→-om
58	深	緝	開	三	-ip		-ip	
59	山	寒	開	一	-an		-an	
60	山	曷	開	一	-atu		-atu/-ati	
61	山	山	開	二	-an		-en/-an、-en、-an	齒音→-en、舌音→-an
62	山	黠	開	二	-atu		-atu/-ati、-atu/-ati/-etu/-eti	齒音→-atu/-ati/-etu/-eti
63	山	刪	開	二	-an		-en/-an、-en、-an	齒音→-en、舌音→-an

64	山	鍔	開	二	-atu		-atu/-ati、 -atu/-ati/- etu/-eti	齒音→-atu/-ati/- etu/-eti
65	山	仙	開	三	-en		-en	
66	山	薛	開	三	-etu		-etu、 -etu/- eti	齒音（三四等）→- etu/-eti
67	山	元	開	三	-an、 -en	唇音→-an、 牙喉音→- en	-on/-an、 -on	唇音→-on/-an、 牙喉 音→-on
68	山	月	開	三	-atu、 -etu	牙喉音→-etu	-otu/-atu/- ati、 -atu	牙喉音→-atu
69	山	先	開	四	-en		-en	
70	山	屑	開	四	-etu		-etu/-eti、 - etu	唇音・舌音→-etu
71	山	桓	合	一	-an、 -wan	牙喉音→-wan	-an、 -wan	牙喉音→-wan
72	山	末	合	一	-atu、 -watu	牙喉音→-watu	-atu、 -watu	牙喉音→-watu
73	山	山	合	二	-an、 -wan	牙喉音→-wan	-en、 wen	牙喉音→-wen
74	山	黠	合	二	-watu、 -atu	齒音→-atu	-watu	
75	山	刪	合	二	-an、 -wan	牙喉音→-wan	-en、 wen	牙喉音→-wen
76	山	鍔	合	二	-watu、 -atu	齒音→-atu	-watu	
77	山	仙	合	三	-en、 -wen	牙喉音（三等）→-wen	-en、 -wen	牙喉音（三等）→-wen
78	山	薛	合	三	-etu		-etu/-eti、 - etu	舌音→-etu
79	山	元	合	三	-wen		-won/-wan/- wen	
80	山	月	合	三	-wetu		-woti/-watu/- wati	
81	山	先	合	四	-wen	牙喉音→-wen	-wen	牙喉音→-wen
82	山	屑	合	四	-wetu		-wetu/-weti	
83	臻	痕	開	一	-on		-on	
84	臻	沒	開	一	-otu		-otu	
85	臻	真	開	三	-in		-in、 -on	牙喉音（三等）→-on
86	臻	欣	開	三	-un、 -in	牙喉音→-in	-on、 -un	唇音（微母）→-on
87	臻	質	開	三	-itu		-itu/-iti、 - otu、 -itu	牙喉音（三等）→- otu、 舌音→-itu
88	臻	臻	開	三	-in		-in、 -on	牙喉音（三等）→-on
89	臻	櫛	開	三	-itu		-itu/-iti、 - otu、 -itu	牙喉音（三等）→- otu、 舌音→-itu
90	臻	迄	開	三	-utu、 -itu	牙喉音→-itu	-otu/-oti、 - otu/-utu	唇音→-otu/-utu
91	臻	魂	合	一	-on、 won	牙喉音（影母）→won	-on、 won	牙喉音（影母）→won
92	臻	沒	合	一	-otu、 wotu	牙喉音（影母）→wotu	-otu/-oti	齒音→-otu/-oti
93	臻	諄	合	三	-yun、 -win/- in、 -in	牙喉音→-win/-in、 舌 音（来母）→-in	-yun、 -win/- in、 -in	牙喉音→-win/-in、 舌 音（来母）→-in
94	臻	術	合	三	-itu、 -yutu、 -otu	齒音（三四等）・来母 以外の舌音→-yutu、 齒音（二等）→-otu	-itu/-iti、 - yutu、 -otu	齒音（三四等）・来母 以外の舌音→-yutu、 齒音（二等）→-otu
95	臻	真	合	三	-yun、 -win/- in、 -in	牙喉音→-win/-in、 舌 音（来母）→-in	-yun、 -win/- in、 -in	牙喉音→-win/-in、 舌 音（来母）→-in

96	臻	質	合	三	-itu、-yutu、-otu	歯音（三四等）・来母以外の舌音→-yutu、歯音（二等）→-otu	-itu/-iti、-yutu、-otu	歯音（三四等）・来母以外の舌音→-yutu、歯音（二等）→-otu
97	臻	文	合	三	-un		-un	
98	臻	物	合	三	-utu		-utu	
99	宕	唐	開	一	-au		-au	
100	宕	鐸	開	一	-aku		-aku	
101	宕	陽	開	三	-yau、-au、yau	唇音・歯音（二等）→-au、牙喉音（以母）→yau	-yau、-au、-au/-yau、yau	唇音・歯音→-au、歯音（四等）・舌音（来母）→-au/-yau、牙喉音（以母）→yau
102	宕	菓	開	三	-yaku、yaku、-aku	牙喉音（以母）→yaku、唇音→-aku	-yaku、yaku、-aku、-yaku/-aku	牙喉音（以母）→yaku、唇音→-aku、歯音（四等）→-yaku/-aku
103	宕	唐	合	一	-wau	牙喉音→-wau	-wau	牙喉音→-wau
104	宕	鐸	合	一	-waku		-waku	
105	宕	陽	合	三	-yau/-wiyau、wau	牙喉音（影・云母）→wau	-yau/-wiyau/-wau、wau	牙喉音（影・云母）→wau
106	宕	菓	合	三	-waku/-wiyaku		-waku	
107	江	江	開	二	-au		-au、-au/-ou	歯音→-au/-ou
108	江	覺	開	二	-aku		-aku、-yaku	唇音（明母）→-yaku
109	曾	登	開	一	-ou		-ou	
110	曾	德	開	一	-oku		-oku	
111	曾	蒸	開	三	-you、-you/-ou	歯音（四等）→-you/-ou	-you、-you/-ou、-ou	牙喉音→-you/-ou、歯音（四等）→-ou
112	曾	職	開	三	-yoku、-yoku/-oku、yoku	歯音（二等）→-yoku/-oku、牙喉音→yoku	-iki、-oku、yoku	以母以外の牙喉音・歯音（四等）→-oku、牙喉音（以母）→yoku
113	曾	登	合	一	-ou		-ou	
114	曾	德	合	一	-oku		-oku/-waku	
115	曾	職	合	三	-yoku		-wiki	
116	梗	庚	開	二	-au、-au/-ei	歯音→-au/-ei	-yau、-au/-yau	唇音歯音→-au/-yau
117	梗	陌	開	二	-aku		-yaku/-aku	
118	梗	耕	開	二	-au、-au/-ei	歯音→-au/-ei	-yau、-au/-yau	唇音歯音→-au/-yau
119	梗	麥	開	二	-aku		-yaku/-aku	
120	梗	庚	開	三	-ei		-yau	
121	梗	陌	開	三	-eki		-yaku	
122	梗	清	開	三	-ei		-yau	
123	梗	昔	開	三	-eki		-yaku	
124	梗	青	開	四	-ei		-yau	
125	梗	錫	開	四	-eki		-yaku	
126	梗	庚	合	二	-wau		-wau	
127	梗	陌	合	二	-waku		-wiyaku/-waku	
128	梗	耕	合	二	-wau		-wau	
129	梗	麥	合	二	-waku		-wiyaku/-waku	
130	梗	庚	合	三	-wei		-yau/-wiyau	
131	梗	清	合	三	-ei		-yau/-wiyau	
132	梗	昔	合	三	eki		yaku	

133	梗	青	合	四	-wei		-yau/-wiyau	
134	梗	錫	合	四	-weki		—	
135	通	東	合	一	-ou、wou	牙喉音（影母）→wou	-u、-u/-uu、-ou、-ou/-uu	唇音→-u、牙喉音→-u/-uu、齒音→ou、舌音→-ou/-uu
136	通	屋	合	一	-oku、woku	牙喉音（影母）→woku	-oku、woku	牙喉音（影母）→woku
137	通	冬	合	一	-ou、wou	牙喉音（影母）→wou	-u、-u/-uu、-ou、-ou/-uu	唇音→-u、牙喉音→-u/-uu、齒音→ou、舌音→-ou/-uu
138	通	沃	合	一	-oku、woku	牙喉音（影母）→woku	-oku、woku	牙喉音（影母）→woku
139	通	東	合	三	-iu、-uu/-ou、-ou、iu、-iu/-uu	唇音・齒音(二等)→-uu/-ou、唇音(明母)→-ou、牙喉音(以母)→iu、齒音(四等)→-iu/-uu	-u/-uu、-u、yu、-yu/-ou、-yu、-iu	唇音(明母)→-u、牙喉音(以母)→yu、齒音(二等)→yu/-ou、齒音(三等)→yu、舌音→-iu
140	通	屋	合	三	-iku、-oku、-uku	唇音(明母)→-oku、明母以外の唇音→-uku	-iku、-oku、-uku	唇音(明母)・舌音(来母)→-oku、明母以外の唇音→-uku
141	通	鐘	合	三	-you、-ou、-wiyou、you	唇音→-ou、牙喉音→-wiyou、牙喉音(以母)→you	-u/-uu、yu/yuu/you、-yu、-yu/-yuu、-iu	牙喉音(以母)→yu/yuu/you、齒音(三等)→-yu、齒音(四等)→-yu、-yuu、舌音→-iu
142	通	燭	合	三	-yoku、-oku、yoku	唇音(明母)→-oku、牙喉音(以母)→yoku	-oku、yoku、-iku	牙喉音(以母)→yoku、齒音(日母)→-iku

【資料3-1】 中古音の字母・現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音の対応関係（簡略版  
→表3-1）

	中国語音		日本漢字音	
	中古音		呉音	漢音
	清濁	声母	頭子音	頭子音
1	全清	幫	b	ハ行
2	次清	滂	p	ハ行
3	全濁	並	p	ハ行
4	全濁	並	b	ハ行
5	次濁	明	m	マ行
6	全清	非	f	ハ行
7	次清	敷	f	ハ行
8	全濁	奉	f	ハ行
9	次濁	微	ゼロ (u介音)	マ行
10	全清	端	d	タ行
11	次清	透	t	タ行
12	全濁	定	t	ダ行
13	全濁	定	d	ダ行
14	次濁	泥	n	ナ行
15	全清	知	zh	タ行
16	次清	徹	ch	タ行
17	全濁	澄	ch	ダ行
18	全濁	澄	zh	ダ行
19	次濁	娘	n	ナ行
20	全清	見	g	ガ行
21	全清	見	j	カ行
22	次清	溪	k	カ行
23	次清	溪	q	カ行
24	全濁	群	q	ガ行
25	全濁	群	j	ガ行
26	次濁	疑	ゼロ (介音なし)	ガ行
27	次濁	疑	ゼロ (i介音)	ガ行
28	次濁	疑	ゼロ (u介音)	ガ行
29	全清	精	z	サ行
30	全清	精	j	サ行
31	次清	清	c	サ行
32	次清	清	q	サ行
33	全濁	從	c	ザ行
34	全濁	從	q	ザ行
35	全濁	從	z	ザ行
36	全濁	從	j	ザ行
37	全清	心	s	サ行
38	全清	心	x	サ行
39	全濁	邪	s	ザ行
40	全濁	邪	x	ザ行
41	全清	照	zh	サ行
42	次清	穿	ch	サ行
43	全濁	牀	ch	ザ行
44	全濁	牀	zh	ザ行
45	全清	審	sh	サ行
46	全濁	禪	sh	ザ行
47	全清	影	ゼロ (介音なし)	ア行
48	全清	影	ゼロ (i介音)	ア行
49	全清	影	ゼロ (u介音)	ア行
50	次清	曉	h	カ行
51	次清	曉	x	カ行
52	全濁	匣	h	ガ行 (一部ワ行)
53	全濁	匣	x	ガ行 (一部ワ行)
54	次濁	喻3	ゼロ (介音なし)	ワ行 (ヤ行)
55	次濁	喻3	ゼロ (i介音)	ワ行 (ヤ行)
56	次濁	喻3	ゼロ (u介音)	ワ行 (ヤ行)
57	次濁	喻4	ゼロ (介音なし)	ヤ行
58	次濁	喻4	ゼロ (i介音)	ヤ行
59	次濁	喻4	ゼロ (u介音)	ヤ行
60	次濁	來	l	ラ行
61	次濁	日	r	ナ行

【資料3-2】 中古音の韻・現代中国語音の韻母と日本漢字音の頭子音以外の部分の対応関係  
(簡略版→表3-3)

摂	中国語音				日本漢字音	
	中古音		現代中国語音		吳音	漢音
	韻目	開・合	等	韻母	頭子音以外の部分	頭子音以外の部分
1	果	歌	開	一 uo、 e	-a	-a
2	果	戈	開	三 ie	-ya、 -a	-ya
3	果	戈	合	一 o、 uo、 e	-a、 -wa	-a、 -wa
4	果	戈	合	三 üe	—	-wa
5	仮	麻	開	二 ia、 a	-a、 -e、 -ya	-a
6	仮	麻	開	三 e、 ie	ya、 -ya	ya、 -ya
7	仮	麻	合	二 ua	-wa、 -we	-wa
8	遇	模	合	一 ua	-u、 -o、 u、 wo	-o、 wo
9	遇	虞	合	三 u、 ü	-u、 -yu、 -iu、 yu	-u、 -yu、 yu、 -uu、 -iu
10	遇	魚	合	三 u、 ü	-yo、 -o、 yo	-yo、 yo、 -o
11	蟹	咍	開	一 ei、 ai	-ai	-ai
12	蟹	泰	開	一 ei、 ai	-ai	-ai
13	蟹	皆	開	二 ie、 ai	-ai、 -e	-ai
14	蟹	佳	開	二 ie、 ai	-ai、 -e	-ai
15	蟹	夬	開	二 ai	-ai、 -e	-ai
16	蟹	祭	開	三 i	-ei、 -ai	-ei
17	蟹	廢	開	三 i	-ai	-ai
18	蟹	齊	開	四 i	-ei、 -ai	-ei
19	蟹	灰	合	一 ei、 uei	-ai、 -we	-ai、 -wai
20	蟹	泰	合	一 ei、 uei、 uai	-ai、 -we	-ai、 -wai
21	蟹	皆	合	二 uai	-we	-wai、 -wa
22	蟹	佳	合	二 uai、 ua	-we	-wai、 -wa
23	蟹	夬	合	二 uai	-we	-wai、 -wa
24	蟹	祭	合	三 uei	-ei、 ei、 -we、 -ai	-ei、 -wei
25	蟹	廢	合	三 ei、 uei	-we	-wai
26	蟹	齊	合	三 uei	-we	-wei、 -ei
27	止	支	開	三 i、 ei、 er	-i	-i
28	止	脂	開	三 i、 ei、 er	-i	-i
29	止	之	開	三 i、 er	-i	-i
30	止	微	開	三 i	-i	-i
31	止	支	合	三 ei、 uai、 uei	-ui、 -wi、 -i、 yui	-ui、 -wi、 -i、 wi
32	止	脂	合	三 ei、 uai、 uei	-ui、 -wi、 -i、 yui	-ui、 -wi、 -i、 wi
33	止	微	合	三 ei、 uei	-ui、 -wi、 -i、 yui	-ui、 -wi、 -i、 wi
34	効	豪	開	一 ao	-au、 -ou	-au、 -ou
35	効	肴	開	二 iao、 ao	-eu、 -au	-au
36	効	宵	開	三 ao、 iao	-eu	-eu
37	効	蕭	開	四 iao	-eu	-eu
38	流	俟	開	一 ou	-u、 -o、 -ou	-ou、 -o
39	流	尤	開	三 ou、 u、 ao、 iou	-u、 -yu、 -iu、 yu	-iu、 -ou、 -u、 -uu
40	流	幽	開	三 iao、 iou	-eu、 -iu	-iu、 -eu
41	咸	覃	開	一 an	-am、 -om	-am
42	咸	合	開	一 a、 e	-ap、 -op	-ap
43	咸	談	開	一 an	-am	-am
44	咸	盍	開	一 a、 e	-ap	-ap
45	咸	咸	開	二 ian、 an	-am、 -em	-am
46	咸	洽	開	二 ia、 a	-ap、 -ep	-ap
47	咸	銜	開	二 ian、 an	-am、 -em	-am
48	咸	狎	開	二 ia	-ap、 -ep	-ap
49	咸	塩	開	三 an、 ian	-em	-em

50	咸	葉	開	三	e、ie	-ep	-ep
51	咸	嚴	開	三	ian	-om、-em	-am、-em
52	咸	業	開	三	ie	-op	-ap、-ep
53	咸	添	開	四	ian	-em	-em
54	咸	帖	開	四	ie	-ep	-ep
55	咸	凡	合	三	an	-om、-em	-am、-em
56	咸	乏	合	三	a	-op	-ap、-ep
57	深	侵	開	三	en、in	-im、-om	-im
58	深	緝	開	三	i、e、u	-ip	-ip
59	山	寒	開	一	an	-an	-an
60	山	曷	開	一	a、e	-atu、-ati	-atu
61	山	山	開	二	ian、an	-en、-an	-an
62	山	黠	開	二	ia、a	-atu、-ati、-etu、-eti	-atu
63	山	刪	開	二	ian、an	-en、-an	-an
64	山	鐸	開	二	ia、a	-atu、-ati、-etu、-eti	-atu
65	山	仙	開	三	an、ian	-en	-en
66	山	薛	開	三	e、ie	-etu、-eti	-etu
67	山	元	開	三	ian	-on、-an	-an、-en
68	山	月	開	三	ie	-otu、-atu、-ati	-atu、-etu
69	山	先	開	四	ian	-en	-en
70	山	屑	開	四	ie	-etu、-eti	-etu
71	山	桓	合	一	an、uan	-an、-wan	-an、-wan
72	山	末	合	一	o、uo	-atu、-watu	-atu、-watu
73	山	山	合	二	uan	-en、wen	-an、-wan
74	山	黠	合	二	ua	-watu	-watu、-atu
75	山	刪	合	二	uan	-en、wen	-an、-wan
76	山	鐸	合	二	ua	-watu	-watu、-atu
77	山	仙	合	三	uan、üan、ian	-en、-wen	-en、-wen
78	山	薛	合	三	uo、üe、ie	-etu、-eti	-etu
79	山	元	合	三	an、uan、üan	-won、-wan、-wen	-wen
80	山	月	合	三	a、ua、üe	-woti、-watu、-wati	-wetu
81	山	先	合	四	üan	-wen	-wen
82	山	屑	合	四	üe	-wetu、-weti	-wetu
83	臻	痕	開	一	uen、en	-on	-on
84	臻	沒	開	一	e	-otu	-otu
85	臻	真	開	三	en、in	-in、-on	-in
86	臻	欣	開	三	in	-on、-un	-un、-in
87	臻	質	開	三	i	-itu、-iti、-out	-itu
88	臻	臻	開	三	en	-in、-on	-in
89	臻	櫛	開		i、e	-itu、-iti、-out	-itu
90	臻	迄	開	三	i	-otu、-oti、-utu	-utu、-itu
91	臻	魂	合	一	en、uen	-on、won	-on、won
92	臻	沒	合	一	u、o、ei	-otu、-oti	-otu、wotu
93	臻	諄	合	三	uen、ün	-yun、-win、-in	-yun、-win、-in
94	臻	術	合	三	u、ü	-itu、-iti、-yutu、-otu	-itu、-yutu、-otu
95	臻	真	合	三	ün	-yun、-win、-in	-yun、-win、-in
96	臻	質	合		uai	-itu、-iti、-yutu、-otu	-itu、-yutu、-otu
97	臻	文	合	三	en、uen、ün	-un	-un
98	臻	物	合	三	u、o、ü	-utu	-utu
99	宕	唐	開	一	ang	-au	-au
100	宕	鐸	開	一	o、ao、uo、e	-aku	-aku

101	宕	陽	開	三	ang、uang、iang	-yau、-au、yau	-yau、-au、yau
102	宕	藁	開	三	uo、ao、üe、iao	-yaku、yaku、-aku	-yaku、yaku、-aku
103	宕	唐	合	一	uang	-wau	-wau
104	宕	鐸	合	一	uo	-waku	-waku
105	宕	陽	合	三	ang、uang	-yau、-wiyau、-wau、wau	-yau、-wiyau、wau
106	宕	藁	合	三	u、üe	-waku	-waku、-wiyaku
107	江	江	開	二	ang、uang、iang	-au、-ou	-au
108	江	覺	開	二	o、ao、u、uo、e、ü、iao	-aku、-yaku	-aku
109	曾	登	開	一	eng	-ou	-ou
110	曾	德	開	一	o、ei、e	-oku	-oku
111	曾	蒸	開	三	eng、ing	-you、-ou	-you、-ou
112	曾	職	開	三	e、ai、i	-iki、-oku、yoku	-yoku、-oku、yoku
113	曾	登	合	一	ong	-ou	-ou
114	曾	德	合	一	uo	-oku、-waku	-oku
115	曾	職	合	三	ü	-wiki	-yoku
116	梗	庚	開	二	eng、ing	-yau、-au	-au、-ei
117	梗	陌	開	二	o、ai、e	-yaku、-aku	-aku
118	梗	耕	開	二	eng、ing	-yau、-au	-au、-ei
119	梗	麥	開	二	o、ai、e、ie	-yaku、-aku	-aku
120	梗	庚	開	三	ing	-yau	-ei
121	梗	陌	開	三	i	-yaku	-eki
122	梗	清	開	三	eng、ing	-yau	-ei
123	梗	昔	開	三	i	-yaku	-eki
124	梗	青	開	四	ing	-yau	-ei
125	梗	錫	開	四	i	-yaku	-eki
126	梗	庚	合	二	ong	-wau	-wau
127	梗	陌	合	二	uo	-wiyaku、-waku	-waku
128	梗	耕	合	二	ong	-wau	-wau
129	梗	麥	合	二	uo、uai、ua	-wiyaku、-waku	-waku
130	梗	庚	合	三	iong	-yau、-wiyau	-wei
131	梗	清	合	三	ing	-yau、-wiyau	-ei
132	梗	昔	合	三	i	yaku	eki
133	梗	青	合	四	iong、ing	-yau、-wiyau	-wei
134	梗	錫	合	四	ü	—	-weki
135	通	東	合	一	eng、ueng、ong	-u、-uu、-ou	-ou、wou
136	通	屋	合	一	u	-oku、woku	-oku、woku
137	通	冬	合	一	ong	-u、-uu、-ou	-ou、wou
138	通	沃	合	一	uo、u	-oku、woku	-oku、woku
139	通	東	合	三	eng、ong、iong	-u、-uu、yu、-yu、-ou、-iu	-iu、-uu、-ou、iu
140	通	屋	合	三	u、ü、iou、ou、uo	-iku、-oku、-uku	-iku、-oku、-uku
141	通	鐘	合	三	eng、ong、iong	-u、-uu、yu、yuu、you、-yu、-yuu、-iu	-you、-ou、-wiyau、you
142	通	燭	合	三	u、ü	-oku、yoku、-iku	-yoku、-oku、yoku

【資料3-3】 現代中国語音の韻母と日本漢字音の頭子音以外の部分の対応関係（簡略版→表3-4）

現代中国語音	日本漢字音		
	具音		漢音
	韻母	頭子音以外の部分	頭子音以外の部分
1 a	-a、-e、-ya、-ap、-op、-ep、-atu、-ati、-etu、-eti、-woti、-watu、-wati	-a、-ap、-ep、-atu、-wetu	
2 ia	-a、-e、-ya、-ap、-ep、-atu、-ati、-etu、-eti	-a、-ap、-atu	
3 ua	-wa、-we、-u、-o、u、wo、-watu、-woti、-wati、-wiyaku、-waku	-wa、-o、wo、-wai、-watu、-atu、-wetu、-waku	
4 ai	-ai、-e、-iki、-oku、yoku、-yaku、-aku	-ai、-yoku、-oku、yoku、-aku	
5 uai	-ai、-we、-ui、-wi、-i、yui、-itu、-iti、-yutu、-otu、-wiyaku、-waku	-ai、-wai、-wa、-ui、-wi、-i、wi、-itu、-yutu、-otu、-waku	
6 ao	-aku、-yaku、-au、-ou、-eu、-u、-yu、-iu、yu、yaku、	-aku、-au、-ou、-eu、-iu、-u、-uu、-yaku、yaku	
7 iao	-eu、-au、-iu、-yaku、yaku、-aku	-au、-eu、-iu、-yaku、yaku、-aku	
8 an	-am、-om、-em、-an、-en、-wan、-won、-wen	-am、-em、-an、-en、-wan、-wen	
9 ian	-am、-em、-om、-en、-an、-on、-wen	-am、-em、-an、-en、-wen	
10 uan	-an、-wan、-en、wen、-wen、-won	-an、-wan、-en、-wen	
11 üan	-en、-wen、-won、-wan、	-en、-wen	
12 ang	-au、-yau、yau、-wiyau、-wau、wau、-ou	-au、-yau、yau、-wiyau、wau	
13 iang	-yau、-au、yau、-ou	-yau、-au、yau	
14 uang	-yau、-au、yau、-wau、-wiyau、wau	-yau、-au、yau、-wau、-wiyau、wau	
15 e	-a、-wa、ya、-ya、-ap、-op、-ep、-ip、-atu、-ati、-etu、-eti、-otu、-itu、-iti、-aku、-yaku、-oku、-iki、-yoku	-a、-wa、ya、-ya、-ap、-ep、-ip、-atu、-etu、-otu、-itu、-aku、-oku、-yoku、-yoku	
16 ei	-ai、-we、-i、-ui、-wi、yui、-otu、-oti、-oku	-ai、-wai、-i、-ui、-wi、wi、-otu、wotu、-oku	
17 uei	-ei、ei、-we、-ai、-ui、-wi、-i、yui	-ei、-wei、-ai、-wai、-ui、-wi、-i、wi	
18 ou	-u、-o、-ou、-yu、-iu、yu、-iku、-oku、-uku	-ou、-o、-iu、-u、-uu、-iku、-oku、-uku	
19 iou	-u、-yu、-iu、yu、-eu、-iku、-oku、-uku	-iu、-ou、-u、-uu、-eu、-iku、-oku、-uku	
20 en	-im、-om、-on、-in、won、-un	-im、-on、-in、won、-un	
21 uen	-on、won、-yun、-win、-in、-un	-on、won、-yun、-win、-in、-un	
22 eng	-ou、-you、-yau、-au、-u、-uu、yu、-yu、-iu、yu、you、-yuu	-ou、-you、-au、-ei、wou、-iu、-uu、iu、-wiyou、you	
23 ueng	-u、-uu、-ou	-ou、wou	
24 o	-a、-wa、-atu、-watu、-otu、-oti、-utu、-aku、-yaku、-oku	-a、-wa、-atu、-watu、-otu、wotu、-utu、-aku、-oku	
25 uo	-a、-wa、-atu、-watu、-etu、-eti、-aku、-yaku、-waku、-oku、-wiyaku、woku、-iku、-uku	-a、-wa、-atu、-watu、-etu、-aku、-yaku、-oku、-waku、woku、-iku、-uku	

26	ie	-ai, -e, -ep, -op, -etu, -eti, -otu, -atu, -ati, -yaku, -aku	-ai, -ep, -ap, -etu, -atu, -aku
27	üe	-etu, -eti, -woti, -watu, -wati, -wetu, -weti, -yaku, -waku, -aku	-wa, -etu, -wetu, -yaku, -aku, -waku, -wiyaku
28	i	-ei, -ai, -i, -ip, -itu, -iti, -otu, -oti, -utu, -iki, -oku, yoku, -yaku, yaku	-ei, -ai, -i, -ip, -itu, -utu, -yoku, -oku, yoku, -eki, eki
29	in	-im, -om, -in, -on, -un	-im, -in, -un
30	ing	-you, -ou, -yau, -au, -wiyau	-you, -ou, -au, -ei, -wei
31	u	-u, -yu, -iu, yu, -yo, -o, yo, -ip, -otu, -oti, -itu, -iti, -yutu, -utu, -waku, -aku, -yaku, -oku, woku, -iku, -uku, yoku	-u, -yu, yu, -uu, -iu, -yo, yo, -o, -ou, -ip, -otu, wotu, -itu, -yutu, -utu, -waku, -wiyaku, -aku, -oku, woku, -iku, -uku, -yoku, yoku
32	ong	-ou, -wau, -u, -uu, yu, -yu, -iu, yuu, you, -yuu	-ou, -wau, wou, -iu, -uu, iu, -you, -wiyou, you
33	ü	-u, -yu, -iu, yu, -yo, -o, yo, -itu, -iti, -yutu, -otu, -utu, -wiki, -iku, -oku, -uku, yoku	-u, -yu, yu, -uu, -iu, -yo, yo, -o, -itu, -yutu, -otu, -utu, -yoku, -weki, -iku, -oku, -uku, yoku
34	ün	-yun, -win, -in, -un	-yun, -win, -in, -un
35	iong	-yau, -wiyau, -u, -uu, yu, -yu, -ou, -iu, yuu, you, -yuu	-wei, -iu, -uu, -ou, iu, -you, -wiyou, you
36	er	-i	-i

【資料3-4】 現代中国語音の韻母と日本漢字音の主母音・特殊拍・入声韻尾の対応関係（簡略版→表3-5）

	現代 中国語音		日本漢字音							
			呉音			漢音				
	韻腹	韻母	主母音	特殊拍		入声 韻尾 の 有無	主母音	特殊拍		入声 韻尾 の 有無
				撥音 の 有無	長音 の 有無			撥音 の 有無	長音 の 有無	
1	[a]	a	ア段、エ段、オ段	×	○	○	ア段、エ段、オ段	×	○	○
2		ia	ア段、エ段、オ段	×	○	○	ア段、オ段	×	○	○
3		ua	ア段、エ段、ウ段、オ段	×	×	○	ア段、エ段、オ段	×	×	○
4		ai	ア段、イ段、エ段、オ段	×	×	○	ア段、オ段	×	×	○
5		uai	ア段、イ段、ウ段、エ段、オ段	×	×	○	ア段、イ段、ウ段、オ段	×	×	○
6		ao	ア段、イ段、ウ段、エ段、オ段	×	○	○	ア段、イ段、ウ段、オ段	×	○	○
7		iao	ア段、ウ段、オ段	×	○	○	ア段、ウ段、オ段	×	○	○
8		an	ア段、エ段、オ段	○	×	×	ア段、エ段	○	×	×
9		ian	ア段、エ段、オ段	○	×	×	ア段、エ段	○	×	×
10		uan	ア段、エ段、オ段	○	×	×	ア段、エ段	○	×	×
11		üan	ア段、エ段、オ段	○	×	×	エ段	○	×	×
12		ang	オ段	×	○	×	オ段	×	○	×
13		iang	オ段	×	○	×	オ段	×	○	×
14		uang	オ段	×	○	×	オ段	×	○	×
15	[ə]	e	ア段、イ段、エ段、オ段	×	○	○	ア段、イ段、ウ段、エ段、オ段	×	○	○
16		ei	ア段、イ段、ウ段、エ段、オ段	×	×	○	ア段、イ段、ウ段、オ段	×	×	○
17		uei	ア段、イ段、ウ段、エ段	×	○	×	ア段、イ段、ウ段、エ段	×	×	×
18		ou	イ段、ウ段、オ段	×	○	○	イ段、ウ段、オ段	×	○	○
19		iou	イ段、ウ段、オ段	×	○	○	イ段、ウ段、オ段	×	○	○
20		en	イ段、ウ段、オ段	○	×	×	イ段、ウ段、オ段	○	×	×
21		uen	イ段、ウ段、オ段	○	×	×	イ段、ウ段、オ段	○	×	×
22		eng	ウ段、オ段	×	○	×	ウ段、エ段、オ段	×	○	×
23		ueng	ウ段、オ段	×	○	×	オ段	×	○	×
24	[o]	o	ア段、ウ段、オ段	×	×	○	ア段、ウ段、オ段	×	×	○
25		uo	ア段、イ段、ウ段、エ段、オ段	×	×	○	ア段、イ段、ウ段、エ段、オ段	×	×	○
26	[e]	ie	ア段、エ段、オ段	×	○	○	ア段、エ段、オ段	×	○	○
27		üe	ア段、エ段、オ段	×	×	○	ア段、エ段	×	×	○
28	[i]	i	ア段、イ段、ウ段、エ段、オ段	×	○	○	ア段、イ段、ウ段、エ段、オ段	×	○	○
29		in	イ段、ウ段、オ段	○	×	×	イ段、ウ段	○	×	×
30		ing	オ段	×	○	×	エ段、オ段	×	○	×
31	[u]	u	ア段、イ段、ウ段、オ段	×	○	○	ア段、イ段、ウ段、オ段	×	○	○
32		ong	ウ段、オ段	×	○	×	ウ段、オ段	×	○	×
33	[y]	ü	イ段、ウ段、オ段	×	○	○	イ段、ウ段、エ段、オ段	×	○	○
34		ün	イ段、ウ段	○	×	×	イ段、ウ段、	○	×	×
35		iong	ウ段、オ段	×	○	×	ウ段、エ段、オ段	×	○	×
36	特別	er	イ段	×	×	×	イ段	×	×	×

【資料4-1】 2級新出漢字（多音字を除く）における現代中国語音の声母と日本漢字音の頭子音（簡略版→表4-7）

	現代中国語音		日本漢字音			2級新出漢字（多音字を除く）			
	声母	字数(A)	頭子音	字数(B)	対応率(=B/A)				
1	b	29	ハ行	25	86.2%	般	版	包	(後略)
			バ行	4	13.8%	棒	暴	爆	(後略)
2	p	15	ハ行	12	80.0%	拍	俳	砲	(後略)
			バ行	3	20.0%	盤	盆	膨	
3	f	20	ハ行	17	85.0%	販	犯	範	(後略)
			バ行	3	15.0%	凡	防	罰	
4	m	36	バ行	11	30.6%	馬	買	壳	(後略)
			マ行	24	66.7%	脈	満	慢	(後略)
			ハ行	1	2.8%	秘			
5	d	37	タ行	30	81.1%	達	答	帶	(後略)
			ダ行	5	13.5%	導	第	独	(後略)
			ザ行	2	5.4%	疊	盾		
6	t	27	タ行	18	66.7%	他	塔	態	(後略)
			ダ行	7	25.9%	駄	榦	童	(後略)
			サ行	1	3.7%	推			
			ザ行	1	3.7%	條			
7	n	9	ダ行	1	11.1%	努			
			ナ行	7	77.8%	南	難	脳	(後略)
			ガ行	1	11.1%	逆			
8	l	35	ラ行	35	100.0%	落	賴	欄	(後略)
9	g	35	カ行	34	97.1%	改	乾	感	(後略)
			ガ行	1	2.9%	概			
10	k	18	カ行	18	100.0%	開	刊	勘	(後略)
11	h	27	カ行	20	74.1%	寒	航	好	(後略)
			ガ行	3	11.1%	害	豪	互	
			ワ行	2	7.4%	和	惑		
			ア行	1	3.7%	横			
			マ行	1	3.7%	耗			
12	j	77	カ行	50	64.9%	飢	基	及	(後略)
			ガ行	6	7.8%	郡	擊	激	(後略)
			サ行	19	24.7%	積	集	籍	(後略)
			ザ行	2	2.6%	剤	絶		
13	q	34	カ行	20	58.8%	期	奇	企	(後略)
			ガ行	2	5.9%	棋	碁		
			サ行	11	32.4%	戚	齋	錢	(後略)
			ザ行	1	2.9%	情			
14	x	53	カ行	26	49.1%	吸	希	系	(後略)
			ガ行	3	5.7%	嫌	現	限	
			サ行	15	28.3%	析	鮮	消	(後略)

			ザ行	9	17.0%	像	邪	徐	(後略)
15	zh	56	タ行	21	37.5%	択	張	帳	(後略)
			サ行	31	55.4%	札	斎	掌	(後略)
			ザ行	4	7.1%	状	蒸	助	(後略)
			夕行	8	30.8%	超	徹	程	(後略)
16	ch	26	ダ行	1	3.8%	伝			
			サ行	11	42.3%	查	成	赤	(後略)
			ザ行	6	23.1%	臣	乘	持	(後略)
			サ行	35	72.9%	殺	沙	山	(後略)
17	sh	48	ザ行	13	27.1%	善	繕	剩	(後略)
			ヤ行	2	22.2%	冗	弱		
18	r	9	ヤ行	3	33.3%	融	容	溶	
			ア行	1	11.1%	榮			
			サ行	1	11.1%	染			
			ナ行	2	22.2%	認	任		
			サ行	20	74.1%	姿	資	姉	(後略)
19	z	27	ザ行	6	22.2%	在	臓	罪	(後略)
			タ行	1	3.7%	沢			
			サ行	19	90.5%	擦	才	裁	(後略)
20	c	21	ザ行	2	9.5%	材	磁		
			サ行	16	84.2%	騒	色	森	(後略)
21	s	19	ザ行	3	15.8%	寺	隨	渋	
			ガ行	15	14.9%	額	巖	岩	(後略)
22	ゼロ	101	ア行	45	44.6%	挨	愛	暗	(後略)
			ヤ行	27	26.7%	羊	陽	養	(後略)
			ワ行	3	3.0%	湾	椀	碗	
			バ行	5	5.0%	亡	望	微	(後略)
			マ行	1	1.0%	未			
			カ行	4	4.0%	螢	硬	完	(後略)
			ザ行	1	1.0%	児			
			合計	22	759	69	759		

【資料4-2】 2級新出漢字（多音字を除く）における現代中国語音の韻母と日本漢字音の主母音及び頭子音以外の部分（簡略版→表4-10）

現代中国語音			日本漢字音						2級新出漢字（多音字除く）					
			主母音			頭子音以外の部分								
	韻母	字数(A)	対応関係	字数(B)	対応率(=B/A)	対応関係	字数(C)	対応率(=C/A)						
1	iang	18	才段	18	100.0%	ヨウ	10	55.6%	羊	陽	養	(後略)		
						オウ	8	44.4%	降	項	央	(後略)		
2	uang	14	才段	14	100.0%	オウ	10	71.4%	亡	王	往	(後略)		
						ヨウ	4	28.6%	況	床	粧	(後略)		
3	ang	16	才段	16	100.0%	オウ	11	68.8%	倉	党	方	(後略)		
						ヨウ	5	31.3%	張	掌	帳	(後略)		
4	eng	20	才段	16	80.0%	オウ	9	45.0%	耕	更	層	(後略)		
						ヨウ	7	35.0%	証	微	勝	(後略)		
			工段	3	15.0%	エイ	3	15.0%	成	程	整			
			ウ段	1	5.0%	ウ	1	5.0%	夢					
5	ueng	0	なし	0	0.0%	なし	0	0.0%						
6	iong	3	工段	1	33.3%	エイ	1	33.3%	永					
			ウ段	1	33.3%	ユウ	1	33.3%	勇					
			才段	1	33.3%	ヨウ	1	33.3%	兄					
7	ing	34	工段	22	64.7%	エイ	22	64.7%	兵	精	景	(後略)		
			才段	12	35.3%	オウ	3	8.8%	幸	硬	応			
						ヨウ	9	26.5%	頂	京	井	(後略)		
8	ong	28	才段	19	67.9%	オウ	12	42.9%	東	凍	功	(後略)		
						ヨウ	7	25.0%	共	供	恐	(後略)		
			ウ段	8	28.6%	ユウ	6	21.4%	融	終	衆	(後略)		
						ユ	1	3.6%	種					
			工段	1	3.6%	ウウ	1	3.6%	痛					
9	an	33	ア段	27	81.8%	アン	27	81.8%	誕	旦	乾	(後略)		
			工段	4	12.1%	エン	4	12.1%	扇	善	繕	(後略)		
			才段	2	6.1%	オン	2	6.1%	紺	凡				
10	uan	20	ア段	17	85.0%	アン	14	70.0%	完	端	短	(後略)		
						ワン	3	15.0%	湾	椀	碗			
			工段	3	15.0%	エン	3	15.0%	船	栓	伝			
11	üan	9	工段	8	88.9%	エン	8	88.9%	援	源	券	(後略)		
			ア段	1	11.1%	アン	1	11.1%	巻					
12	ian	38	工段	33	86.8%	エン	32	84.2%	煙	延	演	(後略)		
						エツ	1	2.6%	欠					
			ア段	4	10.5%	アン	4	10.5%	岩	監	鑑	(後略)		
			イ段	1	2.6%	イン	1	2.6%	眠					
13	en	16	イ段	11	68.8%	イン	11	68.8%	申	身	慎	(後略)		
			ウ段	2	12.5%	ウン	2	12.5%	霽	噴				
			才段	3	18.8%	オン	2	12.5%	恩	盆				

							オウ	1	6.3%	肯			
14	uen	14	才段	8	57.1%	オン	8	57.1%	温	村	混	(後略)	
			イ段	1	7.1%	イン	1	7.1%	輪				
			ウ段	5	35.7%	ユン	4	28.6%	瞬	盾	順	(後略)	
						ウン	1	7.1%	寸				
15	ün	8	ウ段	6	75.0%	ウン	3	37.5%	訓	郡	軍		
						Yun	3	37.5%	旬	巡	循		
			イ段	1	12.5%	イン	1	12.5%	均				
			才段	1	12.5%	オン	1	12.5%	遙				
16	in	16	イ段	16	100.0%	イン	16	100.0%	巾	繁	進	(後略)	
17	iao	25	才段	21	84.0%	ヨウ	19	76.0%	要	謡	曜	(後略)	
						オウ	2	8.0%	孝	効			
			ア段	4	16.0%	アク	3	12.0%	較	角	削		
						ヤク	1	4.0%	葉				
18	iou	18	ウ段	17	94.4%	ユウ	15	83.3%	悠	優	遊	(後略)	
						ユ	2	11.1%	油	酒			
			才段	1	5.6%	ヨウ	1	5.6%	幼				
			イ段	13	48.1%	イ	13	48.1%	維	委	位	(後略)	
19	uei	27	ア段	3	11.1%	アイ	3	11.1%	催	隊	罪		
			ウ段	8	29.6%	ワイ	7	25.9%	炊	垂	粹	(後略)	
						ユイ	1	3.7%	唯				
			工段	3	11.1%	エイ	3	11.1%	衛	釐	税		
20	uai	1	ア段	1	100.0%	アイ	1	100.0%	快				
21	ao	35	才段	32	91.4%	オウ	25	71.4%	宝	操	島	(後略)	
						ヨウ	5	14.3%	超	少	朝	(後略)	
						オ	1	2.9%	保				
						オク	1	2.9%	告				
			ウ段	1	2.9%	ウ	1	2.9%	矛				
			ア段	2	5.7%	アツ	1	2.9%	早				
						アク	1	2.9%	爆				
			才段	7	38.9%	オウ	7	38.9%	候	欧	投	(後略)	
22	ou	18	ウ段	10	55.6%	ユウ	6	33.3%	抽	収	州	(後略)	
						ユ	3	16.7%	首	寿	受		
						ウウ	1	5.6%	偶				
			イ段	1	5.6%	イ	1	5.6%	否				
23	ai	26	ア段	26	100.0%	アイ	22	84.6%	愛	才	裁	(後略)	
						アク	1	3.8%	拍				
						ヤク	1	3.8%	脈				
						ア	2	7.7%	派	汰			
			イ段	5	45.5%	イ	5	45.5%	悲	被	費	(後略)	
			ア段	2	18.2%	アイ	2	18.2%	梅	妹			

24	ei	11	ウ段	2	18. 2%	ワイ	1	9. 1%	類						
						ユウ	1	9. 1%	給						
			才段	2	18. 2%	オク	2	18. 2%	北	黒					
25	ia	6	ア段	6	100. 0%	ア	5	83. 3%	加	仮	架	(後略)			
						アツ	1	16. 7%	圧						
			工段	8	50. 0%	エツ	6	37. 5%	傑	潔	列	(後略)			
26	ie	16				エキ	1	6. 3%	液						
						エイ	1	6. 3%	掲						
		ア段	4	25. 0%	アイ	1	6. 3%	解							
					ヤ	2	12. 5%	謝	邪						
					ヤク	1	6. 3%	借							
27	ua	4	才段	4	25. 0%	ヨウ	4	25. 0%	葉	協	怯	(後略)			
			ア段	4	100. 0%	ア	3	75. 0%	華	嘩	瓦				
						アツ	1	25. 0%	刷						
28	uo	24	ア段	23	95. 8%	アク	8	33. 3%	穫	括	落	(後略)			
						ア	10	41. 7%	多	果	過	(後略)			
						アツ	3	12. 5%	撮	括	脱				
						ヤク	2	8. 3%	弱	着					
			ウ段	1	4. 2%	ユク	1	4. 2%	縮						
29	üe	5	ア段	4	80. 0%	アク	2	40. 0%	確	覚					
						ヤク	2	40. 0%	略	躍					
			工段	1	20. 0%	エツ	1	20. 0%	絶						
30	er	1	イ段	1	100. 0%	イ	1	100. 0%	児						
31	a	14	ア段	11	78. 6%	ア	4	28. 6%	查	馬	沙	(後略)			
						アツ	6	42. 9%	殺	札	擦	(後略)			
						アツ	1	7. 1%	納						
			才段	3	21. 4%	オウ	3	21. 4%	答	塔	蠍				
32	o	10	ア段	10	100. 0%	ア	4	40. 0%	波	破	魔	(後略)			
						アク	4	40. 0%	博	泊	漠	(後略)			
						アチ	1	10. 0%	鉢						
						アツ	1	10. 0%	末						
33	e	28	ア段	16	57. 1%	アク	8	28. 6%	策	額	各	(後略)			
						ア	4	14. 3%	歌	箇	河	(後略)			
						ヤ	2	7. 1%	捨	舍					
						ワ	1	3. 6%	和						
						ヤク	1	3. 6%	厄						
			才段	6	21. 4%	オク	5	17. 9%	得	徳	克	(後略)			
						ヨク	1	3. 6%	色						
			工段	5	17. 9%	エツ	4	14. 3%	徹	設	折	(後略)			
						エキ	1	3. 6%	責						
			ウ段	1	3. 6%	ユウ	1	3. 6%	渋						

34	i	117	イ段	64	54.7%	イ	55	47.0%	比	馳	池	(後略)
						イツ	7	6.0%	必	密	蜜	(後略)
						イキ	2	1.7%	識	織		
			エ段	32	27.4%	エイ	18	15.4%	稽	閉	幣	(後略)
						エキ	13	11.1%	滴	敵	績	(後略)
						エ	1	0.9%	是			
			ウ段	4	3.4%	ユウ	4	3.4%	及	級	集	(後略)
			オ段	7	6.0%	ヨク	4	3.4%	力	翌	植	(後略)
						オク	2	1.7%	息	億		
						オ	1	0.9%	碁			
35	u	61	ア段	10	8.5%	アイ	7	6.0%	第	祭	剤	(後略)
						ヤク	3	2.6%	逆	駆	役	
						オ	21	34.4%	捕	補	粗	(後略)
						オク	12	19.7%	穀	牧	速	(後略)
			ウ段	16	26.2%	オツ	2	3.3%	骨	突		
						ヨ	6	9.8%	署	処	諸	
						ウ	9	14.8%	膚	符	府	
						ウク	2	3.3%	福	副		
						ユク	2	3.3%	祝	熟		
						ユ	1	1.6%	殊			
36	ü	25	イ段	3	4.9%	ユウ	1	1.6%	柱			
						ユツ	1	1.6%	述			
						イク	3	4.9%	陸	築	畜	
						アク	1	1.6%	幕			
			オ段	16	64.0%	ヨ	11	44.0%	魚	余	与	(後略)
						ヨク	3	12.0%	浴	欲	曲	
						オ	1	4.0%	娛			
						オク	1	4.0%	繞			
合計			ウ段	7	28.0%	ウ	3	12.0%	宇	雨	句	
						ユ	2	8.0%	愉	需		
						ウツ	1	4.0%	屈			
						ユウ	1	4.0%	裕			
			イ段	1	4.0%	イキ	1	4.0%	域			
			エ段	1	4.0%	エキ	1	4.0%	劇			
				759		154	759					

【資料4-3】 2級新出漢字（多音字を除く）における現代中国語音の声母と漢音の頭子音  
(簡略版→表4-15)

	現代中国語音		漢音 (3.1 で導出した 対応関係)	漢音			2級新出漢字（多音字を除く）			
	声母	字数 (A)		頭子音	字数 (B)	対応率 (=B/A)				
1	b	22	ハ行	ハ行	22	100.0%	般	版	包	(後略)
2	p	8	ハ行	ハ行	8	100.0%	拍	俳	砲	(後略)
3	f	14	ハ行	ハ行	14	100.0%	販	犯	範	(後略)
4	m	12	バ行	バ行	11	91.7%	馬	買	壳	(後略)
			マ行	マ行	0	0.0%				
			ハ行	ハ行	1	8.3%	秘			
5	d	29	タ行	タ行	29	100.0%	達	答	帶	(後略)
6	t	13	タ行	タ行	13	100.0%	他	塔	態	(後略)
7	n	1	ダ行	ダ行	1	100.0%	努			
			ナ行	ナ行	0	0.0%				
8	l	32	ラ行	ラ行	32	100.0%	落	頬	欄	(後略)
9	g	32	カ行	カ行	32	100.0%	改	乾	感	(後略)
10	k	17	カ行	カ行	17	100.0%	開	刊	勘	(後略)
11	h	20	カ行	カ行	20	100.0%	寒	航	好	(後略)
12	j	59	カ行	カ行	45	76.3%	飢	基	及	(後略)
			サ行	サ行	14	23.7%	積	集	籍	(後略)
13	q	29	カ行	カ行	19	65.5%	期	奇	企	(後略)
			サ行	サ行	10	34.5%	戚	齐	錢	(後略)
14	x	34	カ行	カ行	22	64.7%	吸	希	系	(後略)
			サ行	サ行	12	35.3%	析	鮮	消	(後略)
15	zh	44	タ行	タ行	19	43.2%	択	張	帳	(後略)
			サ行	サ行	25	56.8%	札	斎	掌	(後略)
16	ch	18	タ行	タ行	8	44.4%	超	徹	程	(後略)
			サ行	サ行	10	55.6%	查	成	赤	(後略)
17	sh	29	サ行	サ行	29	100.0%	殺	沙	山	(後略)
18	r	6	ザ行	ザ行	2	33.3%	冗	弱		
			ヤ行	ヤ行	3	50.0%	融	容	溶	
			ア行	ア行	1	16.7%	榮			
19	z	17	サ行	サ行	16	94.1%	姿	資	婦	(後略)
			タ行	タ行	1	5.9%	沢			
20	c	16	サ行	サ行	16	100.0%	擦	才	裁	(後略)
21	s	16	サ行	サ行	16	100.0%	騒	色	森	(後略)
22	ゼロ	86	ガ行	ガ行	14	16.3%	額	巖	岩	(後略)
			ア行	ア行	40	46.5%	挨	愛	暗	(後略)
			ヤ行	ヤ行	20	23.3%	羊	陽	養	(後略)
			ワ行	ワ行	3	3.5%	湾	椀	碗	
			バ行	バ行	5	5.8%	亡	望	微	(後略)
			マ行	マ行	0	0.0%				
			カ行	カ行	3	3.5%	螢	硬	完	
			ザ行	ザ行	1	1.2%	児			
合計	22	554	33	37	554					

【資料4-4】 2級新出漢字（多音字を除く）における現代中国語音の韻母と漢音の主母音及び頭子音以外の部分の対応関係（簡略版→表4-19）

	現代 中国語音		漢音 (3.1で 導出した対応 関係)	漢音						2級新出漢字 (多音字を除く)					
				主母音			頭子音以外の部分								
	韻母	字数 (A)		対応 関係	字数 (B)	対応率 (=B/A)	対応 関係	字数 (C)	対応率 (=C/A)						
1	iang	11	才段	才段	11	100.0%	ヨウ	9	81.8%	羊	陽	養	(後略)		
							オウ	2	18.2%	降	項				
2	uang	11	才段	才段	11	100.0%	オウ	10	90.9%	亡	王	往	(後略)		
							ヨウ	1	9.1%	況					
3	ang	11	才段	才段	11	100.0%	オウ	8	72.7%	倉	党	方	(後略)		
							ヨウ	3	27.3%	張	掌	帳			
4	eng	11	才段	才段	8	72.7%	オウ	5	45.5%	耕	更	層	(後略)		
							ヨウ	3	27.3%	証	微	勝			
			工段	工段	3	27.3%	エイ	3	27.3%	成	程	整			
			ウ段	ウ段	0	0.0%		0	0.0%						
5	ueng	0	才段	才段	0	0.0%		0	0.0%						
6	iong	1	工段	工段	1	100.0%	エイ	1	100.0%	永					
			ウ段	ウ段	0	0.0%		0	0.0%						
			才段	才段	0	0.0%		0	0.0%						
7	ing	23	工段	工段	21	91.3%	エイ	21	91.3%	兵	精	景	(後略)		
			才段	才段	2	8.7%	オウ	2	8.7%	幸	硬				
8	ong	18	才段	才段	14	77.8%	オウ	7	38.9%	東	凍	功	(後略)		
							ヨウ	7	38.9%	共	供	恐	(後略)		
			ウ段	ウ段	3	16.7%	ユウ	3	16.7%	融	終	衆			
			エ段	エ段	1	5.6%	エイ	1	5.6%	栄					
9	an	22	ア段	ア段	21	95.5%	アン	21	95.5%	誕	旦	乾	(後略)		
			工段	工段	1	4.5%	エン	1	4.5%	扇					
10	uan	18	ア段	ア段	16	88.9%	アン	13	72.2%	完	端	短	(後略)		
							ウン	3	16.7%	湾	椀	碗			
			工段	工段	2	11.1%	エン	2	11.1%	船	栓				
11	üan	9	工段	工段	8	88.9%	エン	8	88.9%	援	源	券	(後略)		
			ア段	ア段	1	11.1%	アン	1	11.1%	巻					
12	ian	28	工段	工段	24	85.7%	エン	24	85.7%	煙	延	演	(後略)		
			ア段	ア段	4	14.3%	アン	4	14.3%	岩	監	鑑	(後略)		
13	en	11	イ段	イ段	8	72.7%	イン	8	72.7%	申	身	慎	(後略)		
			ウ段	ウ段	1	9.1%	ウン	1	9.1%	霧					
			才段	才段	2	18.2%	オン	1	9.1%	恩					
14	uen	10	才段	才段	8	80.0%	オン	8	80.0%	温	村	混	(後略)		
			イ段	イ段	1	10.0%	イン	1	10.0%	輪					
			ウ段	ウ段	1	10.0%	ウン	1	10.0%	瞬					
15	ün	3	ウ段	ウ段	1	33.3%	ウン	1	33.3%	訓					
			イ段	イ段	1	33.3%	イン	1	33.3%	均					

				オ段	1	33.3%	オン	1	33.3%	遙			
16	in	16	イ段	イ段	16	100.0%	イン	16	100.0%	巾	繁	進	(後略)
			ウ段	ウ段	0	0.0%		0	0.0%				
17	iao	22	オ段	オ段	19	86.4%	ヨウ	17	77.3%	要	謡	曜	(後略)
							オウ	2	9.1%	孝	効		
			ア段	ア段	3	13.6%	アク	2	9.1%	較	角		
							ヤク	1	4.5%	薬			
18	iou	15	ウ段	ウ段	0	0.0%		0	0.0%				
			ウ段	ウ段	15	100.0%	ユウ	15	100.0%	悠	優	遊	(後略)
			イ段	イ段	0	0.0%		0	0.0%				
19	uei	20	オ段	オ段	0	0.0%		0	0.0%				
			イ段	イ段	12	60.0%	イ	12	60.0%	維	委	位	(後略)
			ア段	ア段	2	10.0%	アイ	2	10.0%	催	隊		
			ウ段	ウ段	5	25.0%	ウイ	5	25.0%	炊	垂	粹	(後略)
20	uai	1	エ段	エ段	1	5.0%	エイ	1	5.0%	衛			
			ア段	ア段	1	100.0%	アイ	1	100.0%	快			
			イ段	イ段	0	0.0%		0	0.0%				
			ウ段	ウ段	0	0.0%		0	0.0%				
21	ao	23	オ段	オ段	23	100.0%	オウ	18	78.3%	宝	操	島	(後略)
							ヨウ	5	21.7%	超	少	朝	(後略)
			ア段	ア段	0	0.0%		0	0.0%				
			ウ段	ウ段	0	0.0%		0	0.0%				
22	ou	13	イ段	イ段	0	0.0%		0	0.0%				
			オ段	オ段	7	53.8%	オウ	7	53.8%	候	欧	投	(後略)
			ウ段	ウ段	6	46.2%	ユウ	6	46.2%	抽	収	州	(後略)
23	ai	19	イ段	イ段	0	0.0%		0	0.0%				
			ア段	ア段	19	100.0%	アイ	18	94.7%	愛	才	裁	(後略)
							アク	1	5.3%	拍			
24	ei	9	オ段	オ段	0	0.0%		0	0.0%				
			イ段	イ段	4	44.4%	イ	4	44.4%	悲	被	費	(後略)
			ア段	ア段	1	11.1%	アイ	1	11.1%	梅			
25	ia	5	ウ段	ウ段	2	22.2%	ウイ	1	11.1%	類			
							ユウ	1	11.1%	給			
			オ段	オ段	2	22.2%	オク	2	22.2%	北	黒		
26	ie	10	ア段	ア段	5	100.0%	ア	5	100.0%	加	仮	架	(後略)
			オ段	オ段	0	0.0%		0	0.0%				
26	ie	10	エ段	エ段	5	50.0%	エツ	4	40.0%	傑	潔	列	(後略)
							エキ	1	10.0%	液			
			ア段	ア段	2	20.0%	アイ	1	10.0%	解			
							ヤ	1	10.0%	謝			

			才段	才段	3	30.0%	ヨウ	3	30.0%	葉	協	怯	
27	ua	4	ア段	ア段	4	100.0%	ア	3	75.0%	華	嘩	瓦	
							アツ	1	25.0%	刷			
			工段	工段	0	0.0%		0	0.0%				
			才段	才段	0	0.0%		0	0.0%				
28	uo	18	ア段	ア段	17	94.4%	アク	7	38.9%	穢	拡	落	(後略)
							ア	6	33.3%	多	果	過	(後略)
							アツ	2	11.1%	撮	括		
							ヤク	2	11.1%	弱	着		
			ウ段	ウ段	1	5.6%	ユク	1	5.6%	縮			
			イ段	イ段	0	0.0%		0	0.0%				
			工段	工段	0	0.0%		0	0.0%				
			才段	才段	0	0.0%		0	0.0%				
29	üe	4	ア段	ア段	4	100.0%	アク	2	50.0%	確	覚		
							ヤク	2	50.0%	略	躍		
			工段	工段	0	0.0%		0	0.0%				
30	er	1	イ段	イ段	1	100.0%	イ	1	100.0%	児			
31	a	12	ア段	ア段	9	75.0%	ア	4	33.3%	查	馬	沙	(後略)
							アツ	5	41.7%	殺	札	擦	(後略)
			才段	才段	3	25.0%	オウ	3	25.0%	答	塔	蠅	
			工段	工段	0			0	0.0%				
32	o	6	ア段	ア段	6	100.0%	ア	2	33.3%	波	破		
							アク	4	66.7%	博	泊	漠	(後略)
			ウ段	ウ段	0	0.0%		0	0.0%				
			才段	才段	0	0.0%		0	0.0%				
33	e	23	ア段	ア段	14	60.9%	アク	8	34.8%	策	額	各	(後略)
							ア	4	17.4%	歌	箇	河	(後略)
							ヤ	2	8.7%	捨	舍		
			才段	才段	5	21.7%	オク	4	17.4%	得	徳	克	(後略)
							ヨク	1	4.3%	色			
			工段	工段	4	17.4%	エツ	4	17.4%	徹	設	折	(後略)
			イ段	イ段	0	0.0%		0	0.0%				
			ウ段	ウ段	0	0.0%		0	0.0%				
34	i	86	イ段	イ段	50	58.1%	イ	49	57.0%	比	馳	池	(後略)
							イツ	1	1.2%	必			
			工段	工段	28	32.6%	エイ	17	19.8%	稽	閑	幣	(後略)
							エキ	11	12.8%	滴	敵	績	(後略)
			ウ段	ウ段	4	4.7%	ユウ	4	4.7%	及	級	集	(後略)
			才段	才段	4	4.7%	ヨク	4	4.7%	力	翌	植	(後略)
			ア段	ア段	0	0.0%		0	0.0%				
							才	19	45.2%	捕	補	粗	(後略)

35	u	42	オ段	オ段	30	71.4%	ヨ	5	11.9%	署	処	諸	(後略)
							オク	4	9.5%	穀	牧	速	(後略)
							オツ	2	4.8%	骨	突		
			ウ段	ウ段	9	21.4%	ウ	6	14.3%	膚	符	府	(後略)
							ウク	1	2.4%	福			
							ユク	1	2.4%	祝			
							ユ	1	2.4%	殊			
			イ段	イ段	3	7.1%	イク	3	7.1%	陸	築	畜	
			エ段	エ段	0	0.0%		0	0.0%				
36	ü	18	オ段	オ段	13	72.2%	ヨ	9	50.0%	魚	余	与	(後略)
							ヨク	3	16.7%	浴	欲	曲	
							オ	1	5.6%	娛			
			ウ段	ウ段	5	27.8%	ウ	3	16.7%	宇	雨	句	
							ユ	1	5.6%	愉			
							ウツ	1	5.6%	屈			
			イ段	イ段	0	0.0%		0	0.0%				
			エ段	エ段	0	0.0%		0	0.0%				
			合計	35	554		98	68	554		105	554	

【資料5-1】 予備調査の調査票（簡略版→表5-1）

2級新出漢語の読み方に関する調査

出身地：（　　）省（　　）市  
 日本語学習歴：（　　）年（　　）ヶ月  
 来日年数：（　　）年（　　）ヶ月

以下は全て日本語能力試験2級レベルに相当する漢語です。これらの漢語の読み方（つまり音読み）を（　　）の中に書いてください。自信がある場合は①の下に、自信がない場合は②の下にご記入ください。空欄のないようにお願い致します。（20分）

番号	漢語	①	②
[1]	外交	(　　)	(　　)
[2]	分野	(　　)	(　　)
[3]	続々	(　　)	(　　)
[4]	符号	(　　)	(　　)
[5]	機関	(　　)	(　　)
[6]	得意	(　　)	(　　)
[7]	中心	(　　)	(　　)
[8]	公平	(　　)	(　　)
[9]	信号	(　　)	(　　)
[10]	注目	(　　)	(　　)
[11]	自然	(　　)	(　　)
[12]	攻撃	(　　)	(　　)
[13]	被害	(　　)	(　　)
[14]	入社	(　　)	(　　)
[15]	自治	(　　)	(　　)
[16]	歌手	(　　)	(　　)
[17]	応用	(　　)	(　　)
[18]	曲	(　　)	(　　)
[19]	郡	(　　)	(　　)
[20]	塔	(　　)	(　　)
[21]	簽案	(　　)	(　　)
[22]	混合	(　　)	(　　)
[23]	夫人	(　　)	(　　)
[24]	分解	(　　)	(　　)
[25]	流行	(　　)	(　　)
[26]	毛布	(　　)	(　　)
[27]	是非	(　　)	(　　)
[28]	人気	(　　)	(　　)
[29]	国語	(　　)	(　　)
[30]	鉄砲	(　　)	(　　)
[31]	内科	(　　)	(　　)
[32]	友好	(　　)	(　　)
[33]	評価	(　　)	(　　)
[34]	人種	(　　)	(　　)
[35]	莫大	(　　)	(　　)
[36]	税	(　　)	(　　)
[37]	外出	(　　)	(　　)
[38]	誤解	(　　)	(　　)
[39]	永遠	(　　)	(　　)
[40]	余裕	(　　)	(　　)
[41]	解答	(　　)	(　　)
[42]	風景	(　　)	(　　)
[43]	紺	(　　)	(　　)
[44]	活字	(　　)	(　　)
[45]	最中	(　　)	(　　)
[46]	着々	(　　)	(　　)
[47]	器用	(　　)	(　　)
[48]	収入	(　　)	(　　)
[49]	明確	(　　)	(　　)

ご協力、どうもありがとうございました！

【資料5-2】 本調査の調査票（日本語版）（簡略版→表5-3）

2級新出漢語の読み方に関する調査

学年：\_\_\_\_\_ 年生 出身地：（ ）省（ ）市

日本語学習歴：（ ）年（ ）ヶ月

日本に行ったことがある？ ある／ない

以下は全て日本語能力試験2級の語彙表から抽出したものです。（ ）の中に読み方（音読み）を書いてください。自信がある場合は①の欄に、あまり自信がない場合は②の欄に、全く自信がない場合は③の欄にご記入ください。空欄のないようにお願い致します。

番号	漢語	①	②	③
[1]	外交	( )	( )	( )
[2]	分野	( )	( )	( )
[3]	続々	( )	( )	( )
[4]	符号	( )	( )	( )
[5]	機関	( )	( )	( )
[6]	得意	( )	( )	( )
[7]	中心	( )	( )	( )
[8]	公平	( )	( )	( )
[9]	信号	( )	( )	( )
[10]	注目	( )	( )	( )
[11]	自然	( )	( )	( )
[12]	攻撃	( )	( )	( )
[13]	被害	( )	( )	( )
[14]	入社	( )	( )	( )
[15]	自治	( )	( )	( )
[16]	歌手	( )	( )	( )
[17]	応用	( )	( )	( )
[18]	曲	( )	( )	( )
[19]	郡	( )	( )	( )
[20]	塔	( )	( )	( )
[21]	答案	( )	( )	( )
[22]	混合	( )	( )	( )
[23]	夫人	( )	( )	( )
[24]	分解	( )	( )	( )
[25]	流行	( )	( )	( )
[26]	毛布	( )	( )	( )
[27]	是非	( )	( )	( )
[28]	人気	( )	( )	( )
[29]	国語	( )	( )	( )
[30]	鉄砲	( )	( )	( )
[31]	内科	( )	( )	( )
[32]	友好	( )	( )	( )
[33]	評価	( )	( )	( )
[34]	人種	( )	( )	( )
[35]	莫大	( )	( )	( )
[36]	税	( )	( )	( )
[37]	外出	( )	( )	( )
[38]	誤解	( )	( )	( )
[39]	永遠	( )	( )	( )
[40]	余裕	( )	( )	( )
[41]	解答	( )	( )	( )
[42]	風景	( )	( )	( )
[43]	紺	( )	( )	( )
[44]	活字	( )	( )	( )
[45]	最中	( )	( )	( )
[46]	着々	( )	( )	( )
[47]	器用	( )	( )	( )
[48]	収入	( )	( )	( )
[49]	明確	( )	( )	( )

ご協力、どうもありがとうございました！

【資料5-3】 確信度別の正答率と全体の正答率（簡略版→表5-4）

回答者	自信がある(J)			あまり自信がない(A)			全く自信がない(M)			全体(Z)		
	総数 (Jt)	正答数 (Jc)	正答率 (=Jc/Jt)	総数 (At)	正答数 (Ac)	正答率 (=Ac/At)	総数 (Mt)	正答数 (Mc)	正答率 (=Mc/Mt)	調査総数 (Zt)	総正答数 (Zc)	総正答率 (=Zc/Zt)
1	21	21	100.0%	15	7	46.7%	13	0	0.0%	49	28	57.1%
2	13	13	100.0%	18	9	50.0%	18	4	22.2%	49	26	53.1%
3	16	16	100.0%	9	6	66.7%	24	4	16.7%	49	26	53.1%
4	35	33	94.3%	12	5	41.7%	2	0	0.0%	49	39	79.6%
5	31	29	93.5%	14	6	42.9%	4	0	0.0%	49	35	71.4%
6	12	11	91.7%	8	6	75.0%	29	5	17.2%	49	22	44.9%
7	36	33	91.7%	10	4	40.0%	3	1	33.3%	49	38	77.6%
8	12	11	91.7%	16	9	56.3%	21	2	9.5%	49	22	44.9%
9	33	30	90.9%	13	3	23.1%	3	0	0.0%	49	33	67.3%
10	21	19	90.5%	10	7	70.0%	18	3	16.7%	49	29	59.2%
11	29	26	89.7%	9	4	44.4%	11	1	9.1%	49	31	63.3%
12	25	22	88.0%	13	9	69.2%	11	2	18.2%	49	33	67.3%
13	22	19	86.4%	27	6	22.2%	0	0	0.0%	49	25	51.0%
14	27	23	85.2%	5	2	40.0%	17	3	17.6%	49	28	57.1%
15	20	17	85.0%	12	8	66.7%	17	8	47.1%	49	33	67.3%
16	33	28	84.8%	5	3	60.0%	11	1	9.1%	49	32	65.3%
17	13	11	84.6%	12	6	50.0%	24	1	4.2%	49	18	36.7%
18	18	15	83.3%	22	4	18.2%	9	0	0.0%	49	19	38.8%
19	12	10	83.3%	23	11	47.8%	14	1	7.1%	49	22	44.9%
20	23	19	82.6%	11	5	45.5%	15	2	13.3%	49	26	53.1%
21	17	14	82.4%	9	4	44.4%	23	5	21.7%	49	23	46.9%
22	27	22	81.5%	18	2	11.1%	4	1	25.0%	49	25	51.0%
23	31	25	80.6%	12	1	8.3%	6	1	16.7%	49	27	55.1%
24	22	17	77.3%	6	5	83.3%	21	3	14.3%	49	25	51.0%
25	25	19	76.0%	16	9	56.3%	8	0	0.0%	49	29	59.2%
26	8	6	75.0%	7	7	100.0%	34	7	20.6%	49	20	40.8%
27	20	15	75.0%	12	5	41.7%	17	7	41.2%	49	27	55.1%
28	19	14	73.7%	12	2	16.7%	18	0	0.0%	49	16	32.7%
29	26	19	73.1%	16	7	43.8%	7	1	14.3%	49	27	55.1%
30	11	8	72.7%	16	8	50.0%	22	0	0.0%	49	16	32.7%
31	25	18	72.0%	15	8	53.3%	9	1	11.1%	49	24	49.0%
32	22	15	68.2%	17	12	70.6%	10	1	10.0%	49	28	57.1%
33	28	19	67.9%	16	3	18.8%	5	0	0.0%	49	22	44.9%
34	18	12	66.7%	15	4	26.7%	16	6	37.5%	49	22	44.9%
35	26	17	65.4%	11	5	45.5%	12	0	0.0%	49	22	44.9%
36	20	13	65.0%	8	5	62.5%	21	4	19.0%	49	22	44.9%
37	16	10	62.5%	13	3	23.1%	20	1	5.0%	49	14	28.6%
38	8	5	62.5%	7	4	57.1%	34	11	32.4%	49	20	40.8%
39	18	11	61.1%	14	3	21.4%	17	3	17.6%	49	17	34.7%
40	25	13	52.0%	6	1	16.7%	18	3	16.7%	49	17	34.7%
41	1	0	0.0%	34	13	38.2%	14	0	0.0%	49	13	26.5%
平均			78.0%			46.0%			13.0%			51.0%

【資料5-4】 漢語別の人数と回答（簡略版→表5-5）

	漢語	①自信がある			②あまり自信がない			③全く自信がない			
		小計 (名)	内訳		小計 (名)	内訳		小計 (名)	内訳		
1	人気	★39	にんき36	にんげん1	(後略)	2	にんき2			0	該当なし
2	自然	★38	しぜん35	しせん1	(後略)	2	しぜん1	しつぜん1		1	しぜん1
3	入社	★38	にゅうしや33	にゅうしや2	(後略)	2	にゅうしや2			1	にゅうしや1
4	誤解	★38	ごかい33	こかい1	(後略)	1	ごかい1			2	もうか1 むかいい1
5	得意	★37	とくい37			4	とくい3	とうい1		0	該当なし
6	被害	★36	ひがい34	ひが1	(後略)	3	ひがい1	がいひ1	(後略)	2	ひかい2
7	機関	★35	きかん32	きかい3		3	きかん1	きこう1	(後略)	3	きかん1 きかい1 (後略)
8	歌手	★35	かしゅ27	かしゅう6	(後略)	5	かしゅ3	うたしゅ1	(後略)	1	うたで1
9	外出	★35	がいしゅつ32	かいしゅつ1	(後略)	5	がいしゅつ5			1	かいしゅう
10	中心	★31	ちゅうしん30	ちゅうおん1		7	ちゅうしん4	じゅうしん1	(後略)	3	ちゅうしん2 ちゅうせい1
11	収入	★30	しゅうにゅう26	しゅにゅう2	(後略)	6	しゅうにゅう4	しゅにゅう1	(後略)	5	しゅうにゅう2 しゅにゅう (後略)
12	内科	★28	ないか27	ないこう1		13	ないか12	ないもく1		0	該当なし
13	風景	★27	ふうけい19	ふけい4	(後略)	13	ふけい4	ふうけい3	(後略)	1	ぶ1
14	注目	★24	ちゅうもく19	ちゅうめ2	(後略)	14	ちゅうもく10	ちゅうめ2	(後略)	3	ちゅうもく2 ちゅうむ1
15	国語	★24	こくご22	ごご1	(後略)	13	こくご12	かくご1		4	くにご1 こっこ1 (後略)
16	曲	★23	きょく19	きやく1	(後略)	9	きょく4	きょく1	(後略)	9	ちゅ2 きょく1 (後略)
17	公平	★22	こうへい22			13	こうへい8	こうへ2	(後略)	6	こうへい4 こうせい1 (後略)
18	信号	★22	しんごう9	しんご8	(後略)	12	しんこう7	しんごう1	(後略)	7	しんこう3 しんこ1 (後略)
19	続々	★21	つきづき7	つづ6	(後略)	7	つづ5	ぞくぞく1	(後略)	13	つづ4 つきづき3 (後略)
20	是非	★18	ぜひ16	せひ1	(後略)	11	しひ4	ぜひ1	(後略)	12	しひ6 しさい2 (後略)
21	永遠	★18	えいえん13	ようえん4	(後略)	12	おうえん2	えいえん1	(後略)	11	ようえん2 ようお1 (後略)
22	友好	★17	ゆうこう17			14	ゆうこう10	ゆうほう1	(後略)	10	ゆうこう3 ようこう2 (後略)
23	流行	★16	りゅうこう13	りゅうこう2	(後略)	10	りゅうこう6	りゅうしん1	(後略)	15	りゅうこう6 りゅうけい2 (後略)
24	人種	9	じんしゅ3	にんしゅ3	(後略)	★26	にんしゅ4	じんしゅ3	(後略)	6	にんじゅう1 ひとりい1 (後略)
25	外交	15	がいこう11	かいこう1	(後略)	★22	がいこう11	かいこう6	(後略)	4	がいこう1 かいこう1 (後略)

26	応用	17	おうよう16	おうよん1		★19	おうよう10	おんよう5	(後略)	5	おうよう3	ほうよう1	(後略)
27	明確	14	めいかく13	めんたく1		★19	めいかく11	めいがく1	(後略)	8	めいかく5	めいしか1	(後略)
28	分解	10	ぶんかい5	ふんかい3	(後略)	★19	ぶんかい10	ふんかい5	(後略)	11	ぶんかい3	わかい1	(後略)
29	自治	4	じち2	しじ	(後略)	★19	しじ4	しち1	(後略)	18	じし4	じじ4	(後略)
30	最中	17	さいちゅう17			★18	さいちゅう14	さいちゅ2	(後略)	6	さいちゅう5	さいなか1	
31	夫人	8	ふじん4	おくさん2	(後略)	★18	ふじん11	ふうじん4	(後略)	15	ふじん7	ふうじん3	(後略)
32	紺	1	こん1			5	かん2	こん1	(後略)	★35	かん9	がん3	(後略)
33	郡	2	くん2			5	じゅん1	じゅう1	(後略)	★34	くん10	しゅん2	(後略)
34	莫大	1	もくたい1			9	もうだい3	ばくだい1	(後略)	★31	もうだい6	もだい6	(後略)
35	鉄砲	0	該当なし			10	てっぽう2	てっぽ2	(後略)	★31	てっぽう2	ていほう2	(後略)
36	毛布	2	もうふ2			10	もうふ3	もふう2	(後略)	★29	もうふ8	もぬの3	(後略)
37	塔	3	とう3			10	とう2	た2	(後略)	★28	た7	たい4	(後略)
38	着々	2	きぎ1	きやくぎやく1		14	きぎ4	つきづき2	(後略)	★25	きぎ5	とくどく3	(後略)
39	符号	3	ふごう2	ぶこう1		14	ふごう3	ふうこう2	(後略)	★24	ふこう8	ふうこう3	(後略)
40	活字	6	かつじ4	がつじ1	(後略)	12	かつじ7	かくじ1	(後略)	★23	ほうじ5	かつじ4	(後略)
41	余裕	7	ゆうよく2	よゆう1	(後略)	12	よゆう2	えいよう2	(後略)	★22	よゆう2	ようゆう2	(後略)
42	攻撃	8	こうげき4	こうきゅう1	(後略)	13	こうき3	こうげき2	(後略)	★20	こうげき2	こうき2	(後略)
43	分野	13	ぶんや11	ふんや2		9	ぶんや5	ふんや1	(後略)	★19	ふんや4	ぶんの4	(後略)
44	解答	7	かいとう5	かとう1	(後略)	16	かいとう5	かいこう2	(後略)	★18	かいたつ3	かいとう2	(後略)
45	混合	13	こんごう8	こんご3	(後略)	12	こんごう2	こんこう2	(後略)	★16	こんこう3	こんごう2	(後略)
46	器用	10	きよう9	きゅう1		15	きよう15			★16	きよう13	せいよう1	(後略)
47	答案	13	とうあん8	こうあん3	(後略)	13	たあん4	とうあん2	(後略)	★15	とうあん3	だんあん2	(後略)
48	税	★15	ぜい9	ぜ3	(後略)	11	ぜ3	ぜい1	(後略)	★15	ぜい2	ぜ2	(後略)
49	評価	13	ひょうか7	へいか4	(後略)	★14	へいか7	ひょうか3	(後略)	★14	へいか8	ひょうか1	(後略)

## 【資料7-1】 WEB教材（日本語版）（第1課→図7-3～7-7、図7-10）

west [title] 2015/06/02 15:02:42

Options Virtual KeyBoard Admin Menu Submit Answers  連続認識 state:OFF

Home  
アイコンの説明  
第1課 音読みと訓読み  
本日の学習  
豆知識  
第2課 多音字  
本日の学習  
本日の暗記  
第3課 中国語の声母と日本語の頭子音  
本日の学習  
本日の暗記  
第4課 清音と濁音  
本日の学習  
本日の暗記  
第5課 中国語の韻母と日本語の主母音  
本日の学習  
本日の暗記  
第6課 長母音と短母音  
本日の学習  
本日の暗記  
第7課 長母音と撥音  
本日の学習  
本日の暗記  
第8課 入声韻尾  
本日の学習  
本日の暗記  
第9課 促音化  
本日の学習  
豆知識  
第10課 連濁  
本日の学習  
豆知識

# 中国語母語話者のための日本語音読み学習教材

## 音読みについて



**1. これはどんな教材？**

本教材では、中国語を母語とする日本語学習者が日本語の音読みを習得していく上で、間違えやすい10の課題を取り上げています。これらの課題は、10課に分かれています。それぞれの課では、学習者が中国語音の知識を活用して課題を解決する方法を学習することができます。

**注意：**本教材は、ある日本語の漢字の音読みが清音か濁音か、長母音か短母音かなどを判断するのに、そして、ある音読みで読まれる単語が「促音化」あるいは「連濁」が起るかどうかを判断するのに適しています。読み方が全く分からぬ音読み語に関しては、正答率はそれほど高くありません。しかし、本教材で学習した知識を活用することで正答に近い回答を推測することはできます。

**2. 学習者はどんな人？**

以下の2つの条件を満たす方です。

① 中国語を母語とする日本語学習者。  
② 日本語能力試験N2合格を目指して、これから勉強を始める人、または今勉強している人。

**3. 教材の構成は？**

本教材は第1課～第10課まで構成されています。一日一課のペースで学習することをお勧めします。10課のうち、**第1課～第8課**では、「音読み語」の構成要素である「漢字」の1字1字の発音について学習します。

**finish** **next**

[title] 2015/06/02 15:02:42

**west**

Options ▾ Virtual Keyboard Admin Menu ▾ Submit Answers |  連続認識 | state:OFF

アイコンの説明

**アイコン**

1. 質疑応答&教材編集



2. 理解度チェック



**アイコンの説明**

1. 質疑応答&教材編集

- (1) ? を左クリックすると質問ができます。学習する際に分からぬことがあつたら、ここで質問をしてください。
- (2) + を左クリックすると、メモを取ることができます。メモを書いた後、必ず保存 (Submit & close) してください。他の学習者はあなたのメモを見ることができません。
- (3) ? を右クリックすると 📝 アイコンが表示されます。
- (4) A を左クリックすると、教材内容を自分が好きなように改編できます。改編した後は保存する (Submit & close) のを忘れないでください。他の学習者はあなたが改編した教材を見ることができません。
- (5) A を左クリックすると、教材内容が隠れます。もう一度 A を左クリックすれば、隠された教材内容が再び表示されるようになります。

2. 理解度チェック

(1) 理解度チェックとは？

理解度チェック  X  ☺  ☹  ☺  ☹  ☺

☞ 本教材の各課には「理解度チェック」（上の図）があります。左から「お手上げ」「何とか理解した」「だいたい理解した」「殆ど理解した」「完璧！」という順になっています。

back finish next

240

[title] 2015/06/02 15:02:42

west

Options ▾ Virtual Keyboard Admin Menu ▾ Submit Answers |  連続認識 | state:OFF

本日の学習 豆知識

第1課 音読みと訓読み>本日の学習  
!! 0.00 / 100.00

## 音読みについて



**1. 本課の目標**

音読みと訓読みの特徴を覚えて、ある漢字の発音、またはある漢字語彙の発音を見た時に、その発音が音読みか訓読みかを判断できるようになることです。

**2. 基礎知識**



日本語の漢字には、音読みと訓読み2種類の読み方があります。  
音読み（オンヨミ）は中国から伝わった発音を基にしてできた読みです。訓読み（ケンヨミ）は日本で使われていた語を当てた読みです。

	音読み	訓読み
人	ジン、ニン	ひと
男	ダン	おとこ
女	ジョ	おんな

**3. 基本ルール（音読みと訓読みの特徴）**

**【特徴1】 漢字1つ仮名1つの場合**  
**大体音読みです。**

例：「私（し）」、「我（が）」、「破（は）」

**練習問題**

本日学習した知識を利用して以下の問題を解いてください。解き終わったら  を押してください。そうすると、得点（ページの左上）と次の学習へ進むボタン（ページの下部）が表示されます。

- (1) 「布（ぬの）」は  です。  から判断しました。
- (2) 「歌（か）」は  です。  から判断しました。
- (3) 「駅（えき）」は  です。  から判断しました。
- (4) 「鉄（てつ）」は  です。  から判断しました。
- (5) 「兄（きょう）」は  です。  から判断しました。
- (6) 「材（ざい）」は  です。  から判断しました。
- (7) 「哀れむ（あわれむ）」は  です。  から判断しました。
- (8) 「郡（ぐん）」は  です。

**back** **finish** **next**

west

[title] 2015/06/02 15:02:42

- [Home](#)
- [アイコンの説明](#)
- [第1課 音読みと訓読み](#)
- [本日の学習](#)
- [豆知識](#)
- [第2課 多音字](#)
- [本日の学習](#)
- [本日の暗記](#)
- [第3課 中国語の声母と日本語の頭子音](#)
- [本日の学習](#)
- [本日の暗記](#)
- [第4課 清音と濁音](#)
- [本日の学習](#)
- [本日の暗記](#)
- [第5課 中国語の韻母と日本語の主母音](#)
- [本日の学習](#)
- [本日の暗記](#)
- [第6課 長母音と短母音](#)
- [本日の学習](#)
- [本日の暗記](#)
- [第7課 長母音と撥音](#)
- [本日の学習](#)
- [本日の暗記](#)
- [第8課 入声韻尾](#)
- [本日の学習](#)
- [本日の暗記](#)
- [第9課 促音化](#)
- [本日の学習](#)
- [豆知識](#)
- [第10課 連濁](#)
- [本日の学習](#)
- [豆知識](#)

Options ▾ Virtual Keyboard Admin Menu ▾ Submit Answers |  連続認識 state:OFF | [ ]

本日の学習 豆知識

第1課 音読みと訓読み>豆知識

[title] 2015/08/30 8:53:49

### 1. 吳音・漢音・唐音・慣用音とは？

伝わってきた時代と場所の違いによって、音読みはさらに「**吳音**」・「**漢音**」・「**唐音**」に分けることができます。また、それ以外に「**慣用音**」という音読みもあります。

**呉音・漢音・唐音・慣用音について**

**漢音(カンオン)**：7～9世紀のころ「隋」や「唐」からの留学生や遣唐使などが持ってきたものです。

**吳音(ゴオン)**：漢音が伝来する以前に日本で行われていた漢字の発音をまとめたものです。

**唐音(トウイン)**：宋代から清代中期にかけて日本に渡來したものです。

**慣用音(カンヨウオン)**：吳音・漢音などの体系から外れており、慣用的に使われてきたものです。



### 2. 例

「行」「経」「瓶」「納」「女」「和」「子」7字の音読みは、以下の通りです。「一」は、読みがないことを意味します。

	吳音	漢音	唐音	慣用音
行	ギョウ	コウ	アン	一
	行列	銀行	行火	

back finish next

west [title] 2015/06/02 15:02:42

- Home
- アイコンの説明
- 第1課 音読みと訓読み
  - 本日の学習
  - 豆知識
- 第2課 多音字
  - 本日の学習
  - 本日の暗記
- 第3課 中国語の声母と日本語の頭子音
  - 本日の学習
  - 本日の暗記
- 第4課 清音と濁音
  - 本日の学習
  - 本日の暗記
- 第5課 中国語の韻母と日本語の主母音
  - 本日の学習
  - 本日の暗記
- 第6課 長母音と短母音
  - 本日の学習
  - 本日の暗記
- 第7課 長母音と撥音
  - 本日の学習
  - 本日の暗記
- 第8課 入声韻尾
  - 本日の学習
  - 本日の暗記
- 第9課 促音化
  - 本日の学習
  - 豆知識
- 第10課 連濁
  - 本日の学習
  - 豆知識

Options ▾ Virtual Keyboard Admin Menu ▾ Submit Answers |  連続認識 state:OFF | [ ]

本日の学習 本日の暗記

第2課 多音字>本日の学習

!! 0.00 / 100.00

[title] 2015/07/31 8:16:52

## 多音字について



1. **本課の目標**

多音字22字及びその発音を全て覚えさえすれば、これらの漢字が使われている音読み語の発音を推測することができるようになります。

2. **基礎知識**



日本語に、「多音字」という言い方はありません。本教材では、音読みが1つある漢字と音読みが2つ以上ある漢字を区別するために、後者を「多音字」と読んでいます。

例	漢字	音読み①	音読み②
月	今月(ゲツ)	正月(ガツ)	
図	図(ト)書館	地図(ズ)	
人	人(ジン)口	人(ニン)形	

3. **多音字**

2級新出音読み語の使用漢字（781字）のうち、多音字は22字あります。その22字で作った、次の中国語の文をまずは覚えてください。

象負重登木、次、土平石頭坊。弟言極率直、然、漁判諺省東（「余」同音）

練習問題

本日学習した知識を利用して以下の問題を解いてください。解き終わったら **Check** を押してください。得点（ページの左上）と次の学習へ進むボタン（ページの下部）が表示されます。

- (1) 「反省」の場合の「省」の読み方は「」です。「反省」以外の場合では「省」の読み方は「」です。
- (2) 「土地」の場合の「土」の読み方は「」です。「土地」以外の場合では「土」の読み方は「」です。
- (3) 「天然」の場合の「然」の読み方は「」です。「天然」以外の場合では「然」の読み方は「」です。
- (4) 「弟子」の場合の「弟」の読み方は「」です。「弟子」以外の場合では「弟」の読み方は「」です。
- (5) 「登山」の場合の「登」の読み方は「」です。「登山」以外の場合では「登」の読み方は「」です。
- (6) 「知恵」の場合の「恵」の読み方は「」です。「知恵」以外の場合では「恵」の読み方は「」です。

back finish next

243

west

[title] 2015/06/02 15:02:42

- [Home](#)
- [アイコンの説明](#)
- [第1課 音読みと訓読み](#)
  - [本日の学習](#)
  - [豆知識](#)
- [第2課 多音字](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第3課 中国語の声母と日本語の頭子音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第4課 清音と濁音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第5課 中国語の韻母と日本語の主母音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第6課 長母音と短母音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第7課 長母音と撥音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第8課 入声韻尾](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第9課 促音化](#)
  - [本日の学習](#)
  - [豆知識](#)
- [第10課 連濁](#)
  - [本日の学習](#)
  - [豆知識](#)

Options ▾ Virtual KeyBoard Admin Menu ▾ Submit Answers |  連続認識 | state:OFF |

本日の学習 本日の暗記

第2課 多音字>本日の暗記

!! 0.00 / 100.00

[title] 2015/07/30 13:53:48

### 慣用音字



本日の暗記(1~10字)

音読み語	音読み語
1 銃(ジュウ)	6 詐する(バツ) *バツ
2 銅(ドウ)	7 蒸気(ジョウキ)
3 税(ゼイ)	8 宗教(シュウキョウ)
4 蜜(ミツ)	9 濃度(ノウド)
5 墓(ゴ)	10 概論(ガイロン)

\* 黄色部分の漢字と音読みを覚えてください。



音読み語 読み

(1)	免税	メン
(2)	蒸発	ハツ

[設問Check 97](#)

back finish next

west

[title] 2015/06/02 15:02:42

- [Home](#)
- [アイコンの説明](#)
- [第1課 音読みと訓読み](#)
  - [本日の学習](#)
  - [豆知識](#)
- [第2課 多音字](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第3課 中国語の声母と日本語の頭子音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第4課 清音と濁音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第5課 中国語の韻母と日本語の主母音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第6課 長母音と短母音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第7課 長母音と撥音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第8課 入声韻尾](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第9課 促音化](#)
  - [本日の学習](#)
  - [豆知識](#)
- [第10課 連濁](#)
  - [本日の学習](#)
  - [豆知識](#)

Options ▾ Virtual KeyBoard Admin Menu ▾ Submit Answers |  連続認識 | state:OFF | [title] 2015/08/02 10:40:13

本日の学習 本日の暗記

第3課 中国語の声母と日本語の頭子音>本日の学習

!! 0.00 / 100.00

## 中国語の声母と日本語の頭子音

1. 本課の目標

中国語の声母と日本語の頭子音の「**基本対応規則**」と「**補助対応規則**」を覚えた上で、ある漢字の音読みの頭子音を推測することができるようになります。

2. 基礎知識①

### 中国語の音節

中国語の音節について

- 現代中国語の音節構造は、一般的に声母と韻母と声調に分けられます。
- 声母は22個、韻母は36個、声調は4つあります。
- 韻母は、さらに「韻頭」「韻腹」「韻尾」に分けることができます。

\*「鐵」「愛」「完」「弟」「兄」の6字を例に、現代中国語の音節構造を見てみましょう。

ローマ字表記				
漢字	ピン イン		1音節	
			声母	韻母
			声母	韻頭 韵腹 韵尾
				声調

245 back finish next

west

[title] 2015/06/02 15:02:42

- Home
- アイコンの説明
- 第1課 音読みと訓読み
  - 本日の学習
  - 豆知識
- 第2課 多音字
  - 本日の学習
  - 本日の暗記
- 第3課 中国語の声母と日本語の頭子音>本日の暗記
  - 本日の学習
  - 本日の暗記
- 第4課 清音と濁音
  - 本日の学習
  - 本日の暗記
- 第5課 中国語の韻母と日本語の主母音
  - 本日の学習
  - 本日の暗記
- 第6課 長母音と短母音
  - 本日の学習
  - 本日の暗記
- 第7課 長母音と撥音
  - 本日の学習
  - 本日の暗記
- 第8課 入声韻尾
  - 本日の学習
  - 本日の暗記
- 第9課 促音化
  - 本日の学習
  - 豆知識
- 第10課 連濁
  - 本日の学習
  - 豆知識

Options ▾ Virtual Keyboard Admin Menu ▾ Submit Answers  連続認識 state:OFF

本日の学習 本日の暗記

第3課 中国語の声母と日本語の頭子音>本日の暗記

!! 0.00 / 100.00

[title] 2015/08/02 10:40:20

### 慣用音

本日の暗記(11~20字)

	音読み語	読み
11	保健(ホケン)	ホケン
12	早速(サッソク)	サッソク
13	爆発(バクハツ)	バクハツ
14	賛成(ゼイタク)	ゼイタク
15	推薦(スイセン)	スイセン
16	妥当(ダウ)	ダウ
17	脱線(ダッセン) *ダツ	ダッセン
18	受験(ジュケン)	ジュケン
19	否定(ヒタイ)	ヒタイ
20	掲示(ケイジ)	ケイジ

練習問題

本日学習した知識を利用して以下の問題を解いてください。

	音読み語	読み
(1)	保証	ショウ
(2)	推定	テイ
(3)	受話器	ワキ

設問Check\_26

back finish next

west

[title] 2015/06/02 15:02:42

- Home
- アイコンの説明
- 第1課 音読みと訓読み
  - 本日の学習
  - 豆知識
- 第2課 多音字
  - 本日の学習
  - 本日の暗記
- 第3課 中国語の声母と日本語の頭子音
  - 本日の学習
  - 本日の暗記
- 第4課 清音と濁音
  - 本日の学習
  - 本日の暗記
- 第5課 中国語の韻母と日本語の主母音
  - 本日の学習
  - 本日の暗記
- 第6課 長母音と短母音
  - 本日の学習
  - 本日の暗記
- 第7課 長母音と撥音
  - 本日の学習
  - 本日の暗記
- 第8課 入声韻尾
  - 本日の学習
  - 本日の暗記
- 第9課 促音化
  - 本日の学習
  - 豆知識
- 第10課 連濁
  - 本日の学習
  - 豆知識

Options ▾ Virtual Keyboard Admin Menu ▾ Submit Answers  連続認識 state:OFF

本日の学習 本日の暗記

第4課 清音と濁音>本日の学習

!! 0.00 / 100.00

[title] 2015/08/02 10:47:05

## 清音と濁音



### 1. 本課の目標

第3課では、中国語の声母と日本語の頭子音の対応関係について学習しました。第4課では、第3課で学習した内容を踏まえた上で、濁音になる漢字を覚えて、ある漢字が清音か濁音かを判断できるようになります。

### 2. 基礎知識

**濁音・半濁音・清音について**

**濁音(ダクオン)**: 「ガ」「ジュ」のように、濁点「」のついた音のことです。

**半濁音(ハンダクオン)**: 「バ」「ビュ」のように、半濁点「」のついた音のことです。

**清音(セイオン)**: 濁音、半濁音以外の音のことです。  
\* 清音は狭義では対応する濁音をもつ「カサタハ」行の音のみを指すこともあります。



### 3. 基本ルール

ある漢字の音読みが清音か濁音かで迷った時には、以下の基本ルールを使って判断してください。

◀ back finish ▶ next

west

[title] 2015/06/02 15:02:42

- Home
- アイコンの説明
- 第1課 音読みと訓読み
  - 本日の学習
  - 豆知識
- 第2課 多音字
  - 本日の学習
  - 本日の暗記
- 第3課 中国語の声母と日本語の頭子音
  - 本日の学習
  - 本日の暗記
- 第4課 清音と濁音>本日の暗記
  - 本日の学習
  - 本日の暗記
- 第5課 中国語の韻母と日本語の主母音
  - 本日の学習
  - 本日の暗記
- 第6課 長母音と短母音
  - 本日の学習
  - 本日の暗記
- 第7課 長母音と撥音
  - 本日の学習
  - 本日の暗記
- 第8課 入声韻尾
  - 本日の学習
  - 本日の暗記
- 第9課 促音化
  - 本日の学習
  - 豆知識
- 第10課 連濁
  - 本日の学習
  - 豆知識

Options ▾ Virtual Keyboard Admin Menu ▾ Submit Answers  連続認識 state:OFF

本日の学習 本日の暗記

第4課 清音と濁音>本日の暗記

!! 0.00 / 100.00

[title] 2015/08/02 10:47:16

### 慣用音

本日の暗記(21~30字)

	音読み語	音読み語
21	睡眠(スイミン)	執筆(シッピツ) * シツ
22	寸法(スンボウ)	滞在(タイザイ)
23	納得(ナットク)	迷信(メイシン)
24	責任(セキニン)	是非(セヒ)
25	渋滞(ジュウタイ)	批判(ヒバン)
26		
27		
28		
29		
30		

back finish next

練習問題

本日学習した知識を利用して以下の問題を解いてください。

	音読み語	読み
(1)	渋滞	ジュウ
(2)	迷惑	ワク
(3)	批評	ヒョウ

設問Check\_27

west

[title] 2015/06/02 15:02:42

- [Home](#)
- [アイコンの説明](#)
- [第1課 音読みと訓読み](#)
  - [本日の学習](#)
  - [豆知識](#)
- [第2課 多音字](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第3課 中国語の声母と日本語の頭子音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第4課 清音と濁音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第5課 中国語の韻母と日本語の主母音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第6課 長母音と短母音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第7課 長母音と撥音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第8課 入声韻尾](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第9課 促音化](#)
  - [本日の学習](#)
  - [豆知識](#)
- [第10課 連濁](#)
  - [本日の学習](#)
  - [豆知識](#)

Options ▾ Virtual KeyBoard Admin Menu ▾ Submit Answers |  連続認識 | state:OFF | [ ] ▾

本日の学習 本日の暗記

第5課 中国語の韻母と日本語の主母音>本日の学習

!! 0.00 / 100.00

[title] 2015/08/02 10:48:44

## 中国語の韻母と日本語の主母音



1. **本課の目標**

第3課では、中国語の声母と日本語の頭子音の対応関係について学習しました。第5課では、**中国語の韻母と日本語の1拍目の主母音**との「基本対応規則」と「補助対応規則」を覚えた上で、ある漢字の音読みの**主母音を推測することができるようになること**です。

2. **基礎知識**

**中国語の音節**

\*中国語の音節について、まだよく分からない人は、第3課の「基礎知識」をもう一度読んで、復習してください。

漢字 (繁体)	ピン イン	ローマ字表記				
		1音節			声調	
		韻母				
餓	è	ゼロ	e		'	
愛	ài	ゼロ	a	i	'	
完	wán	ゼロ	w	a	n	'
弟	dì	d	i			'
鉄	tiě	t	i	e		ˇ
兄	xiōng	x	i	o	ng	-

**back** **finish** **next**

249

west

[title] 2015/06/02 15:02:42

- [Home](#)
- [アイコンの説明](#)
- [第1課 音読みと訓読み](#)
  - [本日の学習](#)
  - [豆知識](#)
- [第2課 多音字](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第3課 中国語の声母と日本語の頭子音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第4課 清音と濁音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第5課 中国語の韻母と日本語の主母音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第6課 長母音と短母音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第7課 長母音と撥音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第8課 入声韻尾](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第9課 促音化](#)
  - [本日の学習](#)
  - [豆知識](#)
- [第10課 連濁](#)
  - [本日の学習](#)
  - [豆知識](#)

Options ▾ Virtual KeyBoard Admin Menu ▾ Submit Answers |  連続認識 | state:OFF |

本日の学習 本日の暗記

第5課 中国語の韻母と日本語の主母音>本日の暗記

!! 0.00 / 100.00

[title] 2015/08/02 10:48:50

### 慣用音



本日の暗記(31~40字)

	音読み語	読み
31	述語(ジュツゴ)	ケツ
32	需要(ジュヨウ)	ゲンタイ
33	偶然(グウゼン)	ボウダイ
34	絶滅(ゼツメツ)	シンド
35	噴水(フンスイ)	フクシ
36	欠席(ケッセキ)	テン
37	軍隊(ゲンタイ)	カ
38	膨大(ボウダイ)	スウ
39	湿度(シンド)	ヒツ
40	副詞(フクシ)	ヒン



練習問題

本日学習した知識を利用して以下の問題を解いてください。

	音読み語	読み
(1)	欠点	-- テン
(2)	噴火	カ
(3)	偶数	スウ
(4)	必需品	ヒツ ヒン

設問Check\_27

back finish next

Admin Menu  連続認識 state:OFF

[title] 2015/06/02 15:02:42

- Home
- アイコンの説明
- 第1課 音読みと訓読み
  - 本日の学習
  - 豆知識
- 第2課 多音字
  - 本日の学習
  - 本日の暗記
- 第3課 中国語の声母と日本語の頭子音
  - 本日の学習
  - 本日の暗記
- 第4課 清音と濁音
  - 本日の学習
  - 本日の暗記
- 第5課 中国語の韻母と日本語の主母音
  - 本日の学習
  - 本日の暗記
- 第6課 長母音と短母音
  - 本日の学習
  - 本日の暗記
- 第7課 長母音と撥音
  - 本日の学習
  - 本日の暗記
- 第8課 入声韻尾
  - 本日の学習
  - 本日の暗記
- 第9課 促音化
  - 本日の学習
  - 豆知識
- 第10課 連濁
  - 本日の学習
  - 豆知識

本日の学習  本日の暗記

第6課 長母音と短母音>本日の学習

!! 0.00 / 100.00

[title] 2015/08/02 10:56:59

## 長母音と短母音



### 1. 本課の目標

中国語の韻母（主に「-ng」韻母）と日本語の長母音の対応関係及びその例外を覚えて、ある漢字の音読みが長母音か短母音かを判断できるようになります。

### 2. 基礎知識

長音・長母音・短母音について

・長音（チョウオン）：引く音（ヒクオン）ともいいます。前に母音を1拍分延ばして発音される長母音の後半部分です。例：「しょう（商）」、「ふう（風）」、「えい（英）」の中では、長音が「う」と「い」で表されています。

・長母音と短母音（チョウボインとタンボイン）：長音を持つ長母音に対して短母音というものもあります。例：「しょ（書）」「ふ（府）」、「え（恵）」。



### 3. 基本ルールと例外

\* ここでいう例外とは、2級新出音読み語の使用漢字中、「吳音」または「漢音」で読まれる687字内の例外のことです。

皆さんへ  
もし、あなたが「長母音」と「短母音」で迷ってい

[back](#) [finish](#) [next](#)

west

[title] 2015/06/02 15:02:42

- [Home](#)
- [アイコンの説明](#)
- [第1課 音読みと訓読み](#)
  - [本日の学習](#)
  - [豆知識](#)
- [第2課 多音字](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第3課 中国語の声母と日本語の頭子音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第4課 清音と濁音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第5課 中国語の韻母と日本語の主母音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第6課 長母音と短母音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第7課 長母音と撥音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第8課 入声韻尾](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第9課 促音化](#)
  - [本日の学習](#)
  - [豆知識](#)
- [第10課 連濁](#)
  - [本日の学習](#)
  - [豆知識](#)

Options ▾ Virtual KeyBoard Admin Menu ▾ Submit Answers |  連続認識 | state:OFF |

本日の学習 本日の暗記

第6課 長母音と短母音>本日の暗記

!! 0.00 / 100.00

[title] 2015/08/02 10:57:06

### 慣用語

本日の暗記(41~50字)

	音読み語	音読み語
41	農村(ノウソン)	立派(リッパ) *ハ
42	銘々(メイメイ)	広告(コウコク)
43	改造(カイゾウ)	消耗(ショウモウ)
44	信仰(シンコウ)	苦痛(クツウ)
45	無沙汰(ブサタ)	汚染(オゼン)
50		

練習問題

本日学習した知識を利用して以下の問題を解いてください。

	音読み語	読み
(1)	農家	力
(2)	伝染	デン
(3)	警告	ケイ
(4)	頭痛	ズ

設問Check\_28

back finish next

[title] 2015/06/02 15:02:42

- [Home](#)
- [アイコンの説明](#)
- [第1課 音読みと訓読み](#)
  - [本日の学習](#)
  - [豆知識](#)
- [第2課 多音字](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第3課 中国語の声母と日本語の頭子音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第4課 清音と濁音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第5課 中国語の韻母と日本語の主母音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第6課 長母音と短母音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第7課 長母音と撥音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第8課 入声韻尾](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第9課 促音化](#)
  - [本日の学習](#)
  - [豆知識](#)
- [第10課 連濁](#)
  - [本日の学習](#)
  - [豆知識](#)

Options ▾ Virtual KeyBoard Admin Menu ▾ Submit Answers |  連続認識 state:OFF | [title] 2015/08/02 10:58:57

本日の学習 本日の暗記

第7課 長母音と撥音>本日の学習

!! 0.00 / 100.00

## 長母音と撥音

練習問題

1. 本課の目標

第6課では、中国語の韻母（主に「-ng」韻母）と日本語の長母音の対応関係について勉強しました。第7課では、第6課で勉強した内容を踏まえた上で、**中国語の「-n」韻母と日本語の撥音の対応関係及びその例外**を覚えて、ある漢字の音読みが**長母音か撥音か**を判断できるようになることを目標とします。

2. 基礎知識

**撥音（ハツオン）**：「サン（山）」や「ケン（顎）」の中にある「ン」のことです。

3. 基本ルールと例外

\*ここでいう例外とは、2級新出音読み語の使用漢字中、「吳音」または「漢音」で読まれる687字内の例外のことです。

皆さんへ

もし、あなたが「撥音」と「長母音」で迷っているならば、以下の基本ルールと例外を活用して判断してください。

いつ撥音？いつ長母音？

「-n」ン shan1 山	「-ng」ンカイ shang1 商	(1) -n 韵母→撥音 例外：肯(ken3-コウ) (2) -ng 韵母→長母音
------------------	----------------------	---

back finish next

west

[title] 2015/06/02 15:02:42

- [Home](#)
- [アイコンの説明](#)
- [第1課 音読みと訓読み](#)
  - [本日の学習](#)
  - [豆知識](#)
- [第2課 多音字](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第3課 中国語の声母と日本語の頭子音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第4課 清音と濁音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第5課 中国語の韻母と日本語の主母音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第6課 長母音と短母音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第7課 長母音と撥音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第8課 入声韻尾](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第9課 促音化](#)
  - [本日の学習](#)
  - [豆知識](#)
- [第10課 連濁](#)
  - [本日の学習](#)
  - [豆知識](#)

Options ▾ Virtual KeyBoard Admin Menu ▾ Submit Answers |  連続認識 | state:OFF |

本日の学習 本日の暗記

第7課 長母音と撥音>本日の暗記

!! 0.00 / 100.00

[title] 2015/08/02 10:59:02

### 慣用音

本日の暗記(51~60字)

	音読み語	読み
51	気圧(キアツ)	激増(ゲキソウ)
52	絶滅(ゼツメツ)	合同(ゴウドウ)
53	黒板(コクバン)	間接(カンセツ)
54	石鹼(セッケン)	児童(ジドウ)
55	批評(ヒヒョウ)	秘密(ヒミツ)
56		
57		
58		
59		
60		

練習問題

本日学習した知識を利用して以下の問題を解いてください。

	音読み語	読み
(1)	童話	ワ
(2)	血圧	ケツ
(3)	看板	カン
(4)	直接	チヨク
(5)	増大	ダイ

設問Check 28

back finish next

west

[title] 2015/06/02 15:02:42

- [Home](#)
- [アイコンの説明](#)
- [第1課 音読みと訓読み](#)
  - [本日の学習](#)
  - [豆知識](#)
- [第2課 多音字](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第3課 中国語の声母と日本語の頭子音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第4課 清音と濁音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第5課 中国語の韻母と日本語の主母音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第6課 長母音と短母音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第7課 長母音と撥音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第8課 入声韻尾](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第9課 促音化](#)
  - [本日の学習](#)
  - [豆知識](#)
- [第10課 連濁](#)
  - [本日の学習](#)
  - [豆知識](#)

Options ▾ Virtual KeyBoard Admin Menu ▾ Submit Answers |  連続認識 state:OFF | [ ]

本日の学習 本日の暗記

第8課 入声韻尾>本日の学習

!! 0.00 / 100.00

[title] 2015/08/02 10:59:47

## 入声韻尾



### 1. 本課の目標

中国語の韻母（一部のみ）と日本語の入声韻尾の対応関係及びその例外を覚えて、ある漢字の読みが入声韻尾かどうかを判断できるようになることです。

### 2. 基礎知識

入声韻尾について

- ・「がく（学）・ざつ（雑）・にち（日）・せき（石）」などのように、音読みには、「ク/ツ/チ/キ」で終わるものがあります。
- ・この「ク/ツ/チ/キ」は、中国中古音の入声韻尾を示すものであるため、本教材では便宜上、「入声韻尾（ニッショウウンビ）」と呼んでいます。
- ・この入声韻尾は、第9課「促音化」と深く関わっているため、しっかりと勉強しましょう。



### 3. 基本ルールと例外

\* ここでいう例外とは、2級新出音読み語の使用漢字中、「吳音」または「漢音」で読まれる687字内の例外のことです。

皆さんへ

ある漢字が「入声韻尾」で終わるかどうか分からな

back finish next

[title] 2015/06/02 15:02:42

- Home
- アイコンの説明
- 第1課 音読みと訓読み
  - 本日の学習
  - 豆知識
- 第2課 多音字
  - 本日の学習
  - 本日の暗記
- 第3課 中国語の声母と日本語の頭子音
  - 本日の学習
  - 本日の暗記
- 第4課 清音と濁音
  - 本日の学習
  - 本日の暗記
- 第5課 中国語の韻母と日本語の主母音
  - 本日の学習
  - 本日の暗記
- 第6課 長母音と短母音
  - 本日の学習
  - 本日の暗記
- 第7課 長母音と撥音
  - 本日の学習
  - 本日の暗記
- 第8課 入声韻尾
  - 本日の学習
  - 本日の暗記
- 第9課 促音化
  - 本日の学習
  - 豆知識
- 第10課 連濁
  - 本日の学習
  - 豆知識

Options ▾ Virtual KeyBoard Admin Menu ▾ Submit Answers |  連続認識 | state:OFF |  | ▾

本日の学習 本日の暗記

第8課 入声韻尾>本日の暗記

!! 0.00 / 100.00

[title] 2015/08/02 10:59:56

### 慣用音

本日の暗記(61~72字)

	音読み語	音読み語
61	攻撃(コウゲキ)	拡充(カクシュウ)
62	援助(エンジョ)	電柱(デンチュウ)
63	感激(カンゲキ)	観測(カンソク)
64	現実(ゲンジツ)	国際(コクルク)
65	増減(ゾウゼン)	演劇(エンゲキ)
66	月末(ゲツマツ)	余裕(ヨウイフ)
67		
68		
69		
70		
71		
72		

練習問題

本日学習した知識を利用して以下の問題を解いてください。

	漢語	読み
(1)	粗末	ゾ
(2)	劇場	ジョウ
(3)	実用	ヨウ
(4)	救助	キュウ
(5)	予測	ヨ

設問Check 29

back finish next

Preview

[title] 2015/06/02 15:02:42

- [Home](#)
- [アイコンの説明](#)
- [第1課 音読みと訓読み](#)
  - [本日の学習](#)
  - [豆知識](#)
- [第2課 多音字](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第3課 中国語の声母と日本語の頭子音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第4課 清音と濁音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第5課 中国語の韻母と日本語の主母音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第6課 長母音と短母音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第7課 長母音と撥音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第8課 入声韻尾](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第9課 促音化](#)
  - [本日の学習](#)
  - [豆知識](#)
- [第10課 連濁](#)
  - [本日の学習](#)
  - [豆知識](#)

Options ▾ Virtual Keyboard Admin Menu ▾ Submit Answers |  連続認識 | state:OFF |

本日の学習 豆知識

第9課 促音化>本日の学習

!! 0.00 / 100.00

[title] 2015/08/02 11:01:49

## 促音化



**1. 本課の目標**

第8課では、中国語の韻母（一部のみ）と日本語の入声韻尾の対応関係について勉強しました。第9課では、第8課で勉強した内容を踏まえた上で、**促音化が起こる条件**を覚えて、ある音読み語について**促音化が起こるかどうかを判断できる**ようになることを目標とします。

**2. 基礎知識**



促音と促音化について

- 簡単に言うと、**促音**とは、「ガッコウ(学校)」「ザッシ(雑誌)」「ニッポン(日本)」「セッケン(石鹼)」などの、仮名「ツ」を小さく書いたもので表される部分の音です。「つまる音」とも言います。
- 音読み語中の**促音化**とは、「ガク(学)+コウ(校)=ガッコウ(学校)」、「ザツ(雑)=ザッ(雑誌)」などのように、「ク/ツ/チ/キ」が促音「ツ」になる現象です。

**3. 基本ルールとその他**

**皆さんへ**

ある音読み語の中で「促音」が起こるかどうか分かれない場合は、以下の基本ルールなどを活用してください。

[back](#) [finish](#) [next](#)

練習問題

本日学習した知識を利用して以下の問題を解いてください。

(1) 「列島」を中国語で読むと「列」は「韻母」ですが、「列」が例外であるため日本語の音読みでは--で終わります。一方、「島」は「声母」であるため日本語の音読みでは「行」となります。つまり、「+ 行」であり、促音化が--。

(2) 「石鹼」は、「その他（詳細）」に書いてあるように促音化が--。

(3) 「格好」を中国語で読むと「格」は「韻母」であるため日本語の音読みでは--で終わります。一方、「好」は「声母」であるため日本語の音読みでは「行」となります。つまり、「+ 行」であり、促音化が--。

(4) 「列車」を中国語で読むと「列」は「韻母」ですが、「列」が例外であるため日本語の音読みでは--で終わります。一方、「車」は「声母」であるため日本語の音読みでは「行」となります。つまり、「+ 行」であり、促音化が--。

(5) 「日課」は、「その他（詳細）」に書いてあるように促音化が--。

[http://www23.mlecmc.osaka-u.ac.jp/webfwx\\_20150821/Module/AA\\_SubModule\\_IPEditor/Prev01.aspx?WOplayer=1&XmlID=0^3833^1&XmlID2=&UIDX=62&CIDX=13&CID=13&GID=0&ULVL\\_local=20&ULVL\\_Provi=0&OuID...](http://www23.mlecmc.osaka-u.ac.jp/webfwx_20150821/Module/AA_SubModule_IPEditor/Prev01.aspx?WOplayer=1&XmlID=0^3833^1&XmlID2=&UIDX=62&CIDX=13&CID=13&GID=0&ULVL_local=20&ULVL_Provi=0&OuID...) 1/1

257

west

[title] 2015/06/02 15:02:42

- [Home](#)
- [アイコンの説明](#)
- [第1課 音読みと訓読み](#)
  - [本日の学習](#)
  - [豆知識](#)
- [第2課 多音字](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第3課 中国語の声母と日本語の頭子音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第4課 清音と濁音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第5課 中国語の韻母と日本語の主母音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第6課 長母音と短母音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第7課 長母音と撥音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第8課 入声韻尾](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第9課 促音化](#)
  - [本日の学習](#)
  - [豆知識](#)
- [第10課 連濁](#)
  - [本日の学習](#)
  - [豆知識](#)

Options ▾ Virtual Keyboard Admin Menu ▾ Submit Answers |  連続認識 | state:OFF |

本日の学習 豆知識

第9課 促音化>豆知識

!! 0.00 / 100.00

[title] 2015/08/02 11:01:54

## 日本語の語彙の種類

日本語の語彙の分類

- ・和語(わご)：日本で生まれた語です。書くときは、漢字(訓読み)、ひらがなを使います。例：花(はな)、犬(いぬ)など。
- ・漢語(カンゴ)：古い時代に中国から日本へ伝わった語です。書くときは、漢字(音読み)を使います。例：先週(センシュー)、学生(ガクセイ)など。
- ・外来語(かいらいご)：主に英語やフランス語、ドイツ語などのことばから日本語に取り入れられた語です。書くときは、カタカナ、ローマ字を使います。例：スーパー、テレビなど。
- ・混種語(こんしゅご)：1つの単語の中に、和語、漢語、外来語成分が交じっている語です。例：生ビール(なまビール=和+外)、気持ち(きもち=漢十和)など。

	語	読み方	語の種類
(1)	学校	がっこう	-- ↓
(2)	テキスト	テキスト	-- ↓
(3)	★本棚	ほんだな	-- ↓
(4)	パソコン	パソコン	-- ↓
(5)	犬	いぬ	-- ↓
(6)	★荷物	にもつ	-- ↓

解説：

「本棚（ほん+だな）」は、「音読み+訓読み」の読み方なので「漢+和」の混種語です。なお、「音読み+訓読み」の読み方を「重箱読み（じゅうばこよみ）」といいま

back finish next

west

[title] 2015/06/02 15:02:42

- [Home](#)
- [アイコンの説明](#)
- [第1課 音読みと訓読み](#)
  - [本日の学習](#)
  - [豆知識](#)
- [第2課 多音字](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第3課 中国語の声母と日本語の頭子音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第4課 清音と濁音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第5課 中国語の韻母と日本語の主母音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第6課 長母音と短母音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第7課 長母音と撥音](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第8課 入声韻尾](#)
  - [本日の学習](#)
  - [本日の暗記](#)
- [第9課 促音化](#)
  - [本日の学習](#)
  - [豆知識](#)
- [第10課 連濁](#)
  - [本日の学習](#)
  - [豆知識](#)

Options ▾ Virtual Keyboard Admin Menu ▾ Submit Answers |  連続認識 | state:OFF | [ ]

本日の学習 豆知識

第10課 連濁>本日の学習

!! 0.00 / 100.00

[title] 2015/08/02 11:02:54

練習問題

本日学習した知識を利用して以下の問題を解いてください。

- (1) 「東西」の場合は、--が起こっています。何故ならば、--からです。
- (2) 「電波」の場合は、--が起こっています。何故ならば、--からです。
- (3) 「一方」の場合は、--が起こっています。何故ならば、--からです。
- (4) 「用心」の場合は、--が起こっています。何故ならば、--からです。
- (5) 「進歩」の場合は、--が起こっています。何故ならば、--からです。
- (6) 「続々」の場合は、--が起こっています。何故ならば、--からです。

連濁について

・連濁(レンダク): 「パン(万)+サイ(歳)=パンザイ(万歳)」、「サン(散)+ホ(歩)=サンボ(散歩)」などのように、複合語を作ったときに、後部要素の音が濁音または半濁音化する現象です。

back finish next

west

[title] 2015/06/02 15:02:42

- Home
- アイコンの説明
- 第1課 音読みと訓読み
  - 本日の学習
  - 豆知識
- 第2課 多音字
  - 本日の学習
  - 本日の暗記
- 第3課 中国語の声母と日本語の頭子音
  - 本日の学習
  - 本日の暗記
- 第4課 清音と濁音
  - 本日の学習
  - 本日の暗記
- 第5課 中国語の韻母と日本語の主母音
  - 本日の学習
  - 本日の暗記
- 第6課 長母音と短母音
  - 本日の学習
  - 本日の暗記
- 第7課 長母音と撥音
  - 本日の学習
  - 本日の暗記
- 第8課 入声韻尾
  - 本日の学習
  - 本日の暗記
- 第9課 促音化
  - 本日の学習
  - 豆知識
- 第10課 連濁
  - 本日の学習
  - 豆知識

Options ▾ Virtual Keyboard Admin Menu ▾ Submit Answers |  連続認識 state:OFF | [ ]

本日の学習 豆知識

第10課 連濁>豆知識

[title] 2015/08/02 11:03:07

## 漢語と漢字について



漢語と漢字について

日常生活では和語を使うことが多いですが、抽象的なことを表す時や改まった場面では漢語が使われます。

大学などで専門について高度な内容を学ぶときには、漢語が多く使われます。

日本で社会生活を不自由なく送るために必要な漢字は約2500字です。日本語能力試験をうけるためには、初級で約300字、中級で約1000字、上級で約2000字の漢字が必要です。

本教材で学習した基本ルールは今後の学習にも是非活用してください!!!



back

## 漢字の成り立ち



漢字の成り立ち

象形(ショウケイ): ものの形を表したもの。例: 山、川など。

指事(シジ): 抽象的なことを線や点で表したもの。例: 上、中など。

会意(カイイ): 意味を考えて、漢字を組み合わせ、作られたものです。例: 日+月=明、人+木=休など。

形声(ケイセイ): 意味を表す部分と音を表す部分を組み合わせて作られたものです。例: 「作(サク)」「昨(サク)」は「乍」(音を表す部分: 音はサク)を使った形声文字で、両方とも音読みは「サク」です。

形声文字が一番多いです。形声文字の部分を有効に活用していましょう!!!



finish

## 【資料7-2】 事前テスト（日本語版）（簡略版→図7-11）

Preview - Google Chrome  
 www23.mlecmc.osaka-u.ac.jp/Webfwx\_20150728/Module/AA\_SubModule\_IPEditor/Prev01.aspx?WOpener=Q  
 Options Virtual Keyboard Admin Menu Submit Answers

音読み力測定テストに挑戦しましょう！

**テストを受ける前に、必ず読んでください。**

以下は日本語能力試験2級の語彙表から無作為に抽出した音読み語50語です。

- ① 空欄に漢字の**音読みをカタカナで**入力してください。辞書で調べたり、他人に聞いたり、パソコンの自動変換機能を使うなどしないでください。
- ② その解答に自信がある場合は**確信度**を「1」、あまり自信がない場合は「2」、全く自信がない場合は「3」を選択してください。1~3の中でもどちらを選んでも、得点には影響ないので、どうぞ自分の実際の状況に基づいて選んでください。
- ③ **制限時間は30分**です。30分以内に空欄のないよう、必ず全て入力してください。読み方が分からぬ場合は推測して入力してください。

\*「ひらがな」で入力すると、不正解となりますので、必ず「カタカナ」で入力してください。  
 ☐「カタカナ」入力モードにするには、言語バーで「ひらがな」から「カタカナ」入力モードに切り替えてください。

	音読み語	読み方	確信度
[1]	防止	ブンソウ	--▼
[2]	掲示	カクシ	--▼
[3]	時速	ヒツズ	--▼
[4]	度	ド	--▼
[5]	図表	ドゥーバー	--▼
[6]	濃度	ノウド	--▼
[7]	～社	スル	--▼
[8]	体育	トウイ	--▼
[9]	直流	チリュウ	--▼
[10]	詩人	シジン	--▼
[11]	苦情	コクヨウ	--▼
[12]	決心	スル	--▼
[13]	紅葉	レッドエイ	--▼
[14]	地名	チニ	--▼
[15]	高～	カシマ	--▼
[16]	銅	トウ	--▼
[17]	名～	メイ	--▼
[18]	一般(Iに)	イニ	--▼
[19]	水平線	ヒンボウセン	--▼
[20]	閲する	エバフスル	--▼
[21]	操作	オペレート	--▼
[22]	洗剤	シンジ	--▼
[23]	態度	トド	--▼
[24]	摩擦	マフカ	--▼
[25]	石炭	シキ	--▼
[26]	訪問	ホウゴン	--▼
[27]	幕	マク	--▼
[28]	開始	カイハ	--▼
[29]	方言	ホンガ	--▼
[30]	区別	クベツ	--▼
[31]	有料	ウリョウ	--▼
[32]	攻撃	コウキ	--▼
[33]	都市	トービ	--▼
[34]	論争	ランジョン	--▼
[35]	～道	ドウ	--▼
[36]	成長	コウヂョウ	--▼
[37]	無限	ムヒン	--▼
[38]	茶碗	チャボ	--▼
[39]	金魚	キンギョ	--▼
[40]	当番	ドウバン	--▼
[41]	追加	スル	--▼
[42]	複写	フクシ	--▼
[43]	天然	テンネン	--▼
[44]	兵隊	ヒンテイ	--▼
[45]	通帳	ドウチウ	--▼
[46]	先祖	センス	--▼
[47]	交差	ショサ	--▼
[48]	大して	オシテ	--▼
[49]	改善	ケンザイ	--▼
[50]	学問	ガクモン	--▼

**注意事項**  
 空欄がないことをご確認した上で、ページ左上にある**Submit Answers**を押してください。そうすると、下の画面が出てきます。「Yes」を押したら、自動的に「Login Page」に戻ります。

Confirm  
 答案データを登録しました。  
 ウィンドウを開きますか?  
 Yes No

自分の得点を見たい場合は、「Login Page」の左側にある**【テスト結果】**をクリックしてみてください。

### 【資料7-3】 修了テスト（日本語版）（簡略版→図7-12）

Preview - Google Chrome  
 www23.mlecmc.osaka-u.ac.jp/Webfwx\_20150728/Module/AA\_SubModule\_IPEditor/Prev01.aspx?WOpener=Q

Options • Virtual Keyboard Admin Menu • Submit Answers

15分でわかる!  
2週間の努力の結果を見てみましょう!

**テストを受ける前に、必ず読んでください。**

最初の「音読み力測定テスト」（事前テスト）と同じく、日本語能力試験2級の語彙表から抽出した音読み語50語です。

- ① 空欄に漢字の**音読みをカタカナで**入力してください。
- ② その解答に自信がある場合は**確信度**を「1」、あまり自信がない場合は「2」、全く自信がない場合は「3」を**選択してください**。
- ③ **制限時間は30分**です。30分以内に**空欄のないよう**、必ず全て入力してください。読み方が分からぬ場合は推測して入力してください。

\*空欄がある場合は、このテストの結果は無効となるので、**必ず空欄のないように**ご記入ください。

	音読み語	読み方	確信度
[1]	始終	<div style="width: 100%;"> </div>	— ▼
[2]	溶岩	<div style="width: 100%;"> </div>	— ▼
[3]	訳す・する	<div style="width: 100%;">す・する</div>	— ▼
[4]	我慢	<div style="width: 100%;"> </div>	— ▼
[5]	主義	<div style="width: 100%;"> </div>	— ▼
[6]	回数券	<div style="width: 100%;"> </div>	— ▼
[7]	古典	<div style="width: 100%;"> </div>	— ▼
[8]	負担	<div style="width: 100%;"> </div>	— ▼
[9]	思想	<div style="width: 100%;"> </div>	— ▼
[10]	作法	<div style="width: 100%;"> </div>	— ▼
[11]	格好	<div style="width: 100%;"> </div>	— ▼
[12]	大層	<div style="width: 100%;"> </div>	— ▼
[13]	数字	<div style="width: 100%;"> </div>	— ▼
[14]	予防	<div style="width: 100%;"> </div>	— ▼
[15]	観光	<div style="width: 100%;"> </div>	— ▼
[16]	実力	<div style="width: 100%;"> </div>	— ▼
[17]	連続	<div style="width: 100%;"> </div>	— ▼
[18]	臨時	<div style="width: 100%;"> </div>	— ▼
[19]	用途	<div style="width: 100%;"> </div>	— ▼
[20]	矛盾	<div style="width: 100%;"> </div>	— ▼
[21]	物騒	<div style="width: 100%;"> </div>	— ▼
[22]	強盗	<div style="width: 100%;"> </div>	— ▼
[23]	御無沙汰	<div style="width: 100%;"> </div>	— ▼
[24]	同一	<div style="width: 100%;"> </div>	— ▼
[25]	図形	<div style="width: 100%;"> </div>	— ▼
[26]	駐車	<div style="width: 100%;"> </div>	— ▼
[27]	学者	<div style="width: 100%;"> </div>	— ▼
[28]	不正	<div style="width: 100%;"> </div>	— ▼
[29]	競技	<div style="width: 100%;"> </div>	— ▼
[30]	円	<div style="width: 100%;"> </div>	— ▼
[31]	中心	<div style="width: 100%;"> </div>	— ▼
[32]	扇子	<div style="width: 100%;"> </div>	— ▼
[33]	天然	<div style="width: 100%;"> </div>	— ▼
[34]	機能	<div style="width: 100%;"> </div>	— ▼
[35]	危介	<div style="width: 100%;"> </div>	— ▼
[36]	天候	<div style="width: 100%;"> </div>	— ▼
[37]	箇所	<div style="width: 100%;"> </div>	— ▼
[38]	提案	<div style="width: 100%;"> </div>	— ▼
[39]	退屈	<div style="width: 100%;"> </div>	— ▼
[40]	支配	<div style="width: 100%;"> </div>	— ▼
[41]	適する	<div style="width: 100%;">する</div>	— ▼
[42]	空～	<div style="width: 100%;">～</div>	— ▼
[43]	秘密	<div style="width: 100%;"> </div>	— ▼
[44]	画家	<div style="width: 100%;"> </div>	— ▼
[45]	哲学	<div style="width: 100%;"> </div>	— ▼
[46]	漢和	<div style="width: 100%;"> </div>	— ▼
[47]	同様	<div style="width: 100%;"> </div>	— ▼
[48]	生物	<div style="width: 100%;"> </div>	— ▼
[49]	対象	<div style="width: 100%;"> </div>	— ▼
[50]	先頭	<div style="width: 100%;"> </div>	— ▼

**注意事項**  
**空欄がないことをご確認**した上で、ページ左上にある**Submit Answers**を押してください。そうすると、下の画面が出てきます。「Yes」を押したら、自動的に「Login Page」に戻ります。

Confirm  
 読答データを登録しました。  
 ウィンドウを開きますか?  
 Yes No

自分の**得点を見たい場合**は、「Login Page」の左側にある**「テスト結果」**をクリックしてみてください。

【資料7-4】 アンケート調査票（日本語版）（簡略版→図7-13）

音読み学習のWEB教材 アンケート（日本語最新版）

皆様へ

このたびは、音読み学習用のWEB教材を学習していただき、誠にありがとうございました。  
今度の参考させていただいたため、以下のアンケートに協力ください。  
今回の調査結果およびアンケート結果は、研究以外の目的で使用しませんので、ご安心ください。  
ご協力お願いいたします。

1. 今回のWEB教材学習活動について、全体的な印象はいかがでしたか。

大変満足	満足	普通	不満足	大変不満足
<input type="radio"/>				

(最も満足だった点)または(最も不満足だった点)を教えてください。

2. 単語の丸暗記と比べて、中国語の知識を利用して日本語の音読みを学習するという勉強法はよいと思いませんか？

大変よい	よい	普通	よくない	大変よくない
<input type="radio"/>				

(そのように思われる理由をお書き下さい。)

3. 教材の内容(全10課からなる学習課題)はいかがでした。

大変満足	満足	普通	不満足	大変不満足
<input type="radio"/>				

(内容的に「最も満足だった課」または「最も不満足だった課」について教えてください。)

4. 教材中の説明は分かりやすかったですか。

大変分かりやすかった	分かりやすかった	普通	分かりにくかった	大変分かりにくかった
<input type="radio"/>				

(最も分かりやすかった課)と(最も分かりにくかった課)について教えてください。

5. 教材のロジック・構成(漢字の発音から漢語の発音へ、全体の対応関係から個別の対応関係へ)についてはいかがでしたか。

大変よい	よい	普通	よくない	大変よくない
<input type="radio"/>				

(ロジック・構成について「比較的によかった部分」または「比較的によくなかった部分」について教えてください。)

6. 教材の難易度はいかがでしたか。

難しきすぎた	少し難しかった	ちょうどよかったです	少し易しきすぎた	易しきすぎた
<input type="radio"/>				

(最も分かりやすかった課)または(最も分かりにくかった課)について教えてください。

7. 練習問題の難易度はいかがでしたか。

難しきすぎる	少し難しい	ちょうどよかったです	少し易しきすぎた	易しきすぎた
<input type="radio"/>				

(最も解答しやすかった課)または(最も解答しにくかった課)について、教えてください。

8. 「解説 & 練習問題」という勉強スタイルについてどう思われましたか。

大変よい	よい	普通	よくない	大変よくない
<input type="radio"/>				

(「解説 & 練習問題」という組み合わせで、「最もよかったです」または「最もよくなかった課」について教えてください。)

9. 今回と同じスタイルの日本語能力試験N1の音読みWEB教材があれば、使用したいと思いますか。

ぜひ学習したい	学習したい	わからない	あまり学習したくない	学習したくない
<input type="radio"/>				

(そのように思われる理由をお書き下さい。)

10. その他のご意見、ご感想、ご質問など、ご自由にお書き下さい。

## 謝辞

本論文は、筆者が大阪大学大学院言語文化研究科言語文化専攻博士後期課程において、行った研究をまとめたものです。博士後期課程に入学してから本論文の取りまとめに至るまで、多くの方々にお世話になりました、ここに深く感謝の意を表します。

まず、研究活動全般にわたり、数々のご助言、ご指導をいただいた大阪大学大学院言語文化研究科の坂内千里教授に深く感謝いたします。主指導教員である坂内千里先生は、研究者として未熟な私に、研究の基礎から、研究に向かう姿勢まで丁寧にご教授いただきました。そして、私のゆっくりとした成長に辛抱強く付き合ってくださいました。また、研究の面だけではなく、授業料・奨学金・ビザの申請書類の作成や悩み事など生活の面においても大変お世話になりました。

次に、いつも優しく励ましてくれた大阪大学国際教育交流センターの西口光一教授に深謝致します。副指導教員である西口光一先生は、日本語教育の立場から研究に伴う様々な困難を克服するための具体的な方策を丁寧に教えていただきました。先生からいただいたご意見は、本論文にとって非常に貴重なものとなり、本論文の完成度を高めることができました。

また、第7章のWEB教材の作成に必要なシステム環境を提供してくださり、本論文をご精読いただきました大阪大学サイバーメディアセンターの細谷行輝教授に心より感謝申し上げます。そのほか、言語文化専攻のD2研究報告会、博士論文資格審査発表会、各学会発表及び学会誌に投稿する際にコメントをくださった先生方に御礼を申し上げます。

さらに、本研究の趣旨を理解し、第5章のアンケート調査及び第7章のWEB教材の学習に協力していただいた皆様へ心から感謝の気持ちと御礼を申し上げます。日本漢字音習得上の課題を明らかにすることにより、中国語話者向けの日本漢字音学習教材ができたと存じます。また、本論文の日本語ネイティブチェックを快諾していただいた中原京子先輩、名古屋大学博士後期課程の西坂祥平君、吹田市国際交流協会の林詩氏、大阪ボランティア協会の李灝氏に心より感謝申し上げます。

最後に、これまでずっと私を温かく見守ってくれた家族と友人たちに感謝の気持ちを表したいと思います。本当にありがとうございました。